はじめに

公立大学法人福岡県立大学
理事長・学長　名和田　新

平成 18 年 4 月 1 日、本学は「公立大学法人福岡県立大学」として第 2 の開学をスタートしました。

超少子高齢社会、大学全入時代を迎え、公立大学協会は、77 公立大学の生き残りをかけて、研究・教育の質の向上と、地域貢献の充実を大学改革の中核においています。

この法人化を機会に、本学の専任教員の活動が、より詳細にわかるようにするため、「自己点検・評価報告書」を「教育・研究・社会貢献活動一覧」として毎年刊行することにしました。

法人化後は 6 年の中期計画に沿って、教育、研究、社会貢献、業務運営、財務、評価情報公開の全てにおいて、毎年年度計画の達成度の外部評価を受け、改善、改革を進めています。

本学は人間社会学部と看護学部を擁する西日本でも数少ない福祉系の総合大学です。

保健・医療・福祉の総合的マネジメントが出来る人材を育成することを目指して頑張っています。

本学の附属研究所の生涯福祉研究センター、ヘルスプロモーション実践研究センター及び不登校・ひきこもりサポートセンターの 3 つのセンターを中心に、両学部が連携した研究と社会貢献を実施しています。

今後とも、田川市郡の産学官の連携による地域に密着した健康寿命の延伸と福祉及び学生と地域の皆様方のための教育と研究のメッカとして、ここ福岡県立大学から全国に優れた研究成果を発信していきます。

ここに示した活動と成果を踏まえ、今後とも福岡県民の皆様をはじめとする多くの方々に広く支持され、愛される大学であるため、教職員一丸となって全力を尽くしていきます。

凡　例

(1) この「教育・研究・社会貢献活動一覧」は、2008（平成20）年度、福岡県立大学に専任教員として在籍した者を対象とし、2009（平成21）年3月の時点で、１人あたり２頁を目安に報告をまとめている。

(2) 掲載順は、人間社会学部については、学科ごとに、職名順とし、同一職名内は姓の５０音順である。看護学部については、講座ごとに、主任教授から始まって、職名順とし、同一職名内は姓の５０音順である。

(3) 「主な研究分野」は、専門研究者向けではなく、一般の方向けの自己 PR として記載している。

(4) 「研究業績」は、過去３年間分を記載している＜2006（平成18）年度～2008（平成20）年度＞。業績数が多い教員については、一部省略している場合がある。

(5) 「外部研究資金」は、2008（平成20）年度に資金を得ているものを記載している。

(6) 「受賞」は、2008（平成20）年度の実績を記載している。

(7) 「所属学会」は、2008（平成20）年度の所属状況を記載している。

(8) 「担当授業科目」は、原則として2008（平成20）年度の担当授業を記載している。なお、助手については、補助業務を担当している授業科目を記載している。

(9) 「社会貢献活動」は、2008（平成20）年度の状況を記載している。

(10) 「学外講義・講演」は、2008（平成20）年度の実績を記載している。学会での講演は、「研究業績」欄に記載し、ここにはそれ以外のものを記載している。また、会場は学内であっても、学外者向けのものはここに含まれている。なお、大学等での非常勤講師は含まれていない。

(11) 「附属研究所の活動等」は、2008（平成20）年度の状況を記載している。

(12) 記載事項は、以上の９項目であるが、該当なしの場合は、項目そのものを記載していない。

＜目　　次＞

はじめに
凡　例

人間社会学部

➢ 一般教育等

- 教授　上野　行良　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
- 教授　田中　哲也　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３
- 教授　西岡　健治　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５
- 教授　久永　明　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７
- 教授　茂木　豊　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９
- 准教授　神谷　英二　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
- 准教授　Ian Stuart Gale　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
- 准教授　？　暁　卿　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６
- 准教授　水野　邦太郎　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８
- 講師　森脇　敦史　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０
- 助手　内田　若希　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２

➢ 社会学科

- 教授　清田　勝彦　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４
- 教授　平野　泰朗　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６
- 教授　藤山　正二郎　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８
- 教授　文屋　俊子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３０
- 准教授　石崎　龍二　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３２
- 准教授　岡本　雅享　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３４
- 准教授　田代　英美　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３６
- 准教授　光本　伸江　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３８
- 助手　佐藤　繁美　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４０

➢ 社会福祉学科

- 教授　小田　美季　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４２
- 教授　門田　光司　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４４
- 教授　鬼﨑　信好　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４６
- 教授　細井　勇　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４８
- 准教授　西原　尚之　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５０
- 准教授　平部　康子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５２
- 准教授　本郷　秀和　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５４

- 助手　城井　みづほ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５６
- 助手　松岡　佐智　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５７

➢ 人間形成学科
- 教授　上田　毅　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５９
- 教授　甲斐　彰　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６１
- 教授　小嶋　秀幹　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６３
- 教授　小松　啓子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６５
- 教授　秦　和彦　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７０
- 教授　福田　恭介　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７２
- 教授　古橋　啓介　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７４
- 教授　森山　沾一　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７６
- 准教授　岩橋　宗哉　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７９
- 准教授　桜井　国芳　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８１
- 准教授　藤澤　健一　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８３
- 准教授　麦島　剛　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８５
- 講師　吉岡　和子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８７
- 助手　岡村　真理子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８９

➢ 附属研究所生涯福祉研究センター
- 准教授　中村　晋介　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９１
- 助手　中藤　広美　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９３
- 助手　林　ムツミ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９６

看護学部

➢ 実験看護学講座
- 准教授　芋川　浩　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９８
- 講師　江上　千代美　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１００
- 講師　杉野　浩幸　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０２
- 助手　近藤　美幸　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０４

➢ 基礎看護学講座

✧ 基礎看護学
- 教授　永嶋　由理子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０５
- 講師　加藤　法子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０７
- 講師　津田　智子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０９
- 講師　渕野　由夏　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１０
- 助教　藤野　靖博　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１３
- 助手　於久　比呂美　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１５

✧ 家族在宅看護学

- 准教授　小路　ますみ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１６
- 助教　小森　直美　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１８
- 助手　藤岡　あゆみ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２０

✧ 精神看護学

- 准教授　松枝　美智子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２２
- 講師　安永　薫梨　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２４
- 助手　梶原　由紀子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２６
- 助手　坂田　志保路　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２８

➢ 成人･老年看護学講座

✧ 成人看護学

- 教授　中野　榮子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３０
- 講師　添田　百合子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３２
- 助手　橋本　茂子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３４
- 助手　黒田　裕美　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３６
- 助手　政時　和美　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３７
- 助手　山名　栄子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３９

✧ 老年看護学

- 准教授　渡邉　智子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４１
- 講師　櫟　直美　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４３
- 助教　赤木　京子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４５
- 助教　福田　和美　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４７

➢ 女性・小児看護学講座

✧ 女性看護学

- 教授　佐藤　香代　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４９
- 准教授　鳥越　郁代　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５５
- 准教授　古田　祐子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５８
- 助教　石村　美由紀　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６０
- 助教　安河内　静子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６２
- 助手　森　純子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６４
- 助手　吉田　静　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６６

✧ 小児看護学

- 教授　石橋　朝紀子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６８
- 講師　宮城　由美子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７０
- 助手　橘　則子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７２
- 助手　吉川　未桜　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７３

➢ 地域・国際看護学講座
✧ 地域看護学
● 教授　松浦　賢長　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７５
● 准教授　尾形　由紀子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７７
● 講師　山下　清香　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７９
● 助手　野口　藍子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８１
● 助手　野見山　美和　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８３
● 助手　樋口　善之　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８５
✧ 国際看護学
● 准教授　石川　フカヱ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８７
● 准教授　夏原　和美　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８９

➢ 臨床機能看護学講座
● 教授　安酸　史子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９１
● 准教授　森　礼子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９７
● 講師　北川　明　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９９
● 講師　小出　昭太郎　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０１
● 講師　小野　美穂　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０３
● 講師　四戸　智昭　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０５
● 助教　大見　由紀子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０７
● 助手　清水　夏子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０９

➢ 附属研究所ヘルスプロモーション実践研究センター
● 准教授　Je-Kan Adler-Collins・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１１

人間社会学部　一般教育等

所属	人間社会学部　一般教育等	職名	教授	氏名	上野　行良

１．主な研究分野

人間関係に関する心理学を研究しています。

個人が生きやすくなるために必要な人間関係の方法や心のあり方、そして個人を不幸にする社会の問題や個人の気持ちの分析をしたいと考えています。

これまでの主な研究テーマとしてはユーモアと人間関係、現代青年の人間関係などを中心に行ってきています。

ユーモアの研究については「ユーモアの心理学－人間関係とパーソナリティ」（サイエンス社）という著作にまとめています。

現代青年については、論文のほか、近年は非行に関する調査を行い、報告書にまとめています。

２．研究業績

①最近の著書・論文

・上野行良・中村晋介・本多潤子・麦島剛（2009）「中学生の万引き行為に関連する要因」相談室紀要（福岡県立大学心理臨床研究）,1.

・上野行良（2008）「プレゼンテーション」（「レポートの書き方　'08」福岡県立大学）

・上野行良（2007）「非行と家庭・学校での人間関係および精神的健康」（上野行良・中村晋介・本多潤子・麦島剛「非行の抑制要因と促進要因－福岡県の少年非行に関する調査－」福岡県立大学奨励研究報告書）

・上野行良（2007）「中学生の保護者が行政に望むこと」（上野行良・中村晋介・本多潤子・麦島剛「非行の抑制要因と促進要因－福岡県の少年非行に関する調査－」福岡県立大学奨励研究報告書）

・麦島剛・上野行良・中村晋介・本多潤子（2006）「少年非行に影響を与える要因－地域の物理的環境と中学生の非行容認度との関係－」福岡県立大学人間社会学部紀要, 15(1),85-92

・上野行良（2006）「感情心理学」（山岡重行編著「サイコナビ心理学案内」ブレーン出版）

②その他の業績

〈執筆〉

・上野行良（2009）「世界遺産調査アンケート　Ⅱ田川市郡のこれから」（福岡県立大学「平成 20 年度地方の元気再生事業　世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生プロジェクト報告書～産・官・学・民が協働する保養滞在型エコツーリズムの実現～」）

・上野行良（2009）「川崎町子育て支援事業に関する調査報告書」（中村晋介・麦島剛と分担執筆）

・上野行良（2007）「笑いとユーモアの心理学」日本心理学会第71回大会（学会発表）

・上野行良（2007）「わかりあうコミュニケーション」第11回日本医療保育学会（学会講演）

・上野行良（2007）「現代青年の心理」第46回九州地区准看護師教育学会（学会講演）

・上野行良(2006)「笑う心・笑わせる心」心理学ワールド 35, 日本心理学会

・上野行良（2006）「ストレスと人間関係」精神保健 51, 1-26

・平成 17 年度福岡県立大学研究奨励交付金研究成果報告書（2006）「筑豊地域における子ども達のキャリア形成をめざした総合的研究－中学生の生活習慣・キャリア形成に関する

調査」（代表小松啓子）
・平成 17 年度福岡県立大学研究奨励交付金研究成果報告書（2006）「筑豊地域における子ども達のキャリア形成をめざした総合的研究－小学生の生活習慣・キャリア形成に関する調査」（代表小松啓子）

③過去の主要業績
・上野行良（2003）「ユーモアの心理学―人間関係とパーソナリティ」サイエンス社

３．所属学会

日本心理学会、日本グループダイナミックス学会、日本社会心理学会、日本教育心理学会

４．担当授業科目

〈学部〉

コミュニケーション論・2 単位・1 年・前期、教養演習・1 単位・1 年・前期、心理学 A・2 単位・1 年・後期、心理学 B・2 単位・1 年・後期、社会心理学・2 単位・1 年・後期、人間関係の科学・2 単位・3 年・前期、演習（人間形成学科）・2 単位・3～4 年・通年、卒業論文・6 単位・4 年・後期

〈大学院〉

社会心理学特論・2 単位・修士 1 年・前期、人間関係特論・2 単位・修士 1 年・後期、特別研究・4 単位・修士 1～2 年・通年

５．社会貢献活動

・立教大学「立教大学心理学研究」論文審査者
・日本心理学会「心理学研究」論文審査者

６．学外講義・講演

・福祉関連団体（北九州ヘルスケアサービス、鞍手保健福祉環境事務所、唐津精神保健福祉協会）
・看護協会各種研修（福岡県、長崎県、大分県）
・その他医療関連施設・団体（国立病院機構九州ブロック、嬉野医療センター、福岡東医療センター、佐賀病院、聖マリア病院、九州厚生年金病院、大分こども病院、久留米大学付属医療センター、久留米医師会）
・その他（大分県庁、熊本県看護教育協議会、北九州地区看護教員協議会など）

所属	人間社会学部　一般教育等	職名	教授	氏名	田中　哲也

１．教員紹介・主な研究分野

主として中東アラブ・イスラム地域を対象に、宗教社会学的・教育社会学的研究を行っている。

これまでスーフィー教団の歴史的研究あるいは現在の教団活動に関するフィールド・ワーク研究から、在シリア日本大使館付専門調査員として行った同地の宗派問題の研究まで幅広く研究を行ってきた。　これまでの調査地域も中東アラブ地域を中心に、西アフリカ・マリ共和国から、インド、インドネシアまでと広い地域にわたる。

近年は、エジプトを事例として、イスラム世界の近代化にともなう社会変容・文化変容を、近代教育の導入と拡大という観点から研究している。西洋式教育がイスラム教徒やイスラム文化をどのように変化させてきたのか、あるいはどのような部分が変化しなかったのか、またどのような形で西洋式教育と伝統的宗教教育が習合していったのか、そしてそれが社会にどのような変化をもらしてきたのか等の観点から近現代イスラム社会を分析してきた。

現在、19世紀初頭以後のエジプトへの西洋式近代教育制度の導入と展開についてこれまで行ってきた教育史・教育社会学的研究を出版するためにまとめるとともに、市場経済化にともなう無償教育制度の空洞化や高学歴者の就職難にともなうエジプトにおける現代の教育・社会危機の分析も行っている。

また、大学における教養教育の役割に関心があり、近年は「導入教育」についての調査研究も行うとともに、新入学生向けのテキストの編集も行っている。

２．研究業績

①最近の著書・論文

〈学術論文〉

（単著）「近代教育制度とイスラーム社会の変容」『比較文明』第 24 巻（2009）

（単著）「エジプトにおける学歴病と中等教育課程」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 16 巻第 2 号（2008）

（単著）「エジプト現代教育研究序説―無償教育制度とブラック・マーケット―」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第15巻第1号（2007）

②その他最近の業績

〈調査研究〉

（共著）田中哲也　久永明　神谷英二　四戸智昭　内田若希「福岡県立大学新入学生の学力実態を踏まえた導入教育及び全学共通教育に関する調査研究（第 1 報）」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第16巻第2号（2008）

〈調査研究報告書〉

（共著）田中哲也・久永明・神谷英二・四戸智昭・内田若希「福岡県立大学新入学生の学力実態を踏まえた導入教育及び全学共通教育に関する調査研究」平成19年度研究奨励交付金対象研究中間報告書（2008）

（共著）久永 明・田中哲也・上田 毅・神谷英二・麦島剛『公立大学法人福岡県立大学における一般市民・社会人向け教育プログラム開発のための基礎的調査』（平成17－18 年度福岡県立大学研究奨励交付金対象研究最終報告書）2007 年

（共著）久永 明・田中哲也・上田 毅・神谷英二『公立大学法人福岡県立大学における一般市民・社会人向け教育プログラム開発のための基礎的調査』（平成17 年度福岡県立大

学研究奨励交付金対象研究中間報告書）2006 年

〈テキスト〉
（共著）田中哲也編『レポートの書き方入門2008 年版―福岡県立大学教養演習テキスト』福岡県立大学教養演習テキスト出版会、2008 年（担当箇所 「序章」）
（共著）田中哲也編『レポートの書き方入門2007 年版―福岡県立大学教養演習テキスト』福岡県立大学教養演習テキスト出版会、2007 年（担当箇所 「序章」）
（共著）田中哲也編『大学での学び方―スタディ・スキルズ06―』福岡県立大学人間社会学部（教養演習テキスト）、2006 年（担当箇所 「序章」）

〈学会発表〉
「エジプト無償教育制度の空洞化」アジア教育学会創立大会（専修大学）2006年11月

③過去の主要業績
（単著）「エジプトにおける近代的民衆初等学校教師の誕生－フィキーからムアッリムへー 」『福岡県立大学紀要』第 12 巻第 2 号（2004）
（単著）「革命前エジプト近代教育における宗教とメリトクラシー」『福岡県立大学紀要』第 13 巻第 1 号（2004）『教育学論説資料』第 24 号再録(2007)
（単著）「革命前エジプトにおける県委員会による教育行政と地方分権」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 14 巻第 1 号（2005）

３．外部研究資金
なし

４．受賞
なし

５．所属学会
日本宗教学会、日本イスラム学会（評議員）、日本中東学会、比較文明学会（幹事）、日本比較教育学会、宗教と社会学会、アジア教育史学会、アジア教育学会

６．担当授業科目
比較文化論・2単位・1年・前期、教養演習・1単位・1年・前期（人間社会学部責任者）、宗教学・2単位・2年・後期、社会学研究法Ⅰ・1単位・3年・前期、価値・規範論・2単位・3年・前期、外書講読Ⅰ・1単位・3年・前期、社会学研究法Ⅱ・1単位・3年・後期、外書講読Ⅱ・1単位・3年・後期、卒論指導・6単位・4年・通年、地域文化演習・1単位・院1・2年・前期、地域文化研究・1単位・院1・2年・後期、日本事情B・留学生・前期（責任者、分担）、日本事情A・留学生・後期（責任者、分担）

７．社会貢献活動
田川市違法駐車等対策審議会委員

８．学外講義・講演
〈出前講義〉
博多女子高等学校「大学教養講座」（責任者、分担2回）

所属	人間社会学部　一般教育等	職名	教授	氏名	西岡　健治

１．主な研究分野

１．朝鮮古典文学、その中でも朝鮮王朝時代のパンソリ系小説「春香伝」研究
２．日韓比較文学、日韓比較文化論

古典小説「春香伝」は韓国古典文学を代表する作品で、日本では源氏物語に相当する。そのため、日本でもこの作品はつねに関心がもたれてきた。世界で最初に翻訳されたのも日本人によってであった。私は、先に、この世界最初に日本人によって翻訳された作品を詳細に調査し研究発表したが、それぞれの時代によって日本人がこの作品を受け取る受け取り方には少しずつ変化が見られる。その変化を歴史的に見ていくことによって、日本人の対朝鮮観の変遷が明らかにできるのではないかと考えている。題して「日本における『春香伝』受容史研究」とする。

今まで、①世界最初に翻訳された春香伝『鶏林情話春香伝』を考察し、②日本に２番目に紹介された高橋仏焉の「春香伝」に関する論文、③３・１独立運動後に翻訳紹介された「廣寒楼記」について研究した。今後、さらに後続の作品の特徴をあきらかにしていきたい。

２．研究業績
①著書・論文

２００８年９月　『韓国古小説の理解』図書出版パギジョン(韓国)
「日本における韓国文学の伝来様相」２２３～２４２Ｐ
２００８年 12 月　『韓国の古典小説』ぺりかん社
論文「日本への韓国文学の伝来について(戦前編)」298～315P
座談会「韓国の古典小説、その魅力と源泉」13～81P
梗概と解説「雲英伝」178－184P
梗概と解説「謝氏南征記」199－207P
梗概と解説「壬辰録」208－215P
梗概と解説「春香伝」221－231P

②その他の業績

２００７年９月　東アジア韓国古典文学研究大会(大邱韓医大)にて研究発表
題名「日本における韓国古典文学研究」

＜テキスト＞
２００６年　共著『大学での学び方―スタディスキルズ06－』福岡県立大学人間社会学部（教養演習テキスト）、（担当個所「第２章　大学の附属図書館で情報を収集する」、7－13）

２００７年　共著『レポートの書き方入門―教養演習テキスト』福岡県立大学、（担当個所「第２章　なにを集める？－レポートをつくるための＜資料＞集め－」、23－38）

３．外部研究資金
なし

４．受賞
　なし

５．所属学会
朝鮮学会
朝鮮文学研究会
古小説学会
パンソリ学会
日本韓国語研究会

６．担当授業科目
コリア語Ⅰ・１単位・１年・前期、コリア語Ⅰ・１単位・１年・後期
コリア語Ⅱ・１単位・２年・前期、コリア語Ⅱ・１単位・２年・後期
コリア語Ⅲ・１単位・３年・前期、コリア語Ⅲ・１単位・３年・後期
日本語（１）・２単位・留学生・前期、日本語（２）・２単位・留学生・後期
教養演習・１年・前期

７．社会貢献活動
田川市のみなさんとともに「たのしく漢詩を読む会」を主宰（会場：県立大学）。
今年で６年目。漢詩または詩に興味のある方なら、どなたでも歓迎いたします。体験入会もできます。どうぞご連絡ください。

所属	人間社会学部　一般教育等	職名	教授	氏名	久永　明

１．教員紹介・主な研究分野

これまで環境保健、公衆保健、環境科学を主な研究分野としており、ライフワークとして重金属、亜金属の環境や生体への影響を中心に研究している。特に、水質関連項目（有機物、無機物等）に関連した「生活系等排水の流入河川への影響について」、および半導体素子など多用されている「ヒ素・アンチモン等半金属の生体影響について」、それぞれの関連性について実験学的に検討してきている。

現在は、本学の地域支援事業として新たな展開をはかるべく「世界遺産エコツーリズムの可能性、旧産炭地の誇り育成に向けた調査研究」を中心に総合調査を実施している。

２．研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

・田中哲也、久永明、神谷英二、四戸智昭、内田若希「福岡県立大学新入学生の学力実態を踏まえた導入教育及び全学共通教育に関する調査研究（第１報）」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第16巻第2号、福岡県立大学、2008年.

②その他最近の業績

＜調査研究報告書＞

・久永　明、田中哲也、上田　毅、神谷英二、麦島　剛「公立大学法人 福岡県立大学における一般市民・社会人向け教育プログラム開発のための基礎的調査報告書」（平成17・18年度福岡県立大学研究奨励交付金報告書）、2007年3月.

・田中哲也、久永明、神谷英二、四戸智昭、内田若希「福岡県立大学新入学生の学力実態を踏まえた導入教育及び全学共通教育に関する調査研究：中間報告書」(平成19年度研究奨励交付金対象研究報告書)、2008年3月.

・森山沾一、他「世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生プロジェクト報告書」（平成20年度地方の元気再生事業）、2009年3月.

＜テキスト＞

・一般教育等担当者「大学での学び方ースタディ・スキルズ06－」福岡県立大学人間社会学部（教養演習テキスト）、ｐ1～6、2006年.

・「環境・衛生学テキスト」福岡歯科大学口腔保健学講座、ｐ1～20、2007年.

・「社会医学群　Ⅰ　（衛生学）講義資料集、九州大学医学研究院環境医学分野、ｐ3～10、ｐ92～103、2008年10月.

③過去の主要業績

・久永明、石西伸（翻訳）『ヒ素』環境汚染物質の生体への影響16、東京化学同人、1985.

・N.ISHINISHI and A.HISANAGA: Synopsis of the HERP Studies, in DIESEL EXHAUST and HEALTH RISKS, 235-249, Research Committee for HERP Studies, 1988.12.

・A.Hisanaga, M.Hirata, A.Tanaka, N.Ishinishi, and Y.Eguchi: Variation of Trace Metals in Ancient and Contemporary Japanese Bones, Bio. Trace Element Res., 22, 221-231, 1989.

３．外部研究資金

４．受賞

５．所属学会

日本衛生学会（評議員）

日本ヒ素研究会（理事）

日本産業衛生学会、日本公衆衛生学会、日本微量元素学会、日本食品衛生学会、日本大気環境学会、日本分析化学会　各会員

６．担当授業科目

〈学部〉

環境科学Ａ・２単位・１年前期、教養演習・１単位・１年前期、環境科学Ｂ・２単位・１年後期、公衆保健・２単位・２年前期、地域保健論・２単位・３年前期、ヒューマンエコロジー・２単位・３年後期

７．社会貢献活動

・田川市環境審議会・会長
・（財）飯塚研究開発機構・入居審査委員会・審査委員
・麻生飯塚病院・住民医療協議会・委員
・福岡県立大学を応援する会・監事
・田川ふるさと川づくり交流会・会員（アドバイザー）

８．学外講義・講演

九州大学医学部社会医学群Ｉ「衛生学」、医学研究院環境医学分野.
麻生医療福祉専門学校看護科通信課程、「公衆衛生学」.

９．附属研究所の活動等

・生涯福祉研究センター長
・「世界遺産エコツーリズムの可能性、旧産炭地の誇り育成に向けた調査研究」チーム長

所属	人間社会学部　一般教育等	職名	教授	氏名	茂木　豊

１．主な研究分野

地方小都市における住民の生活構造と社会的サービス
地方小都市における住居移動とその関連要因
高齢者の住居移動
社会学方法論（社会調査法を含む）

詳しくは、次のウェブ・サイトを参照してください。http://www.shakaigaku.net
下記の論文等のファイルなどを公開しています。

「地方小都市における住居移動とその関連要因」、単著、『福岡県立大学紀要』第９巻　第２号（http://homepage2.nifty.com/ymoteki/roomb/ronbun1f.pdf）

『地方小都市における住民の生活構造と社会的サービス』（科学研究費補助金研究成果報告書）（http://homepage2.nifty.com/ymoteki/roomb/kake8310.pdf）

２．研究業績

①著書・論文

「福岡県内における高齢者の住居移動」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第１６巻第１号、平成１９年１１月

②その他の業績

「田川市民の地域生活における満足度：平成１７年度社会調査実習報告書、共編（茂木・文屋・三隅・佐藤)、平成１８年３月

下記のウェブ・ページを個人で運営しています。
SHAKAIGAKU.NET（社会学とその方法のオンライン研究室）　http://www.shakaigaku.net

３．外部研究資金

４．受賞

５．所属学会

日本社会学会会員
日本社会福祉学会会員
社会政策学会会員

６．担当授業科目

社会学Ａ・２単位・１年・前期、教養演習・１単位・１年・前期、社会学Ｂ・２単位・１年・後期、社会調査法・２単位・２年・前期、社会調査の設計・２単位・２年・後期、社会学研究法Ⅰ・１単位・３年前期、社会福祉調査法・２単位・３年・前期、社会福祉調査実習・１単位・３年・後期、社会学研究法Ⅱ・１単位・３年後期、卒業論文・６単位・４年

７．社会貢献活動

８．学外講義・講演

９．附属研究所の活動等

所属	人間社会学部　一般教育等	職名	准教授	氏名	神谷　英二

１．教員紹介・主な研究分野

私は、現象学を中心とする現代哲学と生命倫理を中心とする応用倫理学を専門としています。現在取り組んでいる主要な研究テーマは以下のものです。

a. 現象学的他者論および相互主観性論研究
b. 「記憶」と「習慣」に関する現象学的・解釈学的研究
c. 身体性と世代性を手がかりとする現象学的倫理学の構築
d. ドイツ人文主義的教養理念を中心とする「教養」についての哲学的・思想史的研究
e. インフォームド・コンセントに関する哲学的・倫理学的基礎研究とそれに基づく医療職に対する生命倫理教育プログラム開発

２．研究業績

①最近の著書・論文

＜著書＞

（共著）千田義光・久保陽一・高山守編『講座 近・現代ドイツ哲学Ⅱ―ヘーゲル以後フッサールまで―』理想社、2006 年
（担当箇所「第 9 章 他者経験の起源―発生的現象学におけるヒュレー・キネステーゼ・他者―」、255-277 頁）

＜学術論文＞

（単著）「情感性と記憶―アンリ現象学による試論―(2)」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 16 巻第 2 号、福岡県立大学人間社会学部、2008 年、1-14 頁
（単著）「遊歩者・記憶・集団の夢―ベンヤミン『パサージュ論』による記憶論構築のために―」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 17 巻第 2 号、福岡県立大学人間社会学部、2009 年、67-79 頁

②その他最近の業績

＜学会発表・シンポジウム＞

（単独）「記憶の触発と変容」2006 年度九州大学哲学会大会、特別発表、2006 年 9 月 30 日、九州大学
（コーディネーター）第 16 回実存思想協会・ドイツ観念論研究会共催シンポジウム「記憶への問い―想起と忘却―」、2007 年 9 月 29 日、早稲田大学
（単独）「情感性・習慣・記憶」、哲学会第４７回研究発表大会、2008 年 10 月 25 日、東京大学
（単独）「直面する課題から逃げず、小銭で払い続けるために―私の哲学的戦略メモ―」、日本現象学・社会科学会第 25 回大会・シンポジウム２「現象学と社会科学の接点をもとめて」提題、2008 年 12 月 7 日、武蔵大学

＜調査研究報告書＞

（共著）田中哲也・久永明・神谷英二・四戸智昭・内田若希「福岡県立大学新入学生の学力実態を踏まえた導入教育及び全学共通教育に関する調査研究（第１報）」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 16 巻第 2 号、福岡県立大学人間社会学部、2008 年、69-75 頁
（共著）田中哲也・久永明・神谷英二・四戸智昭・内田若希『福岡県立大学新入学生の学力実態を踏まえた導入教育及び全学共通教育に関する調査研究：中間報告書』（平成 19 年度研究奨励交付金対象研究報告書）、2008 年

＜教科書＞

（共著）田中哲也編『レポートの書き方入門 2007 年版―福岡県立大学教養演習テキスト―』福岡県立大学教養演習テキスト出版会、2007 年（担当箇所「第 5 章 レポート作成の基本

技法」、82-100 頁）
（共著）田中哲也編『レポートの書き方入門2008 年版―福岡県立大学教養演習テキスト―福岡県立大学教養演習テキスト出版会、2008 年（担当箇所「第5章 レポート作成の基本技法」、74-94頁）

③過去の主要業績
＜学術論文＞
（共著）神谷英二・橋口捷久「医学生における生命倫理―患者の権利とインフォームド・コンセント―」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 13 巻第 2 号、福岡県立大学人間社会学部、2005 年、75-94 頁
＜翻訳＞
（単著）A. J. スタインボック「限界現象と経験の限界性」、『思想』2000年第10号、No.916、岩波書店、2000年、218-243頁

３．外部研究資金
科学研究費補助金・基盤研究(C)、研究課題名：集合的記憶を媒介とした世代間コミュニケーションに関する現象学的研究、研究代表者：神谷英二、課題番号：19520025、交付予定額：直接経費2200,000円、研究期間：平成19～22年度

５．所属学会
日本現象学・社会科学会委員・企画委員、日本哲学会、日本倫理学会、日本現象学会、日本生命倫理学会、哲学会、科学基礎論学会、実存思想協会、日本現象学・社会科学会、中部哲学会、西日本哲学会、九州大学哲学会各会員

６．担当授業科目
哲学Ⅰ・２単位・１年・前期、教養演習・１単位・１年・前期、生命倫理・２単位・１年・前期、哲学Ⅱ・２単位・１年・後期、論理学・２単位・２年・前期、倫理学・２単位・２－３年・前期、社会学研究法Ⅰ・１単位・３年・前期、社会学研究法Ⅱ・１単位・３年・後期、哲学要論・２単位・３年・後期、卒業論文・６単位・４年・通年
スキルアップゼミ：ビジネス・ロジカル・トレーニング・単位外・３－４年・後期

７．社会貢献活動
福岡県田川郡香春町情報公開審査会会長、同町個人情報保護審査会会長、同町政治倫理審査会副会長、同町行政改革推進委員会副会長、福岡県直方市消防本部職員採用試験員、株式会社麻生・飯塚病院倫理委員

８．学外講義・講演
・福岡県直方市政策研修講師（2008 年 6 月 30 日～10 月 30 日・計 7 回）
・福岡県直方市事務事業評価研修講師（2008 年 7 月 7 日）
・福岡県市町村職員研修所・政策課題研究＜四王寺塾＞・ロジカルライティング研修講師（2008 年 7 月 10 日）
・福岡県市町村職員研修所・課題研修「高度福祉社会―少子社会に求められる子育てと行政の関わり（現状分析と将来像）―」講師（2008 年 8 月 25 日～27 日）
・筑豊市民大学講座部「市民大学の意義」講師（2008 年 12 月 20 日）
・福岡県宗像市人づくり・まちづくり研究所プレゼンテーション研修講師（2009年1月26日～2月2日・計2回）

９．附属研究所の活動等
生涯福祉研究センター地域支援員（筑豊市民大学アドバイザー・講座部担当）

所属	人間社会学部　一般教育等	職名	准教授	氏名	Stuart Gale

１．教員紹介・主な研究分野

Stuart Gale was born and raised in Hertfordshire, England. After graduating from The University of Leeds with a BA in history, he briefly worked in London before pursuing a teaching career in Japan. He returned to London to study for a Master's degree in English language teaching, passing with a distinction grade in 2002. Since then, he has taught at Fukuoka Women's University, Fukuoka University and Kyushu University. He joined the staff at Fukuoka Prefectural University in the spring of 2007.

Since 2005, Stuart Gale's research has focused upon two specific issues. The first of these concerns the validity of direct translation into the mother tongue as a technique for the teaching of vocabulary in EFL contexts. With the emergence of Communicative Language Teaching (CLT) in the 1970s, the use of direct oral translation by teachers as a technique for teaching vocabulary became discredited. Nevertheless, recent studies have since sought to restore direct oral translation as a legitimate teaching technique. Stuart Gale's ongoing research has two purposes: to find out how common the use of direct oral translation is in Japanese university English language classrooms and, secondly, how effective direct oral translation is as a vocabulary teaching technique relative to a range of other techniques.

Stuart Gale's second field of research concerns academic writing and how it may be taught more effectively to Japanese university students. This (action) research is conducted in university writing classes and involves a process of ongoing evaluation and modification in pursuit of more effective teaching. The results of this research have been incorporated into my academic writing textbook, the virtual learning website I have created at Fukuoka Prefectural University, and of course the classes themselves.

２．研究業績

①最近の著書・論文

Gale, S. (2007). Towards a culture-sensitive pedagogy: critical awareness versus student-ethnocentric learning. *Gengo Bunka Ronkyu (Kyushu University Studies in Languages and Cultures)*, No. 22, pp. 67-88.

Mori, R. and Gale, S. (March 2009). Teacher development and reflecting on experience. *The Language Teacher*, Vol. 33, No. 3.

②その他最近の業績

Gale, S. (2006) A comparative analysis of direct oral translation as a vocabulary teaching technique. Academic society lecture at the *2006 Temple University/Fukuoka JALT Applied Linguistics Colloquium*, Jogakuin University Tenjin Satellite Campus, June 11th, 2006.

Developer and coordinator, *Kyushu University's TOEIC Programme* (2006-7).

Author and developer, Fukuoka Prefectural University's online *Virtual Language Laboratory* (2007-).

Chair and course designer (volunteer community service), *Fukuoka Prefectural University's English*

Conversation Class for Local Japanese-national English Teachers (2007-).

Presenter, Faculty Development Seminar, Fukuoka Prefectural University, *Making a Webpage* (2007).

Author and proofreader, *Fukuoka Prefectural University's Entrance Exam* (English), (2007-).

Developer, *Fukuoka Prefectural University's English Speaking Society* (October 2007-March 2008).

Course designer and teacher, *Orientation Course for Students Participating in Fukuoka Prefectural University's UK Study Trip* (April-August, 2008).

Course designer and teacher (volunteer community service), *Fukuoka Prefectural University's (koukai kouza) English Travel Class for Local Citizens* (May-June, 2008).

Presenter, *Fukuoka Prefectural University's Open Campus Day* (August, 2007/2008).

Developer and coordinator *Fukuoka Prefectural University's UK Study Trip* (August-September, 2008).

Author, proofreader and developer, *Fukuoka Prefectural University's official English language version website* (2008-).

Assistant, *World Heritage International Symposium*, Tagawa City, February 15th, 2009.

③過去の主要業績

Publications (pre-2006):

Fukuoka University Review of Literature and Humanities

- "Standing in the way of progress: the social and pedagogic implications of Japan's hidden curriculum" (Sept. 2002).
- "A nice idea in theory: examining the conflict between progressive learning theory and conservative practice in Japanese schools" (Sept. 2003).
- "Persistent, if nothing else: evaluating Situational Language Teaching and the extent of its contribution to communicative competence" (Dec. 2003).
- "No substitute for the real thing: the future of online learning, a virtual reality check" (June 2004).
- "The nature and implications of language change and its impact upon teaching practice" (March 2005).
- "Feed the medium: reconciling the nature of language with pedagogic practice" (June 2005).

Fukuoka University Review of Language and Education Research

- "A wealth of limited potential: thoughts on the Internet and the extent and nature of its impact upon the language learning programmes of the future" (Dec. 2002).
- "Make of it what you will: a brief evaluation of the principles behind Communicative Language Teaching and the role of Task-Based Learning" (Dec. 2003).
- "Mistakes are good, but failure is better: devising an appropriate classroom response to the pragmatic dilemma" (Dec. 2004).

３．外部研究資金

４．受賞

５．所属学会

Member, *Japan Association of Language Teachers* (Fukuoka Chapter).

６．担当授業科目

My regular classes during the 2007-8 academic year at Fukuoka Prefectural University were as follows:

英語Ⅰ　1単位　1年　前期 後期 (3 classes of this type per semester)
英語Ⅲ　1単位　2年　前期 後期 (3 classes of this type per semester)
英語Ⅲ　1単位　3年　前期 後期 (For students who failed the course in their second year. 1 class of this type per semester)

７．社会貢献活動

Chair and course designer (volunteer community service), *Fukuoka Prefectural University's English Conversation Class for Local Japanese-national English Teachers*. This class meets on one evening every other week for 2 hours.

Course designer and teacher (volunteer community service), *Fukuoka Prefectural University's (koukai kouza) English Travel Class for Local Citizens* (April-May, 2008). This course consisted of 4 evening classes of 90 minutes each (5/12, 5/19, 5/26, 6/2).

Assistant, *World Heritage International Symposium*, Tagawa City, February 15th, 2009.

８．学外講義・講演

Fukuoka Prefectural University's Open Campus Day (August, 2007/2008).

Fukuoka Prefectural University's English Conversation Class for Local Japanese-national English Teachers. This class meets on one evening every other week for 2 hours.

Fukuoka Prefectural University's (koukai kouza) English Travel Class for Local Citizens (April-May, 2008). This course consisted of 4 evening classes of 90 minutes each (5/12, 5/19, 5/26, 6/2).

９．附属研究所の活動等

I received funding from Prefectural University to take 21 FPU students to the UK for 3 weeks, August-September 2008.

所属	人間社会学部　一般教育等	職名	准教授	氏名	郝　暁　卿

１．教員紹介・主な研究分野

1988年まで九州大学法学部大学院政治研究科で留学、修士。1992年、本学に着任。
現在、グローバル時代における中国の国内政治を基点として、中国の現代史と国際環境との関係などを主な研究分野としている。その内容として、1、現在の中国の内政と外交に多大な影響を与えた文化大革命の国際的な背景の検討と、2、高度成長を伴う深刻な環境問題に対する中国政府の対策への調査、検討等である。具体的には、1の場合、文化大革命の発生から終息までの原因の一つとして、当時の国際環境に照準を定め、問題の解明を行ってきたが、現在はアメリカの要素を中心に、60～70年代における米国の対中政策を中国の国内情勢にいかなる影響を及ぼしたかを明らかにしようとしている。2については、世界、とくにアジアに深刻な影響を与えた中国の環境問題を注目し、現地調査で入手した資料などを参考にしながら、中国の環境問題などを制度的に検討するとともに、国際協力で世界からいかなる越境支援を受け、また、何の問題があるのかを研究しようとしている。

２．研究業績

①最近の著書・論文

＜論文＞

・「中国の環境問題と国際協力」、単著、2006年11月、『福岡県立大学紀要』、第15巻第1号

・「文化大革命と国際環境（4）－ベトナム戦争（初期）の要素－」、単著、2007年11月、『福岡県立大学紀要』、第16巻第1号

・「中国の子供たちにおける環境意識」、共著、豊田謙二・郝暁卿、2007年12月、『福岡自治研所報』、第63号

・「中西医結合医学の歴史と現状を顧みて」、単著、2008年7月、『福岡県立大学紀要』、第17巻第1号

②その他最近の業績

＜教材開発＞

・『大学での学び方―スタディ・スキルズ06―』、共著、2006年3月、第1章を担当、久永明・郝暁卿、（翌年度改訂）

③過去の主要業績

・「冷戦期における中国教育の動向」、単著、1997年3月、『政治研究』、第44号、九州大学政治研究会

・『社会主義の世紀』、共著、熊野直樹・星乃治彦編、2004年11月、第8章「ユートピアと現実との間」を担当

・「SARSから考えたこと」、単著、2005年3月、『法政研究』、第71巻第4号、九州大学法政学会

３．外部研究資金

なし

４．受賞

なし

５．所属学会

日本国際政治学会

６．担当授業科目

・中国語Ⅰ－（1）・中国語Ⅰ－（2）・2単位・通年・1年、中国語Ⅱ－（1）・中国語Ⅱ－（2）・2単位・通年・2年、中国語Ⅲ－（1）・中国語Ⅲ－（2）・2単位・通年・3年、国際関係論・1単位・前期・全学年、教養演習・1単位・前期・1年

７．社会貢献活動

・福岡県立大学公開講座「導引養生法入門」、2008年6月

８．学外講義・講演

・「日中関係について（戦争と平和の立場から）」、福岡大学における講義、2008年11月

９．附属研究所の活動等

・生涯福祉研究センター委員兼研究員

・大学症例交付金・研究プロジェクト「中医学・ウイグル医学・日本の代替医療の医療人類学的比較研究ーリサーチプラン作成のための基礎研究」

所属	人間社会学部　一般教育等	職名	准教授	氏名	水野　邦太郎

１．教員紹介・主な研究分野

「英語を学ぶ・使う」という実践の背後に多くの「仲間」が存在し，多様な人々が差異によって響き合う「学びの共同体(未知の世界と出会い，他者と出会い，自らの存在と出会い対話する対話的実践を遂行するコミュニティ)」を，いかに「教室」という場と，「インターネット」を活用して創出できるか，その教育方法に取り組んでいる．これまで，以下の３つのサイトを立ち上げ実践してきた：Interactive Writing Community, Interactive Reading Community, Writing for the TOEFL Test(http://ilc.eknowhow.jp/).

今後，これら３つの「学びの共同体」を充実させていくために，世界中の教育機関とネットワークを結び，さらに，マルチメディアをフルに活用して様々な機能を実装していき，新しい英語学習環境の創出の研究と実践に従事していきたい．

２．研究業績

①最近の著書・論文

水野　邦太郎．2008.「学びを豊かにする ICT 環境をどう構築するか」『学びとコンピュータハンドブック』佐伯 胖 監修．他多数．254-257．東京電気大学出版局.

水野　邦太郎．2008.「学校で『英語』を学ぶことの意味 ― 出会いと対話のある英語の授業をめざして」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 17 巻 第 2 号.

水野　邦太郎．2007.「Writing for the TOEFL Test」 『高等教育における英語授業の研究―授業実践事例を中心に』 他多数．大学英語教育学会授業学研究委員会 編．2008 年度 大学英語教育学会 実践賞 受賞．松柏社．134-135 .

水野　邦太郎．2007.「Reading for Pleasure」『高等教育における英語授業の研究―授業実践事例を中心に』 他多数．大学英語教育学会授業学研究委員会 編．2008 年 大学英語教育学会 実践賞 受賞．松柏社．86-87.

水野　邦太郎．2007.「『活動的で協同的で反省的な学び』による TOEFL ライティングの授業」『英語教育』4 月号. 49-51.

②その他最近の業績

＜学会発表＞

Kunitaro Mizuno and Reina Wakabayashi. 2008. The Effect of On-line Peer Feedback on EFL writing: Focusing on Japanese University Students. WorldCALL.

Kunitaro Mizuno. 2008. TOEFL のライティング・セクションで高得点を上げる授業. JACET 第 47 回 全国大会.

水野　邦太郎. 2008. 読み合い語り合う読書活動を取り入れたリーディングの授業 ～正統的周辺参加による学びの共同体づくり～. 教育工学会第 24 回 全国大会.

Kunitaro Mizuno. 2007. Computer Supported Collaborative Learning in Interactive Writing Community. Symposium on Second Language Writing in the Pacific Rim. 名古屋学院大学

Kunitaro Mizuno. 2007. Creating a reciprocal Learning environment to promote reading extensively in English. JACET 第 46 回 全国大会.

＜インタヴュー＞
大学生協．1月．**あの人の本棚　特別編**　http://www.hondemand.jp/hondana/index.html
西日本新聞．2009．1月28日(水) 朝刊．「ユニーク授業　好評　英書読破，マラソン」
RKB 毎日放送出演．安藤豊オトナの学校．2月2日(月) 11:10～11:15

＜開発したサイト＞
http://ilc.eknowhow.jp/
Interactive Writing Community，Interactive Reading Community，Writing for the TOEFL Test.

③過去の主要業績
Kunitaro Mizuno. 2005. Improving TOEFL Writing Scores through Collaborative Learning on the Internet Innovative Language Learning Asia-Pacific Association Computer- Assisted Language Newsletter Series No.7. 2-13

水野　邦太郎. 2005.「Idea の物語～認知言語学的分析とその学習英和辞典への応用～」『英語教育』12 月号. pp.66-68

水野　邦太郎．2005．「本と人・人と人との絆を結ぶ互恵的な読書環境の創出」『コンピュータ ＆ エデュケーション』Vol. 19. 75-84. 2007 年度 CIEC 学会賞・論文賞 受賞.

Kunitaro Mizuno. 2004. "Interactive Reading Community". *Extensive Reading Activities for Teaching Language*. J. Bamford and R. R. Day (eds.), pp.153-154. Cambridge University Press.

田中茂範 編集主幹. 2003『E ゲイト英和辞典』他多数．共著．ベネッセコーポレーション.

３．外部研究資金

４．受賞

５．所属学会
大学英語教育学会，全国英語教育学会，外国語教育メディア学会，認知言語学会，日本英語学会，英語コーパス学会，コンピュータ利用教育協議会，教育工学会

６．担当授業科目
英語Ⅱ(1)・１単位・１年・前期，英語Ⅱ(2) ・１単位・１年・後期，英語Ⅳ(1)・１単位・１年・前期，英語Ⅳ(2)・１単位・１年・後期，教養演習・１単位・１年・前期.

７．社会貢献活動
８．学外講義・講演
９．附属研究所の活動等

所属	人間社会学部　一般教育等	職名	講師	氏名	森脇　敦史

１．教員紹介・主な研究分野

憲法学を専攻しており、特に情報と法との関わり合いを中心的な研究課題としている。従来は、人的・物的資源を多く有する者（マスコミや政府など）のみが、情報を発信することが可能であった。しかし、電子通信技術の発達（特にインターネットの爆発的拡大）は、誰もが情報を発信することを可能とした。これは、思想の自由市場への参入者を拡大し、多様な情報が発信されるという面を持つ。一方で、発信者が限定的であったがゆえに成立していた従来の規律を破壊し、人々の権利を侵害する（名誉毀損やプライバシー侵害、著作権侵害など）という一面をも有している。このような問題に対して、憲法上の権利である表現の自由という観点から、個別の事例においてどのような解決を図るべきなのか、さらには、どのような制度設計を行うことが、最も適切な権利配分を人々に行うことになるのかということを考察している。

２．研究業績

①最近の著書・論文

・君塚正臣、河野良継、片山智彦、福岡久美子、早瀬勝明、丸山敦裕、合原理映、福島力洋、森脇敦史、前田正義、中村孝一郎、森口佳樹、青田テル子、今田浩之、上石圭一『ベーシックテキスト憲法』（法律文化社）、第7章Ｖ（信教の自由）、第15章IV～VII（裁判所）、2007年3月
・大隈義和、大江正昭、井田洋子、苗村辰弥、植木淳、近藤敦、森脇敦史、湯浅墾道、奈須祐治、太田周二朗『憲法学へのいざない』（青林書院）、第8章（経済的自由）、第15章（内閣・行政組織）、2008年3月

②その他最近の業績

＜調査研究報告書＞
・平田健治、渡邉惺之、松川正毅、三成賢次、松本和彦、中山竜一、武田邦宣、田中規久雄、戸澤英典、松田岳士、河野良継、北坂尚洋、野村美明、福井康太、長田真理、森脇敦史著、『市民生活基盤の法および行政に関する日米欧間の比較検証』（平成14年度～平成17年度科学研究費補助金（基盤研究（Ａ））研究成果報告書）、「ＲＦＩＤとプライバシーに関するＥＵデータ保護特別委員会報告書の紹介」88～109頁、2006年4月

＜教材開発＞
・田中哲也、久永明、四戸智昭、西岡健治、ハオ暁卿、茂木豊、有泉高史、森脇敦史、神谷英二、森礼子、上野行良、石原一成『教養演習テキスト　レポートの書き方入門』（福岡県立大学教養演習テキスト出版会）第4章「資料の読み方、見分け方」、2007年3月
・大沢秀介（編）『確認憲法用語300』（成文堂）、2008年1月

＜学会報告＞
・森脇敦史、「弁護士会による照会（弁護士法23条の2）と裁判を受ける権利（大阪地判平18・2・22日金融・商事判例1238号37頁）」、九州公法判例研究会判例報告（九州大学）、2007年3月

③過去の主要業績

森脇敦史「言論市場の「自由」と「制約」についてーCass R. Sunsteinの「現状中立性」批判を手がかりとしてー」、阪大法学第51巻5号939～967頁、2002年

森脇敦史「言論活動への政府資金助成に対する憲法上の規律」、阪大法学第53巻1号113～142頁、2003年

森脇敦史「図書館に対するフィルタリングの義務づけと今後のインターネット上における表現規制の態様－ＣＤＡ、ＣＯＰＡ、ＣＩＰＡの事例からー」、阪大法学第53巻3=4号393～419頁、2003年

森脇敦史「発言する政府、設計する政府」松井茂記、市川正人、紙谷雅子、鈴木秀美、福島力洋、森脇敦史、渡辺武達、宮崎寿子、田中智佐子、野原仁、ミッシェル・マクレラン、丹羽俊夫、木村哲也『メディアの法理と社会的責任』（ミネルヴァ書房）127-150頁、2004年

５．所属学会

関西アメリカ公法学会、関西憲法判例研究会、九州公法判例研究会、情報ネットワーク法学会

６．担当授業科目

法学・２単位・１年・前期、教養演習・１単位・１年、前期、憲法・２単位・１年・後期、法律学概論Ⅰ・２単位・３年・前期、社会学基礎演習・２単位・２年・前期、社会学研究法Ⅰ・２単位・３年・前期、法律学概論Ⅱ・２単位・３年・後期、社会学研究法Ⅱ・２単位・３年・後期、卒業論文・６単位・４年・通年

７．社会貢献活動

田川市情報公開・個人情報保護審議会委員

８．学外講義・講演

・福岡県社会福祉協議会「社会福祉主事認定講習会」講師（法学）、2008年7月
・博多女子高校「大学教養講座」講師、2008年9月

所属	人間社会学部　一般教育等	職名	助手	氏名	内田　若希

１．教員紹介・主な研究分野

2006 年九州大学大学院人間環境学府博士課程修了．日本学術振興会特別研究員として九州大学に勤務後，2007 年に本学に着任．主な研究内容を以下に記します．

事故や病気のために身体機能や身体の一部を喪失し，ある日突然に身体障害者となることは，生活上の急激な変化や様々な喪失感，社会的存在の変化をもたらす経験であると考えます．また，それまでの自己 (過去) が失われるだけでなく，今までと同じように続いていくと当たり前のように信じていた未来が同時に喪失される経験でもあります．そこで，障害と共に生きる者が増加し，生き方への援助が問題となっている今日において有用な自己変容過程の支援の確立を目指して，運動・スポーツを軸に継続的に調査しています．また，障害者競技選手へのメンタルトレーニングの指導や心理サポートも行っています．

２．研究業績

①最近の著書・論文

＜著書＞

内田若希・中原和美「運動機能障害の及ぼす影響とは？―心理面での影響は？」嶋田智明・大峯三郎・天満和人 (編). 実践 MOOK 理学療法プラクティス 運動機能の回復促進テクニック．文光堂, 2008.

内田若希「健康スポーツの心理―自己概念」日本スポーツ心理学会 (編). スポーツ心理学事典. 大修館書店, 2008.

＜論文＞

山﨑将幸・杉山佳生・村上雅彦・内田若希「継続的な動機づけビデオの視聴による心理的介入効果―女子中学生バドミントン選手への適用―」九州体育・スポーツ科学研究, 20 (2), 1-8, 2006 .

内田若希・橋本公雄「自尊感情の多面的階層モデルと身体活動の関係」健康心理学研究, 20 (2), 42-51, 2007.

内田若希・平木貴子・橋本公雄・徳永幹雄・山﨑将幸「車いす陸上競技選手の心理的競技能力向上に向けたメンタルトレーニングに関する研究」障害者スポーツ科学, 5 (1), 41-49, 2007.

内田若希・橋本公雄・山﨑将幸・永尾雄一・藤原大樹「自己概念の多面的階層モデルの検討と運動・スポーツによる自己変容―中途身体障害者を対象として―」スポーツ心理学研究, 35 (1), 1-16, 2008.

内田若希・永野典詞「障害者スポーツ指導者に必要な資質に関する調査研究」障害者スポーツ科学, 2009 (印刷中).

②その他の業績

＜報告書＞

内田若希・橋本公雄・藤永博「スポーツドラマチック体験が生きる力に及ぼす影響―共分散構造分析―」運動・スポーツ活動のドラマチック体験と生きる力の養成―生きる力の共分散構造分析―報告書, 2006.

荒木雅信・吉田聡美・荒井弘和・内田若希・橋口泰一・山﨑将幸・松本和典「基礎調査 (メンタル) 報告書―障害のあるスポーツ選手の心理的競技能力」日本パラリンピック委員会強化事業報告書, 2006, 2007, 2008.

荒木雅信・吉田聡美・荒井弘和・内田若希・橋口泰一・山﨑将幸・松本和典「メンタル指導報告書―教育プログラム (メンタルトレーニング) の実施」日本パラリンピック委員会強化事業報告書, 2006, 2007, 2008.

＜民間雑誌など＞
内田若希「スポーツ・タイムマシン　1964 年 11 月アジア初のパラリンピック開催」体育科教育 11 月号, 2007.

＜学会発表＞
Wakaki Uchida, Kimio Hashimoto, & Hiroshi Fujinaga「Examination of the hierarchical physical self-perception model in adults with physical disability」The 9th International Symposium of the Asian Society for Adapted Physical Education and Exercise, 2006.
山﨑将幸・杉山佳生・内田若希「心理的側面およびパフォーマンス変容におけるモチベーションビデオ視聴タイミング条件の差異の検討」九州スポーツ心理学会, 2006.
内田若希・永野典詞「障害者スポーツ指導者に求められる資質向上に向けて―指導者協議会九州ブロック研修・研究部会の取り組みの報告―」九州スポーツ心理学会, 2008.
Wakaki Uchida, Takako Hiraki, Kimio Hashimoto, Mikio Tokunaga, & Masayuki Yamazaki「A Study on the Effect of Psychological Skill Training in Enhancing the Psychological Competitive Ability of a Wheelchair Athlete」The 10th International Symposium of the Asian Society for Adapted Physical Education and Exercise, 2008.
Masanori Nakayama, Tetsuji Kakiyama, Saori Tanaka, Wakaki Uchida, & Hinako Nanri: Relationship between the Level of Physical Activity and Lower Limb Muscle Strength/ Bone Mineral Density in Persons with Total Blindness without Experience of Habitual Exercise. The 10th International Symposium of the Asian Society for Adapted Physical Education and Exercis e, 2008.
内田若希・永野典詞「障害者スポーツ指導者に必要な資質に関する調査研究―指導者協議会九州ブロック研修・研究部会の取り組みの報告#2―」九州スポーツ心理学会, 2009

＜シンポジウム等＞
内田若希「身体障害者の自己の再構築に果たす運動・スポーツの役割」日本体育学会, 2006.
内田若希「アダプティッド・スポーツの新たな視角を求めて」九州体育・スポーツ学会, 2007.
内田若希「アダプテッドスポーツへの心理的サポート」九州スポーツ心理学会, 2009.

３．外部研究資金
科学研究費補助金 (若手研究 (B))「中途脊髄損傷者における運動・スポーツを通した自己変容過程に関する研究」320万円, 平成20-22年度 (研究代表者: 内田若希).

４．受賞
優秀論文奨励賞, 2008 (日本スポーツ心理学会)

５．所属学会
日本体育学会，九州体育・スポーツ学会，日本スポーツ心理学会，九州スポーツ心理学会，International Federation of Adapted Physical Activity，日本アダプテッド体育・スポーツ学会，日本障害者体育・スポーツ研究会，日本健康心理学会

６．担当授業科目 (補助)
健康科学実習Ⅰ・Ⅱ (補助)・各1単位・1年前・後期
情報処理の基礎と演習 (補助)・2単位・1年前期

７．社会貢献活動
日本障害者スポーツ指導者協議会 九州ブロック 研修・研究部会 副幹事
日本パラリンピック委員会 障害者スポーツ科学支援委員会委員 心理スタッフ

８．学外講義・講演
日本パラリンピック委員会障害者スポーツ科学支援事業「メンタルトレーニング」講師

人間社会学部　社会学科

所属	人間社会学部　社会学科	職名	教授	氏名	清田　勝彦

１．主な研究分野

（１）社会病理学・逸脱研究

１）社会病理学説及び逸脱行動論の理論的研究

２）少年の逸脱行動（犯罪・いじめなど）に関する理論的、実証的研究

３）わが国の自殺の現状及び自殺防止対策

（２）地域問題研究

旧産炭地域（筑豊）の社会・生活問題の歴史および現状に関する調査研究

１）「若年層の雇用と就業意識」「キャリア形成支援」に関する共同研究

２）生活保護受給者の自立支援に関する共同研究

教員紹介:福岡教育大学教育専攻科修了（昭和 43 年）、京都大学文学部（大学院）社会学講座研究員（昭和 61 年度）、久留米工業大学教授（昭和 63 年）等を経て平成５年４月より現職

２．研究業績

①最近の論文

１．清田勝彦「本調査研究の概要」(p5－14)、清田勝彦、林ムツミ「生活保護の連鎖構造」（ｐ195－224)、清田勝彦「本研究のまとめ」（ｐ298－307）『生活保護自立阻害要因の研究』（研究代表者：清田勝彦）福岡県立大学附属研究所　2008 年

２．清田勝彦、田代英美、中村晋介、林ムツミ「福岡県内における若年求職者の雇用と就業意識に関する調査研究」福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書　Vol.35 (p1－141)　2008 年

３．清田勝彦、田代英美、中村晋介「若年者の就業意識に関する比較研究－田川市郡と福岡都市圏高校生（3 年生）の意識調査から」福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書 Vol.35　(p143－196)　2008 年

４．清田勝彦、田代英美、中村晋介、林ムツミ『福岡県内における若年求職者の雇用と就業意識に関する調査研究』（厚生労働省委託事業)福岡県労使就職支援機構　(p1－143)　2007 年

５．清田勝彦、田代英美、中村晋介「福岡県内事業所における若年者の雇用と就業に関する調査研究」福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書 Vol.29　(p3－108)　2007 年

６．清田勝彦、田代英美、中村晋介、林ムツミ『福岡県内事業所における若年者の雇用と就業に関する調査研究』（厚生労働省委託事業)福岡県労使就職支援機構　(p1－100)　2006 年

７．清田勝彦、豊田謙二、三隅譲二「方城町の治安と防犯に関する調査研究」『筑豊地域調査報告Ⅱ』福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書 Vol.23（ｐ1-66）　2006 年

８．清田勝彦、田代英美、中村晋介「田川市事業所における若年者の雇用と就業に関する調査研究」『若年者の雇用と就業意識に関する研究』福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書 Vol.24（ｐ1-107）　2006 年

９．清田勝彦、田代英美、中村晋介「若年層の就業意識に関する調査研究２－福岡都市圏 6 高校（3 年生）の意識調査から－」『若年者の雇用と就業意識に関する研究』福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書 Vol.24　（ｐ108-172）　2006 年

②その他最近の業績

（学会報告）

１．清田勝彦、中村晋介、三隅譲二「生活保護自立阻害要因の研究」日本社会病理学会第24回大会報告　大阪府立大学　2008年10月5日

③　過去の主要業績

（著書）

１．清田勝彦「日中非行少年の親子関係と規範意識」『「改革・開放」下中国教育の動態』東信堂（ｐ255‐274　）2005年

２．清田勝彦「社会病理のマクロ分析」『社会病理学の基礎理論』（社会病理学講座第１巻）学文社（ｐ101-116　）2004年

３．清田勝彦「筑豊地域における学校教育問題」『旧産炭地の都市問題』多賀出版（ｐ441‐460　）　1998年

４．清田勝彦『社会病理学の視角と諸相』　学文社（ｐ1-251　）1987年

３．外部研究資金

特記なし

４．受賞

特記なし

５．所属学会

日本社会学会、日本社会病理学会、日本犯罪社会学会、日本社会分析学会、西日本社会学会等会員

６．担当授業科目

（人間社会学部）

社会学史・２単位・２年・前期、社会病理学Ⅰ・２単位・２年・前期、社会病理学Ⅱ・２単位・２年・後期、社会学基礎演習・２単位・２年・前期、社会調査実習２単位・３年・通年、現代社会論Ⅰ・２単位・３年・前期、現代社会論Ⅱ・２単位・３年・後期、社会成層論・２単位・３年・後期、社会学研究法Ⅰ・２単位・３年・前期、社会学研究法２単位・３年・後期、卒業論文・４単位・４年・通年

（大学院）

地域問題演習・２単位・１－２年・前期、地域問題研究・２単位・１－２年・後期、特別研究・２単位・１－２年・通年

７．社会貢献活動

福岡県自殺対策連絡協議会委員、福岡市自殺対策協議会委員、福岡県伊良原ダム環境再評価委員、福岡県福智町人権と福祉のまちづくり「地域防災･防犯･緊急時ワーキング会議」アドバイザー、ＮＰＯ福祉用具ネット理事、

８．学外講義・講演

福岡家庭裁判所飯塚支部　調査官研修会講演「筑豊地域社会の変容と地域問題」（2009.2.9）

９．附属研究所の活動等

附属研究所生涯福祉研究センター兼任研究員

所属	人間社会学部　社会学科	職名	教授	氏名	平野　泰朗

１．教員紹介・主な研究分野

1978年3月名古屋大学大学院経済学研究科博士課程修了。1978年9月から1980年9月までフランス政府給費留学生として社会科学高等研究院に留学。博士（経済学）。

現在は、社会保障制度の果たす役割を各国の社会・経済制度の中で考察することを、研究テーマとしている。

日本をはじめとする、いわゆる先進諸国では、少子高齢化が進む一方で経済成長の鈍化が起こり、社会保障の機能強化と効率的運営の双方が求められている。このため、例えば年金制度では、どの程度まで老後の所得保障をすべきかという制度の設計が改めて問われている。しかし、年金記録漏れのように、どのように制度を設計しても、それだけでは所定の目的を達成できない。これは、制度の設計の問題と言うよりは、制度の運用、すなわちマネジメントの問題である。近年、ヨーロッパでは社会保障制度の運営方法を確定していく傾向が出てきた。これらの事実を日本の文脈の中で再検討する必要がある。

２．研究業績

①最近の著書・論文

＜著書＞

平野泰朗「社会保障改革における制度の問題――年金問題を中心に――」、山田鋭夫他編『現代資本主義への新視角――多様性と構造変化の分析』昭和堂、2007 年

②その他の業績

・インタビュー「北九州市生活保護問題　第三者委員会中間報告について」『読売新聞・北九州版』２００７年１０月２日

・インタビュー「年金問題について」２００７年７月１８日、FBS『めんたいワイド』

③過去の主要業績

平野泰朗『日本的制度と経済成長』藤原書店、1996年

平野泰朗、花田昌宣"Industrial Welfare and company-ist regulation: an eroding complementarity" in *Japanese Capitalism in Crisis: A regulationist interpretation,* Routledge,2000

翻訳・平野泰朗『低成長下のサービス経済』パスカル・プチ著、藤原書店、1991 年

翻訳・平野泰朗『経済幻想』エマニュエル・トッド著、藤原書店　1999 年

３．外部研究資金

４．受賞

５．所属学会

経済学史学会会員
経済理論学会会員
日仏経済学会会員、理事
社会政策学会会員
進化経済学会会員、理事

６．担当授業科目

経済学A・２単位・１年・前期、教養演習・１単位・１年、経済学B・２単位・１年・後期、社会学基礎演習・１単位・２年・前期、労働経済論A・２単位・２年・前期、社会保障論Ⅰ・２単位・２年・前期、労働経済論B・２単位・２年・後期、社会保障論Ⅱ・２単位・２年・後期、社会学研究法Ⅰ・１単位・３年・前期、社会学研究法Ⅱ・１単位・３年・後期、卒業論文・６単位・４年・通年、社会政策研究・２単位・大学院１年・前期、社会政策演習・２単位・大学院１年・後期、特別研究・大学院１年・通年

７．社会貢献活動

産炭地振興センター　運営委員
飯塚研究開発機構　企画運営委員
田川市　すくすく子育て支援勉強会会長
福岡県苅田町男女共同参画苦情処理委員

８．学外講義・講演

・福岡県社会福祉主事認定講習会「社会保障論」講師2008年6月

９．附属研究所の活動等

所属	人間社会学部　社会学科	職名	教授	氏名	藤山　正二郎

１．教員紹介・主な研究分野

1977年九州大学大学院博士課程中退、福岡大学、愛媛大学勤務後、1991年、本学に着任。中国・新疆ウイグル自治区のウイグル民族についての文化人類学的調査を基礎として、具体的には、医療人類学、教育人類学、民族問題などの観点から研究している。10余年のフィルドーワークの成果はhttp://www7b.biglobe.ne.jp/~fsho2uyghurhotan/で公開中。

ウイグル民族は中央アジアに連なるトルコ系民族であり、シルクロードの民として有名である。そこにはイスラム医学との関連をもつウイグル医学など、様々な文化が集積した独特の文化が存在する。だが、小学校から漢語教育が義務化され、自民族の言語であるウイグル語のあり方が問題になっている。この点から、多文化教育のあり方を考える。

医療人類学では西洋医学とは異なるウイグル医学を調査し、日本でも注目されている代替医療の方向性を探る。北京、上海などで中医学の調査も行っている。その中で日本では漢方と言われる伝統医学の問題点と科学的認識を明らかにして行く。

２．研究業績

①著書・論文

＜著書＞

＜論文＞

「野生の思考としての伝統医学」福岡県立大学紀要、第17巻第2号、2009年2月20日
「原因の不在ー伝統医学の病因論ー」福岡県立大学紀要、第16巻第2号、2008年2月
「言語教育、実践共同体、身体知ーウイグルの漢語教育ー」福岡県立大学紀要、第15巻第2号、2007年2月
「ウイグル社会の民俗宗教におけるタブーとジェンダー」福岡県立大学紀要、第14巻第2号、2006年2月

.

②その他の業績

＜調査報告＞

日本学術振興会・科学研究費補助金・基盤研究Ａ（1）研究課題「中央アジアにおけるウイグル人地域社会の変容と民族アイデンティティに関する調査研究」調査報告書、2007 年 3 月

奨励研究プロジェクト「中医学、ウイグル医学と日本の代替医療の医療人類学的比較研究」調査報告、福岡県立大学　付属研究所、2008 年 9 月

＜書評＞

波平恵美子「日本人の死のかたちー伝統儀礼から靖国まで」、文化人類学、71 巻 3 号、2006 年 12 月

＜学会報告＞

「Pluralistic medical system in Xinjiang and the Uyghur ethnic identity」国際ワークショップ「新疆・中央アジアにおけるウイグル人の社会・文化と民族アイデンティティ」、東京、2006年11月

＜事典＞
「新疆の女性運動」、「ウイグルの結婚式」中央ユーラシアを知る事典、平凡社、2005年

③過去の主要業績
イニシエーションとしての思春期の病い、「病むことの文化―医療人類学のフロンティア」所収、海鳴社、1990年
犠牲の物語の神話作用、「伝説が生まれるとき」所収、福武書店、1991年
治療される家族―家族療法再考、「講座：人間と医療を考える」第4巻所収、弘文堂、1992年
情報化社会と消費社会における病気―Ｏ１５７の退散祭り、「現代日本の病理」所収、葦書房、1998年

３．外部研究資金

４．受賞

５．所属学会
日本文化人類学会、中央アジア学会

６．担当授業科目

＜学部＞
文化人類学Ⅰ・２単位・２年・前期、文化人類学Ⅱ・2単位・2年、社会学基礎演習・１単位・２年・前期、教育人類学・２単位・３年・後期、社会学研究法Ⅰ・２単位・３年・前期、社会学研究法Ⅱ・２単位・３年・後期、エスニシティ論・2単位・3年・前期、医療人類学・2単位・4年・前期、卒業論文・６単位・４年・通年、

＜大学院＞
教育人類学演習・2単位・大学院1・２年・前期、教育人類学研究・2単位・大学院1・２年・後期、特別研究・4単位・大学院１・2年・通年

７．社会貢献活動
福岡アジア文化賞推薦委員、ＮＨＫ学園スクーリング講師、田川市石炭・歴史博物館運営協議会委員、放送大学卒業論文審査委員。

８．学外講義・講演
ＮＨＫ学園スクーリング「ウイグルにおける医療」講師、2008年10月5日

９．附属研究所の活動等
・生涯福祉研究センター兼任研究員
・生涯福祉研究センター・研究プロジェクト「中医学、ウイグル医学と日本の代替医療の医療人類学的比較研究」研究代表者

所属	人間社会学部　社会学科	職名	教授	氏名	文屋　俊子

１．教員紹介・主な研究分野

東京都立大学大学院社会科学研究科博士課程満期退学。専門は都市社会学。
①地域における社会関係
　私の研究分野である都市社会学、地域社会学は、地域に起きるさまざまな現象を科学的にとらえ分析することです。この過程を通じて、地域問題の解決に指針を与えることができたら、という願いを込めて研究しています。
②イタリアの地域社会研究
　地方の小さな街がどうやれば自立的に存在可能なのか、この点からイタリアの地域社会の事例に学ぶものが多いと思い、数年前から短期間の参与観察を続けています。
③筑豊地域の交通体系に関する研究
　ここ２年ほど筑豊地域の交通体系研究会を主催しています。これは2004年の平成筑豊鉄道調査からの継続研究ですが、産炭地域振興センターの受託研究として発展したものです。受託研究終了後も「地方交通と地域社会の振興」をテーマに共同研究を行っていく予定でいます。

２．研究業績

①最近の著書・論文

文屋俊子　筑豊地域の交通体系検討事業研究報告（中間）2008 年 3 月。
文屋俊子　地域魅力再発見プロジェクト「田川地域郷土かるたづくり」
『「癒学の郷」たがわの創生－田川地域長期振興戦略プラン－』
9. 田川地域長期振興戦略詳細プラン、p.66～80, 2007 年 10 月。
文屋俊子「地域社会における公共交通ネットワーク」『研究叢書』Vol.23, 福岡県立大学生涯福祉研究センター, 2006年。

③過去の主要業績

文屋俊子「イタリア地方都市の地域社会と地縁組織(2)　－ シエナ市民のアイデンティティ －」『福岡県立大学紀要』第14巻第１号、2005年。
文屋俊子「団地の近所づきあい」森岡清志・松本康編『都市社会学のフロンティア　２　生活・関係・文化』121-151頁、日本評論社、1992年。
文屋俊子「団地のイメージ」倉沢進編『大都市の共同生活』日本評論社、1990年。
文屋俊子「大都市周辺地域の都市化」『社会学評論』148号、37-4、1987年。

３．外部研究資金

(財)福岡県産炭地域振興センター「筑豊地域の交通体系検討事業」1,000万円
（600万円　平成19年10月～20年３月、400万円　平成20年9月～平成21年３月）

４．受賞

なし

５．所属学会

日本社会学会
日本都市社会学会
西日本社会学会
社会分析学会

６．担当授業科目

（学部）

社会原論(1年4単位)、社会学基礎演習(２年２単位)、地域社会学Ⅰ、Ⅱ（２年各２単位）コミュニティ論(２年２単位)、データ分析の基礎(３年２単位)、社会福祉特講Ｃ(３年２単位)、社会学研究法Ⅰ、Ⅱ（３年各２単位）、卒業論文(４年10単位)

（大学院）

地域社会研究（1、2年２単位）、地域社会演習（1、2年２単位）

７．社会貢献活動

福岡県公益認定等審議会委員(平成20年12月より)
福岡県有明海区漁業調整委員会委員（平成20年８月まで）
福岡県農村地域直接支払制度検討委員会委員
福岡県交通対策協議会委員
田川市都市計画審議会委員
田川市立図書館運営委員
田川市地域公共交通会議副委員長
嘉麻市文化スポーツ振興公社理事（平成21年3月まで）
福智町男女共同参画条例案策定委員会委員長（平成21年1月まで）

８．学外講義・講演

・平成 20 年 11 月 21 日　筑豊ブロック会議（福岡県企画・地域振興部広域地域振興課）「多様な民間主体の発意・活動を活かした地域づくりの実現」筑豊ハイツ　大研修室
・平成 20 年 11 月 28 日　筑豊地域の交通体系セミナー、福岡県立大学管理棟大会議室

９．附属研究所の活動等

「筑豊地域の交通体系検討事業」研究代表

所属	人間社会学部　社会学科	職名	准教授	氏名	石崎　龍二

１．教員紹介・主な研究分野

1993 年九州大学大学院理学研究科博士課程修了。1994 年、本学に着任。

現在、自然や社会のさまざまな現象に関する数理モデルのコンピュータ・シミュレーションを行っている。特に非平衡系にあらわれるカオスや散逸構造の統計的性質を、理論的および数値的な面から研究している。具体的には、① 長時間相関や長距離相関のある系を特徴づけるための新しい統計の探求、② 生体時系列や金融時系列のパターン・エントロピーによる解析、③ カオスや乱流における輸送係数の射影演算子法による解析等を主な研究テーマとしている。

物理現象、生命現象、経済現象などにあらわれる普遍的な運動形態を研究するものとして複雑系科学と呼ばれる研究分野が発展してきている。複雑系科学では、カオス、フラクタル、自己組織化臨界現象、カオスの縁、コンプレックス・カオスなど数多くの新しい概念が見出され、これまで見過ごされてきた現象が、数学的に表現され始めている。コンピュータによる解析を取り入れた新しい統計的な手法を開発し、その成果を社会科学へ応用したい。

２．研究業績

①著書・論文

＜論文＞

・石崎龍二,「保測写像におけるカオス軌道の相対拡散」,『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 17 巻第 2 号，pp. 109-118，福岡県立大学，2009 年 1 月.

・Hirotaka Tominaga, Hazime Mori, Ryuji Ishizaki, Nobuyuki Mori and Shoichi Kuroki, “Memory Spectra and Lorentzian Power Spectra of the Chaotic Duffing Oscillator”, Progress of Theoretical Physics, Vol.120 No.4, pp.635-657 , 2008.

・石崎龍二,「Hénon-Heiles 系におけるカオスのパワースペクトルのピーク構造」,『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 17 巻第 1 号，pp. 29-43，福岡県立大学，2008 年 7 月.

・Ryuji Ishizaki, Toshikazu Shinba, Go Mugishima, Hikaru Haraguchi and Masayoshi Inoue, “Time-series analysis of sleep-wake stage of rat EEG using time-dependent pattern entropy”, Physica A, Vol.387 No.13, pp.3145-3154, 2008.

・石崎龍二,「Hénon-Heiles 系におけるカオス軌道の統計的性質」,『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 16 巻第 2 号，pp. 15-27，福岡県立大学，2008 年 3 月.

・Ryuji Ishizaki, Hazime Mori, Hirotaka Tominaga, Shoichi Kuroki and Nobuyuki Mori, “The Memory Function and Chaos-Induced Friction in the Chaotic Hénon -Heiles System”, Progress of Theoretical Physics, Vol.116 No.6, pp.1051-1067 , 2006.

②その他の業績

＜報告書＞

・石崎龍二，井上政義,「複雑時系列のパターン・エントロピー時系列解析」，応用力学研究所研究集会報告「乱流現象及び多自由度系の動力学，構造と統計法則」（九州大学応用力学研究所），pp.42-48，2008 年 3 月.

・石崎龍二，森肇，富永広貴，黒木昌一，森信之,「ヘノン-ハイレス系の記憶関数とカオス誘導摩擦係数」，応用力学研究所研究集会報告「乱流現象及び多自由度系の動力学，構造と統計法則」（九州大学応用力学研究所），pp.32-39，2007 年 3 月.

＜学会報告＞

・石崎龍二，田中稔次朗，日浦悦正，井上政義，「金融時系列のパターン・エントロピーによる解析」，統数研・共同研究集会「経済物理学とその周辺」H20 第 1 回研究集会(鳥取大学)，2009 年 1 月.

・石崎龍二，秦浩起，庄司多津男，清水大輔，「AC および DC 電場中の荷電微粒子系のカオスの統計的性質」，第 114 回日本物理学会九州支部例会（福岡工大），2008 年 12 月.
・石崎龍二，森肇，富永広貴，黒木昌一，森信之，「Hénon-Heiles 系におけるカオスのスペクトル構造」，「乱流現象及び多自由度系の動力学，構造と統計法則」（九州大学応用力学研究所），2008 年 11 月.
・石崎龍二，田中稔次朗，日浦悦正，井上政義，「金融時系列のパターン・エントロピーによる解析」，日本物理学会「2008 年秋季大会」（岩手大），2008 年 9 月.
・石崎龍二，井上政義，「カオス時系列に対するパターン・エントロピーの統計的性質」，日本物理学会「2008 年秋季大会」（岩手大），2008 年 9 月.
・石崎龍二，井上政義，「複雑時系列を解析するパターン・エントロピー時系列法」，日本物理学会「第 63 回年次大会」（近畿大），2008 年 3 月.

③過去の主要業績
・駒澤勉・橋口捷久・石崎龍二『新版 パソコン数量化分析』，朝倉書店，1998 年.
・Ryuji Ishizaki, Takehiko Horita and Hazime Mori, “Anomalous Diffusion and Mixing of Chaotic Orbits in Hamiltonian Dynamical Systems”, Progress of Theoretical Physics, Vol.89 No.5, pp.947-963, 1993.
・Ryuji Ishizaki, Takehiko Horita, Tatsuharu Kobayashi and Hazime Mori, “Anomalous Diffusion Due to Accelerator Modes in the Standard Map”, Progress of Theoretical Physics, Vol.85 No.5, pp.1013-1022, 1991.

３．外部研究資金

４．受賞

５．所属学会
日本物理学会、アメリカ物理学会(APS)、日本心理学会

６．担当授業科目
＜学部＞
情報処理の基礎と演習・２単位・１年・前期、情報科学・２単位・１年・後期、社会学基礎演習・１単位・２年・前期、データ処理とデータ解析 I・１単位・３年・前期、データ処理とデータ解析 II・１単位・３年・後期

７．社会貢献活動
世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生事業「炭坑節まつり・農作物展示・即売チーム」委員

８．学外講義・講演
公開講座「パソコン入門講座 表計算ソフト」、福岡県立大学、2008 年 7 月 10 日、 7 月 17 日、 7 月 24 日、 7 月 31 日

９．附属研究所の活動等
・生涯福祉研究センター兼任研究員
・生涯福祉研究センター地域支援員
・2008 年度生涯福祉研究センター・研究プロジェクト、一般研究、「非線形力学系における長時間相関の統計解析」、研究代表者

所属	人間社会学部　社会学科	職名	准教授	氏名	岡本　雅享

１．教員紹介・主な研究分野

1997年横浜市立大学大学院国際文化研究科修士課程修了。2000年一橋大学大学院社会学研究科博士課程修了。国際学修士。社会学博士。1991～93年、中国の北京師範学院（現在、首都師範大学）、中央民族大学民族語言三系（現在、中央民族大学少数民族語言学院）に留学、少数民族二言語教育の研究・調査を行う。2008年度、San Francisco State University（College of Ethnic Studies, Japanese American Studies)でVisiting Scholar。学内外で"Hidden Diversity of the Japanese People"に関する講演等を行う。

1989年以来、在日韓国・朝鮮人問題を起点とし、マイノリティの権利保障のための研究・活動に従事してきた。国連ECOSOC NGOでの3年間の勤務を含め、ジュネーブ国連欧州本部を中心とした国連人権活動に報告・提言の提出、会議への参加・発言等を通じて参加。

現在は、日本社会がますます多民族、多文化化する中で、あらためて明治以降の日本におけるNationの創造、混合民族論から単一民族論への変遷など、民族、言語、宗教、文化の各方面から、日本人（国籍者）内部の多様性を解き明かす作業を、出身地である出雲の視点から、試みている。

２．研究業績

①著書・論文（2006～2008年度）

＜著書＞

・『中国の少数民族教育と言語政策（増補改定版）』社会評論社、2008年（単著）。

＜論文＞

・「民族宗教とアイデンティティ―北米・ハワイからみる神道」『アジア太平洋研究センター年報2008-2009』2009年。
・「言語不通の列島から単一言語発言への軌跡」『福岡県立大学人間社会学部紀要』17巻2号、2009年。
・「日本における民族の創造―まつろわぬ人々の視点から」『アジア太平洋レビュー』5号、2008年。
・「永住者の帰国権をめぐる国際的潮流と再入国許可制度」『法律時報』80巻2号、2008年。

②その他の業績

「再入国許可制度」外国人人権法連絡会編『日本における外国人・民族的マイノリティ人権白書2008年』2008年。
「新たな在留管理と再入国許可制度―国際人権規準と諸外国の動向から」『人権と生活』27号、2008年。
「アイヌ民族の先住民族としての承認と在日コリアン」『月刊イオ』2008年7月号。
「私の民族考」（上）（中）（下）『月刊イオ』2006年4、5、6月号

③過去の主要業績

・『日本の民族差別―人種差別撤廃条約からみた課題』明石書店、2005年（監修・編著)。
・『ウォッチ！規約人権委員会――どこがずれてる？人権の国際規準と日本の現状』日本評論社、1999 年（監修）
・「中国のマイノリティ政策と国際規準」叢書「現代中国の構造変動」第７巻・毛里和子編著『中華世界――アイデンティティの再編』東京大学出版社、2001 年。
・「中国における少数民族の承認」『中国研究月報』第 592 号、1997 年。
・「『中華民族』論台頭の力学――民族識別との関係を中心に」『部落解放研究』第 107 号、1995 年。

・「移住労働者保護条約と家族生活の保護」『法学セミナー』442 号、1991 年。

３．外部研究資金

４．受賞

５．所属学会

・国際政治学会、国際人権法学会、日本平和学会

６．担当授業科目

国際社会論Ⅰ・２単位・１年・前期、教養演習・2単位・１年・前期、国際社会論Ⅱ・２単位・１年・後期、政治学Ⅰ・２単位・２年・前期、社会学基礎演習・２単位・２年・前期、政治学Ⅱ・２単位・２年・後期、社会学研究法・4単位・3年・通年、社会システム論・2単位・3年・前期、組織・集団論・2単位・3年・後期、卒論指導・4単位・4年・通年

７．社会貢献活動

・移住労働者と連帯する全国ネットワーク　事務局次長

８．学外講義・講演

“Hidden Diversity of Japanese Peoples,” Japanese American National Library & Japan Society of Northern California 共催、San Francisco Japan Town, 2009 年 2 月 21 日。

“Creation of Nation: How did we become Japanese?” San Francisco States University, 2009 年 2 月 27 日、他。

９．附属研究所の活動等

所属	人間社会学部　社会学科	職名	准教授	氏名	田代　英美

１．教員紹介・主な研究分野

九州大学大学院文学研究科修士課程（社会学専攻）修了。1992年より本学に勤務。
研究分野は都市社会学、生活構造論。
　さまざまに異なる生活条件を持つ人々が集住する地域社会、ここでの共同性のあり方は地域社会学の中心的なテーマであり、現在、地域社会の構成や人々の生活様式等が大きく変化する中で、改めて共同性や公共性のあり方が問われている。これに関わる具体的な研究テーマとして、社会学科・文屋俊子教授とともに、地域における公共交通を取り上げて調査研究を行っている。少子高齢・人口減少社会において個人の移動と生活の質を確保し、活気ある地域社会を維持するための公共交通整備の課題を明らかにしたいと考えている。
　もうひとつの現在の研究テーマは都市社会における生活問題分析の枠組みを再検討することである。最近注目を集めているワーキングプアやワーク・ライフ・バランスは、実は生活構造論の中で常に議論されてきた問題である。これまでの研究に学ぶとともに、新たな状況下での貧困問題を分析する際の枠組みを考えたい。

２．研究業績

①最近の著書・論文

・清田勝彦、田代英美、中村晋介、林ムツミ「福岡県内における若年求職者の雇用と就業意識に関する調査研究」、『福岡県立大学附属研究所　生涯福祉研究センター　研究報告叢書』第35号、2008
・清田勝彦、田代英美、中村晋介「若年者の就業意識に関する比較研究」、『福岡県立大学附属研究所　生涯福祉研究センター　研究報告叢書』第35号、2008
・清田勝彦、田代英美、中村晋介、林ムツミ「福岡県内事業所における若年者の雇用と就業に関する調査研究」、『福岡県立大学附属研究所　生涯福祉研究センター　研究報告叢書』第29号、2007
・田代英美「筑豊地域における通勤・通学圏」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第15巻第1号、2006

②その他最近の業績

＜調査研究報告書＞
・文屋俊子、田代英美「筑豊地域の交通体系検討事業　研究報告（中間）」、福岡県産炭地域振興センター委託事業中間報告書、2008
・清田勝彦、田代英美、中村晋介、林ムツミ「福岡県内事業所における若年者の雇用と就業に関する調査研究」、厚生労働省委託事業報告書、福岡県労使就職支援機構発行、2006

＜学会発表＞
・田代英美「「福智町の合併に対する調査」報告Ⅱ～生活構造からみた合併の評価」、日本社会学会第80回大会（関東学院大学）、2007年11月

③過去の主要業績
・田代英美「地方小都市における公共交通の課題」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第14巻第2号、福岡県立大学、2006
・田代英美、植田美佐恵、佐藤繁美「生活研究生成期における生活構造の概念と変容過程」

平成14年度～平成16年度科学研究費補助金（基盤研究(B)（2））研究成果報告書、2005

３．外部研究資金

・文部科学省、科学研究費補助金（基盤研究Ｃ）、「都市社会学における生活研究の系譜と生活構造の論理構成に関する研究」、330万円、平成18年度～平成21年度、共同研究（研究代表者：田代英美）

４．受賞

５．所属学会

日本社会分析学会、日本都市社会学会、日本社会学会、環境社会学会　　各会員

６．担当授業科目

＜学部＞

社会学概論Ⅰ・２単位・１年・前期、社会学概論Ⅱ・２単位・１年・後期、社会学基礎演習・１単位・２年・前期、生活構造論Ⅰ・２単位・２年・前期、生活構造論Ⅱ・２単位・２年・後期、社会調査実習・２単位・３年・通年、社会学研究法Ⅰ・１単位・３年・前期、環境社会学Ⅰ・２単位・３年・前期、社会学研究法Ⅱ・１単位・３年・後期、環境社会学Ⅱ・２単位・３年・後期、卒業論文・６単位・４年・通年

７．社会貢献活動

・直方市都市計画審議会委員、川崎町地域公共交通活性化協議会委員、田川市地域公共交通会議委員、稼働能力判定会議委員（福岡県嘉穂福祉事務所）

・第４回「筑豊地域の交通体系セミナー」企画・開催、2008年11月、福岡県立大学筑豊地域の交通体系研究会（文屋俊子、田代英美、福田忠昭）主催

８．学外講義・講演

９．附属研究所の活動等

所属	人間社会学部　社会学科	職名	准教授	氏名	光本　伸江

１．教員紹介・主な研究分野

2003年、九州大学大学院比較社会文化研究科博士後期課程単位修得満期退学。2008年、中央大学大学院法学研究科において、博士号（政治学）取得。2003年より常任研究員として（財）地方自治総合研究所に勤務。2008年より、本学に着任。

主な研究分野は、自治体政治学・行政学・地方自治研究の観点からの、長期的視野に基づく、自治体の地域計画・地域政策及び自治体政治構造の解明である。これまでの対象自治体は、大分県湯布院町、福岡県田川市、長崎県対馬市、岡山県倉敷市、神奈川県大和市、北海道夕張市他である。

また、福岡県下市町村・田川地区の自治の取組に関する研究（基本構想・総合計画、産炭地域振興、市町村合併の検証、各分野の条例・計画等）も行っている。

２．研究業績

①最近の著書・論文

＜著書＞

光本伸江『自治と依存　湯布院町と田川市の自治運営のレジーム』敬文堂、2007 年

光本伸江「まちづくりの資源と討議過程」出水薫・金丸裕志・八谷まち子・椛島洋美編著『先進社会の政治学―デモクラシーとガバナンスの地平』―』法律文化社、2006 年

＜論文＞

金井利之・光本伸江「夕張市政の体制転換過程における構想～夕張市政の体制転換の検証～（上）（下）」（共著）『自治総研』2008 年 6 月号・7 月号

光本伸江「夕張市が目指したもの　「炭鉱から観光へ」構想を考察する」『月刊自治研』2007 年 11 月号

光本伸江「「大和市における市民活動団体のサービス調査」中間報告」『自治総研』2007 年 10 月号

光本伸江「分権時代の自治体における法務管理～第 14 回～新潟市」『自治体法務 NAVI』vol.18(2007 年 8 月 25 日）

金井利之・嶋田暁文・光本伸江・今村都南雄「倉敷市「美観地区」の文化と伝承」（共著）『自治総研』2007 年 4 月

今村都南雄・金井利之・嶋田暁文・光本伸江「大分県湯布院町の≪まちづくり、その後≫―由布院観旅編―」『自治総研』2006 年 5 月

今村都南雄・金井利之・嶋田暁文・光本伸江「大分県湯布院町の≪まちづくり、その後≫―湯布院町役場編―」『自治総研』2006 年 4 月

②その他最近の業績

＜調査研究報告書＞L

正木浩司・畠山輝雄・野口鉄平・光本伸江『長崎県対馬市における合併の検証　一島合併の現状と課題』地方自治総合研究所発行、2008年9月

＜研究報告・シンポジウム＞

光本伸江「北部九州地域の明日を考える」（パネリスト）(社)生活経済政策研究所・全国三ブロック公開座談会、2008年12月

光本伸江「自治と依存」（報告）2008年度九州政治研究者フォーラム、2008年9月

光本伸江「生活の現場からのルールづくり」（パネリスト）第14回自治体法務合同研究会、2008年7月

＜その他報告書＞

光本伸江「第 2 章第 3 節市民モニター」「第 2 章第 4 節先進地調査」、福岡県立大学『平成 20 年度地方の元気再生事業　世界遺産をめざす旧産炭地･田川再生プロジェクト報告書』2009 年 3 月発行予定

③過去の主要業績
＜論文＞
光本伸江「産炭地域振興にみる自律と依存―福岡県田川市のまちづくりを事例として―(1)～(5・完)」『自治総研』2004～2006年（5回連載）

３．外部研究資金

４．受賞

５．所属学会
日本政治学会、日本行政学会、日本地方自治学会、日本公共政策学会

６．担当授業科目
教養演習・社会原論演習・地方政治論・地域計画論

７．社会貢献活動
・宗像市市民参画等推進審議会委員
・福智町男女共同参画条例（仮称）策定委員会委員
・福智町地域福祉活動計画策定委員会・アドバイザー
・筑豊・京築地域公共交通活性化協議会委員（副会長）

８．学外講義・講演
・福智町社会福祉協議会「住民座談会開催に向けての研修会」（講師）、2009年2月
・香春町地域ぐるみの学校安全推進大会「子どもと地域づくり」（講演）、2008年9月

９．附属研究所の活動等

所属	人間社会学部　社会学科	職名	助手	氏名	佐藤　繁美

１．主な研究分野

・大原孫三郎の研究
・地域の権力構造の研究

２．研究業績

①著書・論文

・『生活研究生成期における生活構造の概念と変容過程』
「大原孫三郎の経営思想」、科学研究費研究成果報告書、2005 年６月

②その他の業績

・学会発表　「福智町の合併に対する調査」報告Ⅰ――社会構造からみた合併の評価――
（日本社会学会第80 回大会）、2007 年11 月
生活研究生成期における生活構造の概念と変容過程Ⅱ
「大原孫三郎の経営理念」（日本社会学会第78 回大会）、2005 年10 月
・資料解説　石井十次に関する大原孫三郎の講演
－　一九三九年同志社アーモスト館における石井十次記念会の速記録　－
細井勇･佐藤繁美、2006年6月

３．外部研究資金

・　科学研究費・基盤研究（C）
「都市社会学における生活研究の系譜と生活構造の論理構成に関する研究」、
90万円、2006年度～2009年度、共同研究（研究代表者：田代英美）

・　科学研究費・基盤研究（B）
「岡山孤児院におけるネットワーク形成と自立支援に関する総合的研究」、
260万円、2006年度から2009年度、共同研究（研究代表者：細井勇）

４．受賞

・なし

５．所属学会

・　日本社会学会
・　関西社会学会
・　社会分析学会

６．担当授業科目←助手の方は、担当授業科目（補助）としてください。

（学部）

・　社会原論演習（補助）　　２単位・２年・演習・通年
・　社会調査実習（補助）　　２単位・３年・実習・通年
・　データ処理とデータ解析Ⅰ（補助）　１単位・３年・演習・前期
・　データ処理とデータ解析Ⅱ（補助）　１単位・３年・演習・後期
・　社会福祉調査実習　（補助）　　１単位・３年・実習・後期

（大学院）
・　フィールドワーク（補助）　　２単位・１年・実習・後期

７．社会貢献活動

・福智町「人権と福祉のまちづくり総合計画」策定におけるアンケート調査の実施

８．学外講義・講演

・なし

９．附属研究所の活動等

・なし

人間社会学部　社会福祉学科

所属	人間社会学部　社会福祉学科	職名	教授	氏名	小田　美季

１．教員紹介・主な研究分野

2002年4月、本学着任。
日本とドイツ語圏（ドイツ、オーストリア）における障害者福祉を主な研究分野としている。
現在の障害者福祉は歴史的変遷の中で形成されてきたものであり、各国の障害者福祉はその国の文化や価値観、障害者観と深くかかわりをもつものである。さらに、その国の状況は国際的な影響も受けている。この前提に立ち、日本とドイツ語圏における障害者福祉の史的展開及び現状と課題について、歴史分析や国際比較の観点から検討している。特に、日本とドイツ語圏における障害児・者観、障害者の自立支援・地域生活支援、当事者活動についての研究を進めている。

２．研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

単著「オーストリアにおける障害者デイサービス」
福岡県立大学人間社会学部紀要 17（1）2008 年 7 月
単著「オーストリアにおける障害者の職業的インテグレーション」
福岡県立大学人間社会学部紀要 16（1）2007 年 11 月
単著「オーストリアにおける精神保健福祉施策」
福岡県立大学人間社会学部紀要 15（2）2007 年 3 月
単著「ドイツとオーストリアにおけるクラブハウス」
福岡県立大学人間社会学部紀要 15（1）2006 年 11 月

〈報告書〉

小田美季「日本とオーストリアにおける障害保健福祉システムに関する国際比較―精神障害者の地域生活支援を中心に―」『福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター研究報告叢書』vol.36（2007（平成 19）年度福岡県立大学研究奨励交付金研究成果報告書）2008 年 3 月

本郷秀和・松岡佐智・西原尚之・門田光司・細井勇・小田美季・中村幸・城井みづほ「福祉ボランティアを通じた『経験型実習』導入の可能性－福岡県立大学・社会福祉学科学生のボランティア意識の現状と課題－」2007（平成 19）年度福岡県立大学研究奨励交付金研究成果報告書　2008 年 3 月

本郷秀和・松岡佐智・西原尚之・門田光司・細井勇・小田美季・中村幸・城井みづほ「福祉ボランティアを通じた『経験型実習』導入の可能性－北九州・筑豊地域の社会福祉施設における学生ボランティア受け入れに関する実態調査を基礎として－」2006（平成 18）年度福岡県立大学研究奨励交付金研究成果報告書　2007 年 3 月

②その他最近の業績

〈学会報告〉

松岡佐智・本郷秀和・西原尚之・鬼崎信好・門田光司・細井勇・小田美季・中村幸・城井みづほ「福祉ボランティアを通じた『経験型実習』導入の可能性－北九州・筑豊・京築地域の社会福祉施設における学生ボランティア受け入れに関する調査報告－」日本社会福祉学会九州部会第47回研究大会、2006年12月

③過去の主要業績

単著「ドイツにおける精神障害者家族会と当事者会の現状と課題（2）」
福岡県立大学人間社会学部紀要 14（1）2005 年 12 月

単著「ドイツにおける精神障害者家族会と当事者会の現状と課題（1）」
福岡県立大学人間社会学部紀要13（2）2005年3月

Miki Oda “Rehabilitationswesen in Japan-Die Lage behinderter Menschen in Japan und die Entwicklung der Rehabilitation”(Inaugural-Dissertation zur Erlangung des Doktorgrades der Heilpaedagogischen Fakultaet der Universitaet zu Koeln; Gedruckt mit Unterstuetzung des Deutschen Akademischen Austauschdienstes) 1997

３．外部研究資金

なし

４．受賞

なし

５．所属学会

日本社会福祉学会
日本社会福祉実践理論学会
日本ドイツ学会

６．担当授業科目

《学部》

社会福祉援助技術論Ⅰ・2単位・1年後期
社会福祉援助技術演習Ⅱ・2単位・3年通年
精神保健福祉論Ⅰ・2単位・3年前期
精神保健福祉論Ⅱ・2単位・3年後期
社会福祉学演習・2 単位・3 年後期～4 年前期
精神保健福祉援助実習・8 単位・4 年通年
卒業論文・6 単位・4 年後期

《大学院》

障害者福祉研究・2単位・1・2年前期

７．社会貢献活動

香春町障害者自立支援協議会・会長
人に優しい町・田川をつくる会理事

８．学外講義・講演

福岡県社会福祉主事認定講習会（福岡県社会福祉協議会）講師、2008年6月19日・26日（「精神障害者保健福祉論」）

高校生向け授業「社会福祉援助の基礎」、2008年8月9日（福岡県立大学オープンキャンパス）

９．附属研究所の活動等

なし

所属	人間社会学部　社会福祉学科	職名	教授	氏名	門田　光司

１．主な研究分野

主な研究分野は，１つは学校ソーシャルワーク実践研究です。現在，学校現場は不登校，いじめ，非行，児童虐待，学級崩壊等の課題に加え，障害のある子どもたちへの特別支援教育の充実が求められています。子どもたちへの支援として，心の支援に加え，学校・家庭・関係機関が協働して取り組んでいくことが今日，切望されています。そして，そのつなぎ役して，諸外国にはスクールソーシャルワーカー(SSWer)が活躍しています。日本においても平成20年度より文部科学省はSSWerを学校に派遣する事業を開始しました。そのため，さらなる発展のための研究を行っています。２つめは知的障害・自閉症の人への地域生活支援方法の研究です。今日，ノーマライゼーションの潮流により，障害のある人たちの住まいの場は入所施設ではなく，地域で共に暮らす社会が求められています。しかし，知的障害や自閉症の人が地域生活を継続していくためには，その支援方法を見つけ出していく必要があります。そのための実践研究を行っています。

２．研究業績

①著書・論文

＜著書＞

・門田光司,桑園英俊,柳沢享,箱崎孝二『知的障害・自閉症の方への地域生活支援ガイド』中央法規出版,2006 年

・門田光司,他「保護者による虐待の疑いがでてきた」『悩める教師へのアドバイス』教育開発研究所,2007 年

・門田光司「学校ソーシャルワーク」仲村優一他監修『エンサイクロペディア社会福祉学』中央法規出版 2007 年

・日本学校ソーシャルワーク学会編（門田光司代表編集）『スクールソーシャルワーカー養成テキスト』中央法規出版 2008 年

＜論文＞

・門田光司「わが国における学校ソーシャルワーカーの役割機能に関する調査報告」社会福祉学,第 46 巻,第 3 号,2006 年

・Koji Kadota: Group Work Practice for Mothers of Children who Refuse to go to School. *Japanese Journal of Social Services*,2006,no.4

・門田光司「学校現場の混乱の背景にある家族問題と支援方法－学校ソーシャルワークの展開可能性」社会福祉研究,第 98 号,2007 年

・門田光司「第３回国際学校ソーシャルワーク大会(釜山大学・韓国)について」学校ソーシャルワーク研究,創刊号,2007 年

・門田光司「個別の教育支援計画と学校ソーシャルワーク」学校ソーシャルワーク研究,第 2 号,2007 年

②その他の業績

＜学会報告＞

・Koji Kadota: The Trends and Prospects of School Social Work in Japan. The 3rd International School Social Work Conference（Pusan National University,Busan,Korea）, 2006, September25-28.

・自主シンポジウム「わが国の学校教育現場で求められる学校ソーシャルワーク実践について－実践報告を通して－」日本社会福祉学会第 54 回大会（立教大学）, 2006 年 10 月

・自主シンポジウム「地方自治体の学校（スクール）ソーシャルワーカー事業における実践課題と今後の展望」日本社会福祉学会第 55 回大会（大阪市立大学）, 2007 年 9 月

・自主シンポジウム「スクール（学校）ソーシャルワーク研究の現状と課題」日本社会福祉学会第 56 回大会（岡山県立大学）, 2008 年 9 月

＜学会講演＞
・門田光司「日本の教育システムにおける学校ソーシャルワークの必要性と課題」日本学校ソーシャルワーク学会第１回大会(目白大学),2006年11月
・門田光司「社会的排除と学校ソーシャルワーク」日本社会福祉学会九州部会(長崎国際大学),2008年12月

３．外部研究資金
・文部科学省科学研究費(基盤研究C)「わが国における学校ソーシャルワーカーの人材養成に関する研究」350万円,平成19年度～平成21年度,研究代表者

４．受賞
過去３年は特になし

５．所属学会
・日本学校ソーシャルワーク学会代表理事
・日本社会福祉学会研究誌査読委員
・日本特殊教育学会,日本心理学会,日本行動療法学会,日本小児精神神経学会,日本地域福祉学会,日本心理臨床学会,日本学校保健学会,日本社会福祉実践理論学会

６．担当授業科目
「障害者福祉論Ⅰ」(2単位・2年・前期),「障害者福祉論Ⅱ」(2単位・2年・後期),「社会福祉援助技術演習Ⅰ」(2単位・2年・通年),「社会福祉援助技術現場実習指導」(3単位・2年後期～3年前期),「社会福祉援助技術現場実習」(4単位・3年･前期),「社会福祉学演習」(2単位・3年後期～4年前期),「卒論指導」(6単位・4年・後期),「ソーシャルワーク研究」(2単位・大学院･前期),「ソーシャルワーク演習」(2単位・大学院･後期),「特別研究」(4単位・大学院・通年)

７．社会貢献活動
・日本学校ソーシャルワーク学会代表理事
・福岡県立大学不登校・ひきこもりサポートセンター長
・社団法人北九州市障害福祉ボランティア協会理事長
・福岡県私学教育振興会理事
・福岡県障害者施策推進協議会会長
・福岡県自立支援協議会会長
・福岡県発達障害者支援体制整備検討委員会委員
・福岡県教育委員会重点課題研究推進連絡協議会委員
・北九州市障害者施策推進協議会会長,
・北九州市社会福祉法人等審査会委員
・福岡県教育委員会スクールソーシャルワーカー運営協議会会長
・福岡市教育委員会スクールソーシャルワーカー運営協議会会長
・北九州市適応指導教室スーパーバイザー,他多数

８．学外講義・講演
・熊本県精神保健福祉士協会「学校ソーシャルワークの役割と機能」講演,平成20年5月10日
・福岡県筑後養護学校「共生社会の視点とは」講演,平成20年6月6日
・苅田町教育委員会「校内ケース会議の持ち方」研修,平成20年6月13日
・北九州市教育センター「ソーシャルワークの視点に立った子ども理解」講演,平成20年6月20日
・福岡県教育庁筑後教育事務所「配慮を要する児童生徒に対する理解と支援」講演,平成20年7月25日
・防府市教育委員会「問題を抱える子ども等への支援」講演,平成20年11月17日,その他多数

所属	人間社会学部　社会福祉学科	職名	教授	氏名	鬼﨑　信好

１．主な研究分野

高齢者ケアシステムの在り方を研究テーマにしている。近年においては、特に介護保険制度の導入後の介護保険施設(指定介護老人福祉施設・介護老人保健施設・指定介護療養型医療施設)並びに居宅サービスにおけるサービスの第三者評価に焦点を置き、その課題等を整理している。

海外に関しては、福祉の先進国とされている北欧(デンマーク、スウェーデン、フィンランド)の高齢者ケアシステムに関して現地におけるフィールドワークを中心にして調査研究を進めている。

２．研究業績(2006年度～2008年度分)

①著書・論文

【著書】

・鬼﨑信好編著『四訂　社会福祉の理論と実際』中央法規出版、2007 年 3 月

・大塚達雄ほか篇『入門社会福祉（第 5 版)』ミネルヴァ書房、2007 年 5 月(第 2 章、第 13 章を分担執筆)

【論文】

・古野みはる・鬼﨑信好・本郷秀和「福岡県介護保険広域連合を巡る課題」(『九州社会福祉学』第 5 号、日本社会福祉学会九州部会）2009 年 3 月。

・本郷秀和・鬼﨑信好・佐伯幸雄「指定福祉 NPO における社会福祉士の活動実態と役割－常勤社会福祉士を配置する指定福祉 NPO の全国実態調査を基礎として－」(『九州社会福祉学』第 4 号、日本社会福祉学会）2008 年 3 月。

・鬼﨑信好・本郷秀和・荒木剛「地方都市における障害者児の生活実態と意識に関する一考察　　－福岡県 A 市の実態調査を踏まえて－」(『九州社会福祉学』第 3 号、日本社会福祉学会九州部会、2007 年 3 月。

・本郷秀和・鬼﨑信好・佐伯幸雄「指定福祉 NPO における社会福祉士の役割」(「」日本の地域福祉』第 20 巻、日本地域福祉学会)2007 年 3 月。

・鬼﨑信好「介護保険制度下における介護サービス評価システムの有用性」(『久留米医学会雑誌』第 69 巻第 7・8 号、久留米大学医学部）2006 年 9 月。

・鬼﨑信好・共著「小規模事業場における健診後措置の継続年数別にみた健診結果の評価」(『久留米医学会雑誌』第 69 巻第 1 号、久留米大学医学部）2006 年 2 月。

・鬼﨑信好「社会福祉学研究の動向と展望」(『社会福祉研究』第 92 号、鉄道弘済会）2005 年 5 月。(以下、略)

②その他の業績

【調査研究報告書】

・鬼﨑信好・本郷秀和・山田眞知子・松岡佐智「介護サービスの評価システム開発に関する研究」(平成18年度－平成19年度文部科学省科学研究費補助金　基盤研究C　研究成果報告書)2008年3月。

・鬼﨑信好・本郷秀和・佐伯幸雄・荒木　剛「介護系NPO法人におけるソーシャルワークの課題と展望Ⅰ」(福岡県立大学生涯福祉研究センター研究叢書第31号　三井住友海上福祉財団　平成15年度交通安全・高齢者福祉研究助成報告書)2007年3月。

・鬼﨑信好・本郷秀和・佐伯幸雄・荒木　剛・松岡佐智「助けあいの地域づくりアンケート調査　最終報告書」(福岡県立大学生涯福祉研究センター研究叢書第30号　ニッセイ財団　平成15年度～平成17年度高齢社会研究助成報告書)2007年3月。

(以下、略)

【学会等報告】

・鬼﨑信好「日本における高齢者医療制度の課題と展望」大邱韓医大学校・東義大学校国際学術研究第11回大会　招待報告)2007年11月。
・鬼﨑信好「日本におけるケアマネジメントの課題と展望(その１)」ドイツ・イスラエル・日本・韓国国際学術大会　招待講演)2006年12月。
・鬼﨑信好「シンポジウム　高齢社会研究の新展開」(西日本社会学会第54回大会、於広島大学)2006年5月。
(以下、略)

【翻訳・辞典】

・鬼崎信好ほか共編『改訂　国民福祉辞典』金芳堂、2006年12月。
(以下、略)

３．外部研究資金

・鬼崎信好研究代表　文部科学省科学研究費補助金（基盤研究C)、「介護サービスの評価システム開発に関する研究」交付金額；3600,000円、平成18年度～平成19年度
・黒木保博研究代表(共同研究者－鬼崎信好)「ソーシャルワークと東アジア・モデル構築に関する研究」交付金額；16,800,000円、平成17年度～19年度

４．所属学会

日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、日本社会福祉教育学会、日本社会福祉実践理論学会、北ヨーロッパ学会(理事)、日本社会分析学会、日本福祉教育・ボランティア学習学会、西日本社会学会

５．担当授業科目

【学部】

社会福祉概論Ⅰ・2単位・1年・前期、社会福祉概論Ⅱ・2単位・1年・後期、老人福祉論Ⅰ・2単位・2年・前期、老人福祉論Ⅱ・2単位・2年・後期、社会福祉施設論・2単位・3年・前期、社会福祉学演習・4単位・3～4年・後期～前期、卒業論文・単位・4年・後期

【大学院】

高齢者福祉研究・2単位・後期、高齢者福祉演習・2単位・前期、フィールドワーク・2単位・1年・後期

６．社会貢献活動

福岡県医療審議会　専門委員、福岡県介護実習・普及センター運営委員会　委員長、福岡市介護サービス評価システム検討会　会長、福岡市介護保険事業計画策定委員会　副委員長、福岡市地域包括支援センター運営協議会　会長、福岡市地域保健福祉活動振興基金運営委員会　委員長、福岡県国保連介護保険苦情処理委員会　副委員長、福岡県老人保健施設協会　理事、北ヨーロッパ学会　理事、『教育と医学』編集委員、福岡アジア・都市科学研究所　評議員、九州経済調査協会　専門委員、福岡県共同募金会配分委員会　委員長
(以下、略)

７．学外講義・講演

・大分県認知症対応型サービス事業開設者－理事長研修(2008年11月)
・福岡市社会福祉法人理事長研修会(2007年3月)
(以下、略)

８．附属研究所の活動等

・福岡県監査保護課からの委託研究、研究代表：清田勝彦、研究課題：「田川郡における被保護者の自立阻害要因の分析（事前研究)」、研究期間：2006年11月１日～2007年３月31日、交付金額：1,050,000円、共同研究者

所属	人間社会学部　社会福祉学科	職名	教授	氏名	細井　勇

１．主な研究分野

- 主な研究分野は、社会事業史研究である。日本の近代化過程の特質との関係で、慈善事業・社会事業形成を研究している。とくに、キリスト教慈善事業ないしキリスト教社会事業を研究している。ここ１０数年は、「石井十次と岡山孤児院研究」について共同研究を組織し、石井十次資料館の所蔵資料の目録化と内容紹介を継続実施している。なお。これまでの研究の集大成として『石井十次と岡山孤児院―近代日本と慈善事業―』を出版することになった。
- 　今一つの研究分野は、児童福祉研究である。子育て支援については、生涯福祉研究センターのプロジェクト研究として共同研究を実施、現在、大邱韓医大学校との共同研究で、子育て意識についての日韓比較研究に取り組んでいる。

２．研究業績

①　著書・論文

〈著書〉

- 細井勇『石井十次と岡山孤児院研究―近代日本と慈善事業―』ミネルヴァ書房、2009年
- 細井勇「石井十次」伊藤隆・李武嘉也編『近現代日本人物史情報辞典３』吉川弘文館、2007年
- 菊池義昭・細井勇・柿本誠編『児童福祉論―新しい動向と基本的視点―』ミネルヴァ書房、2007年
- 細井勇「石井十次―岡山孤児院と孤児教育－」室田保夫編『人物で読む近代日本社会福祉の歩み』ミネルヴァ書房、2006年
- 細井勇「石井十次の慈善事業」池本美和子編『近代日本の慈善事業―実態とその変容―』社会福祉形成史研究会発行、2006年

〈論文〉

- 細井勇「石井十次を支えた人々―高鍋の同行者達―」『石井十次資料館研究紀要』９号、2008年
- 細井勇・古橋啓介・秦和彦・宮城由美子・吉川未桜・林ムツミ「福岡市における子育て意識調査―子育て意識と子育て支援に関する実態とニーズ―」福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書36号、2008年３月
- 細井勇「次世代育成に関わる市町村行動計画―その背景と課題―」福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科・市町村福祉計画班『市町村福祉計画の研究（その１）』2007年
- 秦和彦・古橋啓介・細井勇・林ムツミ「田川地域の市町村の次世代育成支援対策行動計画について―田川地域の子育て意識調査結果から見た課題―」『福岡県立大学人間社会学部紀要』15巻２号、2007年
- 細井勇「（博士学位論文）石井十次と岡山孤児院の研究」関西学院大学社会学研究科博士後期課程、2007年
- 細井勇「近世の公的救済と近代的慈善事業の特質について―棄児養育米制度に注目して－」同志社大学人文科学研究所『キリスト教社会問題研究』55号、2006年
- 細井勇「少子化問題と子育て支援」福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書21号『地域の子育て支援に関する研究―子育てしやすい環境づくりのために―』2006年
- 細井勇「石井十次と岡山孤児院に関する先行研究のレビュー」『福岡県立大学人間社会学部紀要』14巻２号、2006年

・　細井勇「石井十次による慈善事業としての岡山孤児院事業について―伝道事業と慈善事業との関係に注目して―」『キリスト教社会福祉学研究』38号、2006年

②その他の業績

〈書評〉

・　細井勇「書評：加藤博史著『福祉哲学―人権・生活世界・非暴力の統合思想―』」『同志社社会福祉学』22号、2008年

・　細井勇「書評：倉田和四生著『留岡幸助と備中高梁～石井十次・山室軍平・福西志計との交友関係～』」『キリスト教社会福祉学研究』38号、2006年

〈資料紹介〉

・　細井勇・佐藤繁美「資料紹介：石井十次に関する大原孫三郎の講演」『石井十次資料館研究紀要』７号、2006年

〈学会シンポジウム〉

・　細井勇「社会福祉の研究方法を問う―歴史研究の立場から―」シンポジウム「社会福祉の研究方法を問う」第49回日本社会福祉学会九州部会（於大分大学）、2007年12月

３．外部研究資金

・文部科学省科学研究費（基盤研究Ｂ）「岡山孤児院におけるネットワーク形成と自立支援に関する総合的研究」1220万円、平成18～21年度、研究代表者

５．所属学会

日本社会福祉学会、日本基督教社会福祉学会、社会事業史学会、司法福祉学会、日本子ども虐待防止研究会

６．担当授業科目

（学部）

社会福祉史Ａ・２単位・１年前期、社会福祉史Ｂ・２単位・１年後期、児童福祉論Ⅰ・２単位・２年前期、児童福祉論Ⅱ・２単位・２年後期、施設養護論・２単位・４年前期、社会福祉援助技術現場実習指導・３単位・２年後期～３年、社会福祉援助技術現場実習・４単位・３年、社会福祉学演習・２単位・３年後期～４年前期、卒業論文・６単位・４年後期

（大学院）

社会福祉研究・２単位・１年前期、社会福祉演習・１単位・１年後期

７．社会貢献活動

・　日本基督教社会福祉学会学会誌編集委員

・　日本基督教社会福祉学会50周年記念誌編集委員

・　同志社大学人文科学研究所研究協力員

・　日本社会福祉学会、同九州部会等の学会誌の論文査読

８．学外講義・講演

・　講演「石井十次を支えた人々―高鍋の若者達―」石井十次セミナー（於宮崎県高鍋）、2007年９月

９．附属研究所の活動等

・生涯福祉研究センター・研究プロジェクト「子育て意識とニーズ調査―田川地域・福岡市・韓国の比較研究―」研究代表

・　福岡市にて「日韓子育て支援シンポジウム」開催、2009年３月

所属	人間社会学部　社会福祉学科	職名	准教授	氏名	西原　尚之

１．教員紹介・主な研究分野

臨床的な対人援助の方法論を主な研究分野としている。とくに家族システム論をベースにした家族アセスメント・家族臨床の方法論を専門としている。具体的な対象領域としては子ども虐待やＤＶなど家庭内で起こる暴力の問題、不登校やアディクションなど児童・思春期精神保健領域の問題に関心を持っている。日々実務で苦労されている実践家の姿を常に意識し現場で役立つ研究になるよう心がけている。

２．研究業績

①最近の著書・論文

＜著書＞

- 西原尚之(2008)「子ども家庭福祉の実施機関」松本寿昭編著『子ども家庭福祉論』相川書房.
- 西原尚之(2007)「子どもの生活と社会福祉」松本寿昭編著『社会福祉』家政教育社.

＜論文＞

- Naoyuki Nishihara(2009)'*Yogo-type School Refusal*' and Educational Deprivation Experienced by Children from Disadvantaged Families: Need for Compensatory Education Systems and Collaboration with Families, *Japanese Journal of Social Services* 5.
- 西原尚之・原田直樹・山口のり子・張世哲(2008)「子ども虐待防止にむけた保育所、学校等の役割と課題」福岡県立大学人間社会学部紀要17(1).
- 本郷秀和・西原尚之・松岡佐智(2007)「福祉ボランティアを通じた経験型実習の可能性Ⅰ」福岡県立大学人間社会学部紀要16(1).
- 西原尚之・原田直樹・山之内輝美・益満孝一(2007)「精神保健福祉士実習現場の現状から読みとれる養成機関側の課題」福岡県立大学人間社会学部紀要15(2).
- 西原尚之(2006)「家族再統合論の吟味：なぜ家族なのかという問いかけ」福岡県立大学人間社会学部紀要15(1).
- 西原尚之(2006)「養護型不登校における教育デプリベーション：補償教育システムおよび家族との協働の必要性について」社会福祉学46(3).
- 西原尚之・稲富憲朗・平田ルリ子(2006)「家族再統合の課題としての世代間葛藤：施設ソーシャルワーカーがおこなう日常的家族療法」アディクションと家族22(4).

②その他最近の業績

＜調査研究報告書＞

- 共著(2009)『養護型不登校経験者の社会的自立促進要因に関する研究』平成19～20年度科学研究費補助金基礎研究（C）研究成果報告書.
- 共著(2009)『不登校・ひきこもり対応マニュアル2009年度版』福岡県立大学付属研究所不登校・ひきこもりサポートセンター.
- 共著(2009)『福祉ボランティアを通じた経験型実習導入の可能性（３）』2008年度福岡県立大学研究奨励交付金成果報告書.
- 共著(2008)『生活保護自立阻害要因の研究：福岡県田川地区生活保護廃止台帳の分析から』福岡県立大学付属研究所.
- 共著(2007)『福岡県下市町村福祉計画の研究』2006年度福岡県立大学研究奨励交付金報告書.
- 共著(2006)『精神保健福祉士教育養成課程における実習の指標に関する研究』平成16年度みずほ福祉助成財団社会福祉助成金助成事業報告書.
- 単著(2006)『乳幼児ホームにおける家族再統合支援プログラム開発に関する基礎研究最終報告書』平成15～16年度科学研究費補助金基礎研究(C)(2)研究成果報告書、2006.

＜その他＞

- 西原尚之(2006～2007)「親の工夫これに勝るものなし」「虎(トラ)と馬(ウマ)のなだめ方」「蟻よ、この石が岩に見えるか」「磯野家の平和」「シンデレラのママたちへ」「不登校解決への窓」くらしスパイスVol39～43.
- 分担執筆(2008)國分康孝監修『カウンセリング心理学事典』.

③過去の主要業績

- 西原尚之・三谷恵(2004)「グループ体験がハイラムダ（回避型スタイル）に及ぼす効果」包括システムによる日本ロールシャッハ学会誌8(1).
- 西原尚之(2004)「親による虐待が子どもに及ぼす影響」古橋啓介他編著『発達臨床と学校ソーシャルワーク』ﾐﾈﾙｳﾞｧ書房.
- 西原尚之(2004)「ジェノグラム」米本秀仁編著『事例研究・教育法』川島書店.
- 西原尚之(2002)「児童虐待をともなう家族への在宅支援アプローチ：児童相談所が援助に拒否的な親と協働するためのストラテジーについて」社会福祉実践理論研究11.
- 西原尚之(2000)「思春期不登校の家族療法における両親（夫婦）葛藤：葛藤タイプとその臨床的とりあつかいに関する考察」福岡県立大学紀要8(2).

３．外部研究資金

- 平成19～20年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究C「養護型不登校経験者の社会的自立促進要因に関する研究」180万円、研究代表者.
- 平成19～21年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究C「東アジアからのケアワーカー導入に際する異文化意識緩和に向けた福祉実習教育の方法」400万円、研究分担者（研究代表者益満孝一）

４．所属学会

日本社会福祉学会，日本家族研究・家族療法学会，日本社会福祉実践理論学会，日本子ども虐待防止学会，日本心理臨床学会，日本臨床心理士会.

５．担当授業科目

「社会福祉援助技術演習Ⅰ」「社会福祉援助技術論Ⅲ」「精神保健福祉援助技術各論Ⅰ」，「社会福祉学演習」「家族福祉論」「家族援助論」「精神保健福祉援助実習」「卒業論文」「子ども家庭福祉研究（大学院）」.

６．社会貢献活動

福岡学園（児童自立支援施設）苦情処理に関わる第３者委員会委員，飯塚市要保護児童対策地域協議会委員，慈愛会児童福祉施設将来構想委員会委員，福岡家庭裁判所田川支部家事調停委員，北九州市薬物対策連絡協議会委員，田川市要保護児童対策地域協議会委員

７．学外講義・講演

福岡県社会福祉協議会社会福祉主事資格認定講習会「グループワーク演習」，北九州市主任保育士研修「子育てに対する相談援助活動」，慈愛会子ども家庭養育支援研究会施設職員研修「施設における家族関係の理解と方法：ジェノグラムの描き方」，福智高校教員研修「不登校への理解と対応」，京築地区教育関係団体リーダー人権教育研修「子ども虐待の現状と課題」，福岡県家庭児童相談員研修会「障がいと家族」，全国少年相談協議会「支援と連携のためのコミュニケーション」他多数.

８．付属研究所の活動

不登校・ひきこもりサポートセンター幹事

所属	人間社会学部　社会福祉学科	職名	准教授	氏名	平部　康子

１．教員紹介・主な研究分野

1999年九州大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学後、本学に着任。社会保障法の中でも、以下のテーマを研究対象としている。

【日仏英の社会保障制度における児童の養育にかかる給付および負担】

現在のように、家族形態の変容（核家族、単親家族）および労働市場への女性の参加が進むと、こどもの養育は、出費がかかるというだけでなく、労働機会の喪失（それに伴って将来もらう年金等も減額される）にもなり、2重の負担となる。社会保障法上にちらばっているこどもに対する給付（児童手当、各種加算、保育サービス）と負担（所得制限、費用負担）について、イギリスやフランスとの比較を通じて、日本の現行制度とそれを支えてきた法理念を再検討する。

【介護保険法制における参加および利益調整】

介護保険では、利用者・サービス事業者・行政（市町村、都道府県）が法主体として登場するが、公正な競争の下で保険制度の安定的運営を追及しつつ「利用者の選択」を保障するという目標のためには、基準の設定と遵守だけでなく、特に契約などの場面で立場の弱い利用者の手続保障や利益調整の場への参加を保障する必要がある。多様な法目的を実現するための法規制と法主体への権限付与、救済や利益調整のあり方を検討する。

２．研究業績

①最近の著書・論文

＜著書＞

・平部康子「イギリスの介護保障」　増田雅暢編『世界の介護保障』（2008年、法律文化社）

・平部康子「社会福祉の財政と利用者負担」　河野正輝他編『社会福祉法入門（第2版）』（2008年、有斐閣）

・平部康子「高齢者福祉」　石橋敏郎他編『やさしい社会福祉法』（2008年、嵯峨野書院）

＜論文＞

・　平部康子「所得保障制度と児童の養育」週刊社会保障2391号（2006年）

・　平部康子「多様な働き方」と保育費用の社会的分担　週刊社会保障2458号（2007年）

②その他最近の業績

＜判例評釈＞

・　平部康子「医療扶助における一部負担金の法的性質」　西村健一郎他編『別冊ジュリスト　社会保障判例百選（第4版）』（2008年、有斐閣）

＜書評＞

・　平部康子「米国統治下の沖縄の社会と法」　図書新聞2771号（2006）

③過去の主要業績

・　平部康子「イギリス対人社会サービスにおける利用者の選択権保障」　社会保障法15号　2000年

・　平部康子「イギリスの対人社会サービスにおける手続的権利の展開」　九大法学77号1999年

・　平部康子「社会保険における育児期間の評価」週刊社会保障2336号（2005年）

・　平部康子「イギリスの職域・私的年金制度改革」労働法律旬報1603号（2005年）

３．外部研究資金

４．受賞

５．所属学会
日本社会保障法学会（編集委員）
日本労働法学会

６．担当授業科目
育児休業取得のため、平成20年度は担当授業なし

７．社会貢献活動
福岡県介護保険審査会（公益委員・副会長）

８．学外講義・講演

９．附属研究所の活動等

所属	人間社会学部　社会福祉学科	職名	准教授	氏名	本郷　秀和

1．教員の履歴と主な研究分野

私は、過去に福祉・介護活動に取り組むNPO法人で相談及び介護、運営管理業務に従事した経験もあり、高齢者福祉（介護）や福祉活動に取り組むNPO法人の役割に関心を持っています。 具体的には、高齢者福祉領域において、①介護サービス（特にNPO法人が提供するものに関心があります）の現状と、その中での高齢者等を支援する社会福祉士の役割・課題、②ソーシャルワーカー（社会福祉士）が取り組むべき支援内容や方法、③地域の高齢者問題の把握と課題解決に向けた方法の模索、④福祉ボランティア活動、などに関心を持っています。近年では高齢者に関する犯罪や孤立・孤独死、限界集落や所得格差等のように多様な課題があり、高齢者を支えるシステムを再検討する必要性が高くなっています。特に、高齢者を含み地域住民が安心して生活できるために、介護サービスに取り組むNPOの基盤整備、社会福祉士の業務内容と配置体制の充実、ボランタリーな活動の発展の可能性や介護サービスに取組む介護系NPO法人の役割・課題等を、今後に明らかにしたいと考えています。

2．研究業績

①　最近の著書・論文＜2006（平成16）年度～2008（平成20）年度＞

・古野みはる・鬼﨑信好・本郷秀和、「福岡県介護保険広域連合を巡る課題」、『九州社会福祉学』第 5 号、日本社会福祉学会九州部会、2009 年 3 月（予定）.

・松岡佐智・本郷秀和、「福岡県立大学社会福祉学科学生のボランティア意識に関する調査研究」、『福岡県立大学人間社会学部 紀要』第 17 巻第 2 号、福岡県立大学、2009 年 1 月.

・本郷秀和・鬼﨑信好・佐伯幸雄、「指定福祉 NPO における社会福祉士の活動実態と役割 ―常勤社会福祉士を配置する指定福祉 NPO 全国実態調査を基礎にして―」、『九州社会福祉学』第 4 号、日本社会福祉学会九州部会発行、2008 年 3 月.

・本郷秀和・松岡佐智・西原尚之、「福祉ボランティアを通じた経験型実習導入の可能性Ⅰ」、『福岡県立大学人間社会学部 紀要』第 16 巻第 1 号、福岡県立大学、2007 年 12 月.

・本郷秀和・鬼﨑信好・佐伯幸雄、「指定福祉 NPO における社会福祉士の役割」、『日本の地域福祉』第 20 巻、日本地域福祉学会発行、2007 年 3 月.

・本郷秀和・松岡佐智、「社会福祉援助技術現場実習における実習効果意識に関する一考察」、『福岡県立大学人間社会学部 紀要』 第 15 巻第 2 号、福岡県立大学、2007 年 3 月.

・鬼﨑信好・本郷秀和・荒木剛、「地方都市における障害者児の生活実態と意識に関する一考察 －福岡県 A 市の実態調査を踏まえて－」、『九州社会福祉学』第 3 号、日本社会福祉学会九州部会、2007 年 3 月.

・本郷秀和・荒木剛、「苦情対応における福祉オンブズマンの役割と課題 -高齢者施設を中心に-」、『福岡県立大学人間社会学部 紀要』第 15 巻第 1 号、福岡県立大学、2006 年 11 月.

②　その他最近の業績＜2006（平成16）年度～2008（平成20）年度＞

(1)　調査研究報告書

・鬼﨑信好・本郷秀和・山田眞知子・松岡佐智「介護サービスの評価システム開発に関する研究」、2008年3月.（平成18－19年度、文部科学省科学研究費補助金 基盤研究C 研究成果報告書）.

・鬼﨑信好、本郷秀和・佐伯幸雄・荒木剛、「介護系NPO法人におけるソーシャルワークの課題と展望Ⅰ」福岡県立大学生涯福祉研究センター発行、2007年3月.（三井住友海上福祉財団 平成15年度交通安全・高齢者福祉研究助成報告書）.

・鬼﨑信好・本郷秀和・佐伯幸雄・荒木剛・松岡佐智、「助けあいの地域づくりアンケート調査 最終報告書」、福岡県立大学生涯福祉研究センター発行、2007年3月.（ニッセイ財団 平成15年度高齢社会研究助成報告書、受託：社会福祉法人慈愛会）

・共著（研究代表）、「福祉ボランティアを通じた経験型実習の課題」、福岡県立大学、2007 年 3 月.（平成 18 年度 福岡県立大学研究奨励交付金報告書）　**（※以下、略）**

(2)　学会報告

・本郷秀和・松岡佐智・西原尚之、「北九州・京築・筑豊地域における社会福祉施設のボランティア受け入れ実態と福祉系大学生のボランティア意識に関する一考察」、日本社会福祉学会第49回大会九州部会口頭発表（長崎国際大学）、2008年12月.

・袖井智子・本郷秀和、「介護保険制度下の高齢者支援の課題 ―福島県磐梯町における各種調査結果

の整理―」、日本社会福祉学会第49回大会九州部会口頭発表（長崎国際大学）、2008年12月.
・松岡佐智・本郷秀和、「社会福祉援助技術現場実習の実習効果意識に関する一考察」、日本社会福祉学会第49回大会九州部会口頭発表（長崎国際大学）、2008年12月.
・松岡佐智・本郷秀和・西原尚之、「福祉ボランティアを通じた実習教育導入の可能性(2)」日本社会福祉学会第48回大会九州部会口頭発表（大分大学）、2007年12月.
・本郷秀和、「日本におけるケアマネジメントの課題と展望(その2)」（国際学術報告）、大韓民国大邱漢医大学、2006年12月.
・荒木剛・本郷秀和、「苦情対応と福祉オンブズマン －高齢者施設を中心に－」、日本社会福祉学会第47回大会九州部会（鹿児島国際大学）、2006年12月.
・松岡佐智・本郷秀和・西原尚之・門田光司・細井勇・鬼﨑信好・小田美季・中村幸・城井みづほ「福祉ボランティアを通じた経験型実習の課題」、日本社会福祉学会第47回大会九州部会（鹿児島国際大学）、2006年12月.

③ 過去の主要業績（2点）

・本郷秀和・西島衛治・永田俊明「福祉移送サービスの現状の問題点と課題 －福祉NPO法人のケーススタディ－」『介護福祉学』Vol.12、日本介護福祉学会、2005年10月.
・本郷秀和 「介護保険制度下のNPO法人におけるソーシャルワークの方向性」『日本の地域福祉』Vol.17、日本地域福祉学会、2004年3月.

3．所属学会

・日本社会福祉学会 ・日本地域福祉学会 ・日本社会福祉士会 ・日本介護福祉学会**（以下略）**

4．担当授業科目（平成20年度）

「社会福祉援助技術演習Ⅰ」（4単位、2年、通年）、「社会福祉援助技術現場実習指導」（3単位、2～3年、通年）、「社会福祉援助技術現場実習」（4単位、3年次、通年）、「社会福祉援助技術論Ⅱ」（2単位、2年次、前期）、「社会福祉学演習」（4単位、3年次前期～4年時後期、通年）、「卒業論文」（6単位、4年次、後期）、「教養演習」（2単位、1年時、前期）

5．社会貢献活動（平成20年度）

①福岡県社会福祉協議会 運営適正化委員会委員、②福岡県国民健康保険団体連合会 介護給付費審査会審査委員、③福岡県社会福祉士会 介護サービスの情報公開 第三者委員会委員、④玉名荒尾地区（熊本県）「障害者児の生活を豊かにする会」（任意団体）会員・会計監査、⑤NPO 法人 地域たすけあいの会（介護保険法・障害者自立支援法関連事業[訪問介護・通所介護・居宅介護支援等]・学童保育・配食サービス・福祉移送サービス・有料老人ホーム運営・助け合い活動、訪問介護員養成研修、文部科学省家庭教育支援総合推進事業等を実施） 理事代表. **（以下、略）**

6．学外講義・講演（平成20年度）

①福岡県社会福祉協議会社会福祉主事研修非常勤講師（「ケースワーク演習」2 日間・「ケアマネジメント演習」1 日間）平成 20 年 9・10 月、②平成 20 年度福岡県人権相談従事者職員研修非常勤講師（財団法人福岡県人権啓発情報センター主催、テーマ「社会福祉と人権」）平成 20 年 9 月、③福岡市博多区那珂南校区社会福祉協議会主催「福岡県立大学附属研究所 視察・研修」講師、テーマ:「高齢者のケアサービスと連携」に関する研修講師、平成 21 年 1 月、④福岡県直方市民生委員研修 「近年の高齢者問題」講師（会場：直方市市役所） 平成 21 年 1 月.（その他、『世界遺産 田川国際シンポジウム』ボランティア調査報告、オープンキャンパス・高校訪問における模擬授業等）

7．附属研究所の活動等・・特になし

［参考］ 資格等:博士（社会福祉学）、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、救急救命士、介護支援専門員、障害者相談支援従事者基礎研修修了等

所属	人間社会学部　社会福祉学科	職名	助手	氏名	城井　みづほ

１．教員紹介・主な研究分野

・主な研究分野
①現代の家族
②本学社会福祉学科教育のあり方について

２．研究業績

＜調査研究報告書＞
・小田美季、門田光司、中村幸、西原尚之、細井勇、本郷秀和、松岡佐智、城井みづほ「福祉ボランティアを通じた経験型実習導入の可能性（２）」、2007年度福岡県立大学研究奨励交付金成果報告書、2008年3月
・本郷秀和、西原尚之、門田光司、細井勇、小田美季、中村幸、松岡佐智、城井みづほ「福祉ボランティアを通じた経験型実習導入の可能性－北九州・筑豊地域の社会福祉施設における学生ボランティア受け入れに関する実態調査を基礎として－」206年度福岡県立大学研究奨励交付金成果報告書、2007年3月
・小田美季、城井みづほ、本郷秀和、松岡佐智「在学生アンケート調査報告書」2006年3月
・小田美季、本郷秀和、城井みづほ、松岡佐智「社会福祉学科卒業生の実態と社会福祉学科の教育課題に関する研究」、平成17年度福井か県立大学研究奨励交付金研究成果報告書、2006年3月

３．所属学会

・西日本社会学会
・文理シナジー学会

４．担当授業科目（補助）

＜学部＞
社会福祉援助技術現場実習指導・３単位・２年後期～３年（通年）、社会福祉援助技術現場実習・４単位・３年・通年
＜大学院＞
フィールドワーク（社会福祉専攻）・２単位・修士１年・後期

所属	人間社会学部　社会福祉学科	職名	助手	氏名	松岡　佐智

１．主な研究分野

現在、「高齢者の生きがいと社会参加」を主な研究分野としている。人口高齢化が進行する中で、要介護高齢者の数も年々増加している。その中で、高齢者が社会参加を行い「生きがい」をもつことは、介護予防につながると考えている。そこで、高齢者の生きがい支援のあり方、高齢者が積極的に社会参加できる地域ケアシステムの課題について研究を進めている。

また、社会福祉士・精神保健福祉士の実習教育のあり方についても関心を持っている。社会福祉専門職養成としての実習のあり方、学生に対する実習教育方法、実習受入れ側の施設等との連携のあり方等を研究テーマとして取り組み、本学学生の専門職養成に寄与したいと考えている。

２．研究業績

①著書・論文

〈論文〉

(1) 松岡佐智・本郷秀和「福岡県立大学社会福祉学科学生のボランティア意識に関する調査研究 －福祉ボランティアを通じた経験型実習導入の可能性Ⅱ－」、『福岡県立大学人間社会学部 紀要』第 17 巻第 2 号、福岡県立大学、2009 年 1 月

(2) 本郷秀和・松岡佐智・西原尚之、「福祉ボランティアを通じた経験型実習導入の可能性Ⅰ」、『福岡県立大学人間社会学部 紀要』第 16 巻第 1 号、福岡県立大学、2007 年 12 月

(3) 本郷秀和・松岡佐智「社会福祉援助技術現場実習における実習効果意識に関する一考察」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 15 巻第 2 号、福岡県立大学、2007 年 3 月

②その他の業績

〈調査報告書〉

(1) 本郷秀和・西原尚之・門田光司・小田美季・城井みづほ・松岡佐智「福祉ボランティアを通じた『経験型実習』導入の可能性 (3) －福岡県立大学・社会福祉学科学生のボランティア意識の現状と課題－」福岡県立大学研究奨励交付金報告書、2009 年 3 月発行予定

(2) 鬼﨑信好・本郷秀和・松岡佐智・佐伯幸雄・荒木剛・石踊紳一郎「認知症高齢者への生活支援等に関する従事者の意識調査Ⅰ (研究報告書)」福岡県立大学研究奨励交付金報告書、2009 年 3 月発行予定

(3) 鬼﨑信好・本郷秀和・松岡佐智・佐伯幸雄・荒木剛・石踊紳一郎「認知症高齢者への生活支援等に関する従事者の意識調査Ⅱ (研究報告書)」福岡県立大学研究奨励交付金報告書、2009年3月発行予定

(4) 清田勝彦・森山沾一・鬼﨑信好・西原尚之・中村晋介・三隅譲二・中村幸・四戸智昭・本郷秀和・高間満・城島泰伸・谷村紀彰・泉賢祐・林ムツミ・中藤広美・松岡佐智・久富芳孝「生活保護自立阻害要因の研究－福岡県田川地区生活保護廃止台帳の分析から－」受託研究「田川郡における被保護者の自立阻害要因に係る分析」報告書　福岡県立大学付属研究所、2008年3月

(5) 本郷秀和・西原尚之・門田光司・細井勇・小田美季・中村幸・城井みづほ・松岡佐智「福祉ボランティアを通じた『経験型実習』導入の可能性 (2) －福岡県立大学・社会福祉学科学生のボランティア意識の現状と課題－」福岡県立大学研究奨励交付金報告書、2008 年 3 月

(6) 鬼﨑信好・本郷秀和・山田眞知子・松岡佐智「介護サービスの評価システム開発に関する研究」、文部科学省科学研究費補助金 基盤研究C 研究報告書、2008年3月

(7) 清田勝彦・森山沾一・鬼﨑信好・西原尚之・中村晋介・三隅譲二・中村幸・四戸智昭・

本郷秀和・高間満・城島泰伸・谷村紀彰・泉賢祐・林ムツミ・中藤広美・松岡佐智「田川郡における貧困の世代的再生産に係る要因分析（平成19年度事前継続研究報告書)」福岡県立大学付属研究所、2007年7月

(8) 鬼﨑信好・本郷秀和・佐伯幸雄・荒木剛・松岡佐智「助けあいの地域づくりアンケート調査 最終報告書」(日本生命財団 平成 15 年度 高齢社会研究助成報告書、受託：社会福祉法人 慈愛会)、『福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書』Volume.31、福岡県立大学生涯福祉研究センター発行、2007 年 4 月

(9) 本郷秀和・西原尚之・門田光司・細井勇・小田美季・中村幸・城井みづほ・松岡佐智「福祉ボランティアを通じた『経験型実習』導入の可能性－北九州・筑豊地域の社会福祉施設における学生ボランティア受け入れに関する実態調査を基礎として－」福岡県立大学研究奨励交付金報告書、2007年3月

(10) 清田勝彦・森山沾一・鬼﨑信好・西原尚之・中村晋介・三隅譲二・中村幸・四戸智昭・本郷秀和・高間満・城島泰伸・谷村紀彰・泉賢祐・林ムツミ・中藤広美・松岡佐智「田川郡における被保護者の自立阻害要因に関する研究（平成18年度事前研究報告書)」福岡県立大学付属研究所、2007年3月

〈学会報告〉

(1) 松岡佐智・本郷秀和「社会福祉援助技術現場実習の実習効果意識に関する一考察－福岡県立大学社会福祉学科学生の実習意識に関する調査報告－」日本社会福祉学会第49回大会九州部会口頭発表（長崎国際大学)、2008年12月

(2) 本郷秀和・松岡佐智・西原尚之「社会福祉施設のボランティア受け入れ実態と福祉系大学生のボランティア意識に関する一考察－福岡県内の北九州・京築・筑豊地域におけるボランティア実態調査報告－」日本社会福祉学会第49回大会九州部会口頭発表（長崎国際大学)、2008年12月

(3) 松岡佐智・本郷秀和・西原尚之「福祉ボランティアを通じた実習教育導入の可能性 (2) －福祉ボランティアに関する学生アンケート調査の報告－」日本社会福祉学会第48回大会九州部会口頭発表（大分大学)、2007年12月

(4) 松岡佐智・本郷秀和・西原尚之・門田光司・細井勇・小田美季・中村幸・城井みづほ「福祉ボランティアを通じた実習教育導入の可能性（1）－北九州・筑豊・京築地域の社会福祉施設における学生ボランティア受入れに関する調査報告－」日本社会福祉学会第47回大会九州部会口頭発表（鹿児島国際大学)、2006年12月

〈その他〉

・本郷秀和・西原尚之・松岡佐智『北九州・筑豊・京築地域の社会福祉施設ボランティア情報』2007年3月発行

３．所属学会

日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、日本福祉教育ボランティア学習学会

４．担当授業科目

精神保健福祉援助実習(補助)・8単位・4年・通年

５．附属研究所の活動等

田川元気再生プロジェクト「世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生事業－産・官・民・学が協働する保養滞在型エコツーリズムの実現」ボランティアチーム　メンバー

人間社会学部　人間形成学科

所属	人間社会学部　人間形成学科	職名	教授	氏名	上田　毅

１．主な研究分野

運動・スポーツ活動において「継続は力なり」である。しかし、この継続性には、行動変容段階が強く関わっている。つまり継続を決める意思決定は、個々人の行動変容段階と、否定的な状況下でも活動できるか否か、および活動による結果が予期できるか否かといったセルフエフィカシーとのバランスでなされる。したがって対象者の行動変容段階やセルフエフィカシーを把握し、それに応じたプログラムや運動・スポーツ活動を促す方略が構築されなければ活動の継続は困難になる。さらに対象者の行動変容段階が異なると、一過性運動の評価も異なる。そして、これらの評価が記憶として残り、先の行動変容段階とも関連して、次の機会への参加・不参加を判断する材料の一つとなる。そこで運動の評価に影響を与える性質要因を取り上げ、運動・スポーツ活動の行動変容段階と関連して、これらの性質要因が一過性運動の評価に与える影響を検討している。その他、大韓民国済州大学との共同研究や赤村との共同研究を実施している。

２．研究業績

①著書・論文

Takeshi Ueda, Teru Nabetani & Keisuke Teramoto “Differential Perceived Exertion measured using a new Visual Analogue Scale during Pedaling and Running” Journal of Physiological Anthropology and Applied Human Science、25 (2)、171-177、2006。

鍋谷照、河田聖良、佐々木史之、楠本恭久、上田毅、石原一成「体育専攻学生における体型と身体部位の満足感」学校保健研究、48 (4)、279-289、2006。

樗木晶子、眞茅みゆき、長弘千恵、堀田昇、藤島和孝、増本賢治、正野知基、上田毅「高齢者の体力維持に果たす水中運動と陸上運動（自彊術）の有用性の比較」九州大学医学部保健学科紀要、7、23-32、2006。

Takeshi Ueda, Kazunari Ishihara, Tomoki Shono, Tetsuro Ogaki & Noboru Hotta “Blood pressure responses during walking in water in middle-aged and elderly women” 福岡県立大学紀要、15 (2) 、1-12、2007。

石原一成、上田毅『「健康科学実習」における救急法（心配蘇生法）導入に対する学生の評価』体育・スポーツ教育研究、8 (1) 、5－11頁、2008。

Takeshi Ueda・Kazunari Ishihara・Mariko Okamura・Keiko Komatsu “The effect of children’s sports activities on life habits: Sports activities of children in the Chikuho region and related factors” 福岡県立大学紀要、17 (1) 、1-11頁、2008。

②その他の業績

Takeshi Ueda, Kazunari Ishihara, Tomoki Shono, Tetsuro Ogaki & Noboru Hotta “Blood pressure responses during walking in water in middle-aged and elderly women” American College of Sports Medicine、Medicine & Science in Sports & Exercise、39(5)、Supplement、48、2007, 6。

３．外部研究資金

なし

４．受賞

なし

５．所属学会

日本体育学会
日本体力医学会
日本バイオメカニクス学会
American College of Sports Medicine
日本運動生理学会
日本生理人類学会
日本スポーツ方法学会
日本生気象学会
日本保育学会
日本学校保健学会

６．担当授業科目

健康科学実習Ⅰ・Ⅱ・各1単位・1年前・後期
健康スポーツ論・2単位・1年前期
体育Ⅰ・2単位・2年前・後期
体育Ⅱ・2単位・3年前・後期
演習・2単位・3年後期・4年前期
卒論・6単位・4年後期
地域教育支援（からだ）・2単位・大学院

７．社会貢献活動

生涯スポーツ教室講師
ティーチングアシスタント派遣事業
福岡県田川市社会教育委員

８．学外講義・講演

「子育てサポーター養成講習（子育てサポートの心構え及び子どもの遊び）」　田川地区シルバー人材センター、2008年12月。
『スポーツ障害』からまもるために、指導者として最低限の知識を！みやま市教育委員会、2008年3月。
「小学生における発育発達の特徴と効果的なトレーニングについて」たちばな町教育委員会、2008年3月。

講座講師

９．附属研究所の活動等

なし

所属	人間社会学部　人間形成学科	職名	教授	氏名	甲斐　彰

１．教員紹介・主な研究分野

初学者のための教授法研究に基づく具体的な学習プログラムの検討・作成を行う。これまで保育士・幼稚園教員養成課程及び小学校教員養成課程の学生を対象とした実用書「左手のための実用伴奏法」（1990、音楽之友社、現在13版）および理論書「楽譜が読めるステップ12」（1995、音楽之友社、現在25版）、「楽譜が読める・弾けるステップ20」（2004、音楽之友社、現在5版）を執筆し、一般の読者より要望の高かったコンパクトな「超わかりやすい楽譜の読み方」（2006、音楽之友社、現在8版）も出版した。

そして本年度はこれらの集大成とも言うべく「コード伴奏にチャレンジ！“らくらく弾けるピアノコード”～スリーコードから始めるステップ17～」（2009、3月出版予定、音楽之友社）を執筆した。

今後はこれらを通しての教育実践に重きを置きたい。

２．研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

・甲斐　彰「超やさしい楽譜の読み方」、音楽之友社、2006年9月
・甲斐　彰「らくらく弾けるピアノコード」、音楽之友社、2009年3月出版予定

②その他の最近の業績

〈シンポジウム等〉

・ 全国保育士養成セミナー、分科会Ｈ「新任者特別分科会～新任の先生方と保育士養成を考える～」、コーディネーター及び助言者、
鹿児島城山観光ホテル、2007年9月13日、主催：全国保育士養成協議会
・ 全国保育士養成セミナー、Ｇ分科会「新任者特別分科会」、助言者、
函館国際ホテル、2008年9月25日、主催：全国保育士養成協議会

③過去の主要業績

〈著書〉

・甲斐　彰「左手のための実用伴奏法」、音楽之友社、1990年12月
・甲斐　彰「楽譜が読めるステップ12」、音楽之友社、1995年8月
・甲斐　彰「楽譜が読める・弾けるステップ20」、音楽之友社、2004年9月

３．外部研究資金

４．受賞

５．所属学会

・日本音楽教育学会会員
・日本教科教育学会会員

６．担当授業科目

音楽Ⅰ・２単位・１年・通年、音楽Ⅱ・２単位・２年・通年、「保育内容・表現Ⅰ」・２単位・２年・前期、「保育内容・表現Ⅱ」・２単位・２年・後期、演習・２単位・３年～４年・後期～前期、保育総合演習・２単位・４年・前期、保育内容演習・２単位・４年・通年、卒業論文・６単位・４年・後期、

７．社会貢献活動

・ 北九州市児童福祉施設等第三者評価委員会・会長
・ 北九州市児童福祉施設等第三者評価委員会評価決定部会・部会長
・ 北九州市子育て支援施設指定管理者検討会構成員・座長
・ 北九州市児童福祉施設等第三者評価委員会委員養成研修会講師
・ 北九州市平成20年度第三者評価事業フォローアップ研修会講師
・ 第57回福岡県小学校音楽コンクール審査員

８．学外講義・講演

・大分交響楽団トレーナー
・中学校・高等学校の吹奏楽指導

９．附属研究所の活動等

所属	人間社会学部　人間形成学科	職名	教授	氏名	小嶋　秀幹

１．主な研究分野

1992年産業医科大学医学部医学科卒。精神科医として産業医科大学病院等に勤務後、2007年、本学に着任。社会精神医学、精神保健学を主な研究分野としている。特に、地域住民に対する精神障害の啓発教育、心理教育の方法に興味を持っている。具体的には福岡県中間市において産業医科大学精神医学教室、中間市障害者地域活動センターと連携して総合的な自殺予防対策のモデル事業を実施している（こころの健康科学事業「自殺対策のための戦略研究」）。なかでも興味を持って取り組んでいるのは、民生･児童委員を対象としたこころの相談員研修である。地域における精神保健活動を推進していく上で、日頃より住民とじかに接する民生児童委員の役割は大きい。そこで、民生児童委員にいかにわかりやすく精神保健の基礎知識を身につけていただくかという視点で、教育方法の研究に取り組んでいる。その他、勤労者の精神保健、筑豊・田川地域におけるアルコール問題、高齢者の精神的健康のあり方、司法精神医学（精神鑑定）、精神障害を持つ子どもと親への面接方法などに興味を持って研究・実務をしている。

２．研究業績

①著書・論文

＜論文＞

・小嶋秀幹:「民生児童委員に対する精神障害の啓発教育の効果」,福岡県立大学心理紀要, 2009（印刷中）.

・小嶋秀幹:「民生委員・児童委員に対するこころの相談員研修のあり方」,月間福祉, 2009（印刷中）.

・小嶋秀幹:「地域資源を活用した取組～福岡県中間市の取組～」,平成20年版自殺対策白書. 内閣府,p101,2008.

・小嶋秀幹:「都市部で有効な自殺予防対策とは―福岡県中間市での取り組みを通して考えること―」,日本社会精神医学会雑誌,17(1):70-76,2008.

・小嶋秀幹：地域特性に応じた自殺予防対策とは―福岡県中間市での取り組み―. 九州神経精神医学雑誌,54(1):16-20,2008.

・小嶋秀幹, 中村　純：「産業医と精神科医の連携」,精神科13(4)：344 - 47,2008.

・小嶋秀幹：「産業保健スタッフと精神科医・心療内科医との連携：良好な関係構築に向けてー精神科医の視点からー」,産業精神保健16(1)：18 - 22,2008.

・中野英樹, 小嶋秀幹, 他4名：「中間市の自殺対策」,公衆衛生72(9):744-48, 2008.

・中村　純,小嶋秀幹：「産業保健に対する精神科医の役割」, 精神神経誌110(3)：197-202,2008.

②その他の業績

＜学会報告＞

・小嶋秀幹「地域特性に応じた自殺予防対策を立ち上げるにはー福岡県中間市での取り組みを通して考えることー」,第32回日本自殺予防学会,シンポジスト,2008年4月

・小嶋秀幹「民生委員研修を自殺予防にどう生かすか」,第32回日本自殺予防学会,2008年4月

・小嶋秀幹、坂田深一「民生委員を対象としたこころの相談員研修のあり方について（第２報）」, 第103回日本精神神経学会総会,2008年5月

・小嶋秀幹「地域の自殺対策―可能性と限界―」,第21回九州・沖縄社会精神医学セミナー,シンポジスト,2009年1月

３．外部研究資金

・文部科学省、科学研究費補助金（基盤研究C）、「民生委員に対する精神障害の啓発教育のあり方に関する研究」、250万円、平成18～20年度、研究代表者

４．受賞　　なし

５．所属学会
・九州精神神経学会評議員
・日本精神神経学会精神科専門医
・日本精神神経学会、日本臨床心理士会、九州精神神経学会、日本社会精神医学会、日本病院地域精神医学会、日本司法精神医学会、日本自殺予防学会、日本アルコール精神医学会、日本臨床精神薬理学会、日本産業衛生学会、日本老年精神医学会、福岡県臨床心理士会　各会員

６．担当授業科目
＜学部＞精神保健学･２単位・１年・前期、精神保健学Ⅰ・２単位・２年・前期、精神医学Ⅰ･２単位・３年･前期、老年期医学・２単位・３年･前期、精神保健学Ⅱ･２単位・２年･後期、精神医学Ⅱ・２単位・３年・後期、演習・２単位・３～４年・通年、卒業論文･６単位・４年・後期、＜大学院＞特別研究・４単位・大学院１年・通年、臨床心理実習（学内）・１単位・大学院２年・通年、臨床心理査定演習･４単位･大学院１年・前期、臨床心理面接特論･４単位･大学院１年・後期、

７．社会貢献活動
・北九州市精神医療審査会・委員
・中間市こころの健康づくり計画策定協議会・事務局
・北九州市役所・嘱託産業医
・北九州市立子ども総合センター・スーパーバイザー
・北九州いのちの電話評議員
・心神喪失等医療観察法・審判医
・精神保健指定医業務・措置鑑定医

８．主な学外講義・講演
・北九州労健連研修会「若者のメンタルヘルス」、講師、2008年5月
・筑豊地域保健師研究協議会、「アルコール依存とギャンブル依存」、講師、2008年6月
・北九州いのちの電話研修会、「うつ病」、講師、2007年6月
・遠賀保健福祉環境事務所研修、「うつ病について知ろう」、講師、2008年8月
・福岡県人権相談従事職員研修、「子どもと人権」、講師、2008年8月
・メンタルヘルス産業医養成研修、「産業医と精神科医との連携」、講師、2008年8月
・中間市児童民生委員研修会、「中間市こころの健康づくり事業」、講師、2008年9月
・遠賀中間医師会・看護師会研修会、「うつ症状のとらえ方」、講師、2008年9月
・高齢社会をよくする北九州女性の会、「うつ病について理解する」、講師、2008年11月
・八幡東区いきいき推進協議会研修会、「高齢者のうつ病」、講師、2008年11月
・福岡県高等学校教育研修会、「教員のメンタルヘルス」、講師、2008年12月
・産業医科大学医学部講義、「社会精神医学」、講師、2008年12月
・小倉南区在宅ケア連絡会、「高齢者のうつ病とその予防・対応」、講師、2009年1月
・中間市社会福祉協議会「地域で支え合う‘うつ’～こころの風邪～」、講師、2009年1月
・住友金属小倉健康管理講演会「アルコールとうまく付き合う方法」、講師、2009年1月
・田川市職員アルコール研修、講師、2009年2月

９．附属研究所の活動等
・福岡県立大学不登校・サポートセンター・相談員
・福岡県立大学心理教育相談室・相談員
・福岡県立大学学生相談室・相談員

所属	人間社会学部　人間形成学科	職名	教授	氏名	小松　啓子

１．主な研究分野

1976年日本女子大学大学院家政学研究科修士課程修了（家政学修士）。1979年徳島大学大学院栄養学研究科博士課程単位取得満期退学（1980年保健学博士、徳島大学 甲栄16号、栄養学専攻）。1979年徳島大学医学部栄養学科・特殊栄養学教室（助手）勤務、1983年から産業医科大学小児科学教室訪問研究員として在籍、小児科外来・病棟での栄養指導を担当しながら研究活動を展開（2007年迄）。1987年福岡県立社会保育短期大学に着任（助教授）、1992年福岡県立大学移行後、人間形成学科教授として現在に至る。2007年看護学部看護学研究科開設と同時に看護学研究科教授として食育学特論・演習を担当し、人間社会学部学生の教育と併せ、社会人の専門教育に貢献。

栄養学に関する研究活動を始めて約35年になるが、研究の柱として生命誕生から死にいたる人生を食の視点から捉え続けることを重視し、研究活動を展開してきた。現在は研究の取組みを、共同と個人研究の二つの柱で下記のテーマで実施しているが、二つの柱は夫々が独立したものではなく、食の視点を重視した「人の健康のあり方」を問う学問研究として位置づけている。

(1)共同研究（小松啓子他13名で構成）

「赤村住民のメタボリックシンドローム予防対策に関する総合的研究」

赤村全住民を対象に、健康と生活に関する基礎調査をもとに、ライフサイクルにおける食育上の課題について研究を進めている。また、本研究を、本大学が将来担うコホート研究に位置づけるための基盤づくりも進めている。

(2)個人研究

小児を対象に下記の2件を中心に研究活動を展開している。

「幼児の健全な食行動の形成に対して連続的な菜園活動体験を取り入れた食教育のあり方」「思春期に表出する小児の自己体型に対する認知のずれに関する研究」

２．研究業績

①著書・論文

＜著書＞

・小松啓子「特集 栄養カウンセリング入門」、『食育』第72巻第7号、健学社、2007年3月.

・小松啓子「幼児の偏食改善に向けた連続的な食生活体験－ちびっ子農園活動が育む食行動の自立－」、子育て問題を考える福岡会議編『子育て問題を考える』、日本小児医事出版社、2007年9月.

・小松啓子「第1章 子どもの健康な生活と食生活の意義、第2章子どもの発育・発達と食べる行動、第6章 幼児期の食生活」、小松啓子編著『プリマーズ　小児栄養』、ミネルヴァ書房、2007年12月.

・小松啓子「2.1 栄養カウンセリングの基本、2.2 食行動理論の活用、2.3 心理アセスメントの基本、5.2 乳児期・離乳期の栄養アセスメントと栄養管理」、山本茂編『管理栄養士技術ガイド』文光堂、2008年4月.

・小松啓子「1.栄養教育におけるカウンセリングの位置づけ､2. 栄養教育に必要な栄養カウンセリングスキル、6･1食行動に影響を及ぼす要因、9. 栄養カウンセリングのための実習プログラム」、小松啓子編著『栄養科学シリーズ　栄養カウンセリング論 第2版』、講談社サイエンティフィク、2009年3月.

＜論文＞

・小松啓子、岡村真理子「小児のメタボリックシンドローム・肥満症における食生活と食事療法」、『Adiposcience』第4巻4号、フィジカル出版、2007年12月.

・岡村真理子、小松啓子「メディア暴露時間の長短が、女子生徒の学習・食生活・健康に与える影響」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第16巻2号、福岡県立大学、2008年3月.
・Takeshi UEDA, Kazunari ISHIHARA, Mariko OKAMURA, Keiko KOMATSU,「The Effect of Childrens Sports Activities on Life Habits:Sports Activities of Children in the Chikuho Region and Related Factors」福岡県立大学人間社会学部紀要、17(1),1-11,2008.

②その他最近の業績

＜調査研究報告書＞
・小松啓子・岡村真理子・中野榮子「筑豊地域における子ども達のキャリア形成を目指した総合的研究－小学生の生活活動と健康調査－」小松啓子代表『平成17年度福岡県立大学研究奨励交付研究成果報告』、2006年4月.
・小松啓子・岡村真理子・中野榮子「筑豊地域における子ども達のキャリア形成を目指した総合的研究－中学生の生活習慣・キャリア形成に関する調査－」2006年4月.
・小松啓子監修「北九州食育あり方検討会報告書」北九州市保健福祉局北九州食育あり方検討会、2006年.
・小松啓子・岡村真理子「香春町中学生の食生活と健康実態調査」2007年1月.
・小松啓子・岡村真理子「幼児にみられる極端な偏食に対して連続的な食生活体験を取り入れた食教育のあり方」『平成15年度基盤研究©一般報告書』2007年3月.
・小松啓子、上田毅、石川フカエ、岡村真理子、小嶋秀幹、中野榮子、夏原和美、安酸史子、吉岡和子「赤村住民のメタボリックシンドローム予防対策に関する総合的研究－住民の健康と生活に関する基本調査」福岡県立大学生涯福士研九センター研九報告叢書、38、2008年3月.
・小松啓子監修「平成19年度食育及び中学校給食に関する調査結果報告書」、北九州市食育推進会議、2008年7月.
・小松啓子監修「食育及び中学校給食に関する報告書【概要版】」、北九州食育推進会議、2008年7月.
・小松啓子、岡村真理子「福岡県の幼稚園における食育活動実態調査」2008年4月.

＜インタビュー＞
・小松啓子「特集 栄養カウンセリングを食育に生かそう」『食育』第72巻第7号、健学社、2007年3月.

＜連載＞
・小松啓子「子どもの食－給食時間を通して児童の心に近づく」『心とからだの健康』10巻99号、健学社、2006年5月.
・小松啓子「子どもの食－食事を一人で食べたがる子どもと家庭のあり方」『心とからだの健康』第10巻100号、健学社、2006年6月.
・小松啓子「子どもの食－極端な食生活が招く栄養の偏り」『心とからだの健康』第10巻101号、健学社、2006年7月.
・小松啓子「子どもの食－食育基本法を活用しよう」『心とからだの健康』第10巻102号、健学社、2006年8月.
・小松啓子「子どもの食－朝食を食べない子ども達の背景」『心とからだの健康』第10巻103号、健学社、2006年9月.
・小松啓子「子どもの食－朝食欠食からくる黄色のサインに気づく」『心とからだの健康』第10巻104号、健学社、2006年10月.
・小松啓子「子どもの食－みんなで取組もう早寝・早起き・おいしい朝ごはん」『心とからだの健康』第10巻105号、健学社、2006年11月.

・小松啓子「子どもの食－学童期は食行動の自立が完成する大切なとき」『心とからだの健康』第10巻106号、健学社、2006年12月.
・小松啓子「子どもの食－女子中学生にみられる健康面の課題とやせ願望」『心とからだの健康』第10巻107号、健学社、2007年1月.
・小松啓子「子どもの食－お菓子の選択方法に要注意」『心とからだの健康』第10巻108号、健学社、2007年2月.
・小松啓子「子どもの食－体調の不調を訴える女子中学生には栄養評価を」『心とからだの健康』第10巻109号、健学社、2007年3月.
＜その他の掲載＞
・北九州市食育あり方検討会委員長 小松啓子『北九州市食育あり方検討会報告書』北九州市保健福祉局、2006年8月.
・小松啓子「産業カウンセラーの目 第11回キャリアサポートセンターにおける産業カウンセラー」『らいふ』第5巻第12号、社団法人全国労働基準関係団体連合会、2006年12月.
・小松啓子「早起きすることはもともと、体にとって、ごく自然なことなのです」『クリム』、2008年3月、生活協同組合連合会コープ九州事業連合.
・小松啓子「朝ごはんを食べる、ということ」『クリム』、2008年3月、生活協同組合連合会コープ九州事業連合.

＜シンポジスト＞
・「第2回どうなるの田川？ どうするの田川！ まちづくり生討論!! 教育編」田川青年会議所主催(コーディネーター)2006年7月8日(於:田川市).
・「こどもの生活リズム向上のために、今取り組むべきこと」平成18年度福岡県社会教育研究大会、2006年9月20日（於:糟屋郡).
・「少子化問題を考える」男女共同参画社会を目指して遠賀川女性サミット、2006年10月29日（於:田川市).
・「生活リズムの中の食の役割について」　子どもの生活リズム向上全国フォーラムin福岡県、2007年1月13日（於:北九州市).
・「子どもの食について」　子どもの生活習慣を考えるーみんなで築く生活リズムー、2007年10月17日（於：福岡市）.
・「小児期の食生活の課題とメタボリックシンドローム予防」第28回日本肥満学会、2007年10月（於：東京、海運クラブ）.
・「女性の働く・キャリア形成の支援」分科会、キャリア・コンサルタント全国大会、2008年11月2日（於：東京、国学院大学）.
・「専門家としてのキャリア・コンサルタント～キャリア・コンサルタントの専門性とは」　キャリア。コンサルタント福岡大会、2008年8月3日（於：福岡市）.
・「食育とケアリング」第28回看護科学学会学術集会、2008年12月14日（於：福岡市）.

＜特別講演＞
・「栄養指導におけるカウンセリングスキルの向上をめざして」平成20年度福岡県栄養士会北九州支部総会、2008年4月19日（於：北九州市）.
・「子どもの健康と食育について」平成20年度子どもの健康をはぐくむ総合食育推進事業、豊後大野市教育委員会主催、2009年2月31日（於：豊後大野市立朝地小中学校）.
・「食育ってなあに？」新見子育てカレッジ「オープン記念講演」、新見県立短大主催、2008年6月28日（於：新見市）.
・「子どもの健康をめざす上での学校における食育の取組」平成20年度食育指導者研修会、大分県教育委員会主催、2008年10月24日（於：大分市）.
・「栄養教育の方法－栄養カウンセリングー」文部科学省「社会人の学び直しニーズ対応推進プログラム」事業、島根県立大学短期大学部主催、2008年6月16日（於：浜田市）.
・「効果的な栄養指導について」平成20年度健康と栄養を考える講演会、社団法人日本栄

養士会主催、2008年12月13日（於：福井市）.
・「行動変容につながる栄養カウンセリング」愛知県栄養士会生涯学習、2008年9月21日（於：名古屋市）.
・「はじめての食事～おいしい離乳食との出会い～」田川市0歳期教育親子教室、2008年10月7日（於：田川市）.
・「子どもの健全な食行動形成に重要な食教育のあり方」長峰小学校研究発表会、2008年11月12日（於：八女市）.
・「緑を取り戻した大学近郊と体にやさしい食育推進」平成20年度田川地域食育推進大会、2008年11月15日（於：大任町）.
・「食育の現状とあり方」食生活改善推進養成教室、嘉麻市主催、2008年3月10日（於：嘉麻市）.

<コーディネーター>
・第49会全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会、第4分科会「肥満・痩身傾向のある児童生徒への指導」2008年8月1日（於：久留米市）.
・九州保育研究会食育分科会「いま、食育を考える」2008年11月9日（於：北九州市）.
・「食べよう、伝えよう田川の食文化」平成20年度田川地域食育推進大会シンポジウム、2008年11月15（於：大任町）.

＜学会報告＞
・岡村真理子、小松啓子「幼児の編食行動に対してちびっ子農園活動を取り入れた連続的な食せ活体験の効果」第52回日本栄養改善学会（徳島市）、2005年9月.
・岡村真理子、小松啓子「学童期の男子にみられる朝食摂取に対する意識と朝食欠食の背景」第52回日本小児保健学会（下関市）、2005年10月.
・小松啓子、岡村真理子「幼児の食行動発達に対応した連続的な農園活動による食育の実践」第53回日本栄養改善学会（筑波国際会議場）、2006年10月.
・岡村真理子、小松啓子「朝食喫食時の意識が肥満を伴う児の健康と学習意欲に及ぼす影響」第27回日本肥満学会（神戸市）、2006年10月.
・岡村真理子、小松啓子「幼稚園における食育活動の取り組み」第1回日本食育学会総会学術大会.
・岡村真理子、小松啓子「幼児にみられる疲労症状と食せ活、生活リズムとの関連性について」第54回日本栄養改善学会（長崎市）、2007年9月.
・平成20年度メタボリック　大関先生　2008年6月27日、　東京都立産業貿易センター

３．外部研究資金
・独立行政法人日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（B）、「幼児の健全な食行動の形成に対して連続的な食生活体験を取り入れた食教育のあり方」、130万円（平成20年度）、平成18年度～平成20年度、共同研究.
・シダックス研究機構委託研究、「連続的な菜園活動体験と保護者の食意識が幼児の健全な食行動形成に及ぼす影響」499,999円（平成20～21年度）

４．所属学会
（社）日本産業カウンセラー協会（常務理事）、日本肥満学会（評議委員）、日本栄養改善学会（評議委員）、日本小児科学会、日本小児保健学会、日本ビタミン学会、日本化成学会、産業カウンセリング学会、日本栄養・食糧学会、日本臨床栄養学会、日本小児栄養消化器病学会、日本生活体験学会　各会員

５．担当授業科目
＜学部＞

人間社会学部：栄養学Ⅰ・2単位・2年・前期、栄養学Ⅱ・2単位・2年・後期、栄養学実習・1単位・3年・前期、小児栄養・2単位・3年・通年、栄養学演習・2単位・3･4年・後期～前期、卒業論文・6単位・4年・後期、保育内容・健康Ⅰ・1単位・3年・前期、保育内容・健康Ⅱ・1単位・3年・後期、発育論・2単位・1年・前期、
看護学部：栄養学・2単位・1年・後期
＜大学院＞
看護学研究科：食育学特論・2単位・1年・前期、食育学演習・2単位・1年・後期、ヘルスプロモーション看護学特別研究・8単・2年・通年、
人間社会学研究科：地域教育支援研究Ⅱ（食育）・2単位・1･2年・前期、地域教育支援演習Ⅱ（食育）・2単位・1･2年・後期

６．社会貢献活動

・田川市食育検討委員会　委員長
・北九州市食育推進会議　座長
・田川市男女共同参画審議会　委員長
・田川市0歳教室運営委員会　委員
・平成19年度若年者地域連携事業に関する企画審査委員会　委員長
・平成19年度インターンシップ受入企業開拓事業に係る企画審査委員会　委員長
・福岡県地方労働審議会　委員
・青少年アンビシャス運動筑豊地域推進委員

７．講演

・「食育について」糸島保育所講演会、2008年5月17日（於：糸島）.
・「主任保育士のメンタルヘルスケア」平成20年度保育所（園）主任級保育士研修、2008年6月20日（於：北九州市）.
・「学校における食育の推進」講演、北九州市学校栄養職員会議、北九州市教育委員会主催、2008年7月16日（於：北九州市）.
・「ストップ！セクハラ・パワハラ」財団法人21世紀職業財団福岡、2008年8月18日（於：福岡市）.
・「今どきの保護者の理解」平成20年度SP「子育てサポーター養成講座」短期講習会、2008年12月15日（於：田川市）.
・「子どもの食事と欠食」平成20年度SP「子育てサポーター養成講座」短期講習会、2008年12月16日（於：田川市）.
・「ストップ！セクハラ・パワハラ防止」財団21世紀職業財団長崎、2009年1月27日（於：長崎市）.
・「第1回栄養カウンセリング研修」佐賀県栄養士会、2009年1月27日（於：佐賀市）.
・「第2回栄養カウンセリング研修」佐賀県栄養士会、2009年2月24日（於：佐賀市）.

所属	人間社会学部　人間形成学科	職名	教授	氏名	秦　和彦

１．教員紹介・主な研究分野

(1) 教育行政学、教育制度論、教育政策論。
近代国家・社会の特徴を踏まえて、近代公教育の仕組みやそれに関わる政策、行政、改革動向などの分析。

(2) 幼児教育・保育論。
幼児教育・保育・子育て支援に関する政策やその制度、内容に関する分析。

２．研究業績

①最近の著書・論文

(1) 秦　和彦・古橋啓介・細井　勇・林ムツミ「田川地域の市町村の次世代育成支援対策行動計画について－田川地域の子育て意識調査結果からみた課題－」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 15 巻第 2 号、pp. 49-71、2007 年 3 月。

(2) 細井 勇・古橋啓介・秦 和彦・宮城由美子・吉川未桜・林ムツミ『福岡市における子育て意識調査－子育て意識と子育て支援に関する実態とニーズ－』福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター『研究報告叢書』Vol.34, 2008年3月。

②その他最近の業績

特になし

□過去の主要業績

(1) 古橋 啓介・秦 和彦・細井 勇・林ムツミ「田川地域における子育て意識調査」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第8巻第1号、pp. 113-134、1999年12月。

(2) 古橋 啓介・秦 和彦・細井 勇・林ムツミ「田川地域における子育て意識調査 Ⅱ」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第10巻第2号、pp. 97-118、2002年3月。

(3) 古橋啓介・秦 和彦・細井 勇・林ムツミ・本多潤子「田川地域における保育者の子育て意識調査」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第12巻第2号、pp. 55-74、2004年3月。

(4) 細井 勇・古橋啓介・秦 和彦・林ムツミ・本多潤子「田川地域における高校生の子育てについての意識調査」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第13巻第2号、pp. 51-74、2005年3月。

３．外部研究資金

なし

４．受賞

なし

５．所属学会

・日本教育行政学会
・九州教育学会
・日本保育学会

６．担当授業科目

【学部】

教育学概論・2 単位・1 年・前期、保育者論・2 単位・1 年・後期、保育学・4 単位・2 年・通年、保育実習指導・3 年・前期、保育実習Ⅰ・5 単位・3 年・前期、保育実習Ⅱ・2 単

位・3 年・後期、施設実習・2 単位・3 年・後期、幼稚園教育実習Ⅰ・2 単位・3 年・後期、幼稚園教育実習事前事後指導・1 単位・3 年後期～4 年前期、演習・2 単位・3 年後期～4 年前期、幼稚園教育実習Ⅱ・2 単位・4 年・前期、保育総合演習・2 単位・4 年・前期、卒業論文・6 単位・4 年・後期。

【大学院】

地域と子育て研究Ⅰ・2 単位・1・2 年・前期、地域と子育て研究Ⅱ・2 単位・1･2 年・後期、地域と子育て演習・2 単位・1･2 年・後期、特別研究・4 単位・1～2 年・通年。

７．社会貢献活動

・糟屋郡保育士会研究部会講師（1999 年 4 月から現在に至る）

・遠賀・中間地区保育士会研究部会講師（2003 年 4 月から現在に至る）

８．学外講義・講演

・オープンキャンパス模擬授業「保育というお仕事」2008年8月9日

９．附属研究所の活動等

・生涯福祉研究センター兼任研究員

・生涯福祉研究センター・研究プロジェクト「子育て支援」研究員

所属	人間社会学部　人間形成学科	職名	教授	氏名	福田　恭介

１．教員紹介・主な研究分野

1984年九州大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。佐賀女子短期大学助教授を経て1993年に本学に着任。主に以下の2つの研究に従事しています。

「目は心の窓」

われわれは，本を読んだり自動車を運転したりするときにも，さまざまに目を動かし外の世界からの情報を取得します．とりわけ「まばたき」は，ただ目の保護・防衛のため反射的に生じているだけでなく，ヒトの心の動きと関連して起きていることを調べています。まばたきのタイミングが，心の動きによって遅れたり早まったりすることを発見しました。

「お父さんとお母さんの学習室：ペアレントトレーニング」

発達に遅れを持つ子どもの親を，自分の子どもの療育者として仕立て上げるために，さまざまな養育技法を親に教えています．これをペアレントトレーニングと呼んでいます．これを通して，親の子どもを見る目が変わり，親としての自信を回復しています．それぞれの親にとって，どのような技法がより適切なのか，また他にどのような関わり方があるのかを新たに開発していっています．学校や保育所の先生方にも，このやり方は役立つことを提唱しています。

２．研究業績

①最近の著書・論文

＜論文　2007年以降＞

- 福田恭介・早見武人・志堂寺和則・松尾太加志　(2007)「ビジランス課題中における持続性瞬目と一過性瞬目」　福岡県立大学人間社会学部紀要　15 (2)，27-35.
- 藤本夏美・福田恭介 (2007)「ペアレントトレーニング情報提供による 4 歳児をもつ親の養育態度の変化」　16 (1) 109-121.
- K. Fukuda, T. Hayami, K. Shidoji, & T. Matsuo (2008)　The effect of stimulus location and Inter-Stimulus Intervals (ISI) upon blink activity. I*nternational Journal of Psychophysiology* 69 (2008)　229-230.
- 福田恭介・文屋俊子・夏原和美・宮崎昭夫　(2009)　「学生による比喩表現を用いた現実と理想の授業評価」　福岡県立大学人間社会学部紀要　17 (2) 81-93.
- 福田恭介 (2009) 「かんしゃくを起こす小学生男児に対するペアレントトレーニング」　福岡県立大学心理臨床研究　創刊号　13-19.
- 藤本夏美・福田恭介　「ペアレントトレーニング情報提供が乳幼児をもつ親の養育態度に及ぼす影響」　福岡県立大学心理臨床研究　創刊号31-42.

②その他最近の業績

＜報告書＞

- 福田恭介・早見武人・志堂寺和則・松尾太加志　(2008)「記憶負荷を伴うビジランス多重課題中における瞬目活動」　平成 18 年度～平成 19 年度学術振興会科学研究費補助金（基盤研究 C）研究成果報告書（2008）

＜学会発表など　2008年以降＞

- 福田恭介　「なぜまばたきするの？」NHK 総合テレビ「解体新ショー」2008 年 1 月 19 日
- 早見武人・福田恭介・松尾太加志・志堂寺和則,瞬目入力作業が瞬目パターンに与える影響,第 26 回日本生理心理学会,2008 年 7 月 5 日
- 福田恭介・早見武人・志堂寺和則・松尾太加志,英語・アラビア数字の奇数・偶数弁別課題における瞬目潜時と反応時間,第 26 回日本生理心理学会,2008 年 7 月 5 日
- 福田恭介・早見武人・志堂寺和則・松尾太加志,処理時間と瞬目潜時,日本心理学会第 72 回大会,2008.09.

・ 14th World Congress of Psychophysiology the Olympics of the Brain Symposium 34: Psychophysiology of Ocular Phenomena St. Petersburg, Russia, September 12th, 2008 に Discussant として参加

③過去の主要業績
＜著書＞
・ 田多英興・山田冨美雄・福田恭介 (1991)「まばたきの心理学－瞬目行動の研究を総括する－」北大路書房
・ 免田賢・伊藤啓介・大隈紘子・陣内咲子・温泉美雪・福田恭介・山上敏子(1998)「お母さんの学習室」二瓶社

３．外部研究資金
なし

４．受賞
なし

５．所属学会
日本生理心理学会編集委員
九州心理学会，日本心理学会， Society of Psychophysiological Research（SPR），日本行動療法学会，日本心理臨床学会会員，Psychophysiology in Ergonomics (PIE) 各会員

６．担当授業科目
実験測定法Ⅰ・２単位・ ２年前期，実験測定法Ⅱ・２単位・２年後期，教育心理学概論・２単位・２年後期，知覚心理学・２単位・ ３年前期，認知心理学・２単位・３年後期，演習・２単位３年後期-４年前期，卒業論文・６単位・４年後期，心理学研究法特論・２単位・修士１年前期，認知心理学特論・２単位・修士１年後期，臨床心理基礎実習・２単位・修士１年前期，臨床心理実習・１単位・修士２年前後期，特別研究・４単位・修士１・２年通年

７．社会貢献活動
・ 論文の査読：生理心理学と精神生理学，認知心理学
・ NPO法人クリエイティブ・スローライフ 子育て支援委員会委員

８．学外講義・講演
・ 産業カウンセラーシニアコース研修「行動理論」講師 2008.4.12
・ 博多女子高等学校出前授業「目は口ほどにものを言う」講師 2008.9.17
・ 産業カウンセラーシニアコース研修「教育指導」講師 2008.11.1
・ 福岡県立京都高等学校出前授業「心理学とは」講師 2008.11.29
・ 博多女子高等学校出前授業「目は口ほどにものを言う，というのは本当か？」講師 2009.1.21

９．附属研究所の活動等
・ 生涯福祉研究センター兼任研究員
・ 生涯福祉研究センタープロジェクト「ペアレントトレーニング（お父さんとお母さんの学習室）」の企画と運営
・ 生涯福祉研究センタープロジェクト「特別支援教育スキルアッププログラム」の企画と運営

所属	人間社会学部　人間形成学科	職名	教授	氏名	古橋　啓介

１．教員紹介・主な研究分野

・高齢者の記憶研究　加齢に伴い全体的に記憶能力は減退するが、短期記憶、長期記憶、作業記憶などの記憶の種類の中にはそれほど減退しない記憶能力もある。記憶システム論の立場から、記憶の生涯発達過程を実証的に明らかにする研究を行っている。とくに、高齢者が計算課題や音読課題を行うことにより記憶能力の減退を防止することが出来るかという問題を科学研究費の助成を得て検討している。
・子育て支援研究　地域の子育ての実態と保護者の意識等を調査し、子育ての効果的支援のあり方を研究している。本年は福岡市（日本）と大邱市（韓国）の調査を行い、両市の比較研究を行った。
・生涯発達支援に関する研究　地域において対人援助職についている人たちを対象に、心理的支援の実践について研修会講師等の活動を通じて行っている。

２．研究業績

①　最近の著書・論文

・古橋啓介 2009 高齢者記憶研究が心理臨床場面に役立つために　福岡県立大学心理臨床研究　1,91-95.
・岡田圭代・古橋啓介 2009 対人関係に悩みを持つ中学生に対するソーシャルスキルトレーニングの効果　福岡県立大学心理臨床研究　1,45-52.
・吉澤佳代子・古橋啓介 2009 中学校におけるスクールカウンセラーの活動に対する生徒の評価　福岡県立大学心理臨床研究　1,53-66.
・古橋啓介　2008　高齢者における記憶と自己　心理学評論　51(1),151-161.
・岡田圭代・古橋啓介　2008　小学生の対人交渉方略に及ぼすソーシャルスキルトレーニングの効果　福岡県立大学人間社会学部紀要　17(2),33-46.
・吉澤佳代子・古橋啓介　2008　中学校におけるスクールカウンセラーの活動に対する教師の評価　福岡県立大学人間社会学部紀要　17(2),47-66.
・古橋啓介　2007 高齢者の記憶機能における計算訓練の効果　福岡県立大学人間社会学部紀要　16(1),85-89.
・田代輝浩・古橋啓介 2007 児童のストレス反応軽減に及ぼすソーシャルスキルトレーニングの効果　福岡県立大学人間社会学部紀要　16(1),143-156.
・秦和彦・古橋啓介・細井勇・林ムツミ 2007 田川地域の市町村の次世代育成支援対策行動計画について　―田川地域の子育て意識調査結果から見た課題―　福岡県立大学人間社会学部紀要　15(2),49-71.
・国枝幹子・古橋啓介　2006 児童期における友人関係の発達　福岡県立大学人間社会学部紀要　15(1),105-118.
・坂本康子・古橋啓介　2006 女子大学生における理想の生き方と育児感について　福岡県立大学人間社会学部紀要　15(2),119-137.
・細井勇・古橋啓介・秦和彦・林ムツミ・本田潤子　2006 地域の子育て支援に関する研究　福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告書　vol.21.

②その他最近の業績

・シンポジウムパネリスト
日・韓子育て支援シンポジウム　2009　古橋啓介　福岡市における子育て意識調査概要
・国際学会発表
XXIX International Congress Of Psychology　2008　Effect of performing arithmetic and reading aloud on memory tasks in the elderly. Yoshida,H.,Furuhashi,K.,Okawa,I. and

Tsuchida,N.
・学会ワークショップ話題提供
日本心理学会第71回大会　2007　加齢に伴う記憶・抑制機能の変化及び介入

③過去の主要業績
・古橋啓介・門田光司・岩橋宗哉　2004　子どもの発達臨床と学校ソーシャルワーク　ミネルヴァ書房
・古橋啓介　2003　記憶の加齢変化　心理学評論　45(4),466-479.
・古橋啓介　1995　概念学習における仮説検証行動の研究　風間書房
・古橋啓介　1979　選択事態における自発的仮説抽出行動　心理学研究　50(1),9-16.

３．外部研究資金
・科学研究費代表　基盤(C)、健康高齢者の記憶機能における計算訓練課題の効果、3400千円、2008-2010.
・科学研究費分担　基盤(B)、加齢に伴う抑制・記憶・前頭葉機能の変化に関する研究、4800千円、2006-2008.

４．受賞
なし

５．所属学会
・日本心理学会、日本教育心理学会、日本発達心理学会、日本心理臨床学会

６．授業科目
・発達心理学Ⅰ・２単位・1年次前期、発達心理学Ⅱ・2単位・1年次後期、発達心理学Ⅲ・2単位・2年次後期、学習心理学・2単位・３年次前期、演習・2単位・3年次後期～4年次前期、卒業論文・6単位・4年次後期、発達心理学特論・2単位・1/2年次前期、臨床心理学研究法・2単位・1/2年次後期、臨床心理実習・1単位・通年、臨床心理基礎実習・2単位・通年、特別研究・4単位・1～2年次・通年

７．社会貢献活動
・北九州いのちの電話評議員
・田川市就学指導委員会委員
・筑豊地区教育相談ネットワーク会議委員

８．学外講義・講演
・北九州市社会福祉研修所　「保育士のカウンセリング研修」　3日
・北九州いのちの電話　「カウンセリングと対人援助」・「発達課題」2回
・北九州市社会福祉研修所　「社会福祉等援助技術研修」1回
・北九州市社会福祉ボランティア大学　「介護従事者のカウンセリング」全3回

９．附属研究所の活動等
・生涯福祉研究センター兼任研究員
・生涯福祉研究センター研究プロジェクト「地域の子育て支援に関する研究」分担

所属	人間社会学部　人間形成学科	職名	教授	氏名	森山　沾一

１．主な研究分野

これまでの研究は教育・学習と地域社会との関連をマイノリティの視点から行ってきた。もともと、実践的研究に関心を持ち、現在はそれに加えて、「まちづくりと生涯学習」を、田川地区に焦点をあて、地域資源(ひと・文化・自然・歴史)を活かしたまちづくりを総合的に研究している。分野で紹介すれば以下の４つである。

(1)　世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生事業―産・官・民・学が協働するエコツーリズムの実現―

(2)　地域教育社会学的方法によるマイノリテイ(少数者)と生涯学習に関する研究

(3)　田川・筑豊地域のまちづくり・文化発信システムに関する研究
―山本作兵衛日記・資料の解読、田川地区の地域資源を活かすまちづくり施策―

(4)　人権・同和教育の地域的展開と今後の方向性の究明

２．研究業績

①　著書・論文

＜著書＞

（１）『にんげん・羽音豊』（共著）森山沾一・安蘓龍生・堀内忠　海鳥社 2007 年 5 月

（２）『教育格差拡大―希望の公教育・＜人間の森＞づくり』（編著）森山沾一・嶺正也・池田賢市・広瀬義徳・宮崎晃臣　国民教育文化総合研究所　2006 年 7 月

（３）森山沾一・方如偉「第７章　現代中国における成人教育体験と意識」森山沾一「補論　日本・中国　子どもの行方」『「改革・開放」下中国教育の動態―江蘇省の場合を中心に―』（共著）阿部洋編著・朱小蔓・陳敬朴・木山徹哉・一見真理子・李秀英・清田勝彦・趙志毅・呉康寧・朱乃識・賀暁星　東信堂　　2005 年 12 月

＜論文＞

（１）‘The Innovation and Reform of Higher Education and Student Affairs in Japan’
（国立台湾師範大学国際学術シンポジウム報告書）　　2006 年 5 月

（２）「福岡市における民族関係の調査～目的と方法～」
平成 14～17 年度科学研究費補助金（基盤研究 A）研究成果報告書『エスニック・コミュニティの比較都市社会学』所収　　西村雄郎・谷和明・稲月正・柳井良枝
朝日、西日本新聞等で報道　　2006 年　3 月

（３）「教育における格差研究委員会中間報告―教育における格差問題を考えるために―」『教育総研年報２００５』所収（共著・代表）森山沾一・嶺井正也・池田賢市・広瀬義徳・宮崎晃臣　　日本教育文化総合研究所　　2005 年　６月

②　その他の業績　　＜調査研究報告書＞

（１）内閣府報告書『世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生事業―産・官・民・学が協働するエコツーリズムの実現―』(プロジェクト代表)　　2009 年 3 月(予定)

（２）『山本作兵衛日記・資料集』第７巻（研究叢書 38 巻）
福祉研究センター発行　　2009 年 3 月(予定)

（３）『山本作兵衛日記・資料集』第７巻（研究叢書 34 巻）
福祉研究センター発行　　2008 年 3 月

（４）『癒学（ゆがく）の郷―田川地域長期振興戦略プラン』　福岡県立大学
2007 年 10 月

（５）『山本作兵衛日記・資料集』第６巻（研究叢書 30 巻）
福祉研究センター発行　　2007 年 3 月

（６）「教育基本法改悪の内容と私たちの向き合いかた」『解放教育』　2007 年 3 月号

（７）「『福岡県同和地区生活実態調査報告書』の概要と見解」　　2006 年 12 月

（８）『山本作兵衛日記・資料集』第５巻（研究叢書２２巻）
福岡県立大学生涯福祉研究センター発行　　2006 年 3 月
（９）『人権ふるさと講座―記録及び資料集―』（監修・共著）福岡市堅粕団地事業
企画委員会　　2005 年 7 月
（10）『これからの人権教育・啓発―資料集―』（単著）社団法人・福岡県人権研究所
2005 年 5 月

＜学会発表・学会講演等＞

（１）「自治体改革と社会教育の再編―自治体における新たなガバナンス形成の可能性を探る・福岡県田川郡福智町の事例を中心にして」　鹿児島大学
日本社会教育学会九州・沖縄研究集会でのシンポジウム指定発表
（２）「世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生事業ー産・官・民・学が協働するエコツーリズムの実現―」第 58 回日本社会教育学会　　和歌山大学　2008 年 9 月
（３）「グラムシ没後 70 周年記念シンポジウム「部落解放運動の体験をふまえ戦後知識人を批判的にとらえかえす」　　明治大学　　2007 年 12 月 2 日
（４）「グローバル時代における＜ローカルな知＞ー山本作兵衛の文化を＜読む＞（２）－」
第５９回九州教育学会　琉球大学　　2007 年 11 月
（５）「グローバル時代における＜ローカルな知＞ー山本作兵衛の文化を＜読む＞（１）－」
第５８回九州教育学会　長崎大学　　2006 年 11 月
（６）日本社会教育学会プロジェクト研究シンポジウム「グローバル時代のローカルな知」司会まとめ　　第 56 回日本社会教育学会　　福島大学　2006 年 9 月
（７）「日本の若者・大学生の特徴とキャリア教育の必要性」（Characteristics of Japanese students & adolescents and education　issues―Case study of Fukuoka Prefectural Univ.）ラウンドテーブル発表　（国立台湾師範大学国際学術シンポジウム・報告書）
国立台湾師範大学　　2006 年 5 月
（８）「花と緑のまち新田川創生プランパネルディスカッション」コーディネーター
新田川創生プラン推進委員会・田川市　　2006 年 3 月
（９）「『学力』問題について考える」シンポジウム　基調提案・コーディネーター
第５５次教育研究三重県集会（三重県津市）　　2005 年 10 月
（10）「教育における格差問題を考える」シンポジウム（座長）
第 15 回教育総研教育研究集会（鹿児島県鹿児島市）　　2005 年　7 月

＜審議会答申等＞

「福智町行財政改革審議会答申～健康長寿の里・福智町がさらに良くなるために～」
福智町行財政改革審議会(座長)　　2007 年　2 月

＜インタビュー・新聞記事＞

「福智町行革委　職員削減など求め町長に答申書提出」毎日・読売・朝日・西日本新聞筑豊版 2007 年 2 月 7 日、「作兵衛日記ヤマ活写―楽なし苦あり・・・之も我等の一生」読売新聞全国版 2006 年 6 月 7 日、「グラフふくおか」（福岡の人）2005 年 8 月 9 日、「就学も就労もしない若者（ニート）が急増している背景に迫り、対応の仕方などを考えるシンポジウム」毎日新聞　2005 年 08 月 28 日　など

＜書評・評論＞

西日本新聞　書評　「鹿児島藩　農民のいきいきとした生活を描き出す」2006 年 12 月 24 日（松下志朗『鹿児島藩の民衆と生活』南方新社　2006 年 9 月）　「ハンセン病の父との葛藤」2005 年 9 月 20 日（林力『山中捨五郎記―宿業をこえて』皓星社 2006 年 6 月）「『部落解放史・ふくおか』から『リベラシオンー人権研究ふくおか』へ」（社・福岡県人権研究所『リベラシオン』2006 年 6 月）　など

３．　　外部研究資金

内閣府地方の元気再生事業「**世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生事業―産・官・民・学が協働するエコツーリズムの実現―**」2008 年度（2､852 万円）

財団法人福岡県産炭地域振興センター、「田川地域の長期的な地域振興戦略に係る地域資源活用方策調査研究事業」平成１８年度（283,5 万円）～１９年度（320 万円）　共同研究代表

４．　　受賞・・・なし

５．　　所属学会

日本社会教育学会(理事・査読委員)、日本教育学会、日本教育社会学会、日本生活体験学習学会(理事)、九州教育学会（査読委員）など

６．担当授業科目

（学部）

人権論・２単位・１年・前期、社会教育特論A・2単位・2年・後期、教育社会学・２単位・３年・前期

(大学院)

地域教育支援研究Ⅰ・２単位・1～２年・前期、地域教育支援研究Ⅱ（演習）・２単位・1～２年・後期、地域教育支援特別研究・２単位・１～２年・通年、フィールドワーク・２単位・１年・後期

７．　　社会貢献活動

（独立行政法人）大学評価・学位授与機構専門委員、（社団法人）福岡県人権研究所理事長、　福岡県アンビシャス運動本部推進委員、福岡県同和問題をはじめとする人権問題に係る啓発・研修講師団世話人、福岡市人権問題講師陣委員、全国教育研究者ネット会議世話人、花と緑のまち新田川創生プラン推進委員会座長、福岡県立大学・田川地域連携推進協議会会長など

８．学外講義・講演

大分県、佐賀県、長崎県、鹿児島県、東京都などで教育、人権問題の講演・シンポジウム　　福岡県立城南高等学校などで「県立大学での学び」を講演

９．附属研究所の活動等

県立大学附属研究所調整部会委員　生涯福祉研究センター兼任研究員

生涯福祉研究センタープロジェクト「筑豊文化発信システムに関する研究」顧問

所属	人間社会学部　人間形成学科	職名	准教授	氏名	岩橋　宗哉

１．教員紹介・主な研究分野

1992年　九州大学大学院教育学研究科教育心理学専攻博士課程単位取得後退学。九州大学教育学部助手（心理教育相談室主任兼務）、緑風会水戸病院臨床心理士、久留米大学医学部神経精神医学講座助手を経て、2001年より福岡県立大学に勤務。（１）現在まで、主に病院において精神分析的心理療法を行ってきた。治療関係の中でクライエントの内的世界をともに体験しながら、対象関係論的な観点からクライエントの転移を理解し、その理解をもとにどのようにクライエントに関わり、理解を伝えていくことが治療的であるのかを明確にしていくことを最も重要な研究分野としている。（２）どのような立場に立つ心理療法であれ、クライエントが主体になることを援助している側面があると考える。主体的になることを援助するかかわりとはどのようなものか、つまり、多様な心理療法に共通する中核的なかかわりとはどのようなもので、それを現実に行っていくためにはどのような条件が必要かということを明らかにしていきたいと考えている。それは、臨床心理行為を明確化することでもある。（３）臨床心理士養成の初期段階で、臨床心理行為の重要性と特性を習得するための養成モデルを構想していきたいと考えている。

２．研究業績

①　最近の著書・論文

・岩橋知子・宮田正和・岩橋宗哉「個別相談以外の学生相談活動の動向」
　『キャンパスヘルス』42（1）2006年1月
・岩橋宗哉「臨床心理職養成モデル構築への試案-初期教育に対する1つの視点 - 」
　『追手門大学地域支援研究センター附属心のクリニック紀要』第3号　2006年12月
・岩橋宗哉「クライエントを理解するためのいくつかの枠組み」『福岡県立大学心理臨床研究』創刊号　2009年3月
・吉岡和子・中村晋介・麥島剛・岩橋宗哉「中高年求職者に対する心理的支援プログラムの試み」『福岡県立大学心理臨床研究』創刊号　2009 年 3 月

②その他最近の業績

・座長　事例研究「生活の中で心理的援助をおこなうこと - 児童養護施設だからできる心理的援助を探る - 」日本心理臨床学会第25回大会（大阪）2006年9月
・指定討論者　自主シンポジウム「臨床心理養成課程モデル構築への試案 - 現状を踏まえて」日本心理臨床学会第25回大会（大阪）2006年9月
・　岩橋宗哉　「はくぐみ、そだてるために」『福岡県立大学心理臨床研究』創刊号　2009年3月

③過去の主要業績

・岩橋宗哉・大崎知子「間主観的な場における体験の具体化とそれへの主観的妥当性確認について」『心理臨床学研究』第16巻第2号　1998年6月
・岩橋知子・岩橋宗哉「重度痴呆性老人の体験を共有しようとする試み―抱える環境としてのプレバーバルな関わり―」『心理臨床学研究』第17巻第1号　1999年4月
・岩橋宗哉「結合両親像によって破壊され創造される自己の方向感覚―精神分裂病者との心理療法過程から―」『心理臨床学研究』第17巻第６号　2000年2月

３．外部研究資金

なし

４．受賞

５．所属学会

日本心理臨床学会、日本精神分析学会、日本人間性心理学会

６．担当授業科目

心身科学B・2単位・2年・後期、臨床心理学・2単位・3年・前期、演習・2単位、3～4年、通年、教育相談・2単位・4年・前期、卒業論文、6単位、4年・通年、臨床心理基礎実習・2単位・1年・通年、臨床心理学特論・4単位・1,2年・通年、臨床心理実習・2単位・2年・通年、心理臨床実習（施設）・1単位・2年・前期、特別研究・４単位・1～2年・通年、臨床心理学特論（看護学研究科）・2単位・1年・後期

７．社会貢献活動

・九州大学発達臨床心理センター面接指導員
・久留米大学病院精神神経科付属カウンセリングセンター臨床心理士

８．学外講義・講演

・不登校ひきこもりサポートセンター公開講座「不登校問題解消のために」
「子どもたちへのよりよい援助・支援にために」　講師　2008年11月５日
・福岡ヘソの会事例検討会　講師　2008年12月13日

９．附属研究所の活動等

生涯福祉研究センター心理教育相談室　室長
不登校・ひきこもりサポートセンター　幹事

所属	人間社会学部　人間形成学科	職名	准教授	氏名	桜井　国芳

１．教員紹介・主な研究分野

1995年上越教育大学大学院学校教育研究科芸術系コース（美術）修了。1998年、本学に着任。絵画制作を主な研究主題とし、公募展やグループ展への出品を続けている。
授業は、保育士や幼稚園教諭養成のための「造形」や「表現」などを担当している。

２．研究業績

①最近の著書・論文

なし

②その他最近の業績

＜作品発表＞
- 平成18年10月　第74回独立展（独立美術協会・東京都美術館）
- 平成19年３月　福岡独立展（福岡市美術館）
- 平成19年10月　第75回独立展（独立美術協会・国立新美術館）
- 平成20年５月　福岡独立展（福岡市美術館）
- 平成20年10月　第76回独立展（独立美術協会・国立新美術館）
- 平成21年１月　福岡独立展（福岡市美術館）
- 平成21年３月　独立新人選抜展（独立美術協会・東京都美術館）

③過去の主要業績

＜学術論文＞
- 平成11年９月　「構成的表現・モダンテクニックに見られる表現過程の在り方」
『福岡県立大学紀要』第８巻第１号　81ー93p

＜作品発表＞
- 平成16年10月　第72回独立展（独立美術協会・東京都美術館）
- 平成15年10月　第71回独立展（独立美術協会・東京都美術館）

３．外部研究資金

なし

４．受賞

なし

５．所属学会

大学美術教育学会、絵本学会

６．担当授業科目

造形Ⅰ・２単位・１年・通年、造形Ⅱ・２単位・２年・通年、保育内容表現Ⅰ・１単位・

３年・前期、保育内容表現Ⅱ・１単位・３年・後期、保育内容演習・２単位・４年・通年、演習・２単位・３年後期〜４年前期、卒業論文・６単位・４年・後期

７．社会貢献活動

田川市美術館協議会委員

８．学外講義・講演

なし

９．附属研究所の活動等

なし

所属	人間社会学部　人間形成学科	職名	准教授	氏名	藤澤　健一

１．教員紹介・主な研究分野

教育学を専攻しています。教育学は、教授学習過程の分析と、組織運営過程の分析に二分されますが、このうち後者に属する、教育の制度・政策の歴史的研究が専門です。具体的には、近現代の沖縄における教育制度・政策史を基軸とした研究に取り組んでいます。

近年は、教育制度・政策が実態レベルでどのように運用されていたのかを探るため、教員史または教育実践史についての調査研究に着手しつつあります。

歴史的研究の要は史料です。公文書、行政史料をはじめとした地域教育史にかかわる基礎史料についての系統的な調査を従来どおり進めていく予定です。

２．研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

『沖縄に向き合う』シリーズ沖縄・問いを立てる１（共編）社会評論社、2008 年 7 月

〈論文〉

「教育行政学における権力認識の展望」（単著）日本教育行政学会編『日本教育行政学会創立 40 周年記念誌』所収、教育開発研究所、2006 年 10 月

科学研究費補助金若手研究（Ｂ）『近代沖縄における自由教育運動の思想と実践に関する基礎的調査研究』研究成果報告書（単著）、2007 年 3 月

科学研究費補助金基盤研究（Ｂ）『日本の植民地教育実態に関する総合的国際共同研究』研究成果報告書（共著）、2007 年 3 月

「国家に抵抗した沖縄の教員運動」『反復帰と反国家―「お国は？」』所収、シリーズ沖縄・問いを立てる６（編著）社会評論社、2008 年 11 月

「沖縄県初等教育研究会の基礎的研究」（単著）科学研究費補助金基盤研究（Ｃ）『近代沖縄における教育実践史に関する実証的研究』研究成果報告書、2009年3月予定

②その他の業績

〈調査報告〉

「日本における『植民地教育史研究』についての短信」韓国教育史学会『韓国教育史学』（ハングル文、日本文併載）第 29 巻第 1 号所収、2007 年 4 月、279～291 頁

〈テキスト〉

『要説　教育制度[新訂第二版]』（分担執筆）学術図書出版社、2007 年 10 月

〈書評〉

「書評　近藤健一郎著『近代沖縄における教育と国民統合』」（単著）日本教育学会編『教育学研究』第74巻第1号所収、2007年3月

③過去の主要業績

『近代沖縄教育史の視角―問題史的再構成の試み』（単著）社会評論社、2000年4月

『沖縄／教育権力の現代史』（単著）社会評論社、2005年10月

３．外部研究資金

科学研究費補助金基盤研究（Ｂ）「近代沖縄における教育実践史に関する実証的研究」（2006 年 4 月～2009 年 3 月）研究分担者

科学研究費補助金若手研究（Ｂ）「近代沖縄の小学校における郷土教育実践に関する基礎的調査研究」（2007年4月～2010年3月）研究代表者

４．受賞

該当なし

５．所属学会

日本教育制度学会　日本教育政策学会　日本教育行政学会　日本教育学会各会員

６．担当授業科目

教育史・２単位・２年前期、教育思想論・２単位・２年後期、比較教育学・２単位・２年後期、総合演習（分担）・２単位・３年前期、教育実習事前事後指導・２単位・３年後期から４年前期、国際教育文化交流論・２単位・３年後期、演習・２単位・３年後期、卒業研究・４年、地域と学校教育研究Ⅰ・２単位・大学院、地域と学校教育研究Ⅱ・２単位・大学院、地域と学校教育演習・２単位・大学院

７．社会貢献活動

日本教育政策学会理事

８．学外講義・講演

９．附属研究所の活動等

生涯福祉研究センター兼任研究員

所属	人間社会学部　人間形成学科	職名	准教授	氏名	麦島　剛

１．教員紹介・主な研究分野

発達障害・注意の障害・ストレス関連疾患についての生理心理学的研究

ADHDや自閉症などの発達障害、統合失調症等に見られる注意に関する障害、ストレスに関連する疾患、認知症には、中枢神経機能の変化が関与すると考えられる。そこで、神経生理学・行動薬理学・学習心理学の手法と理論を用いて、薬物による中枢神経系の活動変化・ストレス負荷・神経系の先天的異常が、電気生理学的神経活動・学習・社会行動・不安に対してどのような影響をもつのかを検討している。具体的には、おもに、以下の可能性を探求している。１）統合失調症患者にみられる「しなやかな認知の障害」がcatecholamine神経系の活動異常により生じ、これがストレスと関係すること。２）てんかん患者にしばしばみられる衝動性の高さを、そのモデル動物を用いて、オペラント学習理論により説明すること。３）benzodiazepine受容体サブタイプによる不安やストレス反応への関与の違い。これらの解明は、理論的進歩のみならず、より効果的な治療薬の開発や、より構造化された心理療法（行動療法）の開発の一助となると考えられる。

さらに老年心理学や進路指導論の立場から、地域貢献を主眼とした研究を遂行している。

２．研究業績

①最近の著書・論文

・麦島 剛 (2009) 第10章 学習. 西本武彦・大薮泰・福沢一吉・越川房子 編著『現代心理学入門　進化と文化のクロスワード』川島書店, (印刷中).

・麦島 剛 (2009) 学習の神経基盤. うつはいかに学習されるか. 西本武彦・大薮泰・福沢一吉・越川房子 編著『現代心理学入門　進化と文化のクロスワード』川島書店, (印刷中).

・麦島 剛・上野行良・中村晋介・本多潤子 (2006) 少年非行に影響を与える要因　－地域の物理的環境と中学生の非行容認度との関係－. 福岡県立大学人間社会学部紀要, 15 (1) 85-91.

・麦島剛. 注意欠陥多動性障害（ADHD）をめぐる動向：新たな研究法の確立に向けて. (2006) 福岡県立大学人間社会学部紀要, 14 (2), 51-63.

・Ishizaki, R., Shinba, T., Mugishima, G., Haraguchi, H., Inoue, M. (2007) Time-series analysis of sleep- wake stage of rat EEG using time-dependent pattern entropy. Physica A: Statistical Mechanics and its Applications, 87 (13), 3145-3154.

・上野行良・中村晋介・本多潤子・麦島 剛 (2009) 中学生の万引き行為に影響する要因. 福岡県立大学心理臨床研究, 1, (印刷中).

・吉岡和子・中村晋介・麦島 剛・岩橋宗哉 (2009) 中高年求職者に対する心理支援プログラムの試み. 福岡県立大学心理臨床研究, 1, (印刷中).

②その他最近の業績

〈研究報告書〉

・麦島 剛 (2006) 調査結果の分析 －中学生のキャリア形成－. 『平成17年度筑豊地域における子ども達のキャリア形成をめざした総合的研究 －中学生の生活習慣・キャリア形成に関する調査－』 Pp. 48-69.

・岩橋宗哉, 本多潤子, 麦島 剛 (2006) 調査結果の分析 －小学生高学年の自己効力感－.『平成17年度筑豊地域における子ども達のキャリア形成をめざした総合的研究 －小学生の生活活動と健康調査－』 Pp.78-83.

・麦島 剛 (2007) 地域の物理的環境と非行との関連. 『少年非行の促進要因と抑制要因 －福岡県の少年非行に関する調査－ 第1部』Pp.58-68.

・麦島 剛 (2007) 保護者の生計・金銭感覚と行政への期待. 『少年非行の促進要因と抑制要因 －福岡県の少年非行に関する調査－ 第2部』 Pp.174-180.

〈学会報告〉

・Nakamoto Y, Nakamura K, Mugishima G, Sato M, Miwa M, Yoshii M, (2006) Polymorphism of the human PBR gene in relation to stress responses. Am J Med Genet 141B: 773.

・麦島剛, 木村裕, 大峡久美子, 川部ちひろ, 渡辺晋吾, 中本百合江, 吉井光信 (2006) ELマウスのオペラント反応と強化数に対する atomoxetine 投与の効果. 日本動物心理学会第66回大会, 大阪 [2006/10/15].

・Nakamoto Y, Nakamura K, Mugishima G, Sato M, Miwa M, Yoshii M (2006) Gender and age differences in stress responses as examined by peripheral-type benzodiazepine receptors (PBR) in human and animal studies. Soc Neurosci Abstr 32: 59.5.

・石崎龍二, 榛葉俊一, 麦島剛, 原口光, 井上政義 (2006) ラットの脳波のエントロピー時系列による解析. 日本物理学会2006年秋期大会, 千葉 [2006/09/26].

・麦島剛, 榛葉俊一 (2006) ラットの paired stimulation への聴覚誘発電位に対する methamphetamine 投与の影響. 日本心理学会第70回大会, 福岡 [2006/11/05].

・Nakamoto Y, Mugishima G, Sato M, Miwa M, Yoshii M (2006) Sexual difference in stress responses reflected in peripheral-type benzodiazepine receptors (PBR) on platelets. Neurosci Res 55[Suppl

1]:S91.
・石崎龍二, 榛葉俊一, 麦島剛, 原口光, 井上政義 (2006)ラットの脳波のエントロピー時系列解析. 共同, 2006年12月, 第112回日本物理学会九州支部例会.
・石崎龍二, 榛葉俊一, 麦島剛, 原口光, 井上政義 (2007)ラットの脳波のエントロピー時系列への変換とそれによる解析. 共同, 2007年3月, 日本物理学会2007年春季大会.
・中本百合江, 麦島剛, 佐藤弥都子, 中山繁, 高松幸雄, 池田和隆, 吉井光信. ADHDモデル動物としてのEL(てんかん)マウス. 2007年7月, 第37回日本神経精神薬理学会,
・麦島剛・木村裕・林美穂・枡田惠子・中本百合江・吉井光信. オペラント反応を指標としたELマウスの衝動性に対する光弁別刺激提示の効果. 2007年10月, 日本動物心理学会第67回大会.
・松崎なぎさ・榛葉俊一・荒木智子・仕立めぐみ・森恵美・麦島剛. ラットのpaired stimulationに対する聴覚誘発電位と自発変動へのnoradrenaline神経系の関与. 2007年10月, 日本動物心理学会第67回大会.
・枡田惠子・吉井光信・中本百合江・林美穂・木村裕・麦島剛. DRL事態下でのレバー押し反応を指標としたELマウスの衝動性とけいれん発作に対するatomoxetineの効果. . 2007年10月, 日本動物心理学会第67回大会.
・廣井昇(司会･麦島剛). 精神疾患のマウスモデル ―統合失調症とニコチン依存症―. 2007年10月, 日本動物心理学会第67回大会招待講演.
・木村舞子・榛葉俊一・木村裕・中本百合江・吉井光信・麦島剛. 睡眠剥奪ストレスがマウスのガラス玉覆い隠し行動に及ぼす影響とclonidine投与の効果. . 2008年9月, 日本動物心理学会第68回大会.
・枡田惠子・木村裕・木村友香・中本百合江・吉井光信・麦島剛. DRL事態下でのレバー押し反応を指標としたELマウスの衝動性に対するmethylphenidate投与の効果. 2008年9月, 日本動物心理学会第68回大会.
・松崎なぎさ・榛葉俊一・小田香奈絵・塩月太一郎・麦島剛. Paired stimulationの間隔とラットの聴覚誘発電位との関係. . 2008年9月, 日本動物心理学会第68回大会.
・麦島剛・木村裕・枡田惠子・志岐信明・西村早紀子・中本百合江・吉井光信. オペラント反応を指標としたELマウスの衝動性に対するfluoxetine投与の効果. . 2008年9月, 日本動物心理学会第68回大会.

③過去の主要業績

・Shinba, T., Yamamoto, K., Cao, G.M., Mugishima, G., Andow, Y., Hoshino, T.. (1996) Effects of acute methamphetamine administration on spacing in paired rats: Investigation with an automated video-analysis method. Progress in Neuro-Psychopharmacology and Biological Psychiatry, 20, 1037-1049.
・麦島 剛・榛葉俊一・山本健一・星野忠夫 (1997) 自動画像解析で捉えたdopamine系活動亢進によるラットの行動変化. 動物心理学研究, 47, 91-98.
・麦島 剛 (1998) ラットの社会的行動と常同行動に関する自動画像解析システムの開発 －行動薬理実験への応用－ 早稲田心理学年報, 30, 55-62.
・Shinba, T., Shinozaki, T., Mugishima, G. (2001) Clonidine immediately after immobilization stress prevents long-lasting locomotion reduction in the rats. Prog. Neuro-Psychoparmacol. & Bio. Psychiat. 25, 1629-40.

３．外部研究資金

・福岡県田川郡川崎町『子育て支援調査』に関する資金

５．所属学会

日本心理学会、日本生理心理学会、日本動物心理学会、日本神経精神薬理学会、早稲田大学心理学会、日本動物心理学会第67回大会準備委員会委員

６．担当授業科目

生理心理学Ⅰ 2単位, 2年前期、生理心理学Ⅱ 2単位, 2年後期、心身科学Ａ 2単位,2年前期、加齢基礎論 2単位, 2年後期2年, 実験測定法Ⅰ 2単位, 2年前期, 実験測定法Ⅱ 2単位, 2年後期, 老年心理学 2単位, 3年後期、演習 2単位, 3年後期・4年前期、卒業論文指導 6単位, 4年、神経生理学特論 2単位, 修士1年、老年心理学特論 2単位, 修士1年

７．社会貢献活動

・田川市指定管理者選定委員会 委員
・e-zukaトライバレー産学官技術交流会2008 研究出展
・福岡県田川郡川崎町子育て支援調査メンバー
・田川再生事業・調査チーム員

８．学外講義・講演

・福岡県社会福祉協議会 社会福祉主事資格認定講習会「心理学」 2008年9月
・北九州市社会福祉協議会 社会福祉主事資格認定講習会「心理学」2009年1月

９．附属研究所の活動等

・生涯福祉研究センター兼任研究員

所属	人間社会学部　人間形成学科	職名	講師	氏名	吉岡　和子

１．教員紹介・主な研究分野

2004年に九州大学大学院人間環境学府博士後期課程を満期退学。臨床心理士として、病院、保健福祉センター、学生相談室などに勤務後、2006年10月に本学に着任。

①対人関係における自己表出の在り方に関する研究

満足感・居場所感という主体の感情を手がかりに，対人関係における自己表出の在り方を検討し，心理臨床実践への発展を目指す研究を行っている。

②アサーショントレーニング・プログラムの実践研究

自分も相手も大切にする自己表現を学ぶアサーショントレーニングを中心としたコミュニケーション教育を，看護学生に対する研修（2001～2004）や教員養成系大学の講義（2003～2006）などで行ってきている。また，効果研究を通して，学生のメンタルヘルスや自己効力感の向上とコミュニケーション教育の関連を見出してきている。

③強迫性障害理解のための研究

九州大学病院精神科行動療法研究室で行われている臨床治療研究の中で，ロールシャッハなどの様々な心理アセスメントを用いて，強迫性障害の特徴や治療効果，治療への反応性などの研究を行っている。

２．研究業績

①著書・論文

＜論文＞

・富田真弓・吉岡和子・河本　緑「強迫性障害のロールシャッハ反応の治療前後比較－情緒体験の在り方に焦点を当てて」（2008）『ロールシャッハ法研究』第 12 巻，日本ロールシャッハ学会.

・吉岡和子「友人関係での自己表出における葛藤」（2007）『心理臨床学研究』第 24 巻第 6 号，日本心理臨床学会.

・吉岡和子「友人関係の満足感と自己像及び対他的自己像との関連」（2007）『九州大学心理臨床研究』第 26 巻，九州大学.

・吉岡和子「友人関係における「自己の在り方をめぐる葛藤」に関する研究」（2007）『九州大学心理学研究』，第 8 巻，九州大学.

・吉岡和子・太田あや乃・田中克江（2006）「不登校や引きこもりの家族に対するアサーション・プログラムの開発－「家庭内の人間関係づくりセミナー」における効果の検討－」，『九州大学心理臨床研究』第 25 巻，九州大学.

②その他の業績

＜学会報告＞

・Yoshioka K, Tomita M, Kawamoto M, Nakatani E, Nakao T, Nabeyama M, Nakagawa A, Kanba S「Memory deficits in obsessive-compulsive disorder (OCD): checkers vs. washers vs. normal controls」，XXXVIII Annual Congress of the EABCT，Helsinki Finland ，9.2008.

・吉岡和子・田中克江「ヒューマン・コミュニケーション授業の効果研究－QOSL（Quality of Student Life）を中心に－」日本心理臨床学会第 27 回大会，東京，2008 年 9 月.

・Tomita A, Yoshioka K, Kawamoto M, Nakao T, Nakagawa A, Takahashi Y「Changes in Rorschach responses after treatment in Japanese patients with Obsessive-Compulsive Disorder」，　XIXth ISR Congress, Leuven Belgium，7.2008.

・富田真弓・吉岡和子・河本緑「強迫性障害のロールシャッハ反応の治療前後比較－情緒体験の在り方に焦点を当てて－」日本ロールシャッハ学会第 11 回大会，名古屋，2007 年 11 月.

・Mayumi Tomita, Kazuko Yoshioka, Midori Kawamoto, Eriko Nakatani , Tomohiro Nakao, Akiko Nakagawa, Shigenobu Kanba「Trait of personality and interpersonal relationship in patients with OCD: changes with treatment」, XXXVII Annual Congress of the EABCT, Barcelona Spain ， 7.2007.

３．外部研究資金
文部科学省　平成20年度科学研究費補助金（若手研究B）「大学生に対するコミュニケーション教育の効果研究」￥500,000　課題番号：19730434（継続　2007－2009年）

４．受賞
なし

５．所属学会
九州臨床心理学会　日本人間性心理学会　日本青年心理学会　日本心理臨床学会
日本教育心理学会　日本ロールシャッハ学会　日本パーソナリティ心理学会　各会員

６．担当授業科目
＜学部＞
パーソナリティ論／人格心理学・2単位・1年・後期，カウンセリング・2単位・4年・前期，家族心理学・2単位・4年・前期，教育相談（幼児教育）・2単位・4年・前期，演習・2単位・3年後期・4年前期，卒業論文・6単位・4年・後期
＜大学院＞
臨床心理基礎実習・2単位・1年・通年，臨床心理面接特論・2単位・1年・前期，臨床心理査定演習・2単位・1年・後期，臨床心理実習（学内）・1単位・2年・通年，臨床心理実習（施設）・1単位・2年・前期

７．社会貢献活動
・NPO法人九州大学こころとそだちの相談室　理事
・福岡女学院大学　臨床心理センター　心理査定委託相談員

８．学外講義・講演
・博多女子高等学校・出前講義「自分も相手も大切にするコミュニケーション」2008年6月18日・25日、11月19日・26日
・苅田町立与原小学校・校内特別支援教育研修「特別支援教育活動におけるスキルアップをめざして」8月4日
・平成20年度福岡県人権相談従事職員研修「対人援助の技法」9月3日、24日

９．附属研究所の活動等
・心理教育相談室の運営
・お父さんとお母さんの学習室（ペアレントトレーニング）の企画と運営

所属	人間社会学部　人間形成学科	職名	助手	氏名	岡村　真理子

１．主な研究分野

徳島大学医学部栄養学科卒業。実験助手として神戸学院大学栄養学部に勤務後、1993年、本学に着任。2009年3月福岡県立大学大学院看護学研究科修士課程修了。

子ども達の「食」を中心とした生活習慣と健康に関する実態を調査し、食行動上の課題について解析を行っている。特に、思春期の食行動上の課題解決に向けた健康教育のあり方を研究テーマとしている。また、菜園での連続的な食生活体験活動を通して、幼児期の食教育のあり方についても検討している。

２．研究業績

①著書・論文

＜著書＞

・岡村真理子「第 16 章　施設別給食(4)-児童福祉施設給食」、外山健二・幸林友男編、『栄養科学シリーズ NEXT 給食経営管理論　第 2 版』、講談社、2006 年 8 月.

・岡村真理子「第 9 章　障害をもつ子どもの食生活」、小松啓子編、『プリマーズ　小児栄養』、ミネルヴァ書房、2007 年 12 月.

＜論文＞

・小松啓子、岡村真理子「小児のメタボリックシンドローム・肥満症における食生活と食事療法」、『Adiposcience』第 4 巻第 4 号、フィジカル出版、2007 年.

・岡村真理子、小松啓子「メディア暴露時間の長短が、女子生徒の学習・食生活・健康に与える影響」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 16 巻第 2 号、福岡県立大学、2008 年.

・岡村真理子「中学生の健康教育のあり方に関する基礎研究－生活習慣および疲労感と加速度脈波との関連について－」福岡県立大学大学院看護学研究科修士論文、2009年.

②その他の業績

＜調査研究報告書＞

・小松啓子、岡村真理子、中野榮子、上田毅、石原一成、上野行良、本多潤子、岩橋宗哉、麦島剛「筑豊地域における子ども達のキャリア形成をめざした総合的研究－中学生の生活習慣・キャリア形成に関する調査－」小松啓子代表『平成 17 年度福岡県立大学研究奨励交付金研究成果報告書』2006 年 4 月.

・小松啓子、岡村真理子、中野榮子、上田毅、石原一成、上野行良、本多潤子、岩橋宗哉、麦島剛「筑豊地域における子ども達のキャリア形成をめざした総合的研究－小学生の生活活動と健康調査－」小松啓子代表『平成 17 年度福岡県立大学研究奨励交付金研究成果報告書』2006 年 4 月.

・小松啓子、岡村真理子「香春町中学生の健康・食事・生活調査」2007 年 1 月.

・小松啓子、岡村真理子「幼児にみられる極端な偏食に対して連続的な食生活体験を取り入れた食教育のあり方」『平成 15-17 年度科学研究費補助金基盤研究(C)成果報告書』2007 年 3 月.

・小松啓子、岡村真理子「幼稚園における食育活動実態調査」2008 年 3 月.

・小松啓子、上田毅、石川フカエ、岡村真理子、小嶋秀幹、中野榮子、夏原和美、安酸史子、吉岡和子「赤村住民のメタボリックシンドローム予防対策に関する総合的研究－住民の健康と生活に関する基本調査－」『福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター研究報告叢書』第 38 号、2008 年 3 月

・小松啓子、岡村真理子「保育所（園）における食育活動実態調査」2009 年 3 月予定.

＜学会報告＞

・小松啓子、岡村真理子「幼児の食行動発達に対応した連続的な農園活動による食育の実

践」第 53 回日本栄養改善学会（筑波国際会議場）2006 年 10 月.
・岡村真理子、小松啓子「朝食喫食時の意識が肥満を伴う児の健康と学習意欲に及ぼす影響」第 27 回日本肥満学会（神戸国際会議場）2006 年 10 月.
・岡村真理子、小松啓子「幼稚園における食育活動の取り組み」第 1 回日本食育学会総会・学術大会（和洋女子大学）2007 年 5 月.
・岡村真理子、小松啓子「幼児にみられる疲労症状と食生活、生活リズムとの関連性について」第 54 回日本栄養改善学会（長崎ブリックホール）2007 年 9 月.
・岡村真理子、小松啓子「食育推進活動における幼稚園での菜園活動の取り組み」第 2 回日本食育学会総会・学術大会（東京農業大学）2008 年 5 月.
・岡村真理子、小松啓子「メディア暴露時間の長短が、女子生徒の食生活や健康に与える影響について」第 55 回日本栄養改善学会（鎌倉芸術館・鎌倉女子大学）2008 年 9 月.

３．外部研究資金

独立行政法人日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究Ｂ）、「幼児の健全な食行動の形成に対して連続的な食生活体験を取り入れた食教育のあり方」、130万円(平成20年度)、平成18年度～平成20年度、共同研究（研究代表者：小松啓子）

５．所属学会

日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本栄養・食糧学会、日本小児保健学会、日本食育学会、日本保育園保健学会、日本肥満学会、日本生活体験学習学会、日本産業カウンセラー協会　各会員

６．担当授業科目（補助）

＜学部＞

小児保健学実習・1単位・2年・後期、栄養学実習・1単位・3年・前期、小児栄養・2単位・3年・通年、保育実習Ⅰ・4単位・3年・前期、幼稚園教育実習Ⅰ・2単位・3年・後期、保育実習Ⅱ・2単位・3年・後期、施設実習・2単位・3年・後期、幼稚園教育実習Ⅱ・2単位・4年生・前期

＜大学院＞

フィールドワーク・2単位・1年・後期

８．学外講義・講演

・田川地区シルバー人材センター「子育て支援講習会　子供のかかりやすい病気と対応及び緊急時の対応/沐浴とオムツ交換」講師、2008年12月12日
・田川地区シルバー人材センター「子育て支援講習会　子供の食事と食育」講師、2008年12月16日

人間社会学部　附属研究所生涯福祉研究センター

所属	附属研究所　生涯福祉研究センター	職名	准教授	氏名	中村　晋介

１．教員紹介・主な研究分野

1.若者の意識・世代間ギャップに関する研究
「他者」を理解するための技法を洗練させてきた社会学や社会人類学に基づいて、若者や児童・生徒の考え方（就業観、社会観など）、および行動パターン（逸脱行動、など）の解読を試みています。
2.ジェンダー論に関する研究
欧米先進国と比べると、日本における「女性の社会進出」の程度はまだ高くありません。このような状況が続く理由について、社会学的な観点から研究しています。
3.社会学理論に関する研究
主にピエール・ブルデュー（フランスの社会学者）の業績や思想について研究をおこなっています。現在は特に、アメリカ一極集中や社会的格差の増大と固定化、新自由主義に関するブルデューの批判に関心を寄せています。

２．研究業績

①最近の著書・論文

1.『被保護者の自立阻害要因と貧困の世代的再生産にかかる分析』（清田勝彦・鬼崎信好・中村晋介・西原尚之・四戸智昭ほか）福岡県立大学附属研究所,2008年.
2.『福岡県内事業所における若年求職者の雇用と就業に関する調査研究』（清田勝彦・田代英美・中村晋介・林ムツミ）福岡労使就職支援機構,2007年.
3.「『体育会系』女子学生のジェンダー観――『大学生のスポーツ・価値観に関する調査より』（単著）『社会分析』No.34,2007年.
4.『福岡県内事業所における若年者と精神障害者の就労と雇用に関する研究（福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書No.29）』（清田勝彦・奥村幸夫・田代英美・中村晋介・林ムツミ・中藤広美）,2007年.
5.『ライフサポート研究８（福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書No.28）』（大山美智江・豊田謙二・中村晋介・中藤広美）,2007年.
6.「少年非行に影響を与える意味――地域の物理的環境と中学生の非行容認度との関係」（麦島剛・上野行良・中村晋介）『福岡県立大学紀要』No.15(1),2006年.
7.『大学生のスポーツ・家族・公共性観（福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書No.26）』（中村晋介・浅利宙・園井ゆり・森康司）,2006年.
8.『若年者の雇用と就業意識に関する研究（福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書No.24）』（清田勝彦・奥村幸夫・田代英美・中村晋介・林ムツミ・中藤広美・秋吉國康・斉藤信宏・佐々木允）,2006年.
9.『田川郡における生活保護自立阻害要因に関する調査研究・平成18年事前研究報告書』（清田勝彦・西原尚之・中村晋介・四戸智昭ほか）福岡県立大学附属研究所,2006年.
10.『福岡県内事業所における若年者の雇用と就業に関する調査研究』（清田勝彦・田代英美・中村晋介・林ムツミ）福岡労使就職支援機構,2006年.

②その他最近の業績

〈学会発表〉
1.「旧産炭地における生活保護自立支援阻害要因の研究」（清田勝彦・中村晋介・三隅譲二）『日本社会病理学会第24会大会』2008年10月.
2.「若年求職者の求職動機と就業傾向――福岡県内求職者の意識調査より」『西日本社

会学会第65会大会』2008年５月
3.「少年非行の抑制要因と推進要因」『西日本社会学会第63回大会』2006年5月.

〈テキスト・書評〉
1.『レポートの書き方入門――教養演習テキスト version2007』福岡県立大学,2007年.
2.「書評：友枝敏雄編『心と社会をはかる・みる』」『共生社会学』No.5,2006年

③過去の主要業績
1.「ジェンダー・トラックの再生産」友枝敏雄・鈴木譲編『現代高校生の規範意識（第２版）』九州大学出版会,2005年.
2. 「社会学者と社会参加――ピエール・ブルデューのネオリベラリズム批判」『西日本社会学会年報』No.3, 2005 年.

３．外部研究資金
1.内閣官房地域活性化統合事務局「地方の元気再生事業――世界遺産をめざす旧産炭地。田川再生事業」（研究分担者）29,000,000円　2008.4.1.～2009.3.31
2.川崎町、委託研究「川崎町の子育て支援ニーズ調査」（研究代表者）315,000円　2008.10.1～2009.3.31.

５．所属学会
日本社会学会、日本社会病理学会、日本社会分析学会、西日本社会学会（編集副委員長）、九州精神神経学会

６．担当授業科目
社会原論（４単位、１年通年）、社会学基礎演習（２単位、２年前期）　性・世代論（２単位、２年前期）、社会調査実習（４単位、３年通年）　社会学研究法Ⅰ（２単位、３年前期）、社会学研究法Ⅱ（２単位、３年後期）

７．社会貢献活動
1.筑豊地区産学官技術交流会実行委員会 委員
2.読売新聞・あすの筑豊を考える30人委員会 田川ブロック長
3.福岡県社会福祉協議会「福岡県社会福祉主事認定講習会」講師
4.平成20年度知的財産セミナー 大学側運営責任者

８．学外講義・講演
1.福岡県社会福祉協議会「社会福祉主事資格認定講習会」講師（社会学）
2.博多女子高等学校出前講義「占いはなぜあたるのか」
3.東福岡高等学校出前講義「社会学・社会福祉学」
4.福岡県立大学公開講座Ⅰ「メディア探偵講座」

９．附属研究所の活動等
1.管理運営に関する活動
附属研究所調整部会、附属研究所生涯福祉研究センター運営部会、産学官連携ワーキンググループ、公開講座ワーキンググループ、心理相談室運営委員など
2.生涯福祉研究センター調査研究事業への参加：川崎町の子育てニーズに関する研究など
3.生涯福祉研究センター地域支援事業・教育研修事業への参加
日韓社会福祉セミナー、日本語くらぶ田川、筑豊地区産学官技術交流会など
4.その他：「附属研究所通信」『附属研究所事業報告書』の企画・編集・発行など

所属	附属研究所　生涯福祉研究センター	職名	助手	氏名	中藤　広美

１．主な研究分野

［乳幼児教育および発達障害児の発達支援］
キーワード；障がい児・乳幼児の発達支援、玩具、お父さんとお母さんの学習室、子どもの足と靴の問題性

15年間幼稚園や保育所で乳幼児保育に携わった経験を基盤とした研究活動です。生涯福祉研究センター事業「おもちゃとしょかん・たがわ」では、例えば重複障がいのお子さんが遊ぶ意欲をかき立てるような玩具を提供し、インタラクティブな環境の中で心身の発達を促す方法を研究するなど、子どもの発達支援と玩具について関心を持っています。また、「お父さんとお母さんの学習室」では、保護者の思いに十分寄り添いながらも客観的なデータに基づいた子育て支援のあり方を探り、保護者が子どもの発達に確かな手ごたえを感じられるような実践と研究を目指しています。さらには、子ども時代からの外反母趾等をはじめ、日本人の足の問題が指摘されている昨今。子どもを取り巻く環境が足の成長にどのような影響を及ぼすのか、また望ましい足の成長を守るための靴や歩き方、遊び方など生活様式との関連についても研究を進めていきたいと考えています。

２．研究業績

①著書・論文

・福岡県立大学福祉用具研究会編『ライフサポート研究8－2005年度研究報告書（福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書vol.28）、2007.3年（編集）
・中藤広美、奥村幸夫「Ａ精神科病院デイケア通所者の就労に関する意識調査」（福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書vol29所収予定）　2007.3
・　中藤広美、奥村幸夫「精神障害者と雇用について～2006年度福岡県内事業所における調査研究～」（福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書vol29　所収予定）2007.3
・　『山本作兵衛―日記・手帳―』解読資料集第6 巻　1915（大正4）年、1917(大正6)年、1918(大正7）年、1921(大正10）年　福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書山本作兵衛さんを＜読む会＞ vol30 2006年3 月(分担1917(大正6）年、1921(大正10）年8月～12月)
・　『「癒学(ゆがく)の郷(さと)」たがわの創生-田川地域長期振興戦略プラン』ｐ46-ｐ58　財団法人　福岡県産炭地域振興センター　受託研究 「田川地域の長期的な地域振興戦略に係わる地域資源活用方策の調査研究」調査報告書　2007（平成19）年10月31日
・　清田克彦、鬼崎信好、三隅譲二、高間満、西原尚之、中村晋介、本郷秀和、中村幸、四戸智昭、林ムツミ、中藤広美、松岡佐智、城島泰伸、泉　賢祐、谷村紀章、久富芳孝、森山沾一、『生活保護自立阻害要因の研究～福岡県田川地区生活保護廃止台帳の分析から～/母子世帯・父子世帯』**福岡県監査保護課・受託研究報告書、2008・3**
・　『山本作兵衛―日記・手帳―』解読資料集第7 巻　福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター研究報告叢書山本作兵衛さんを＜読む会＞2008年3 月(分担1922(大正11)年)
・　『山本作兵衛―日記・手帳―』解読資料集第8 巻　福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター研究報告叢書山本作兵衛さんを＜読む会＞2009年3 月(分担1925(大正14)年)

②その他の業績

・日本発達心理学会　ニューズレター「特集　発達心理学者の学生育て～学生の戸惑いに寄り添って　～」第 54 号　所収　（2008 年 6 月 30 日発行）

・「足と靴の相談室」　特定非営利活動法人NPO福祉用具ネット会報誌「ささえ」26号、27号所収
・「身体状況にあった車いすとの出会いであきらめていた外出ができました！」　特定非営利活動法人NPO福祉用具ネット会報誌「ささえ」2007年1月発行　第18号所収
・　「足の悩みを靴で解決」朝日新聞社会面　2008年8月1日（夕刊）、2日（朝刊）
・　RKBラジオ　中西一清スタミナラジオ出演　2008年8月20日
・　RKBラジオ　週間GET出演　2008年8月30日
③過去の主要業績
・　田川地域における保育所･幼稚園の変遷と課題(旧産炭地の産業と生活の変遷と地域福祉の課題)　2000年3月15日
・「福岡県立大学における発達遅滞児の親訓練プログラムの評価」 福田恭介、中藤広美 2000年11月30日
・「福岡県立大学における発達遅滞児の親訓練プログラムの評価(2)」福田恭介、中藤広美　、本多潤子、興津真理子　2005年3月17日

３．外部研究資金等
・（有）AMSTW受託事業「足の健康講座」￥213699
・　**NPO法人福祉でまちがよみがえる会受託事業「足の健康講座」　￥120225**
・　**NPO法人福祉でまちがよみがえる会受託事業「足と靴の相談技術者養成講座」￥792171**
・　**NPO法人福祉でまちがよみがえる会受託事業「足と靴の相談技術者養成講座補講」￥405268**

４．受賞　　なし

５．所属学会　　日本保育学会、日本発達心理学会

６．担当授業科目　　なし

７．社会貢献活動
NPO福祉用具ネット理事,NPOク法人リエイティブ・スローライフ子育て委員会委員

８．学外講義・講演

・福岡県市町村職員研修所主催　課題研修「高度福祉社会　事例報告」　2008（平成20）年8月27日
・　福岡県立大学公開講座　特別支援教育を行うためのスキルアッププログラム-小学校・養護学校・幼稚園・保育園の先生方向け-　5月27日、6月10日、6月24日、7月8日、7月29日
・筑豊市民大学　健康を考える足と靴のゼミ　アドバイザー（第２木/月）
・みやこ町社会福祉協議会　子育て支援事業講師５月 13 日～27 日　火/週
・福岡県新生活産業室　「健康・福祉・育児・生活支援シリーズ発表会」　８月 29 日
・田川市社会福祉協議会　「子育ち子育て応援講座～ペアレントトレーニング　子育てのコツ編～」　11 月６日～11 月 20 日　木/週
・直方市社会福祉協議会「地域福祉セミナー講師　～おもちゃ図書館って何？～」１月９日
・福岡県立直方養護学校父母教師会研修会「子どもや大人の足のトラブルと対処　～靴の正しい選び方と歩き方～　」２月２日
・川崎町学童クラブ運営委員会　「発達障がい児の生活支援～ペアレントトレーニングを中心に～」　３月３日、10 日

９．附属研究所の活動等

・　おもちゃとしょかん・たがわ代表
・　「足と靴の相談室」相談員
・　福祉用具の開発と供給システムの研究（福祉用具研究会）
・「お父さん・お母さんの学習室」（ペアレントトレーニング）の実践に関する研究
・　山本作兵衛資料・日記を通しての筑豊文化研究
・　『足と靴』の問題性と福祉拡充に関する総合的研究（「足と靴の相談技術」養成講座開催）

所属	附属研究所　生涯福祉研究センター	職名	助手	氏名	林　ムツミ

１．教員紹介・主な研究分野

①生涯福祉研究センターは、その前身は本学の幼稚園教諭免許を取得する学生の実習を大きな目的として運営されていた大学の附属幼稚園であった。そこで培ってきた幼児教育の実践・研究の実績・知見を活かしながら、子育て支援・幼児教育を研究分野としている。

②また、生涯福祉研究センターで管理している炭坑画家故山本作兵衛翁の日記を、ボランティアグループ「山本作兵衛日記を〈読む〉会」のメンバーと一緒に解読作業を行っている。炭坑の遺産・田川の地域資源をを、本学から全国に向けて発信しているところである。

２．研究業績

①最近の著書・論文

・林ムツミ「山本作兵衛日記の検証－巨知大治氏の聞き取りから－」福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書VOL.22（2006.3）

・清田勝彦、奥村幸夫、田代英美、中村晋介、林ムツミ、中藤広美、秋吉國康、斉藤信宏、佐々木允『田川市事業所における若年者の雇用と就業に関する調査研究』福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書VOL.24（2006.3）

・林ムツミ「合計特殊出生率から見た事例－沖縄県石垣市と長野県下條村の場合－」福岡立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書VOL.２１』（2006.4）

・清田勝彦、田代英美、中村晋介、林ムツミ『福岡県内事業所における若年者の雇用と就業に関する調査研究』厚生労働省委託事業 福岡県労使就職支援機構『若年者雇用実態調査報告書』（2006.11）

・秦和彦、古橋啓介、細井勇、林ムツミ「田川地区の自治体の次世代育成支援対策行動計画策定状況について」『福岡県立大学人間社会学部紀要第15巻第22号』（2007.3）

・清田勝彦、田代英美、中村晋介、林ムツミ「福岡県内における若年求職者の雇用と就業意識に関する調査研究」、厚生労働省委託事業 福岡県労使就職支援機構（2007.11）

・清田勝彦、鬼崎信好、三隅譲二、高間満、西原尚之、中村晋介、本郷秀和、中村幸、四戸智昭、林ムツミ、中藤広美、松岡佐智、城島泰伸、泉 賢祐、谷村紀章、久富芳孝、森山沾一『生活保護自立阻害要因の研究～福岡県田川地区生活保護廃止台帳の分析から～Ⅵ生活保護の連鎖構造-世代的連鎖を中心に－３．保護の連鎖構造の質的分析』p211-p220　福岡県監査保護課受託研究報告書（2008.3）

・細井勇、古橋啓介、秦和彦、宮城由美子、吉川未桜、林ムツミ『福岡市における子育て意識調査-子育て意識と子育て支援に関する実態とニーズ－』福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター研究報告叢書VOL.34（2008.3）

②その他の業績

編集（執筆も含む）作業

・『山本作兵衛－日記・手帳－解読資料集』福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書VOL.22（2006.3）

・『福岡県内事業所における若年者及び精神障害者の雇用と就業に関する調査研究』福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書VOL.29（2007.3）

・『山本作兵衛－日記・手帳－解読資料集』福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター研究報告叢書VOL.30（2007.3）

・『山本作兵衛－日記・手帳－解読資料集』福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター研究報告叢書VOL.33（2008.3）

・「福岡県内における若年求職者の雇用と就業意識に関する調査研究」（2008.3）福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター研究報告叢書VOL.35
・『山本作兵衛―日記・手帳―解読資料集第7 巻』 福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター研究報告叢書VOL.33（2008.3）
・『生活保護自立阻害要因の研究～福岡県田川地区生活保護廃止台帳の分析から～VI生活保護の連鎖構造-世代的連鎖を中心にー』福岡県監査保護課受託研究報告書（2008.3）
・『山本作兵衛－日記・手帳－解読資料集』福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター研究報告叢書VOL.39（2009.3予定）

②その他最近の業績

③過去の主要業績
・「田川地域における就学前教育」『旧産炭地筑豊における生活と福祉－田川市郡を中心にー』　福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書（2000）（共著）
・ 実践研究論文「乳幼児を持つ母親の学習を支援する講座のあり方」『日本生活体験学習学会誌『生活体験学習研究』（2003）referee

３．外部研究資金
４．受賞

５．所属学会
・日本子ども社会学会 、日本保育学会 、日本生活体験学習学会

６．担当授業科目

７．社会貢献活動
・生涯福祉研究センター事業「アンビシャス親子広場・ボランティア養成講座」担当
・生涯福祉研究センター事業「中国語講座」（コーディネーター）
・生涯福祉研究センター研究プロジェクト主催 ボランティアグループ「山本作兵衛さんを〈読む〉会」（日記の解読）
・生涯福祉研究センター共催事業「Nobody’s Perfect 『完璧な親なんていない！』プログラム」講座（8回）（コーディネーター）
・附属研究所共催事業「筑豊市民大学」（コーディネーター）
・生涯福祉研究センター共催「外国人のための『日本語教室』」（コーディネーター）
・「ちくほう女性会議」（田川地区書記担当）
・「田川地区子育てネットワーク『たんたん』」
・嘉麻市立保育所運営移管法人選定委員会（委員長）

８．学外講義・講演

９．附属研究所の活動等
・研究奨励個別研究「筑豊地域の文化資源の収集・整理・体系化と発信システム構築に関する研究―山本作兵衛の日記解読を通して―」プロジェクト代表
・「世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生事業～産・官・民が協働する保養型エコツーリズムの実現」（県立大学主催）地域資源・世界遺産シンポジウムチーム参加。
・生涯福祉研究センター研究プロジェクト「日・韓子育て支援シンポジウム」（会場　アクロス福岡）（2009.3.7予定）

看護学部

所属	看護学部　実験看護学講座	職名	准教授	氏名	芋川　浩

１．教員紹介・主な研究分野

1992年名古屋大学大学院理学研究科博士後期課程修了(理学博士)。その後、日本学術振興会・特別研究員(PhD)、科学技術振興機構ERATOプロジェクト・グループリーダー、ロンドン大学UCL校上級研究員、理化学研究所・発生再生総合科学研究センター上級研究員を経て、2005年本学に着任。

現在、再生医療に関する研究を、脊椎動物で唯一手足などを再生できるイモリという動物やマウスを用いて解析している。ヒトなどは、一度手足や臓器を失うと、元通りに再生させることはできないが、有尾両生類の仲間であるアカハライモリという動物は、手足や各臓器を失っても、元通りに再生できるのである（イモリはトカゲやヤモリとは違います)。また、近年の目覚しい生命科学の進歩により、手足をつくる重要な遺伝子群がよくわかってきた。その結果、手足をもつ脊椎動物は、全く同じ遺伝子を利用して手足を形成することもわかった。この二つの事実を総合すると、**「同じ遺伝子を持っているにも関わらず、どうしてイモリは手足を再生できてヒトは再生できないのか」**という疑問が生じる。現在その疑問を遺伝子レベルで解明しようと研究を進めている。その疑問を解決できれば、ヒトも手足を再生できる可能性が非常に高いと考えている。なぜなら、手足を形作る遺伝子とメカニズムは、ヒトもイモリも全く同じなのだから！！

２．研究業績

①最近の著書・論文

学術論文

1. 芋川　浩、小関　尚子、『エタノール綿を用いた塗擦消毒効果の検討』
   Expert Nurse、Vol.24 No.10, p.96-p.99 (2008)

②その他最近の業績

学会発表および講演

1. 再生開始におけるトロンビンの機能(トロンビン説)の解析と考察、
   日本発生生物学会　第39回大会(2006年 広島)
2. イモリの再生とその再生開始分子を求めて
   日本動物生物学会　第78回大会(2007年 弘前)
3. キリンファーマ (株)・フロティア研 究所・研究交流会
   「イモリから考える再生医療研究へのアプローチ」
   キリンファーマ(株)・フロティア研究所・研究交流会(2007)
4. Molecular mechanism of the initiation on both lens and limb regeneration
   ロンドン大学UCL校ロックフェラービルディング講堂(2008)
5. The Analysis of regeneration mechanism, using newt cell culture system
   ロンドン大学UCL校ダーウィンビルディング(2008)
6. 市民公開講座「井守から見る生命の不思議」
   取手市&「イモリネットワーク」(2009)

③過去の主要業績

1) Y. Imokawa & K.Yoshizato.
Expression of Sonic Hedgehog Gene in Newt Regenerating Limb Blastemas Recapitulates That in Developing Limb Buds
Proc. Natl. Acad. Sci. USA **94**, 9159-9164 (1997).
2) Y. Imokawa & J. P. Brockes.
Selective Activation of Thrombin is a Critical Determinant for Vertebrate Lens Regeneration.
Curr. Biol. **13**, 877-881 (2003).
3) Y. Imokawa, A. Simon & J. P. Brockes.
A Critical Role for Thrombin in Vertebrate Lens Regeneration.
Philos. Trans. R. Soc. Lond. B. Biol. Sci., **359**, 765-776 (2004).
4) Y. Imokawa, P. B. Gates, Y-T Chang, H-G. Simon & J. P. Brockes.
Distinctive Expression of Myf-5 in Relation to Differentiation and Plasticity of Newt Muscle Cells.
Int. J. Dev. Biol., **48**, 285-291 (2004).
5) 再生―甦るしくみ―　吉里勝利編(第2－3章)　羊土社

３．外部研究資金

平成20年度 科学研究費補助金(基盤研究(C)　研究代表者)、900,000円、
(平成19年4月－平成22年3月)
「四肢再生とレンズ再生に共通する再生開始の初期メカニズムの解明」

４．受賞

５．所属学会

日本発生生物学会、日本分子生物学会、日本動物学会
日本看護研究学会、日本遺伝看護学会

６．担当授業科目←助手の方は、担当授業科目（補助）としてください。

化学・２単位・１年・前期、実験看護学演習Ⅱ・１単位・２年・前期、生物学・２単位・１年・後期、遺伝学・２単位・１年・後期、生態機能看護学Ⅲ・２単位・１年・後期、実験看護学演習ＩA・１単位・１年・後期、実験看護学演習ＩB・１単位・１年・後期、専門看護学ゼミ・２単位・４年・前期、卒業研究・２単位・４年・後期、日本事情(科学事情I&II)・２単位・留学生・後期、学外授業・博多女子高・通年

７．社会貢献活動

産学官連携ワーキンググループ・委員

８．学外講義・講演

学外授業・博多女子高・通年

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション研究センター兼任研究員

所属	看護学部　実験看護学講座	職名	講師	氏名	江上　千代美

１．教員紹介・主な研究分野

現在、探索眼球運動を精神生理学的指標とした対人的な視覚認知機能の解明および支援を主な研究分野としている。具体的には、①探索眼球運動を精神生理学的指標とした小児期の視覚認知機能の発達、②探索眼球運動を精神生理学的指標とした軽度発達障害児（アスペルガー症候群、注意欠陥多動性障害等）の特徴、③軽度発達障害児および保護者への根拠に基づく介入プログラムを主な研究テーマとしている。

近年、発達障害のある幼児児童生徒およびその保護者を取り巻く環境が少しずつ改善されつつある。しかし、多くの課題が山積し、幼児児童生徒への自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援する適切な指導及び必要な支援を行うことが急務である。そのために、特別支援教育という視点を大切にし、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するために取り組みを行いたい。

２．研究業績

①最近の著書・論文

【論文】

江上千代美. 看護学生の学習への適応と理想の看護師像との関係－自尊感情の視点から－, 日本看護学校協議会雑誌, 36 (2), p. 106－107, 2006.

江上千代美. 目標内容と適応との関係, 人間総合科学会誌, ３（１）, p. 46－52, 2007.
立松康弘、森田喜一郎、川辺千津子、中島洋子、岡本泰弘、江上千代美、小路純央. 情動関連眼球運動を精神生理学的指標にしたうつ病患者の寛解過程, 久留米医学会雑誌, 70 (.11-12), p. 361－368,2007.

江上千代美、森田喜一郎、石井洋平、山下裕史朗、松石豊次郎. 探索眼球運動評価による小児期の視覚認知機能の特徴, 臨床神経生理学 35 (6), p. 479－486, 2008.

江上千代美. 首尾一貫感覚と精神的健康度との関係, 日本心身健康学会, 4(2), p. 43-48, 2008.

SACHIKO NISHIURA, YOUKO NAKASHIMA, KEIICHIRO MORI, TAKAYUKI KODAMA, SATOSHI HIRAI, TAKATSUGU KURAKAKE, AND KIICHIRO MORITA. A Life Span Study of Exploratory Eye Movements in Healthy Subjects : Gender Differences and AffectiveInfluences, The Kurume Medical Journal , 54, p.65-72, 2007.

Egami C ,Morita K, Ohya T, Ishii Y, Yamashita Y, Matsuishi T:Developmental characteristics of visual cognitive function during childhood according to exploratory eye movements. Brain Dev 2009 Jan 17. [Epub ahead of print] .

②その他最近の業績

江上千代美、石井洋平、山下裕史朗、森田喜一郎、松石豊次郎．探索眼球運動評価による小児期の視覚認知機能の特徴，第 36 回日本臨床神経生理学会，2006.

Egami C ,Morita K, Ohya T, Ishii Y, Yamashita Y, Matsuishi T．Study of exploratory eye movements in asperger's syndrome，第 37 回日本臨床神経生理学会・学術大会座長推薦論文賞(International Federation of Clinical Neurophysiology web site で掲載)，2007.

江上千代美，森田喜一郎，石井洋平，大矢崇志，山下裕史朗，松石豊次郎．アスペルガー障害児と健康児における探索眼球運動の比較検討，第 37 回日本臨床神経生理学会「第３８回日本臨床神経生理学会推薦論文」，2008.

江上千代美、森田喜一郎、石井洋平，山下裕史朗，大矢崇志，松石豊次郎．探索眼球運動評価による小児期の視覚認知機能の発達，第 50 回日本小児神経学会「第 50 回日本小児神経学会推薦論文」，2008.

３．外部研究資金
なし

４．受賞
なし

５．所属学会
日本看護学教育学会会員
日本 LD 学会会員
日本臨床神経生理学会会員
心身健康学会会員
日本小児神経学会会員

６．担当授業科目←助手の方は、担当授業科目（補助）としてください。
実験看護学演習・1 単位・2 年次・前期，生態機能看護学Ⅰ・2 単位・1 年次・前期，生態機能看護学Ⅰ・2 単位・1 年次・後期，病態看護学・2 単位・2 年次・前期，教養演習・１単位・1 年次・前期，総合実習・2 単位・4 年次・前期，専門看護学ゼミ・2 単位・4 年次・前期，卒業研究・2 単位・4 年次・前期

７．社会貢献活動

８．学外講義・講演

９．附属研究所の活動等
久留米大学高次脳疾患研究所，久留米大学小児科学

所属	看護学部　実験看護学講座	職名	講師	氏名	杉野　浩幸

１．教員紹介・主な研究分野

・ 広島大学大学院博士課程後期修了、博士（工学）、平成17年度より福岡県立大学看護学部・講師。Dreamweaver、Illustrator、InDesignなどを用いたデザイン・プレゼンテーション、看護職を対象とした学会発表支援・情報機器操作支援（Microsoft Office Specialist取得）などを中心に研究・教育を行っている。現在の研究テーマは、1）看護系教育機関における効率的な細菌学演習を支援するデータベースの構築と運用、2）中堅看護従事者のための学会参加支援プログラムの開発、3）Mail Magazineを利用した看護学部教員のICT能力向上を目指す取り組み、4）不登校・ひきこもりへの援助力養成教育（教育GPワーキングメンバー、Presentation Manager）、5）思春期やせ症・摂食障害予防に関するマニュアル開発（厚生労働科学研究）

２．研究業績

①最近の著書・論文

・ 杉野浩幸、ウェブログを活用したe-Learningの展開と今後の展望、富山福祉短期大学紀要、第5号、pp19-25、2006年
・ 杉野浩幸、森山信男、ホームページを活用した看護教育の情報化、看護教育、vol.48 no.12pp1089-1092、2007年
・ 杉野浩幸、森山信男、ウォーキングについて、健康教室、vol.58 no.15 pp58-60、2007年
・ 杉野浩幸、森山信男、個別面談の場におけるアロマオイルの活用法、こころのマネジメント、vol.10 no.5 pp106-109、2007年
・ 杉野浩幸、森山信男、実験看護学演習II（細菌学実習）における実習効果の評価、福岡県立大学看護学研究紀要、vol.5 no.1 pp29-34、2007年
・ 杉野浩幸、森山信男、感染対策の意識を高める体験学習、整腸剤を活用した事例、看護きろくと看護過程、vol.18 no.1 pp68-71、2008年
・ 杉野浩幸、病院看護部のWEB広報力 ー看護のアピールで集める患者と看護師ー、ナース・マネージャー、vol.10 no.1 pp72-75、2008年
・ 杉野浩幸、病院看護部のWEB広報力、看護のアピールで集める患者と看護師、ホームページ作成に必要な知識、2008年4月、ナース・マネージャ、vol.10 no.2 pp76-79.
・ 杉野浩幸、病院看護部のWEB広報力、看護のアピールで集める患者と看護師、無料ツールを利用した簡易ホームページの作成、2008年5月、ナース・マネージャ、vol.10 no.3 pp83-85.
・ 杉野浩幸、病院看護部のWEB広報力、看護のアピールで集める患者と看護師、初心者のためのホームページ設計方法、2008年6月、ナース・マネージャ、vol.10 no.4 vol.10 no.4 pp78-80.
・ 杉野浩幸、病院看護部のWEB広報力、看護のアピールで集める患者と看護師、ワンランク上のホームページを作成するには、2008年7月、ナース・マネージャ、vol.10 no.5 pp83-86.
・ 杉野浩幸、病院看護部のWEB広報力、看護のアピールで集める患者と看護師、ホームページで利用する画像の準備方法、2008年9月、ナース・マネージャ、vol.10 no.7 pp83-86.
・ 杉野浩幸、病院看護部のWEB広報力、看護のアピールで集める患者と看護師、見栄えのするホームページの配色、2008年10月、ナース・マネージャ、vol.10 no.8 pp80-83.
・ 杉野浩幸、病院看護部のWEB広報力、看護のアピールで集める患者と看護師、CGIは便利な機能、ホームページでデータのやり取りをする方法、2008年10月、ナース・マネージャ、vol.10 no.10 pp83-86.
・ 杉野浩幸、病院看護部のWEB広報力、看護のアピールで集める患者と看護師、ホームペ

ージへの訪問者を増やす方法、2009年、ナース・マネージャ、vol.10 no.11 pp78-82.
・ 洗髪技術のエビデンスに関する研究～予備洗いの有無による清浄度と快適性の検討～、2008、福岡県立大学看護学研究紀要、第6巻，第1号（中野榮子、津田智子、永嶋由理子、渕野由夏、加藤法子、山名栄子、杉野浩幸）
・ 杉野浩幸、病院看護部のWEB広報力、看護のアピールで集める患者と看護師、利用しやすいホームページへとは、2009年、ナース・マネージャ、vol.10 no.12

②その他最近の業績

＜学会報告＞
・ 杉野浩幸、森山信男、実験看護学演習II（細菌学実習）における実習効果の評価、日本看護研究学会・九州・沖縄地方学術集会、2007年11月、琉球大学
・ 杉野浩幸、ホームページを活用した看護教育の情報化、日本看護学教育学会・学術集会2008年8月、茨城

＜フォーラム＞
・ 平成20年「大学教育改革プログラム合同フォーラム」ポスター発表、2009年1月、横浜

③過去の主要業績
・ 03年 第11回日本生物工学会論文賞受賞（T. Fujii, H. Sugino, J. D. Rouse, and K. Furukawa. 2002. Characterization of the microbial community in an aerobic ammonium-oxidizing biofilm cultured on a nonwoven biomass carrier. J. Biosci. Bioeng. 94:414-418）

３．外部研究資金
・ 文部科学省、平成20年度・質の高い大学教育推進プログラム、不登校・ひきこもりへの援助力養成教育、49,712,000円、3年間、事業推進分担者（責任者：松浦賢長）

４．所属学会
・ 日本看護研究学会、日本看護学教育学会

５．担当授業科目
・ 教養演習・1単位・1年・前期、実験看護学演習II・4単位・2年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期、実験看護学演習I・4単位・1年・後期、看護研究・1/15単位・3年・後期

６．社会貢献活動
・ 福岡看護ｅラーニング研究会　第１回シンポジウム参加、小倉、４月
・ 福岡看護ｅラーニング研究会世話人会参加、小倉、６月
・ 北川明，杉野浩幸，樋口善之．(2008、8 月)．医療・保健従事者のためのパソコン教室，第一回，マイクロソフト・ワードの使用方法，福岡県立大学看護学部健康学習室
・ 北川明，杉野浩幸，樋口善之．(2008、12 月)．医療・保健従事者のためのパソコン教室，第二回，初心者のための MS EXCEL の使い方（超入門コース），福岡県立大学看護学部健康学習室
・ 北川明，杉野浩幸，樋口善之．(2008、12 月)．医療・保健従事者のためのパソコン教室，第二回，初心者のための MS EXCEL の使い方（脱初心者コース），福岡県立大学看護学部健康学習室

７．附属研究所の活動等
・ ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員、運営部会員、ホームページ作成・更新、パンフレット作成
・ 不登校・ひきこもりサポートセンター、ホームページ作成・更新、教育GP予算調書作成、予算管理、フォーラム資料作成、シンポジウムチラシのデザイン・作成

所属	看護学部　実験看護学講座	職名	助手	氏名	近藤　美幸

１．教員紹介・主な研究分野

現在、科学的根拠の基づいた基礎看護技術の解明を主な研究分野としている。その中でも具体的には、清潔援助（入浴・清拭・部分浴等）について、対象が清潔援助を受けた前後での影響を生理学的な視点から観察する、清潔援助を行っている施行者の動きをさまざまな実験器具を用いて数値化・画像化している。

近年、これまで慣習的に行われていた看護技術の多くは、科学的根拠によって明らかにされつつある。慣習的に行われていたこれらの技術を実験操作等を用い、科学的に立証・解明し、課題を明らかにしていくことで、初学者をはじめとする多くの人にとって、有用な看護技術をわかりやすく伝える手助けになればと考えている。

２．研究業績

②その他最近の業績

近藤美幸．古田祐子.(2008,11) 皮膚圧迫振動皮膚洗浄法による乳児の脱落皮膚に関する調査.第 49 回日本母性衛生学会総会.千葉

３．外部研究資金

４．受賞

５．所属学会

日本母性衛生学会

６．担当授業科目（補助）

生態機能看護学Ⅰ・２単位・1年・前期、生態機能看護学Ⅱ・2単位・１年・前期、病態看護学Ⅰ・２単位・１年・後期、実験看護学演習Ⅱ・１単位・2年・前期、診断・治療学・2単位・２年・前期、実験看護学演習Ⅰ・１単位・1年・後期、精神看護実習・2単位・2年・後期

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション附属センター兼任研究員

所属	看護学部　基礎看護学講座	職名	教授	氏名	永嶋　由理子

１．教員紹介・主な研究分野

1)看護技術の熟達化と思考の関係性に関する研究

平成16年度～平成17年度の科研(基盤研究(C))に引き続き,平成18年度～平成20年度の3ヵ年計画で調査及び実験研究をさらに進める予定である.平成18年度は看護技術の熟達化尺度を作成するための予備調査として,看護職に調査を実施した.平成19年度～20年度は,実験方法を見直し,一部修正や追加を加え実施した結果を分析し、一定の結果を見出すことができた.この研究結果を踏まえ、平成21年度に向けて新たな研究計画を作成中。

2)在宅酸素療法患者の生活支援に関する研究

平成15年より,新日鐵八幡記念病院の看護部との共同研究を実施し,現在も継続中である.現在まで2回の実態調査を実施し,結果についての報告書を作成した.また,調査結果から患者指導の教育プロトコールを作成するために,月1回のペースで研究会を開催している.平成20年度は,調査の結果を踏まえ,具体的な教育プロトコール作成の最終段階にきている.

２．研究業績

①最近の著書・論文

【著書】

永嶋由理子,「学習理論」の３つの考えかた,安酸史子編著,目からウロコの新人ナースプリセプティ指導術,メディカ出版,2007.

【論文】

松本弘子,田中美保子,渕野由夏,永嶋由理子.S病院におけるADL分類スコアを用いた入院時と退院時の比較検証,日本看護学会論文集：看護総合,36,p.200-202,2005.

田中美保子,松本弘子,河野俊,渕野由夏,永嶋由理子.5 段階尺度マスタ記録と患者目標達成度との関連－患者目標達成度評価の標準化に向けて－,第７回看護情報研究会論文集, p.74-7,2006.

永嶋由理子.看護過程の考え方と進め方(基礎編).月刊看護きろく,17(1),75-84,2007.

永嶋由理子.看護の視点からアセスメントするために(基礎編).月刊看護きろく,17(2),78-87,2007.

永嶋由理子.看護記録の再考－アセスメントを生かした看護記録(基礎編).月刊看護きろく,17(3),84-94,2007.

渕野由夏,永嶋由理子：人工骨頭置換術を受けた高齢者の展開事例.月刊看護きろく,17(4),p.61-70,2007.

津田智子,永嶋由理子.癌性疼痛に苦しむターミナル期にある患者の事例展開,月刊看護きろく,17(5),p.85-94,2007.

加藤法子,永嶋由理子.急性増悪を来した高齢肺気腫患者の展開事例,月刊看護きろく,17(6),p.57-66,2007.

渕野由夏,永嶋由理子,中野榮子,山名栄子,加藤法子,津田智子.基礎看護実習Ⅱの実習前・後における看護学生の思考動機の実態.福岡県立大学看護学研究紀要,4(2),p.82-87,2007.

加藤法子,永嶋由理子,渕野由夏：高齢在宅酸素療法患者の自己効力感に影響を及ぼす要因の検討.福岡県立大学看護学研究紀要,4(2),64-68,2007.

田中美保子,松本弘子,矢野由紀代,中島壽子,倉地美智子,佐々木美佳,永嶋由理子,渕野由夏,加藤紀子.高齢HOT利用者における自己効力感の実態,日本看護学会論文集：老年看護,37,p.209-211,2007.

永嶋由理子. 編集：看護実践に活かすフィジカル・アセスメント, 臨床看護, 臨時増刊号, 348(４).2008.

永嶋由理子. フィジカル・アセスメントの基礎知識, 臨床看護, 臨時増刊号, 34(４). 433-454. 2008.

渕野由夏. 加藤法子. 中野榮子. 永嶋由理子. 津田智子. 山名栄子. (2008). 基礎看護実習Ⅰの実習前後における看護師イメージ変化の比較検討. 福岡県立大学看護学研究紀要, 5(2), 89-96.

加藤法子. 渕野由夏. 永嶋由理子. 津田智子. 山名栄子. 中野榮子, 基礎看護実習Ⅰの教育効果の検討：実習前後における学習意欲の変化から, 福岡県立大学看護学研究紀要, 5(2), 52-60, 2008.

津田智子．中野榮子．永嶋由理子．渕野由夏．加藤法子．山名栄子，口腔ケアの学内演習における学生の認識の特徴：学生が記述したプロセスレコードの分析を通して．福岡県立大学看護学研究紀要，5(2)，43-51．2008.

②その他最近の業績

【調査研究報告書】

永嶋由理子,渕野由夏，加藤法子，田中美保子，矢野由紀代，中島壽子，古川亜貴子 ,城戸知美 ,倉地美智子，佐々木美佳，松本弘子.在宅酸素利用者の生活及び自己管理能力の実態に関する調査報告書，p.1-18,2006.

永嶋由理子,山川裕子,安永悟.看護技術の獲得・熟達化における思考過程深化の解明,平成16年度～平成17年度科学研究費補助金〔基盤研究(C)〕研究成果報告書,p.1-52,2006.

【学会発表】

加藤法子,永嶋由理子,渕野由夏.在宅酸素療法患者の療養生活における自己効力感尺度の信頼性・妥当性の検討,第11回看護研究学会九州地方会学術集会,2006.

Nagashima Y. Yamakawa,Y. Research on improved performance and greater self-reflection in nursing technology. ICN Conference, Yokohama, 2007.

永嶋由理子・山川裕子・渕野由夏，看護技術の獲得プロセスにおける動作の向上と思考の深まりに関する研究．日本看護科学学会学術集会，福岡，2008.

渕野由夏，藤野靖博，加藤法子，津田智子，於久比呂美，永嶋由理子，看護技術の獲得過程における緊張度の検討－反復練習と緊張度の変化から－，日本看護科学学会，福岡，2008.

３.外部研究資金

1)文部科学省科学研究費補助金,基盤研究(C),看護技術の獲得・熟達化における思考過程深化の解明(課題番号:16592128),200万円,平成17～18年度,研究代表者

2)文部科学省科学研究費補助金,基盤研究(C),看護技術の熟達過程における感情喚起と思考深化の関係性に関する研究(課題番号:18592331),350万円,平成18～20年度,研究代表者

４.受賞　なし

５.所属学会

日本看護学会,日本看護科学学会，日本看護研究学会,日本教育心理学会,
日本協同教育学会

６.担当授業科目

学　部）生態機能看護学Ⅱ･2単位･1年･前期,基礎看護実習Ⅰ･1単位･1年･前期,基礎看護論Ⅱ･2単位･1年･後期,フィジカルアセスメント論･1単位･2年･前期,看護過程･1単位･2年･前期,基礎看護実習Ⅱ･2単位･2年･前期,シンプトンマネジメント論・１単位・後期・家族看護論･2単位･2年･後期，看護研究･1単位･3年･後期,専門看護学ゼミ･2単位･4年･前期,総合実習･3単位･4年･前期,卒業研究･2単位･4年･後期

大学院）基礎看護学特論B･2単位･1年･前期，特別研究

７.社会貢献活動

1)八幡記念病院における研究指導(平成15年～現在)

2)田川市住宅政策審議会委員(平成19年～現在)

3)日本看護系大学協議会ファカルティ・ディベロプメント委員(平成19年度～20年度)

８.学外講義・講演

1)看護診断と看護記録について，福岡県看護連盟筑豊１支部研修会，福岡，2008年5月17日，6月28日.

2)看護過程と記録の考え方，田川市立病院看護師卒後研修会，福岡，2008年8月29日.

3) フィジカルアセスメント―身体面のアセスメントをするための観察技術―,看護師卒後研修会,福岡.2008年9月4日

4)看護診断と看護記録について,嘉麻赤十字病院看護師卒後研修会,福岡,2008年9月　9日，9月18日

5)フィジカルアセスメント,訪問看護師養成講習会,福岡,2008年9月30日

6)看護教育評価，看護師養成講習会，福岡，2008年10月(計30時間)

7)看護診断と看護記録について，脊損センター，福岡，2008年11月24日

8)看護過程と記録の考え方，総合せき損センター研修会，福岡，2008年11月29日

９.附属研究所の活動等　　ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部　基礎看護学講座	職名	講師	氏名	加藤 法子

１．教員紹介・主な研究分野

①基礎看護学の教育方法に関する研究

基礎看護実習、基礎看護技術に関する教育方法の検証を行っている。基礎看護実習教育では、実習における学習意欲や看護師のイメージ、思考動機などの変化から基礎看護実習の教育効果と教育方法について検討している。また、基礎看護技術においては、基礎看護技術の科学的検証を行い、科学的根拠に基づいた看護技術教育プログラムの開発に向けた検討を行っている。

②高齢患者への外来教育方法の検討

平成15年度より、高齢の在宅酸素療法患者を対象に自己管理能力に基づいた外来教育方法について検討している。在宅酸素療法を受けている患者には、生活の様々な面で自己管理することが求められるため、自己管理能力を適切に査定し、それに応じた教育をすることで、より効果的な教育ができるのではないかとの仮説のもと、研究に取り組んでいる。現在、教育プロトコールを作成中である。

２．研究業績

①最近の著書・論文

【論文】

・津田智子，中野榮子，永嶋由理子，渕野由夏，加藤法子，山名栄子（2008）．口腔ケアの学内演習における学生の認識の特徴－学生が記述したプロセスレコードの分析を通して－．*福岡県立大学看護学研究紀要,* 5(2)，43-51.

・加藤法子，渕野由夏，永嶋由理子，津田智子，山名栄子，中野榮子（2008）．基礎看護実習Ⅰにおける教育効果の検討：実習前後の学習意欲の変化から．*福岡県立大学看護学研究紀要,* 5(2)，52-60.

・渕野由夏，加藤法子，中野榮子，永嶋由理子，津田智子，山名栄子（2008）．基礎看護実習Ⅰの実習前後における看護師イメージ変化の比較検討．*福岡県立大学看護学研究紀要,* 5(2)，89-96.

・中野榮子、津田智子、永嶋由理子、渕野由夏、加藤法子、山名栄子、杉野浩幸（2008）．洗髪技術のエビデンスに関する研究～予備洗いの有無による清浄度と快適性の検討～*福岡県立大学看護学研究紀要,* 6(1).

・加藤法子（2008）．呼吸器系器官に問題のある対象へのフィジカル・アセスメント．臨床看護，34（４），457-490.

・加藤法子（2008）．神経系器官に問題のある対象へのフィジカル・アセスメント．臨床看護，34（４），527-564.

・加藤法子．(2007)．呼吸困難感により自宅にこもりがちな在宅酸素療養患者．安酸史子、奥祥子（編），患*者が見える成人看護の実際*. 150-156．大阪，メディカ出版.

・加藤法子、永嶋由理子、渕野由香（2007）．高齢在宅酸素療法患者の自己効力感に影響を及ぼす要因の検討．*福岡県立大学看護学部紀要*4(２)，64-68.

・渕野由香、永嶋由理子、中野榮子、山名栄子、加藤法子、津田智子（2007）．基礎看護実習Ⅱの実習前後における看護学生の思考動機の実態．*福岡県立大学看護学部紀要* 4(２)，82-87.

・加藤法子、永嶋由理子．(2007) 再点検！看護過程　急性増悪を来した高齢肺気腫患者の展開事例（実践編），*看護きろく*，17(9)，57-56.

【調査研究報告書】

・永嶋由理子,渕野由夏,加藤法子,田中美保子,矢野由紀代,中島壽子,古川亜貴子,城戸知美,倉地美智子,佐々木美佳,松本弘子（2006）．在宅酸素利用者の生活及び自己管理能力の実態に関する調査報告書 1 - 18.

②その他最近の業績

【学会報告】

・渕野由夏，藤野靖博，加藤法子，津田智子，於久比呂美，永嶋由理子（2008）．看護技術の獲得過程における緊張度の検討－反復練習と緊張度の変化から－，日本看護科学学会，福岡．

・加藤法子，永嶋由理子，渕野由夏（2006）．在宅酸素療法患者の療養生活における自己効力感尺度の信頼性・妥当性の検討．看護研究学会九州地方会，福岡．

・矢野由紀代，田中美保子，松本弘子，中島壽子，倉地美智子，佐々木美佳，永嶋由理子，渕野由夏，加藤法子（2006）．高齢 HOT 利用者における自己効力感の実態．第37回日本看護学会：老年看護，島根．

③過去の主要業績

３．外部研究資金

文部科学省科学研究費補助金、若手研究Ｂ、「高齢在宅酸素療法患者に向けた教育戦略の検討～教育プロトコールからのアプローチ～」平成20年度～平成21年度

４．受賞

なし

５．所属学会

日本看護協会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、遺伝看護研究会、協同教育学会

６．担当授業科目

基礎看護実習Ⅰ・１単位・１年・前期、基礎看護論Ⅱ・２単位・１年・後期、フィジカルアセスメント論・１単位・２年・前期、看護過程・１単位・２年・前期、基礎看護実習Ⅱ・２単位・２年・前期、シンプトンマネジメント論・１単位・２年・後期、家族看護論・２単位・２年・後期、総合実習・３単位・４年・前期、専門看護学ゼミ・２単位 ・４年・前期、卒業研究・２単位・４年・後期

７．社会貢献活動

なし

８．学外講義・講演

・平成20年度東鷹高校連携事業「基礎看護技術概説・食事・栄養の援助技術」技術指導、2008年10月2日、福岡県立大学.

・平成20年度東鷹高校連携事業「安全の援助技術」講師、2008年11月6日、福岡県立大学.

・平成20年度東鷹高校連携事業「生命兆候を把握する援助技術」技術指導、2008年12月4日、福岡県立大学.

９．附属研究所の活動等

・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部　基礎看護学講座	職名	講師	氏名	津田　智子

１．教員紹介・主な研究分野

看護の実践方法論としての看護技術、殊に、看護の基本技術の開発・教育方法を主な研究分野としている。具体的には、看護基本技術の科学性の検証や、学生との教授－学習過程における効果的な教育方法（主に演習・実習における個別指導が対象）が主な研究テーマである。

新卒看護者の看護実践力の低下が叫ばれる中、学生の看護実践力が定着・向上し、看護の質が向上するために、科学的根拠にもとづく看護技術を開発し、指導方法や教材開発等を含めた看護技術教育の効果的なあり方とその具体的方法について明らかにしていきたい。

２．研究業績

①最近の著書・論文

＜著書＞

・津田智子「脳梗塞で急性期を脱し回復期にある患者」「職場復帰に不安をみせる人工肛門造設患者」、安酸史子・奥祥子編集『患者がみえる成人看護の実践』メディカ出版、2007年.

＜論文＞

・津田智子・中野榮子・永嶋由理子・渕野由夏・加藤法子・山名栄子「口腔ケアの学内演習における学生の認識の特徴－学生が記述したプロセスレコードの分析を通して－」、『福岡県立大学看護学研究紀要』第5巻2号、2008年.

・渕野由夏・加藤法子・中野榮子・永嶋由理子・津田智子・山名栄子「基礎看護実習Ⅰの実習前後における看護師イメージ変化の比較検討」、『福岡県立大学看護学研究紀要』第5巻2号、2008年.

・加藤法子・渕野由夏・永嶋由理子・津田智子・山名栄子・中野榮子「基礎看護実習Ⅰの実習前後における学習意欲の変化の比較検討」、『福岡県立大学看護学研究紀要』第5巻第2号、2008年.

・津田智子・東サトエ・松﨑敏男・山口さおり・松成裕子・柳川育美・宮薗夏美「体温の経時的変化からみた洗髪技術の科学的根拠－サーモグラフィと深部温モニターによる分析－」、『Biomedical THERMOLOGY』第26巻3号、2007年.

・渕野由夏・永嶋由理子・中野榮子・山名栄子・加藤法子・津田智子「基礎看護実習Ⅱの実習前・後における看護学生の思考動機の実態」、『福岡県立大学看護学研究紀要』、第4巻2号、2007年.

・松成裕子・宮薗夏美・山口さおり・東サトエ・津田智子・柳川育美・中俣直美・徳久朋子・大野佳子・今村利香・増滿誠・兒玉慎平「看護実践能力育成に向けた取り組み－看護技術教育における学内実習・演習の授業内容の精選－」、『鹿児島大学医学部保健学科紀要』第17巻、2007年.

・松成裕子・宮薗夏美・津田智子・山口さおり・柳川育美・東サトエ「看護技術の教育の評価について」、『鹿児島大学医学部保健学科紀要』第16巻、2006年.

・中野榮子・津田智子・永嶋由理子・渕野由夏・加藤法子・山名栄子・杉野浩幸「洗髪技術のエビデンスに関する研究～予備洗いの有無による清浄度と快適性の検討～」、『福岡県立大学看護学研究紀要』第6巻1号、2008年（印刷中）

・佐藤香代・津田智子・山下清香・松枝美智子・小路ますみ・渡邉智子・石川フカエ・宮城由美子・安河内静子・田渕康子・森崎直子「看護学生の実習到達度の評価と今後の課題－第1回合同実習調整会議における調査から－」、『福岡県立大学看護学研究紀要』第6巻1号、2008年（印刷中）

②その他最近の業績

＜調査研究報告書＞
・奥祥子、牛尾禮子、塚本康子、中俣直美、堀内宏美、津田智子、渡邉智子「一般病棟における遺族へのケアに関する研究」、「平成 16 年度～平成 18 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））」報告書、2007 年.
＜学会報告＞
・渕野由夏、藤野靖博、加藤法子、津田智子、於久比呂美、永嶋由理子「看護技術の獲得過程における緊張度の検討－反復練習と緊張度の変化から－」、第 28 回日本看護科学学会学術集会（福岡）、2008 年 12 月.
・津田智子、東サトエ、松成裕子、山口さおり、柳川育美、宮薗夏美、松崎敏男「体温の経時的変化からみた洗髪技術の科学的根拠－サーモグラフィと深部温モニターによる分析－」、日本サーモロジー学会 第23回大会（青森）、2006年6月.
＜雑誌＞
・津田智子、中野榮子「基礎看護技術 40」、クリニカルスタデイ、Vol.29 No.6, 28-47、メヂカルフレンド社、2008 年.
・津田智子「循環器系器官，筋・骨格系器官に問題をもつ対象へのフィジカルアセスメント」永嶋由理子編『看護実践に活かすフィジカルアセスメント』、へるす出版、2008 年.
・津田智子，永嶋由理子「癌性疼痛に苦しむターミナル期にある患者の事例展開」、かんごきろく 17 巻 5 号、日総研、2007 年.
③過去の主要業績
・津田智子「看護技術修得の初期段階にある学生の指導過程に関する研究－学内演習の個別指導を通して－」、『鹿児島大学医学部保健学科紀要』第15巻、鹿児島大学、2005年.

３．外部研究資金
なし
４．受賞
なし
５．所属学会
日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護研究学会、看護科学研究学会、日本看護学会、日本サーモロジー学会　　各会員

６．担当授業科目
『基礎看護実習Ⅰ・1単位・1年・前期』　『生態機能看護学Ⅱ・2単位・1年・前期』
『ケアリング論・2単位・1年・前期』　『教養演習・1単位・1年・前期』
『基礎看護論Ⅱ・2単位・1年・後期』　『基礎看護実習Ⅱ・2単位・2年・前期』
『シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期』
『総合実習・3単位・4年・前期』　『専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期』
『卒業研究・2単位・4年・後期』
＜大学院（修士課程）＞
『基礎看護学特論A・2単位・１年・前期』
『基礎看護学演習A・2単位・１年・後期』

７．社会貢献活動
なし
８．学外講義・講演
・福岡県立東鷹高等学校・出前講義「看護技術」、2008年10月2日、11月6日、12月4日.
・社会保険田川病院内看護研究講評、2009年2月20日、2月27日.
９．附属研究所の活動等
なし

所属	看護学部　基礎看護学講座	職名	講師	氏名	渕野　由夏

１．教員紹介・主な研究分野

１）基礎看護学教育に関する研究

①看護技術の習得過程や習得に関わる諸要因について科学的に検証し，看護技術習得を促進するための技術教育方法について検討している．

②基礎看護実習の実習前後の思考動機，看護師イメージ，学習意欲の変化の比較から基礎看護実習の教育効果の検証および評価を行っている．

２）高齢患者の教育指導技術および実践法に関する研究

高齢在宅酸素療法患者の日常生活行動や自己管理能力の実態に関する調査を行い，高齢在宅酸素療法患者の自己管理能力に応じた日常生活指導のための外来教育プロトコールの開発をすすめている．

３）看護職の職業性ストレスおよび職場環境に関する研究

訪問看護師の職業性ストレス構造について解明し,訪問看護師の職業性ストレスを測定できる尺度を開発中である．

２．研究業績

①最近の著書・論文

【著書】

渕野由夏，リフレイミング．安酸史子編著，目からウロコの新人ナースプリセプティ指導術，メディカ出版，2007.

渕野由夏，健康診断で肝機能障害を指摘されアルコール性脂肪肝と診断された労働者．安酸史子，奥祥子編，患者がみえる成人看護の実践，メディカ出版，2007.

渕野由夏，福祉用具や住宅改修を活用した認知症高齢者の日常生活援助．三原博光，山岡喜美子，金子努編著，認知症高齢者の理解と援助～豊かな介護社会を目指して～，学苑社，2008.

【論文】

渕野由夏，永嶋由理子，中野榮子，山名栄子，加藤法子，津田智子：基礎看護実習Ⅱの実習前･後における看護学生の思考動機の実態．福岡県立大学看護学研究紀要，4(2)，p.82-87．2007.

加藤法子，永嶋由理子，渕野由夏：高齢在宅酸素療法患者の自己効力感に影響を及ぼす要因の検討．福岡県立大学看護学研究紀要，4(2)，64-68．2007.

渕野由夏，永嶋由理子：人工骨頭置換術を受けた高齢者の展開事例．月刊看護きろく，17(4)，p.61-70，2007.

田中美保子，松本弘子，矢野由紀代，中島壽子，倉地美智子，佐々木美佳，永嶋由理子，渕野由夏，加藤紀子：高齢 HOT 利用者における自己効力感の実態．日本看護学会論文集：老年看護，37，p.209-211，2007.

渕野由夏，加藤法子，中野榮子，永嶋由理子，津田智子，山名栄子：基礎看護実習Ⅰの実習前後における看護師イメージ変化の比較検討．福岡県立大学看護学研究紀要，5(2)，p.89-96，2008.

加藤法子，渕野由夏，永嶋由理子，津田智子，山名栄子，中野榮子：基礎看護実習Ⅰの教育効果の検討－実習前後における学習意欲の変化から－．福岡県立大学看護学研究紀要，5(2)，　p.52-60，2008.

津田智子，中野榮子，永嶋由理子，渕野由夏，加藤法子，山名栄子:口腔ケアの学内演習における学生の認識の特徴－学生が記述したプロセスレコードの分析を通して－．福岡県立大学看護学研究紀要，5(2)，　p.43-51，2008.

②その他最近の業績

【学会発表】

渕野由夏:訪問看護師の職業性ストレスの実態．日本産業衛生学会九州地方会学会，2006.

加藤法子，永嶋由理子，渕野由夏:在宅酸素療法患者の療養生活における自己効力感尺度の信頼性・妥当性の検討．第 11 回看護研究学会九州地方会学術集会，2006.

渕野由夏:訪問看護師の職業性ストレスと不眠との関連．　第 33 回日本看護研究学会学術集会，2007.

渕野由夏，藤野靖博，加藤法子，津田智子，於久比呂美，永嶋由理子:看護技術の獲得過程における緊張度の検討－反復練習と緊張度の変化から－．　第 28 回日本看護科学学会学術集会，2008

永嶋由理子，山川裕子，渕野由夏:看護技術の獲得プロセスにおける動作の向上と思考の深まりに関する研究．第 28 回日本看護科学学会学術集会，2008

【調査研究報告書】

永嶋由理子，渕野由夏，加藤法子他：在宅酸素療法利用者の生活及び自己管理能力の実態に関する調査報告書，2006.

③過去の主要業績

渕野由夏，永嶋由理子，加藤法子：在宅酸素療法患者の健康管理行動の実態．福岡県立大学看護学部紀要，3(1)，p.33-37，2005.

高橋清美，佐藤友美，加藤法子，笹尾松美，渕野由夏，永嶋由理子，中野榮子:看護基礎教育における看護技術教育に関する一考察－臨床における実態調査をもとに－．福岡県立大学看護学部紀要，3(1)，p.39-46，2005.

３．外部研究資金

文部科学省科学研究費補助金，若手研究(B)，訪問看護師の職業性ストレス尺度の開発（課題番号：19791781)，90万円，平成19～21年度，研究代表者

文部科学省科学研究費補助金，基盤研究(C)，　看護技術の熟達過程における感情喚起と思考深化の関係性に関する研究(課題番号：18592331)，平成18～20年度，研究分担者

４．受賞

なし

５．所属学会

日本看護科学学会，日本看護研究学会，日本公衆衛生学会，日本産業衛生学会，日本協同教育学会

６．担当授業科目

生体機能看護学Ⅰ・2単位・1年・前期，生態機能看護学Ⅱ・2単位・1年・前期，基礎看護実習Ⅰ・1単位・1年・前期，教養演習・1単位・1年・前期，基礎看護論Ⅱ・2単位・1年・後期，フィジカルアセスメント論・1単位・2年・前期，看護過程・1単位・2年・前期，基礎看護実習Ⅱ・2単位・2年・前期，家族看護論・2単位・2年・後期，シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期，専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期，総合実習・3単位・4年・前期，基礎看護学特論B・2単位・1年・前期，基礎看護学演習B・2単位・1年・後期

７．社会貢献活動

第 28 回日本看護科学学会学術集会企画委員

８．学外講義・講演

食事・栄養の援助技術，福岡県立東鷹高校，2008 年 10 月 2 日.

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部　基礎看護学講座	職名	助教	氏名	藤野　靖博

１．教員紹介・主な研究分野

近年の身体活動量の減少、過食などの不適切な食生活は、肥満、高血糖などを引き起こし、メタボリックシンドロームの原因となっている。メタボリックシンドロームは、さらには重症化し、合併症を伴いながら、生活機能の低下へと段階的に進行していく。この負の連鎖をより早い段階で食い止めることが、急激な高齢化社会を迎える日本において早急に取り組まなければならない課題であると考える。

そこで研究者は、疾病を持たない壮年期～中年期の人々を対象に行動変容へのレディネスのレベルを身体活動、食生活を中心にアセスメントし、行動変容を起こさせるように、個々人に合ったアプローチを対象者と話し合いながら一緒に考え、その実践を支援する。さらにこの支援活動を分析し、その問題点と効果的な方法について明らかにする。

２．研究業績

①最近の著書・論文

＜著書＞

・藤野靖博他「心不全下巻－最新の基礎・臨床研究の進歩－看護の要点」、『日本臨床 65(増刊号 5)』、日本臨床社、2007 年.

＜論文＞

・藤野靖博「ウォームアップが歩行運動時の循環応答・深部温度に及ぼす影響」、『日本人間工学学会看護人間工学部会誌』第8巻、2007年.

・早川有紀、藤野靖博、山本昇「自律神経活動に及ぼすスチーム式足温浴の効果－生理・生化学的指標による評価」、『北里看護学誌』第 8 巻第 1 号、2006 年.

・芥川清香、奥祥子、藤野靖博「人工肛門造設術を受けた患者への患者教育に関する看護師の認識」、『日本看護学会論文集』第 36 巻、2006 年.

②その他最近の業績

＜学会発表＞

渕野由夏、藤野靖博、加藤法子、津田智子、於久比呂美、永嶋由理子．2008．看護技術の獲得過程における緊張度の検討－反復練習と緊張度の変化から－．日本看護科学学会，福岡，2008 年.

③過去の主要業績

３．外部研究資金

文部科学省、科学研究費補助金(若手研究B)、「トランスセオレティカル・モデルに基づくメタボリックシンドローム予防に関する検討」、120万円、平成19－21年度.

４．受賞

５．所属学会

日本看護研究学会
日本看護科学学会
日本人間工学会看護人間工学部会

６．担当授業科目（補助）

＜学部＞

フィジカルアセスメント論・1単位・2年・前期、基礎看護実習Ⅰ・1単位・1年・前期、

基礎看護論Ⅱ・1単位・1年・後期、看護過程・1単位・2年・前期、シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期、基礎看護実習Ⅱ・2単位・2年・前期、総合実習・3単位・4年・前期

７．社会貢献活動

８．学外講義・講演

９．附属研究所の活動等

所属	看護学部　基礎看護学講座	職名	助手	氏名	於久　比呂美

１．教員紹介・主な研究分野

近年、疾病構造は複雑に変容しそれに伴う患者のニードも多様化してきた。また同時に、看護師に求められる課題も複雑となり、これに対応できるような看護師の育成が望まれている。そのため、看護における継続教育には、看護師自らが課題を設定して学ぼうとする自己教育力が重要であると考え、現在、看護師の自己教育力に注目をし研究を進めている。

２．研究業績

①最近の著書・論文

②その他最近の業績

＜学会発表＞

・渕野由夏、藤野靖博、加藤法子、津田智子、於久比呂美、永嶋由理子、看護技術の獲得過程における緊張度の検討－反復練習と緊張度の変化から－、日本看護科学学会、福岡、2008.

③過去の主要業績

３．外部研究資金

４．受賞

５．所属学会

日本看護研究学会
日本看護科学学会

６．担当授業科目（補助）

＜学部＞

基礎看護実習Ⅰ・1単位・1年・前期、基礎看護実習Ⅱ・2単位・2年・前期、総合実習・3単位・4年・前期、フィジカルアセスメント論・1単位・2年・前期、看護過程・1単位・2年・前期、基礎看護論Ⅱ・1単位・1年・後期、シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期

７．社会貢献活動

８．学外講義・講演

９．附属研究所の活動等

所属	看護学部　家族在宅看護学講座	職名	准教授	氏名	小路　ますみ

1. 主な研究分野

1)在宅ケアの領域における保健・医療・福祉の連携施策に関する研究：在宅ケア領域における保健・医療・福祉の関係機関・団体や専門職種間の協働と連携による支援施策（システム）構築にいたるプロセスを探究する。
2)医療・福祉領域におけるリスクマネジメント研究：在宅ケアの現場に潜むリスクを明らかにし、そのマネジメントについて探求する。
3)在宅看護教育に関する研究

2. 研究業績

《論文》

・坂本昌明、小路ますみ、男座陽一郎、宮田喜代志、川浪泰男、医療・介護分野におけるコミュニケーション・リスク、リスクマネジメント協会誌 TODAY、第 9 巻 1 号通巻 36 号、2006 年

・小路ますみ、松原まなみ、蓄積疲労の観点からとらえた育児不安の軽減施策：日本在宅ケア学会誌，Vol.10，No.1、2006年

・北山后子、川浪泰男、小路ますみ、中山みどり、宮田喜代志、医療におけるコミュニケーション･リスクの研究、リスクマネジメント協会誌 TODAY 第 10 巻 1 号通巻 37 号，2007 年

・小路ますみ、鮎川春美、中園明美、笹尾松美、人工呼吸器を装着したＡＬＳ（筋萎縮性側索硬化症）患者の在宅療養者を支える地域支援施策、福岡県立大学看護学部紀要第 4 巻第１号，2007 年

・小路ますみ、小森直美、笹尾松美、在宅看護実習における学びの構造、福岡県立大学看護学部紀要、第 4 巻第 1 号、2007 年

・小路ますみ、小森直美、鮎川春美、馬場文季、伊藤智美、若松倫子、石井靖子、山下真弓　中園明美、梅崎八代子、溝口毅稔、甲斐祥一　、ALS人工呼吸器装着者とその家族のための連携施策、医学書院、保健師ジャーナル第63巻第5号、2007年

・小路ますみ、小森直美、【特別ゼミ】レクチャー編：訪問看護師の専門技術、メヂカルフレンド社「看護学生」第 55 巻第 5 号，2007 年

・小路ますみ、小森直美、藤岡あゆみ、宮田喜代志、川浪泰男、中山みどり、北山后子
看護職・他部門間のリスク・コミュニケーションの構造、福岡県立大学看護学研究紀要第5巻第2号、2007年

・朝部明美，木村由美，小森直美，藤岡あゆみ，小路ますみ、訪問看護における在宅療養者・家族への看護の要因－利用者・家族の満足度アンケートの分析結果から－．第 24 回筑豊地区看護研究発表会会誌．2007 年　P21－P28.

・小路ますみ、KJ 法で捉えた在宅看護実習の学びの構造、KJ 法研究第 30 巻 1 号、2007、Ｐ15-22

・小路ますみ、KJ法で捉えた育児に係る蓄積疲労の要因と軽減施策、KJ法研究第28・29巻1号、2007、Ｐ98-107

・小森直美、小路ますみ、藤岡あゆみ、本学在宅看護実習における対象事例ならびに学生の技術体験に関する実態調査、福岡県立大学看護学部紀要 5 号 1 巻，2007 年 P34－P42.

・川浪泰男、小路ますみ、中山みどり、宮田喜代志、藤垣静枝、医療現場（看護職）におけるコミュニケーション・リスクの要因、リスクマネジメント協会誌 TODAY 第 11 巻 1 号通巻 38 号、2008 年、Ｐ173-178

・小路ますみ、看護職が捉えた医療現場におけるコミュニケーション・リスク（第 1 報）－看護師・医師間のコミュニケーション・リスクの構造-、第 38 回日本看護学会-看護管理-論文集、2008 年

・小路ますみ、看護職が捉えた医療現場におけるコミュニケーション・リスク（第 2 報）

－看護師・患者間のコミュニケーション・リスクの構造-、第 38 回日本看護学会-看護管理-論文集、2008 年
・山口由加里、縄田真理、森下美穂、熊井章乃、上野マツ枝、溜渕裕美、西裕美、小路ますみ、小森直美、藤岡あゆみ、術後せん妄の発生予防介入ケアの考察－患者指導実施の前後比較検討から－、第８回福岡県看護学会論文集、2008、Ｐ193～196
・朝部明美、木村由美、松田有紀、小路ますみ、小森直美、藤岡あゆみ、在宅重症心身障害児支援に必要な職種間の統合ケアマネジメント、第 25 回筑豊地区看護研究発表会収録集 2008、Ｐ21-24
・糸谷哉子、松原まなみ、小路ますみ、田中千絵、 はじめて乳児を育てる母親の育児不安と家族機能に関する研究、聖マリア学院紀要 23 巻、平成 21 年 3 月発行予定
・小路ますみ、小森直美、藤岡あゆみ、朝部明美、松田有紀、医療依存度の高い、在宅重症心身障害児の支援に関する研究－保健師・訪問看護師の支援活動の転機から捉えた母親の障害受容過程－、第39回日本看護学会-地域看護-論文集、平成21年3月発行予定
・川浪泰男、小路ますみ、小俵ミエ子、中山みどり、宮田喜代志、横山亨：コミュニケーション・リスクの軽減に向けて-看護師を生かす医療現場のコミュニケーション対策、リスクマネジメント協会誌 TODAY 第 11 巻 1 号通巻 38 号, 2009 年、平成 21 年 3 月発行予定

3. 外部研究資金
文部科学省科学研究費、基盤（Ｃ）、「在宅重症心身障害児のケアシステム開発に関する研究」、400万円、平成20年4月１日～平成23年3月31日

4. 受賞
リスクマネジメント協会年次大会理事長特別賞受賞　2008年4月5日

5.所属学会等
日本公衆衛生学会会員　ＫＪ法学会員　日本看護管理学会員　日本家族看護学会員5)日本在宅ケア学会員　日本RISM支部リスクマネジメント協会員　財団法人日本訪問看護振興財団専門職会員 日本看護協会員・福岡県支部協会員

6.担当授業科目
基礎看護実習Ⅰ・1単位・1年・前期、在宅看護論Ⅰ・2単位・2年・後期、在宅看護論Ⅱ・1単位・3年・通年、在宅看護実習・2単位・3年・通年、総合実習・3単位・4年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期、卒業研究・2単位・4年・後期
〈大学院〉
看護学研究科ヘルスプロモーション看護学領域在宅看護学特論・演習・特別研究

7. 社会貢献活動
1）町立芦屋中央病院看護研究委員会アドバイザー
2）福岡県看護学会研究発表支援員（研究指導兼査読委員）
3）福岡県京築保健福祉環境事務所結核の診査に関する協議会委員
4）田川市公的介護施設等整備事業者選定委員会委員
5）福岡大学医学部看護学科在宅看護論非常勤講師
6）筑紫保健福祉環境事務所精神障害者の地域生活支援委員会委員

所属	看護学部　家族在宅看護学講座	職名	助教	氏名	小森　直美

１．主な研究分野

地域で療養する人の生活の質を確保しながら、安心・安全・安楽な生活を支援することを目的とした、研究を行っている。主な研究は、①新入職訪問看護師の育成支援教育研究や、訪問看護ステーションネットワーク研究、②療養者の日常生活支援研究である。また、高齢者世帯における介護支援や、重症心身障害児介護の実態調査など、家族支援を目的とする研究も行っている。これらの研究を通して、自宅で暮らしたいと願う療養者を最後まで支えられる、在宅看護ケアの充実に携わっていきたいと考えている。

２．研究業績

①著書・論文

・小森直美，小路ますみ，藤岡あゆみ．(2007)．本学在宅看護実習における対象事例ならびに学生の技術体験に関する実態調査．*福岡県立大学看護学部紀要*, 5 号 1 巻, P34－P42.

・小森直美．(2007)．浴の現象学的研究（１）．*福岡大学大学院論集*, 39 巻 2 号, P１－P14.

・小路ますみ，小森直美，笹尾松美．(2007)．在宅看護実習における学びの構造．*福岡県立大学看護学部紀要*，４巻１号，P10－P18.

・小路ますみ，小森直美，鮎川春美，馬場文季，伊藤智美，若松倫子，山下真弓，中園明美，梅崎八代子，溝口毅稔，甲斐祥一．(2007)．ALS 人工呼吸器装着者とその家族のための連携施策．*保健師ジャーナル*，医学書院，63 巻５号，P452－P455.

・小路ますみ，小森直美．(2007)．訪問看護師の看護技術．*看護学生*，メディカ出版，55 巻 5 号，P40－P41.

・小森直美，藤岡あゆみ，小路ますみ．(2008)．看護学生の感動体験の考察と，その思考過程の検討－在宅看護実習後のレポートから－，*福岡県立大学看護学研究紀要*，6（1），47－54.

・小路ますみ, 小森直美, 藤岡あゆみ, 宮田喜代志, 川浪康男, 中山みどり, 北山后子．(2008)．看護職・他部門間のコミュニケーション・リスクの構造．*福岡県立大学看護学研究紀要*，5（2），61－65.

・朝部明美，木村由美，松田有紀，小路ますみ，小森直美，藤岡あゆみ．(2008)．在宅重症心身障害児支援に必要な職種間の統合ケアマネジメント．*第 25 回筑豊地区看護研究発表会集録集*，第 25 回，20－24.

・山口由加里，縄田真理，森下美穂，熊井章乃，上野マツ枝，溜渕裕美，西裕美，小森直美，小路ますみ，藤岡あゆみ．(2008)．術後せん妄の発生予防介入ケアの考察－患者指導実施の前後比較検討から－．*福岡県看護学会集録集*，第 8 回，193－196.

・小路ますみ，小森直美，藤岡あゆみ，(2008)，訪問看護師による経験型実習指導教育体制の導入に関する研究－在宅看護実習教育の質向上指導体制への転換－．*福岡県立大学附属研究所－2007 年度事業報告書－*，74－75.

②その他の業績

＜学会報告＞

・小森直美，小路ますみ，笹尾松美．(2007)．在宅看護実習における学びの構造．*第 11 回日本在宅ケア学会*，埼玉.

・原口有紀，小路ますみ，小森直美．(2007)．通所リハビリテーションにおける介護職員の事故報告書の分析．*第 38 回日本看護学会*，和歌山.

・朝部明美，木村由美，小森直美，藤岡あゆみ，小路ますみ．(2007)．訪問看護における在宅療養者・家族への看護の要因－利用者・家族の満足度アンケートの分析結果から－．*第 24 回筑豊地区看護研究発表会*，飯塚.

・小森直美．(2008)．高齢者の「運動器の機能向上」に関する諸問題－介護認定審査員のグループ・フォーカス・インタビューより－．第12回日本在宅ケア学会学術集会，東京.

・小森直美．(2008)．訪問看護ステーションにおける新入職看護師の育成支援に関する諸問題，第 34 回日本看護研究学会学術集会，兵庫.

・豊福麻紀，矢川京子，三村京子，高橋幸子，西裕美，小森直美，藤岡あゆみ，小路ますみ．(2008)．病棟看護師の訪問看護留学における在宅看護の学び，第 39 回日本看護学会学術集会看護教育，岐阜．
・小森直美，小路ますみ，藤岡あゆみ．(2008)．在宅看護実習における経験型実習指導の問題点と解決策の検討．第 28 回日本看護科学学会学術集会，福岡．
・山口由加里，縄田真理，森下美穂，熊井章乃，上野マツ枝，溜渕裕美，西裕美，小森直美，小路ますみ，藤岡あゆみ．(2008)．術後せん妄の発生予防介入ケアの考察－患者指導実施の前後比較検討から－．第 8 回福岡県看護学会，福岡．
・小路ますみ，小森直美，藤岡あゆみ，(2008)．医療依存度の高い，在宅重症心身障害児の支援に関する研究－保健師･訪問看護師の支援活動の転機から捉えた母親の障害受容過程－，第 39 回日本看護学会抄録集地域看護，静岡．
・宮城陽輔，小路ますみ，小森直美，藤岡あゆみ．(2008)．統合失調症患者の気分変動を起こす要因，第 39 回日本看護学会学術集会精神看護，兵庫．
・新開博，小路ますみ，小森直美．(2008)．介護度が高い独居高齢者の生活を支える要因～独居療養者の訪問一事例から～．第 39 回日本看護学会学術集会地域看護，静岡．
・井上麻衣子，小路ますみ，小森直美，藤岡あゆみ．(2008)．高齢者に対する介護予防事業の効果的運営に関する考察－老人会と密着したデイサービス事業を通して－第 39 回日本看護学会学術集会地域看護，静岡．
・真子めぐみ，小路ますみ，小森直美．(2008)．訪問看護師が療養者と信頼関係を築くための留意点．第 39 回日本看護学会学術集会地域看護，静岡．
・清水麻央，小路ますみ，小森直美．(2008)．高齢者を在宅で看取る家族の心理的過程～一事例考察から～，第 39 回日本看護学会学術集会地域看護，静岡

３．外部研究資金

・文部科学省科学研究費補助金（基盤研究 C)、「訪問看護ステーションにおける新入職看護師の育成支援ツール開発に関する研究」、290 万円、平成 20 年度～平成 22 年度、共同研究（研究代表者：小森直美）
・木村看護教育財団研究助成金、「訪問看護ステーションにおける新入職看護師の育成支援に関する研究」、70 万円、平成 20 年度、共同研究（研究代表者：小森直美）
・文部科学省科学研究費補助金（基盤研究 C)、「在宅重症心身障害児・家族への育成支援システム開発に関する研究」、平成 20 年度～平成 22 年度、共同研究（連携研究者：小森直美）

４．受賞　　なし

５．所属学会

日本看護科学学会員、日本看護研究学会員、日本在宅ケア学会会員、日本看護協会会員

６．担当授業科目

基礎看護実習Ⅱ・2単位・2年・前期、地域看護実習Ⅰ・1単位・1年・後期、在宅看護論Ⅰ・2単位・2年・後期、在宅看護論Ⅱ・1単位・3年・通年、在宅看護実習・2単位・3年・通年、総合実習・3単位・4年・前期、専門ゼミ（補助）・2単位・4年・前期、卒業研究（補助）・2単位・4年・後期

７．社会貢献活動

・福岡市中央区介護認定審査会・審査員
・町立芦屋中央病院看護系研究指導・講師
・福智町立方城診療所訪問看護研究指導・講師

８．学外講義・講演　　なし

９．附属研究所の活動等

・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部　家族在宅看護学講座	職名	助手	氏名	藤岡　あゆみ

１．教員紹介・主な研究分野

現在、医療職の中でも多くの看護職が必要とされているが、看護師の離職率は高いため、看護師の離職防止に関する研究を行っている。具体的には、①離職に至る原因を追究、②その対策方法を考えて、業務に対策方法を取入れ、③結果、離職率の変化の分析、という内容である。この結果、看護師の離職防止につながり、看護師不足とならないような医療現場としていきたい。

２．研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

- 小森直美，藤岡あゆみ，小路ますみ．（2008）．看護学生の感動体験の考察と、その思考過程の検討－在宅看護実習後のレポートから－，*福岡県立大学看護学研究紀要*，第6巻１号，47－54.
- 山口由加里，縄田真理，森下美穂，熊井章乃，上野マツ枝，溜渕裕美，西裕美，小森直美，小路ますみ，藤岡あゆみ．（2008）．術後せん妄の発生予防介入ケアの考察－患者指導実施の前後比較検討から－．*福岡県看護学会集録集*，第８回，193－196.
- 朝部明美，木村由美，松田有紀，小路ますみ，小森直美，藤岡あゆみ．（2008）．在宅重症心身障害児支援に必要な職種間の統合ケアマネジメント．*第 25 回筑豊地区看護研究発表会集録集*，第 25 回，20－24.
- 小路ますみ，小森直美，藤岡あゆみ，宮田喜代志，川浪康男，中山みどり，北山后子．（2008）．看護職・他部門間のリスク・コミュニケーションの構造．*福岡県立大学看護学研究紀要*，5巻2号発刊予定.
- 小森直美，小路ますみ，藤岡あゆみ．（2007）．本学在宅看護実習における対象事例ならびに学生の技術体験に関する実態調査．*福岡県立大学看護学研究紀要*，５巻１号.
- 朝部明美，木村由美，小森直美，藤岡あゆみ，小路ますみ．（2007）．訪問看護における在宅療養者・家族への看護の要因－療養者・家族への満足度アンケートの分析結果から－．*第 24 回筑豊地区看護研究発表会集録集*．p21 - p28.

②その他最近の業績

〈学会報告〉

- 宮城陽輔，小路ますみ，小森直美，藤岡あゆみ．（2008，8）．統合失調症患者の気分変動を起こす要因，第 39 回日本看護学会学術集会精神看護，兵庫.
- 豊福麻紀，矢川京子，三村京子，高橋幸子，西裕美，小森直美，藤岡あゆみ，小路ますみ．（2008，8）．病棟看護師の訪問看護留学における在宅看護の学び，第 39 回日本看護学会学術集会看護教育，岐阜.
- 井上麻衣子，小路ますみ，小森直美，藤岡あゆみ．（2008，10）．高齢者に対する介護予防事業の効果的運営に関する考察－老人会と密着したデイサービス事業を通して－第 39 回日本看護学会学術集会地域看護，静岡.
- 山口由加里，縄田真理，森下美穂，熊井章乃，上野マツ枝，溜渕裕美，西裕美，小森直美，小路ますみ，藤岡あゆみ．（2008，11）．術後せん妄の発生予防介入ケアの考察－患者指導実施の前後比較検討から－．第８回福岡県看護学会，福岡.
- 小森直美，小路ますみ，藤岡あゆみ．（2008，12）．在宅看護実習における経験型実習指導の問題点と解決策の検討．第 28 回日本看護科学学会学術集会，福岡.
- 朝部明美，木村由美，松田有紀，小路ますみ，小森直美，藤岡あゆみ．（2008，12）．

在宅重症心身障害児支援に必要な職種間の統合ケアマネジメント．第 25 回筑豊地区看護研究発表会，田川.

・ 朝部明美，木村由美，小森直美，藤岡あゆみ，小路ますみ．(2007)．訪問看護における在宅療養者・家族への看護の要因－療養者・家族への満足度アンケートの分析結果から－．*第24回筑豊地区看護研究発表会，*飯塚.

③過去の主要業績
なし

３．外部研究資金
なし

４．受賞
なし

５．所属学会

日本看護学会、日本看護科学学会

６．担当授業科目（補助）

・基礎看護実習Ⅱ・2単位・2年・前期
・在宅看護論Ⅰ・2単位・2年・後期
・在宅看護実習・2単位・3年・通年
・専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期
・精神看護実習・2単位・2年・前期
・在宅看護論Ⅱ・1単位・3年・通年
・総合実習・3単位・4年・前期

７．社会貢献活動
なし

８．学外講義・講演
なし

９．附属研究所の活動等

所属	看護学部　精神看護学講座	職名	准教授	氏名	松枝　美智子

１．主な研究分野

精神科超長期入院患者の社会復帰援助（患者の援助及び患者を看護する看護師への援助）についての研究に関心があり、現在は「精神科長期入院患者の社会復帰援助レディネス尺度の開発」と「モジュール型精神障害者社会復帰援助研修プログラムの作成」を行っている。今後は、看護職者をはじめとする精神障害者の社会復帰援助を行う専門職者の援助レディネスの測定に基づき、各人のレディネスに応じた研修をヘルスプロモーション実践研究センターで行う予定である。また筑豊地区の精神病院からの要請があれば、出前研修にも応じたい。

２．研究業績

①著書・論文

松枝美智子，安永薫梨，安田妙子，大見由紀子．(2008)．精神看護実習で学生の患者ケアへの内発的動機づけが高まる要因．*福岡県立大学看護学研究紀要*，5（2），66-79.

松枝美智子，上村美智留，安田妙子，福田和美．(2007)．看護臨地実習における精神障害者の個人情報自己コントロールプロセス支援の実態．第 37 回日本看護学会論文集：看護教育，日本看護協会出版会，108-110.

安永薫梨，松枝美智子，安田妙子，中津川順子，村島さい子，中野榮子，安酸史子．(2007)．経験型精神看護実習におけるチームティーチング体制の検討：実習前後に行った事例検討会の成果について．第 37 回日本看護学会論文集：看護教育，日本看護協会出版会，96-98.

G supple 編集委員会(編)，安酸史子(編)，奥祥子(編著)，政時和美，森崎直子，中條雅美，田渕康子，熊谷有紀，大見由紀子，赤木京子，津田智子，福田和美，渡邉智子，山下清香，山名栄子，加藤法子，尾形由紀子，渕野由夏，松枝美智子．(2007)．患者がみえる成人看護の実践．東京：メディカ出版.

上村美智留，松枝美智子，福田和美，安田妙子．(2006)．個人情報自己制御支援－実習時のガイドラインモデルの作成－．*医療の広場*，46(10)，19-23.

松枝美智子，安永薫梨，安田妙子，村島さい子，中津川順子，中野榮子，安酸史子．(2006)．経験型実習教育におけるチームティーチング体制の強化～研究の全体構想～．*平成 16 年度～平成 17 年度科学研究費補助金[基盤研究（B）] 研究成果報告書*，53-65.

松枝美智子，安永薫梨，安田妙子，村島さい子，中津川順子，中野榮子，安酸史子．(2006)．経験型実習教育におけるチームティーチング体制の強化－ワークショップⅠの参加者によるプログラムの検討．*平成 16 年度～平成 17 年度科学研究費補助金[基盤研究（B）]研究成果報告書*，66-75.

村島さい子，中野榮子，中津川順子，松枝美智子，奥祥子，安永薫梨，安田妙子，芥川清香，藤野靖博，中野実代子，坪井桂子，安酸史子．(2006)．経験型実習教育ワークショッププログラムの開発．*平成 16 年度～平成 17 年度科学研究費補助金[基盤研究（B）研究成果報告書*，16-75.

上村美智留，松枝美智子，安田妙子，福田和美．(2006)．「看護臨地実習時における意思決定が困難な人の個人情報自己コントロールプロセス支援ガイドラインモデルの作成，*平成 17 年度財団法人政策医療振興財団研究助成事業報告書*－教育－，1-133.

安永薫梨，松枝美智子，安田妙子，中津川順子，村島さい子，中野榮子，安酸史子．(2006)．経験型実習教育におけるチームティーチング体制の強化－事例検討会Ⅰ・Ⅱの成果と今後の課題－．*平成 16 年度～平成 17 年度科学研究費補助金[基盤研究（B）]研究成果報告書*，76-87.

安永薫梨，松枝美智子，安田妙子，中津川順子，村島さい子，中野榮子，安酸史子．(2006)．経験型実習教育におけるチームティーチング体制の強化－事例検討会Ⅲの成果と今後の課題－．*平成 16 年度～平成 17 年度科学研究費補助金[基盤研究（B）]研究成果報告書*，88-109.

安永薫梨，松枝美智子，安田妙子，中津川順子，村島さい子，中野榮子，安酸史子．(2006)．精神看護実習におけるチームティーチング体制の検討－実習前後の事例検討会の成果と今後の課題－．第 37 回日本看護学会論文集(看護教育)，96-98.

②その他の業績

松枝美智子,安永薫梨,北川明,安田妙子,中野榮子,安酸史子.(2008,12).精神科超長期入院患者の社会復帰援助レディネス尺度の開発.第 28 回日本看護科学学会学術集会,福岡.

松枝美智子,安永薫梨,安田妙子,中野榮子,安酸史子.(2008,8).精神障害者の退院促進を目的とした研究の現状と課題.第 18 回日本看護学教育学会学術集会,つくば.

安酸史子，中野榮子，松枝美智子，渡邉智子，赤木京子，福田和美，安永薫梨，安田妙子．(2008)．経験型実習教育の事前学内演習における教授方法．第 18 回日本看護学教育学会．つくば.

安永薫梨，安田妙子，松枝美智子，中野榮子，安酸史子．(2008,8)．経験型精神看護実習において、学生が臨床指導者や教員の患者への対応をロールモデルとした場面とその学び．第 39 回日本看護学会【精神看護】，神戸.

松枝美智子，安永薫梨，安田妙子(2006)．精神看護実習で学生の患者ケアへの内発的動機付けが高まる要因，第 16 回日本精神保健看護学会，宇都宮.

松枝美智子，上村美智留，安田妙子，福田和美．(2006)．看護臨地実習時における精神障害者の個人情報自己コントロールプロセス支援の実態．第 37 回日本看護学会，松山.

安永薫梨，松枝美智子，安田妙子，中津川順子，村島さい子，中野榮子，安酸史子．(2006)．経験型精神看護実習におけるチームティーチング体制の検討－実習前後に行った事例検討会の成果について－．第 37 回日本看護学会，松山.

安永薫梨，松枝美智子，安田妙子，中津川順子，村島さい子，中野榮子，安酸史子．(2006)．経験型精神看護実習におけるチームティーチング体制の検討－実習前後に行った事例検討会の成果について－．第 37 回日本看護学会，松山.

３．外部研究資金

文部科学省科学研究費、萌芽、「モジュール型精神障害者社会復帰促進研修プログラムの開発」、330万円、平成19年4月1日～平成22年3月31日

４．受賞　なし。

５．所属学会

日本精神保健看護学会、日本看護学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本集団精神療法学会、日本看護学教育学会,日本老年看護学会

６．担当授業科目

精神保健・2単位・１年・後期、精神看護論Ⅰ・１単位・2年・前期、精神看護論Ⅱ・2単位・2年・後期、精神看護実習・2単位・2年・後期、精神看護学特論・2単位・1年・前期、精神看護学演習・2単位・1年・後期、臨床看護学特別研究・1-2年・8単位・通年

７．社会貢献活動　なし。

８．学外講義・講演

松枝美智子.(2008.10).情報開示に向けた看護記録のあり方,太宰府病院院内研修,福岡.

松枝美智子.(2008,11).ストレスとの上手な付き合い方.京都高校出前講義,福岡.

９．附属研究所の活動等

安永薫梨，松枝美智子，坂田志保路，梶原由紀子，津田智子，小野美穂，北川明，藤野靖博，於久比呂美，藤岡あゆみ，橋本茂子，清水夏子，近藤美幸，吉川未央，橘則子，石飛マリコ，永嶋由理子，中野榮子，渡邊智子，脇崎裕子，安酸史子．(2008．9)．第 5 回平成 20 年度経験型精神看護実習教育ワークショップⅠ，田川.

安永薫梨，松枝美智子，坂田志保路，梶原由紀子，津田智子，小野美穂，北川明，藤野靖博，於久比呂美，藤岡あゆみ，橋本茂子，清水夏子，近藤美幸，永嶋由理子，中野榮子，渡邊智子，脇崎裕子，安酸史子．(2008．10)．第 5 回平成 20 年度経験型精神看護実習教育ワークショップⅡ，田川.

所属	看護学部　精神看護学講座	職名	講師	氏名	安永　薫梨

１．教員紹介・主な研究分野

現在、「精神疾患を持つ患者が看護師への暴力を思い止まった体験と看護のあり方」をテーマとして、患者と看護師を対象に面接調査を行っている。患者が看護師への暴力を思い止まった体験は、看護師への暴力を寸前で我慢できたという成功体験でもあるので、地域へ退院していく自信につながると考える。また、看護師にとっても、その場面を振り返ることで、これが精神看護だと気づくものもあると思われる。精神看護は目に見えないと言われるが、言葉として精神看護を表現し、技として蓄積し、医療チームで共有できるものとしていきたい。

教育の分野では、大学の教員と実習施設の看護師が協働し、実習教育に対する共通理解を深め、チームティーチング体制を強化するために経験型精神看護実習教育ワークショップを行っている。平成21年度は、さらなる実習教育の質の向上をねらい「セルフケア看護モデルを活用した精神看護事例検討会」を開く予定である。

２．研究業績

①最近の著書・論文

＜論文＞

・安永薫梨(2006). 精神科閉鎖病棟における患者から看護師への暴力の実態とサポート体制, *日本精神保健看護学会誌*, 15(1), 96-103.

・安永薫梨, 松枝美智子, 安田妙子, 中津川順子, 村島さい子, 中野榮子, 安酸史子. (2007). 「経験型精神看護実習におけるチームティーチング体制の検討―実習前後の事例検討会の成果と今後の課題―, *第37回日本看護学会論文集(看護教育)*, 96-98.

・安永薫梨, 松枝美智子, 安田妙子, 中津川順子, 村島さい子, 中野榮子, 安酸史子. (2007). 経験型精神看護実習ワークショップによる実習指導への効果と今後の課題～実習施設と大学協働の取り組み～. *福岡県立大学看護学研究紀要*, 5(1), 19-27.

・松枝美智子, 安永薫梨, 安田妙子, 大見由紀子, Adler Collins Je-kan. (2008). 精神看護実習で学生の患者ケアへの内発的動機づけが高まる要因. *福岡県立大学看護学研究紀要*, 5(2), 66-78.

・安永薫梨, 安田妙子, 松枝美智子, 中野榮子, 安酸史子. (2009).経験型精神看護実習において、学生が臨床指導者や教員の患者への対応をロールモデルとした場面.*第39回日本看護学会論文集(精神看護)*.47-49.

②その他最近の業績

＜調査研究報告書＞

・安酸史子, 村島さい子, 中野榮子, 中津川順子, 奥祥子, 松枝美智子, 坪井桂子, 中野実代子, 芥川清香, 安永薫梨, 藤野靖博(2006). 経験型実習教育のシステム化に関する研究, *平成16年度～平成17年度科学研究費補助金〔基盤研究（B)〕研究成果報告書*.

＜学会報告＞

・松枝美智子, 安永薫梨, 安田妙子. 精神看護実習で学生の患者ケアへの内発的動機付けが高まる要因, 第 16 回日本精神保健看護学会, 宇都宮、2006 年 6 月.

・安永薫梨, 松枝美智子, 安田妙子, 中津川順子, 村島さい子, 中野榮子, 安酸史子. 経験型精神看護実習におけるチームティーチング体制の強化ー実習施設と大学が一体となったワークショップの企画・運営を通してー. 第 16 回日本看護学教育学会, 名古屋, 2006 年 8 月.

・安永薫梨, 松枝美智子, 安田妙子, 中津川順子, 村島さい子, 中野榮子, 安酸史子. 経験型精神看護実習におけるチームティーチング体制の強化ー実習前後の事例検討会の成果と今後の課題. 第 37 回日本看護学会―看護教育―, 松山, 2006 年 8 月.

・安永薫梨，松枝美智子，安田妙子，中津川順子，村島さい子，中野榮子，安酸史子．第3回経験型精神看護実習教育ワークショップの開催とその評価．第17回日本看護学教育学会，福岡，2007年8月．
・松枝美智子，安永薫梨，安田妙子，中野榮子，安酸史子．精神障害者の社会復帰促進を目的とした継続教育の現状と課題．第 18 回日本看護学教育学会．つくば，2008 年 8 月．
・松枝美智子，安永薫梨，安田妙子，北川明，安酸史子，中野榮子．精神科超長期入院患者の社会復帰援助レディネス尺度の開発．第 28 回日本看護科学学会．福岡，2008 年 12 月．
・安永薫梨．(2008)．看護師に暴力を振るった精神疾患を持つ患者の体験と看護支援のあり方．第 18 回日本精神保健看護学会．東京，2008 年 6 月．
・安永薫梨，安田妙子，松枝美智子，中野榮子，安酸史子．(2008)．経験型精神看護実習において，学生が臨床指導者や教員の患者への対応をロールモデルとした場面とその学び．第 39 回日本看護学会【精神看護】．神戸，2008 年 8 月．
③過去の主要業績

３．外部研究資金
・文部科学省、科学研究費補助金(若手研究B)、「精神疾患を持つ患者が看護師への暴力を思い止まった体験と看護の実際」、250万円、平成20年度～平成21年度.
・文部科学省、科学研究費補助金(萌芽研究)、「モジュール型精神障害者社会復帰促進研究プログラムの開発」、平成19年度～平成21年度、共同研究（研究代表者：松枝美智子）.
・文部科学省、科学研究費補助金（基盤研究C）、「経験型実習教育の研修プログラム開発」、平成19年度～平成20年度、共同研究（研究代表者：安酸史子）.

４．受賞

５．所属学会
第28回日本看護科学学会学術集会企画委員

日本精神科看護技術協会、日本精神保健看護学会、日本看護科学学会、日本看護協会、日本看護学教育学会、福岡県精神保健福祉協会

６．担当授業科目
教養演習、2単位・1年・前期、精神保健・2単位・1年・後期、精神看護論Ⅰ・2単位・2年・前期、精神看護論Ⅱ・2単位・2年・後期，精神看護実習・2単位・2年・後期、総合実習・3単位・4年・前期、専門看護ゼミ・2単位・4年・前期、卒業研究・2単位・4年・後期.

７．社会貢献活動

８．学外講義・講演
・平成 20 年度看護師研修「行動の奥に隠された患者さんの思い：看護師に暴力を振るってしまった患者の思いに焦点をあてて.」講師、2008 年 10 月 23 日、北九州市社会福祉研修所，北九州.

９．附属研究所の活動等
・第 5 回平成 20 年度経験型精神看護実習教育ワークショップⅠ．2008 年 9 月 9 日，福岡県立大学.
・第 5 回平成 20 年度経験型精神看護実習教育ワークショップⅡ．2008 年 10 月 3 日，福岡県立大学.

所属	看護学部　精神看護学講座	職名	助手	氏名	梶原　由紀子

１．教員紹介・主な研究分野

現在、「軽度発達障害児をもつ両親への子育ての思いと家族支援のあり方」を主な研究分野としている。軽度発達障害児の看護ケアを行う際に考慮しなければならないことは、本人への支援はもとより、両親やきょうだいを含めた家族全体への支援を行うことである。そのため、両親それぞれがもつ思いを明らかにし家族支援のあり方を検討することを目的としている。

軽度発達障害児の中には、心身症や学校不適応、社会不適応などの二次的障害を引き起こしている人がおり、その結果医療機関を受診していることも少なくないと考える。また、子どもが発達障害特性をもつことが虐待を招く要因として予想以上に大きいという示唆が、ここ数年の実証的な研究によって明らかにされてきている。子どもへの二次的な障害や虐待を防ぐためにも、軽度発達障害児の傍にいる保護者が協力し合いサポートしあうことは大切であり、本研究はその対策にも繋がると考える。

２．研究業績

①最近の著書・論文

なし

②その他最近の業績

なし

③過去の主要業績

なし

３．外部研究資金

・文部科学省、科学研究費補助金（萌芽研究）、「モジュール型精神障害者社会復帰促進研修プログラムの開発」、平成20年度～平成21年度、共同研究（研究代表者：松枝美智子）.

・文部科学省、科学研究費補助金（基盤研究C）、「経験型実習教育の研修プログラム開発」、平成20年度、共同研究（研究代表者：安酸史子）.

４．受賞

なし

５．所属学会

日本精神保健看護学会、日本精神科看護技術協会、日本看護協会.

６．担当授業科目（補助）

基礎看護実習Ⅰ・1単位・1年・前期，精神保健・2単位・1年・後期，精神看護論Ⅰ・2単位・2年・前期，精神看護実習・2単位・2年・前期，基礎看護実習Ⅱ・2単位・2年・前期，フィジカルアセスメント・1単位・2年・前期，精神看護論Ⅱ・2単位・後期，総合実習・3単位・4年・前期，専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期，卒業研究・2単位・4年・後期.

７．社会貢献活動

なし

８．学外講義・講演

なし

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

・安永薫梨，松枝美智子，坂田志保路，梶原由紀子，津田智子，小野美穂，北川明，藤野靖博，於久比呂美，藤岡あゆみ，橋本茂子，清水夏子，近藤美幸，吉川未央，橘則子，石飛マリコ，永嶋由理子，中野榮子，渡邊智子，脇崎裕子，安酸史子．(2008．9)．第 5 回平成 20 年度経験型精神看護実習教育ワークショップⅠ，田川．

・安永薫梨，松枝美智子，坂田志保路，梶原由紀子，津田智子，小野美穂，北川明，藤野靖博，於久比呂美，藤岡あゆみ，橋本茂子，清水夏子，近藤美幸，永嶋由理子，中野榮子，渡邊智子，脇崎裕子，安酸史子．(2008．10)．第5回平成20年度経験型精神看護実習教育ワークショップⅡ，田川．

所属	看護学部　精神看護学講座	職名	助手	氏名	坂田　志保路

１．教員紹介・主な研究分野

私は以前より「自殺と自殺予防に関する研究」に取り組んでおり、自殺問題で苦悩しておられる患者さんやご家族に対して、思いをはせ少しでも力になれることはないかと模索しながら研究を行っています。昨今では診療報酬の改定などに伴い、精神疾患を抱えつつ地域で不自由な生活を余儀なくされる方々が増え、歯止めのかからない自殺者数についても、さらに悪化するのではないかと危惧されます。そこで、現在、私は‘自殺問題を抱えている患者さんやご家族の方々が、病院内だけではなく退院後の地域生活においても、安心して少しでも自分らしく生活していくことができるような、継続的かつ実践的、具体的な看護ケアを通した自殺予防’について探究しているところです。学内の授業においても、学生とともに、国内だけではなく海外における自殺の現状などにも着目し、この問題の解決に向けて勤しんでいます。

＜主な研究分野＞

・自殺企図を繰り返すうつ病をもつ人に対する病棟・外来での予防的看護介入の検討
・老人の自殺や自殺予防に関する研究

２．研究業績

①最近の著書・論文

なし

②その他最近の業績

＜学会発表＞

2007年6月第33回日本看護研究学会学術集会にて「老人の自殺や自殺予防に関する文献レビュー」を報告した。

③過去の主要業績

なし

３．外部研究資金

・文部科学省、科学研究費補助金（萌芽研究）、「モジュール型精神障害者社会復帰促進研修プログラムの開発」、平成20年度～平成21年度、共同研究（研究代表者：松枝美智子）
・文部科学省、科学研究費補助金（基盤研究C）、「経験型実習教育の研修プログラム開発」、平成20年度、共同研究（研究代表者：安酸史子）

４．受賞

なし

５．所属学会

日本看護学教育学会、日本看護研究学会、日本精神保健看護学会、日本精神看護技術協会、日本赤十字看護学会、日本看護協会、自殺予防学会：各会員

６．担当授業科目（補助）

＜学部＞

基礎看護実習Ⅰ・1単位・1年・前期、精神保健・2単位・1年・後期、精神看護論Ⅰ・2単位・2年・前期、精神看護実習・2単位・2年・前期、基礎看護実習Ⅱ・2単位・2年・

前期、フジィカルアセスメント・1単位・2年・前期、精神看護論Ⅱ・2単位・2年・後期、総合実習・3単位・4年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期、卒業研究・2単位・4年・後期

７．社会貢献活動

なし

８．学外講義・講演

なし

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

・安永薫梨、松枝美智子、坂田志保路、梶原由紀子、津田智子、小野美穂、北川明、藤野靖博、於久比呂美、藤岡あゆみ、橋本茂子、清水夏子、近藤美幸、吉川未央、橘則子、石飛マリコ、永嶋由理子、中野榮子、渡邉智子、脇崎裕子、安酸史子.（2008. 9）. 第5回平成20年度経験型精神看護実習教育ワークショップⅠ、田川.

・安永薫梨、松枝美智子、坂田志保路、梶原由紀子、津田智子、小野美穂、北川明、藤野靖博、於久比呂美、藤岡あゆみ、橋本茂子、清水夏子、近藤美幸、永嶋由理子、中野榮子、渡邉智子、脇崎裕子、安酸史子.（2008.10）. 第5回平成20年度経験型精神看護実習教育ワークショップⅡ、田川.

所属	看護学部　成人看護学講座	職名	教授	氏名	中野　榮子

１．教員紹介・主な研究分野

現在、看護援助の方法論に関する研究、および学生の看護技術習得のプロセスに関する研究を主な研究分野としている。具体的には、看護技術の科学性に関する研究、看護実践方法論に関する研究、成人看護実習に関する研究などである。

看護技術は多様な対象に個別に働きかける為にエビデンスの追求は困難である。しかし、対象に確かな看護技術を提供するにはエビデンスの追求は不可欠であり、これから看護師として育つ学生も科学的実践ができるように技術修得することが必要であるので、これらの課題を追求していきたい。

２．研究業績

①最近の著書・論文

- 中野榮子、津田智子、永嶋由理子、淵野由夏、加藤法子、山名栄子、杉野浩幸、(2008)、洗髪技術のエビデンスに関する研究～予備洗いの有無による清浄度と快適性の検討～、福岡県立大学看護学研究紀要第６巻第１号
- 津田智子、中野榮子、永嶋由理子、渕野由夏、加藤法子、山名栄子：「口腔ケアの学内演習における学生の認識の特徴－学生が記述したプロセスレコードの分析を通して－」福岡県立大学看護学研究紀要第5(2),2008
- 渕野由夏，永嶋由理子，中野榮子，山名栄子，加藤法子，津田智子：基礎看護実習Ⅱの実習前・後における看護学生の思考動機の実態．福岡県立大学看護学研究紀要，第4巻2号，82-87．(2007)
- 中野榮子　：看護実践方法論に関する研究，福岡県立大学看護学部紀要，第３巻２号，52-64（2006）
- 中野榮子：清潔ケアのエビデンス、ｐ91-103（深井喜代子監修：ケア技術のエビデンス），へるす出版，(2006)，全511頁
- 中野榮子：体液バランスを保つケア、279-283、ストーマケア、p306-310、（深井喜代子・田ひとみ編：基礎看護学テキスト　EBN志向の看護実践）、南江堂、2006.
- 中野榮子：肺癌、p54-59、気胸、p74-77、不整脈、p198-203、脳腫瘍、p494-497、アトピー性皮膚炎、p648-651、全身性エリテマトーデス、p666-669、妊娠高血圧症候群、p770-773、（看護過程セミナー）、医学芸術社、2006、全819頁

②その他の業績

＜学会発表＞

- 松枝美智子，安永薫梨，安田妙子，北川明，安酸史子，中野榮子．(2008)．精神科超長期入院患者の社会復帰援助レディネス尺度の開発．第28回日本看護科学学会．福岡．
- 松枝美智子，安永薫梨，安田妙子，中野榮子，安酸史子．(2008)．精神障害者の社会復帰促進を目的とした継続教育の現状と課題．第18回日本看護学教育学会．つくば．
- 安永薫梨，安田妙子，松枝美智子，中野榮子，安酸史子．(2008)．経験型精神看護実習において、学生が臨床指導者や教員の患者への対応をロールモデルとした場面とその学び．第39回日本看護学会【精神看護】．神戸．
- 安酸史子、中野榮子、松枝美智子、渡邉智子、赤木京子、福田和子、安永薫梨、安田妙子（2008.8）経験型実習教育における事前学内演習における授業方法、第18回日本看護学教育学会．つくば．

＜報告書＞

- 小松啓子、岡村真理子、小島秀幹、安酸史子、中野榮子、上田毅、吉岡和子、夏原和美、石川フカエ、(2008.3)、赤村住民のメタボリックシンドローム予防対策に関する総合的研究―住民の健康と生活に関する基本調査―、福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター
- 小松啓子、岩橋宗哉、上田毅、上野行良、門田光司、中野榮子、森山沾一、西原尚之、

麦島剛、岡村真理子、本多潤子：筑豊地域における子どもたちのキャリア形成をめざした総合的研究－小学生の生活活動と健康調査－、平成 17 年度福岡県立大学研究奨励交付金研究成果報告書、2006

＜シンポジウム等＞

中野榮子：特別講演「中医学と西洋医学が調和した看護学への挑戦」司会、第 28 回看護科学学会学術集会．福岡市．2008.12

中野榮子：口演発表　がん看護（Ｓ７－６群）司会、第 28 回看護科学学会学術集会．福岡市．2008.12

③過去のその他の業績

・中野榮子、仙田恭子、津田智子、久保育美、東サトエ：足浴技術の巧拙が皮膚温に及ぼす影響に関する研究、鹿児島大学医学部保健学科紀要、第12巻2号、2002

・中野榮子、石沢隆、緒方重光、川原幸江、田畑千穂子：オストメイトのQOL向上への援助、日総研・消化器ケア、第5巻6号、2001

・中野榮子、細野喜美子：腹囲測定時の安楽への配慮に関する研究―筋電図による分析から―、鹿児島大学医学部保健学科紀要、第11巻2号、2001

３．外部研究資金

４．受賞

５．所属学会

日本看護学会、日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護研究学会、がん看護学会、看護科学研究学会、ナイチンゲール研究学会、

６．担当授業科目

基礎看護論Ⅰ・2単位･1年･前期、ケアリング論・2単位・1年･前期、成人看護論Ⅰ･2単位、2年･前期、成人看護論Ⅱ･2年後期・2単位、成人看護論Ⅲ・2年後期･2単位、看護実践論・2単位・3年生前期、成人看護実習・4単位・3年前期・後期、専門看護学ゼミ･2単位･4年･前期、2･単位、総合実習･3単位・4年前期、看護理論･2単位･大学院･前期、基礎看護学特論・2単位・大学院前期、基礎看護学演習・2単位・大学院後期

７．社会貢献活動

福岡地方社会保険医療協議会委員

福岡県准看護師試験委員

福岡県介護保険広域連合田川支部地域包括支援センター地域ケア推進協議会委員

福岡県看護協会筑豊支部施設代表

筑豊ブロック看護生涯教育委員会委員

第 28 回看護科学学会学術集会企画委員

８．学外講義・講演

看護教育制度、福岡県看護教員養成講習会、福岡市、200８.4～5

アメリカ・カナダの医療制度、平成 20 年度福岡県医療保険・福祉職員海外派遣研修　福岡市、2008・10

９．附属研究所の活動等

＜ヘルスプロモーション実践研究センター＞

・安永薫梨，松枝美智子，坂田志保路，梶原由紀子，津田智子，小野美穂，北川明，藤野靖博，於久比呂美，藤岡あゆみ，橋本茂子，清水夏子，近藤美幸，吉川未央，橘則子，石飛マリコ，永嶋由理子，中野榮子，渡邊智子，脇崎裕子，安酸史子．第 5 回平成 20 年度経験型精神看護実習教育ワークショップⅠ，田川．2008．9

・中野榮子．中條雅美．橋本茂子．黒田裕美．政時和美：第１回がん看護勉強会．田川 2008．10

・中野榮子、中條雅美、橋本茂子、黒田裕美、政時和美：第２回がん看護勉強会、田川 2008．12

所属	看護学部　成人看護学講座	職名	講師	氏名	添田　百合子

１．教員紹介・主な研究分野

1989 年，大阪警察病院附属看護専門学校卒業後，同病院にて臨床看護に従事。1999 年 3 月，創価大学教育学部教育学科（通信教育課程）卒業，2003 年 3 月，兵庫県立看護大学大学院看護学研究科，前期博士課程修了（看護学修士）。2004 年 3 月，日本看護協会より成人看護（慢性）専門看護師（2007 年 7 月から慢性疾患看護専門看護師に名称変更）の認定をうけ，看護管理室看護師長，慢性疾患看護専門看護師。2008 年 4 月より，福岡県立大学看護学部看護学科成人看護学講座講師。現在，慢性看護学分野における糖尿病患者への高度看護実践および慢性疾患看護専門看護師の実践知をテーマに研究している。

近年，医療現場は大きな変革が続いている。そのような中で，病いをもって生きる人々を護り支えることができる看護職の育成が重要となる。そのため私は，学部における看護基礎教育および，大学院等における慢性疾患看護専門看護師の育成に取り組んでいる。また，21 年度開設となる看護学部付属の看護実践教育センターにおいて，増え続ける糖尿病患者に対して，熟練した看護の実践できる糖尿病看護認定看護師教育にも取り組んでいきたいと考えている。

２．研究業績

①最近の著書・論文

添田百合子．（2006）．佐藤禮子　監修*「看護技術学習支援テキスト　成人看護学テキスト Ⅱ」*（担当箇所「Ⅸ．糖尿病をもつ人の看護」120-136）．日本看護協会出版会．東京．

添田百合子．（2007）．野並葉子　監修*「成人看護実習ガイド２/慢性期・回復期・終末期, Ⅳ」*（担当箇所「ケア技術６．体液・栄養ケア（脱水），98-100，ケア技術８．　セルフケアのための指導・教育/食事指導（糖尿病，高血圧），124-129，ケーススタディ　内部環境の調節障害　内分泌機能障害　８．甲状腺機能，312-316」．照林社．東京．

添田百合子．（2008）．日本糖尿病教育・看護学会　編集*「糖尿病に強い看護師育成支援テキスト」*（担当箇所「第 3 章-5 日常生活への支援，Ⅱ合併症により機能障害をきたした患者，1）視力障害，2）神経障害」194-206）．日本看護協会出版会，東京．

＜論文＞

添田百合子．（2008）．【個を活かす看護現場の組織力】「個」とチームを育てる　ケアの質を高めるスペシャリストの実践力　ケアの質向上を目指すスペシャリストの活用，看護展望，33（22），メヂカルフレンド社，東京．114-117.

添田百合子．（2008）．【各分野の CNS が注目する臨床看護を変える重要論文】 臨床看護を変える重要論文[慢性疾患看護]　慢性の病いとともに生きる人を理解する．*インターナショナル・ナーシングレビュー*，31（3），日本看護協会出版会，　73-78.

野並葉子，河田照絵，伊波早苗，米田昭子，馬場敦子，魚里明子，添田百合子，曽根晶子．（2008）．糖尿病患者へのヒューマン・ケアリングアプローチの有用性の検討，研究課題番号　16390643　平成 16 年度～平成 19 年度　科学研究費補助金　基盤研究（B）研究成果報告書.

②その他最近の業績

Nonami, Y., Yoneda, A., Baba, A., Uozato, A., Iha, S., Soeda, Y., Sone, M.（2006）Advanced Nursing　Practice for Diabetic Patients: A Qualitative Meta-Synthesis, The International Nursing　Conference on Prevention and Management of Chronic Conditions: International　Perspectives，January，Bangkok，Thailand.

添田百合子．（2007）．【シンポジウムⅡ　慢性看護“実践”のフロンティア】急性期病院における成人看護（慢性）専門看護師のチャレンジ　看護ケア外来の開設のプロセスと患者支援．第 1 回日本慢性看護学会学術集会，兵庫.

添田百合子．（2008，3）．【リレーシンポジウム】急性期病院における慢性疾患看護専門看

護師の活動と今後の課題．大学院教育改革支援プログラム「専門看護師育成・強化プログラム」キックオフ講演会（千葉大学大学院看護学研究科），千葉.

添田百合子.（2008，10）.【シンポジウムⅠ　病棟と外来，外来と地域をつなぐ― 慢性疾患看護の新たな視点 ―】病棟・外来・地域をつなぐ　慢性疾患看護専門看護師の取り組みと今後の課題，第 39 回日本看護学会（成人看護Ⅱ）学術集会，愛知.
テーマ　病棟と外来，外来と地域をつなぐ　― 慢性疾患看護の新たな視点 ―

添田百合子.（2008，12）.【シンポジウムⅡ　臨床現場のケアリング文化の形成】急性期病院におけるケアリング，第 28 回看護科学学会学術集会，福岡.

③過去の主要業績

野並葉子、伊波早苗、米田昭子、馬場敦子、魚里明子、添田百合子、西木晶子.（2003）. 糖尿病患者へのヒューマン・ケアリングアプローチの開発．平成 14 年度ヒューマンケア研究助成成果報告.

添田百合子.（2004）. 糖尿病患者の在宅療養支援ナーシング・トゥディ，19（11），日本看護協会出版会．東京．　28-30.

３．外部研究資金　なし

４．受賞　なし

５．所属学会

日本慢性看護学会評議員、日本糖尿病教育・看護学会評議員・編集委員、日本看護倫理学会評議員、日本看護科学学会会員、日本循環器看護学会委員

６．担当授業科目

教養演習・1単位・1年・前期，成人看護論Ⅰ・2単位・1年・前期，成人看護論Ⅱ・2単位・2年・後期，成人看護論Ⅲ・2単位・2年・後期，看護実践論・1単位・3年・前期，総合実習・3単位・4年・前期，成人・老年看護学実習・成人4単位・通年，専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期，卒業研究・2単位・4年・後期.

７．社会貢献活動

- 日本糖尿病療養指導士認定機構　日本糖尿病療養指導士受験ガイドブック編集委員
- 日本看護協会　認定看護師実行委員会（糖尿病看護）委員

８．学外講義・講演

添田百合子.（2008，8）. 糖尿病患者の療養を支えるフットケア，日本糖尿病教育・看護学会九州ブロックネットワーク委員会主催　糖尿病重症化予防のための研修会（フットケア）．福岡

添田百合子.（2008，8）. 療養指導の方法と計画（糖尿病教室の立案）・チームマネジメント・ネットワークづくり，糖尿病に強い看護師育成事業　香川県看護協会看護研修センター，愛媛.

添田百合子.（2008，10）. 慢性疾患看護 CNS として取り組んできた活動と今後の展望，北海道医療大学 CNS の会，札幌.

９．附属研究所の活動等

- ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- プロジェクト研究「『足と靴』の問題と福祉拡充に関する総合的研究」共同研究者

所属	看護学部　成人看護学講座	職名	助手	氏名	橋本　茂子

１．教員紹介・主な研究分野

2004 年久留米大学大学院医学研究科修士課程終了。久留米大学病院、看護専門学校、短期大学に勤務後、2008 年 6 月から本学に着任。大学に勤務して教育、研究、地域貢献など大学の役割は重大であるというのを実感している。主な研究は看護師の臨床経験年別にみた実践能力の相違の研究において看護基礎教育課程と卒後教育課程の連動、卒業後教育プログラムの工夫が課題となった。実践力としてみたひとつにコミュニケーションがある。コミュニケーション技術はその時その場かぎりのものではなく、患者との関係性において継続され看護援助にも影響する。看護基礎教育において今回のカリキュラム改正でも強化された内容である。コミュニケーションを看護援助への影響やコミュニケーションの構成要素から看護学生、看護師を対象に研究に取組んでいる。

また、成人看護実習では学生の学びについて演習、指導の効果・工夫などについても研究を進めていきたい。

２．研究業績

①最近の論文・著書

・添田百合子，橋本茂子，木村和江，吉永喜美代．(2008)「Ｃ型肝炎患者の看護」，ナーシング・トウディ，23(18)，23－29.

・　中條雅美，橋本茂子，山名栄子．(2008)「乳がん患者の看護」，クリニカルスタディ，20（11），58－72.

・木部　泉，橋本茂子，上田雪子，中　淑子．看護学生の発達課題を踏まえた効果的な看護過程教育の検討．純真短期大学紀要．第 49 号．93－106，2008.

・森永徹、森永佳江、亀山広喜、橋本茂子．小児臓器移植に関する一考察．純真短期大学紀要．第 48 号．165－179．2008.

②その他最近の業績

＜学会報告＞

・橋本茂子，上田雪子，木部　泉．看護学生のコミュニケーションと透過性調整力との関連．千葉看護学会　第 14 回学術集会（千葉）．2008.

・上田雪子，橋本茂子，木部　泉．看護学生の職業的アインデンティティに関する研究．千葉看護学会　第 14 回学術集会（千葉）．2008.

＜公開講座・ワークショップ＞

・安永薫梨，松枝美智子，坂田志保路，梶原由紀子，津田智子，小野美穂，北川明，藤野靖博，於久比呂美，藤岡あゆみ，橋本茂子，清水夏子，近藤美幸，吉川未央，橘則子，石飛マリコ，永嶋由理子，中野榮子，渡邊智子，脇崎裕子，安酸史子．(2008．9)．第 5 回平成 20 年度経験型精神看護実習教育ワークショップⅠ，田川.

・安永薫梨，松枝美智子，坂田志保路，梶原由紀子，津田智子，小野美穂，北川明，藤野靖博，於久比呂美，藤岡あゆみ，橋本茂子，清水夏子，近藤美幸，永嶋由理子，中野榮子，渡邊智子，脇崎裕子，安酸史子．(2008．10)．第 5 回平成 20 年度経験型精神看護実習教育ワークショップⅡ，田川.

５．所属学会

日本看護学教育学会、千葉看護学会

６．担当授業科目（補助）

精神看護実習・2 年・後期・2 単位　　成人看護論Ⅱ・2 年・後期・２単位

成人看護論Ⅲ・2 年・後期・2 単位　　看護実践論、３年・後期・１単位成人

成人・老年看護実習・3 年・通年・６単位

７．社会貢献活動

福岡県立大学　がん看護勉強会企画・運営（2008．10．28）　田川
福岡県立大学　がん看護勉強会企画・運営（2008．12．16）　田川
福岡県立大学　がん看護勉強会企画・運営（2009．　2．17）　田川

８．学外講演

中野榮子，黒田裕美，橋本茂子，政時和美
第１回福岡県立大学がん看護セミナー企画・運営　（2009．１．24）　福岡

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部　成人看護学講座	職名	助手	氏名	黒田　裕美

１．教員紹介・主な研究分野

平成13年に佐賀医科大学を卒業。卒業後、国立循環器病センターの心臓内科病棟、主に不整脈と心不全の患者を対象とした病棟で、5年間、看護師としての経験を積んだ。その後、佐賀大学大学院に進学し、修士論文では新人看護師の教育、プリセプターシップについて研究を行った。平成20年に修了し、平成20年4月から教員として福岡県立大学に勤務している。

現在は、慢性心不全患者への看護を主な研究分野としている。具体的には、①慢性心不全患者のボディイメージ、②入退院を繰り返す患者のセルフマネージメント能力を主な研究テーマとしている。

５．所属学会

日本看護研究学会、日本循環器看護学会

６．担当授業科目（補助）

〈学部〉

成人看護論Ⅰ・２単位・２年・前期、成人看護論Ⅱ・２単位・２年・後期、成人看護論Ⅲ・２単位・２年・後期、成人老年看護実習・６単位・３年・通年、看護実践論・１単位・３年・前期、総合実習・３単位・４年・前期

７．社会貢献活動

九州がんプロフェショナル養成プランの福岡県立大学における活動の企画・運営に参加している。

第１回福岡県立大学がん看護勉強会．（2008．10）．田川．
第２回福岡県立大学がん看護勉強会．（2008．12）．田川．
第３回福岡県立大学がん看護勉強会．（2009．2）．田川．

８．学外講義・講演

中野榮子，黒田裕美，橋本茂子，政時和美．（2009.1）．第 1 回福岡県立大学がん看護セミナー．福岡．

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部　成人看護学講座	職名	助手	氏名	政時　和美

１．教員紹介・主な研究分野

看護師として、救急部に所属し、その経験等を活かし、2005年成人看護学講座に着任。以後、実習場面を中心に学生と関わる。

主な研究分野は、動物を介在した研究であり、効果をバイオマーカー等で、検討している。

２．研究業績

①最近の著書・論文

中條雅美・森崎直子・政時和美．(2008)．成人看護学分野におけるコミュニケーションおよび倫理の取り組み．医学書院．49(2),126-132.

共著『機能障害別看護ベーシックトレーニング』．メディカ出版．2008．（担当箇所「甲状腺機能低下症でホルモン補充療法を受ける患者」、477－483）

②その他最近の業績

＜テキスト＞

・ 共著『患者が見える成人看護の実践』．メディカ出版．2006．（担当箇所「序論　ゴードンとオレムの枠組みの使い方」,10-14・「１部２章１心筋梗塞で救急搬入された患者、29－35）

＜学会発表＞

・ 小野美穂，添田百合子，政時和美，清水夏子，安酸史子．(2008)．ピア・エデュケーション機能を取り入れた福岡糖尿病患者教育研究会の取り組み．第 13 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会，金沢

・ 政時和美，中條雅美，森崎直子．(2008)．一般病院における心理・社会的がん看護支援における問題点の抽出．第 28 回日本看護科学学会学術集会，福岡

③過去の主要業績

３．外部研究資金

４．受賞

５．所属学会

ヒトと動物の関係学会、日本救急看護学会、日本看護科学学会

６．担当授業科目

担当授業科目（補助）

成人看護実習・６単位・3年・通年、総合実習・３単位・４年生・前期、看護実践論・１単位・3年・前期、成人看護論Ⅰ・2単位・2年・前期、成人看護論Ⅲ・2単位・2年・後期

７．社会貢献活動

日本看護科学学会　実行委員

８．学外講義・講演

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部　成人看護学講座	職名	助手	氏名	山名　栄子

１．主な研究分野

現在、現在、腎不全看護を主な研究分野としている。具体的には、①透析患者の自己管理を促す動機づけ支援と行動変容プロセスを可視化する教材開発研究、②透析自己管理教育の高度専門看護実践アルゴリズムに関する研究を主な研究テーマとしている。

２．研究業績

①著書・論文

＜著書＞

・山名栄子「6章－1 内分環境調節機能障害のある人に対する看護　甲状腺機能亢進症で甲状腺亜全摘術を受ける患者」、林正健二・山内豊明・明石惠子監修『ペーパーペイシュエントから学ぶ機能障害別看護ベーシックトレーニング』、メディカ出版、2008年.

・山名栄子「2章－1 慢性期にある患者や疾病予防のアセスメントと看護支援 腎疾患患者のセルフコントロールへの援助」、安酸史子・奥祥子編集『G SUPPLE 患者がみえる成人看護の実践』、メディカ出版、2007年.

＜論文＞

・山名栄子，飯盛美由紀．職場における看護師間のアサーティブ学習会とその効果．福岡県立大学看護学研究紀要，第 6 巻 1 号，2008 年.

・佐名木宏美，岡美智代，山名栄子，李孟蓉，柿本なおみ，後藤真希，高橋純子．EASE プログラムに関する文献研究－介入効果と EASE プログラムを実践する看護者に必要な要素の検討．日本腎不全看護学会誌，10 巻 2 号，2008 年.

・中野榮子，津田智子，永嶋由理子，渕野由夏，加藤法子，山名栄子，杉野浩幸．洗髪技術のエビデンスに関する研究～予備洗いの有無による洗浄度と快適性の検討．福岡県立大学看護学研究紀要，第 6 巻 1 号，2008 年.

・綿貫恵美子，杉本佳子，菊池千鶴子，山名栄子，岩崎和代，岡美智代「都内在住の血液透析患者における経済状況の実態」，第 9 巻第 1 号，北里看護学誌，2007 年.

＜総説＞

・中條雅美，橋本茂子，山名栄子（2008）．ナーシングプロセス　乳がん患者の看護．クリニカルスタディ，29（11），58-72

・後藤真希，岡美智代，山名栄子，佐川美枝子，鈴木直美(2007).透析療法における家族ケア　自己管理が必要な人とその家族への援助：第 5 回精神障害を発症した患者家族への援助を通して　水分管理不良の患者に行動変容プログラムを活用し，セルフマネジメントが向上した事例．月刊家族ケア．5(4)，16-19.

・鈴木直美，岡美智代，山名栄子，佐川美枝子，後藤真希(2007).第 4 回行動変容プログラムの活用により患者と家族の双方にセルフマネジメントの向上が見られた事例.透析療法における家族ケア　セルフマネジメントが必要な人とその家族への援助.月刊家族ケア.5(2)，16-20.

・佐川美枝子，岡美智代，山名栄子，後藤真希，鈴木直美(2006).第 3 回行動変容プログラムで家族の問題を解決する その 2.月刊家族ケア.4(12)，10-14.

・山名栄子，佐川美枝子，岡美智代，後藤真希，鈴木直美(2006)．第 2 回行動変容プログラムで家族の問題を解決する その 1.月刊家族ケア.4(10)，14-17.

・岡美智代，佐川美枝子，山名栄子，後藤真希，鈴木直美(2006)．第 1 回透析の概要と患者・家族が抱える問題.月刊家族ケア.4(8)，20-23.

②その他の業績

＜報告書＞

・主任研究者水流聡子，研究協力者山名栄子「厚生労働省科学研究費補助金　医療技術評価総合研究事業　保健・医療・福祉領域の安全と質保証に貢献する看護マスターの統合

的質管理システムと高度専門看護実践を支援するシステム開発研究」．平成17-19年度統括研究報告書，2008年4月．
・岡美智代，神谷千鶴，山名栄子，佐川美枝子「疾病の自己管理教育プログラム　透析管理教育プログラム」，主任研究者水流聡子，厚生労働科学研究費補助金　医療技術評価総合研究事業　保健・医療・福祉領域の安全と質保証に貢献する看護マスターの統合的質管理システムと高度専門看護実践を支援するシステム開発研究，2007年4月．
・津村智恵子，安藤智子，池田信子，鎌形喜代実，香山芳子，佐々木峯子，福井久，細谷たき子，三好ゆかり，野村陽子，春日里江，石原美和，習田由美子，漆﨑育子，佐藤美稚子，花房蘭子，山名栄子「健康増進・介護予防事業リーダー育成研修プログラム開発事業」平成17年度先駆的保健活動交流推進事業報告 新たな地域保健活動の創造と発展へのチャレンジ，2006年3月．

＜学会報告＞
・山名栄子，綿貫恵美子，岡美智代，岩崎和代「都市部透析患者の食事管理に関するアドヒアランスの実態」，第53回日本透析医学会学術集会（兵庫），2008年6月．
・山名栄子，綿貫恵美子，岡美智代，岩崎和代「診療報酬改定前における都市部透析患者の活力に関する実態」，第27回日本看護科学学会学術集会（東京），2007年12月．
・岩崎和代，菊池千鶴子，栗原明美，山名栄子，綿貫恵美子，岡美智代「成人男女の自覚症状/QOL/医療満足度に関する性差の実態」，第51回日本透析医学会学術集会（横浜），2006年8月．
・栗原明美，菊池千鶴子，杉本佳子，山名栄子，岩崎和代，綿貫恵美子，岡美智代「透析患者における通院行動の現状と身体心理社会的要因との関連」，第51回日本透析医学会学術集会（横浜），2006年8月．
・ Eiko yamana，Chizuru Kamiya，Michiyo Oka，Mieko Sagawa，Satoko Tsuru「Structural visualization of expert nursing: Dialysis patient education program “PD catheter management”」，9th International Congress on Nursing Informatics,（Korea），2006年6月．
・ Chizuru Kamiya，Michiyo Oka，Eiko Yamana，Mieko Sagawa，Satoko Tsuru「Structural visualization of expert nursing: Dialysis patient education program “Vascular access management”」, 9th International Congress on Nursing Informatics.
・ Michiyo Oka，Chizuru Kamiya，Mieko Sagawa，Eiko Yamana，SatokoTsuru「Structural visualization of expert nursing: hemodialysis patient Education Program “Behavior Modification Program for Hemodialysis Patients"」，9th International Congress on Nursing Informatics，（Korea），2006年6月．

③過去の主要業績
・岡美智代，岩崎和代，菊池千鶴子，栗原明美，杉本佳子，山名栄子，綿貫恵美子「東腎協結成30周年記念会員実態調査報告集」，東京都腎臓病患者連絡協議会，2005年9月．
・岡美智代，神谷千鶴，佐川美枝子，山名栄子「疾病の自己管理支援プログラム 透析自己管理教育プログラムのアルゴリズム.高度専門看護実践の可視化とアルゴリズムの抽出. 38 巻 7 号，看護研究，2005 年.

５．所属学会

日本透析医学会，日本看護科学学会，日本看護研究学会，日本腎不全看護学会，日本看護学会，北日本看護学会　各会員

６．担当授業科目（補助）

＜学部＞

成人看護論Ⅰ・2単位・2年・前期，成人看護論Ⅱ・2単位・2年・後期，成人看護論Ⅲ・2年・後期，成人・老年看護実習・7単位・3年・通年

７．社会貢献活動

第28回日本看護科学学会学術集会実行委員

所属	看護学部　老年看護学講座	職名	准教授	氏名	渡邉　智子

１．教員紹介・主な研究分野

2001年兵庫県立看護大学大学院看護学研究科修士課程修了。「認知症高齢者ケアの場における看護者の判断」について取り組む。1年間200床の急性期病院で教育担当師長として勤務し、2002年愛知医科大学看護学部講師を経て、2006年本学に着任。

「老い」て、病気を持っても付き合い、なお「生き生き」と輝いて生きるって？生きるって？存在する意味って？出会った方々は、人生の先輩として・老年看護の師として「老いを生きる実践知」を私に教えてくださっています。その方々からの学びを言葉にし、その方々がさらに暮らしやすい町を作っていくことを研究のテーマとしています。

主な関心は，高齢者の生活リズムを整える援助、老年看護学教育方法、高齢者と若者の世代間交流、高齢者（認知症高齢者も含む）・家族の生きる実践知，看護職者の実践知、高齢者が暮らしやすいケアシステム作りです。「高齢者の喜びや楽しみと身体」について深めていきたいと考えています。

２．研究業績

①最近の著書・論文

・渡邉智子，八島妙子，茂野香おる，井上映子，杉田由加里，酒井郁子，吉本照子．（2006）．*介護老人保健施設での看護・介護職者が有する倫理的ジレンマ－高齢者の生活リズムに調整に関して－*，第 36 回日本看護学界論文集―看護管理―，p392-p394.

・茂野香おる，井上映子，八島妙子，渡邉智子，杉田由加里，酒井郁子，吉本照子．（2007）．介護老人保健施設入居者の生活リズム調整に関する看護師のアセスメント視点．*千葉県立衛生短期大学紀要*，25（２），61-68.

・M.Yamashita,T.Kubota,E.Fuchita,K.Yokoyama,H.Hayashi,S.Okamoto,E.Sano, A.Matsuo, N.Shimasue,T.Watanabe,R.Kawashima &K.sugimoto(2007).A Nursing tool validated as an effective measure over MMSE and FAB in dementia. *International Nursing Review*,54(2),179-182.

・酒井郁子，吉本照子，杉田由加里，茂野香おる，井上映子，八島妙子，渡邉智子．（2008）．介護老人保健施設入居者への生活リズム調整援助の効果の構造．*千葉看護学会会誌*，14（２），54-62.

②その他最近の業績

＜調査研究報告書＞

・共著「日本文化型看護学の創出・国際発信拠点―実践知に基づく看護学の確立と展開－身体機能調整，高齢者の生活リズム調整及び構築に関する看護職者の実践知，ｐ101－102」，千葉大学平成 17 年度 21 世紀ＣＯＥプログラム拠点報告書，2006 年 3 月.

・共著「痴呆症高齢者の残存能力測定尺度の開発と看護介入，認知症高齢者の学習介入後における残存能力の変化についての研究，ｐ16-40」，平成 14～17 年度科学研究費補助金　基盤研究（B）（２）研究成果報告書，2006 年 6 月.

・共著「日本文化型看護学の創出・国際発信拠点―実践知に基づく看護学の確立と展開－身体機能調整，高齢者の生活リズム調整及び構築に関する看護職者の実践知，ｐ82」，千葉大学平成 18 年度 21 世紀ＣＯＥプログラム拠点報告書，2007 年 3 月.

・共著「地域における高齢者ケア継続のためのシステムに関する研究　介護老人保健施設入所者の生活リズム調整に関するケアの継続の方法論，p25」，平成 18 年度看護実践研究指導センター年報，2007 年 3 月.

＜学会発表＞

・共同「高齢者の子どもとの交流と社会参加活動との関連」，日本老年看護学会第 11 回大会．2006 年 11 月.

・共同「介護老人保健施設入所高齢者の口腔内状態と食事の摂取状況および口腔清掃方法との関連」．日本老年看護学会第 12 回学術集会．2007 年 11 月.

・井上映子，茂野香おる，渡邉智子，酒井郁子，吉本照子，八島妙子，杉田由加里．（2008）．

介護老人保健施設入居者への生活リズム調整援助効果に関する研究　第 1 報－管理者，ケアスタッフ，入居者が認識する援助効果の一致とずれー．日本老年看護学会第 13 回学術集会, 石川.

・酒井郁子，吉本照子，杉田由加里，八島妙子，井上映子，渡邉智子，茂野香おる．(2008)．介護老人保健施設入居者への生活リズム調整援助効果に関する研究　第 2 報－本人の反応および言動から確認された生活リズムの特徴と援助効果ー．日本老年看護学会第 13 回学術集会, 石川.

・吉本照子，酒井郁子，八島妙子，渡邉智子，井上映子，茂野香おる，杉田由加里．(2008)．介護老人保健施設の在宅療養支援におけるケア職者のジレンマ．日本老年看護学会第 13 回学術集会, 石川.

③過去の主要業績

・共同「平成 7 年度・平成 8 年度痴呆予防例報告システムづくり推進事業報告書（厚生省地域保健推進事業事業主体：伊万里)」．1997 年 3 月.

・共同「地域における精神保健福祉ニーズと支援実態の検討―ニーズに合致した実践活動のためにー」、愛知医科大学看護学部紀要第 2 巻、pp. 73-77、2003.

・共同「高齢者と学生の対話による学習効果」、愛知医科大学看護学部紀要第 3 巻、pp.81-84、2004.

・共同「【看護研究と現象学的アプローチの動向】看護における現象学の活用とその動向」、看護研究、37 巻第 5 号、pp. 431-441、2004.

３．外部研究資金

・文部科学省、科学研究費補助金（萌芽研究)、「アクションリサーチによる看護職の後期高齢者フィジカルアセスメント支援システム開発」、平成２０年度

４．受賞

なし

５．所属学会

日本老年看護学会，日本看護科学学会，日本看護学教育学会，日本老年社会科学会，日本リハビリテーション看護学会，日本認知症ケア学会，日本未病システム学会
各会員

６．担当授業科目

生態機能看護学Ⅱ・２単位（１コマ）・1年・前期、教養演習・1単位・1年・前期、老年看護論Ⅰ・２単位・２年・前期，老年看護論Ⅱ・２単位・２年・後期，老年看護実習・２単位・３年・通年，看護研究・２単位（２コマ）・３年・後期、専門看護学ゼミ・２単位・４年・前期，総合実習・３単位・４年・前期，卒業研究・２単位・４年・後期、臨床看護学特別研究・2単位・1年・通年、老年看護学特論・2単位・1年・前期、老年看護学演習・2単位・1年・後期

７．社会貢献活動

・福岡県看護協会　研究発表支援員
・地域福寿会での学生とともにボランティア活動

８．学外講義・講演

・鞍手高等学校・出前講義「 認知症高齢者の体験世界と看護」講師、9 月
・田川市社会福祉協議会老人クラブ連合会「健康に生きるー地域で生き生きと活動するためにはー」講師 、10 月
・福岡県福祉労働部労働局新雇用開発課新生活産業室「大規模団地におけるコミュニティを醸成するためのデイケアセンターの設置」講師，8 月

９．附属研究所の活動等

・ヘルスプロモーション実践研究センター「地域住民とともに創造する筑豊の健康長寿文化　看護学生と地域住民による健康で長寿を楽しむ生活づくり活動」実践研究活動代表者

所属	看護学部　老年看護学講座	職名	講師	氏名	楢　直美

１．主な研究分野

研究分野は「要介護高齢者の Quality of life（生活の質）の維持・向上と介護予防」をテーマとし、この分野における効果的な看護と介護の協働と連携の方法について探求中です。介護保険制度施行後、要介護高齢者の療養生活の場を地域・在宅へと移行していく流れの中で、いかに看護の専門性を活かして介護と協働していくか重要な要素だと考えています。特に今後は、要介護者及び家族介護者の生活満足度の向上を図るための介入方法に取り組みたいと考えます。まずは要介護高齢者が在宅・地域で安心し自分らしく生活できるよう支援するめのサポートシステムにおいて、看護と介護の協働と連携の在り方を明確化し、その中で看護の重点化を図る介入方法について検討していきたいと考えています。

２．研究業績

①著書・論文

〈論文〉

- 楢直美、尾中愛子「生活習慣の確立を促す健康教育の在り方を考える。」、日本健康教育学会、Vol.16、2008 年
- 楢直美「高齢者介護を保障するための福祉行政の役割」、九州女子大学紀要、第 43 巻 1 号、2007 年.
- 楢直美「介護保険制度における市町村の公的責任―介護サービスの質を保障する視点から―」北九州市立大学大学院紀要、第 20 号、2007 年.
- 楢直美「訪問看護の専門性を活かした地域在宅ケアの展開」九州女子大学紀要、第 42 巻 2 号、2006 年.

②その他の業績

〈調査研究報告書〉

- 福田和美、安酸史子、山幡信子、渡邉智子、楢直美、赤木京子、「住民参加型看護ゼミ『ヘルシーエイジング』参加における地域住民の健康意識の変容とプログラムの検討、福岡県立大学付属研究所2007年度事業報告書、2008年.
- 安次富郁哉、楢直美「訪問看護師の業務分析」私立大学教育研究高度推進特別補助金研究成果報告書、2007 年.
- 楢直美、津田小百合「介護保険基本的性格との法的構造. ～市町村を取り巻く三者間の関係～」私立大学教育研究高度推進特別補助金研究成果報告書、2006 年.

〈学会報告〉

- 楢直美、丸山泰子「デイケア利用の高齢者とその家族への在宅支援に関する研究（第2報）―家族介護者のQOLを高める介入方法の検討―」、第13回日本在宅ケア学会，大阪．2009年3月.
- 丸山泰子、楢直美「デイケア利用の高齢者とその家族への在宅支援に関する研究（第1報）―高齢者とその家族が抱える不安要因の分析―」、第13回日本在宅ケア学、大阪、2009年3月.
- 楢直美「グループホームにおける認知症高齢者への転倒リスクマネジメント」、第7回日本ケアマネジメント学会、熊本、2008年7月.
- 楢直美、尾中愛子「生活習慣の確立を促す健康教育の在り方を考える」、第17回日本健康教育学会、東京、2008年6月.
- 楢直美、寺西洋子「訪問介護員の心身健康度に及ぼす要因に関する研究」、第12回日本在宅ケア学会、東京、2008年3月.
- 寺西洋子.楢直美「高齢者ケアにおける室の向上を目指したマンパワーの養成」、第12

回日本在宅ケア学会、東京、2008年3月.
・ 楪直美、安次富郁哉「訪問看護の専門性を活かした地域在宅ケアの展開」、第11回日本在宅ケア学会、埼玉、2007年3月.

〈インタビュー〉
・「高齢者支援－無料健康相談会・行橋」、朝日新聞、2006年.

〈講座テキスト〉
・ 楪直美「介護実践塾」介護フォローアップ研修会、北九州地区職業訓練協会・マイテク・センター・北九州、2006年.
・ 楪直美「いきいき健康講座・生活習慣病予防と健康チェック」NPO法人生涯現役支援センター、2006年.
・ 楪直美「ストレスマネジメントと上手な付き合い方」NPO法人生涯現役支援センター、2006年.

３．外部研究資金
・文部科学省科学研究費補助金(萌芽研究)日本学術振興会
「小規模医療機関における看護者の虐待被害者ケア能力の向上に向けた教育に関する研究」平成１９年～平成21年，研究分担者.

５．所属学会
日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本在宅ケア学会、日本健康教育学会、日本老年看護学会、日本看護学教育学会、日本ケアマネジメント学会

６．担当授業科目
老年看護論Ⅰ・2単位・2年・前期，老年看護論Ⅱ・2単位・2年・後期，成人・老年看護実習6単位（うち老年看護実習2単位）・3年・通年，看護専門ゼミ・2単位・4年・前期，総合実習・3単位・4年・前期，卒業研究・2単位・4年次後期,老年看護学特論･2単位・1年・前期,老年看護学演習・2単位・1年・後期

７．社会貢献活動
・ NPO法人「福祉・医療機関教育評価機構」理事・第三者評価委員
・ NPO法人「生涯現役支援センター」高齢者健康相談員
・ 筑豊市民大学「ヘルシーエイジング」に参画させていただき、実践活動を行っている。

８．学外講義・講演
・ 楪直美、渡邉智子、筑豊市民大学「看護と介護について」、福岡県立大学、2008. 11.
・ 安酸史子、楪直美、福田和美、赤木京子「郊外学習　ヘルシー体験」、筑豊市民大学、飯塚、2008.11.
・ 楪直美「認知症高齢者と介護」生涯現役支援セミナー、行橋、2008.11.
・ 楪直美　総合的学習出前講義『心に寄り添う看護』」、東築高校、2008.10.
・ 楪直美「高齢者とストレスマネジメント」生涯現役支援セミナー、行橋、2008.9.
・ 楪直美「介護実践塾：基礎編・応用編」いきいき市民講座、北九州、2008.8.
・ 楪直美　オープンキャンパス模擬授業「看護で心と身体を matchin グー!」2008.7.
・ 楪直美「高齢者を取り巻く保険･医療･福祉制度」生涯現役支援セミナー、行橋、2008.7.
・ 楪直美　出前講義「看護の世界を体験しよう！」、北九州高校、2008 年 6 月.
・ 楪直美「高齢者の生活習慣病予防と健康法」生涯現役支援セミナー、行橋、2008.5.

９．附属研究所の活動等
ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部　老年看護学講座	職名	助教	氏名	赤木　京子

１．教員紹介・主な研究分野

変形性股関節症が進行し関節破壊が生じた末期の状態に行われる人工股関節全置換術を受けた患者への退院指導や継続看護のあり方について検討することを研究テーマとしている。

今後急激な高齢化に伴う変形性股関節症患者の増加や治療技術の進歩に伴い，人工関節の手術件数も増加することが予測される。人工関節を受けた患者は，術後の合併症である脱臼や磨耗について長期的なセルフケアが必要とされ，医療者による患者への生活指導には在宅における生活状況に応じた個別的な支援が求められる。現在人工股関節置換術を受ける患者への看護支援に関する研究について取り組んでいる。

２．研究業績

①最近の著書・論文

＜著書＞

・赤木京子「第２部　２章　１不慮の事故で上肢切断を受けた患者の心理的適応への援助」，安酸史子・奥祥子編集『患者が見える成人看護の実践』，メディカ出版，2007 年.

＜論文＞

・山本武志，井川梨恵，仮屋真由美，黒澤奈都子，橘則子，初村暢子，原田香菜，松尾由記，赤木京子「大学生のグループワークの負担感に関する調査研究」，『看護教育』，48（3），250－256，2007 年.

・田渕康子，藤田君支，赤木京子「下肢機能に障害のある高齢患者の手術後の生活状況」，『整形外科看護』，12（11），93－98，2007 年.

・赤木京子，福田和美，渡邉智子「老年看護実習で達成感を抱いた学生の学びのプロセス」，『看護展望』，34（3），87－93，2009年.

・福田和美，赤木京子，渡邉智子「老年看護実習における実習指導者研修会の意義と効果」，『福岡県立大学看護学研究紀要』，6（2）掲載予定，2009 年.

②その他最近の業績

＜学会報告＞

・田渕康子，赤木京子，藤田君支，佐藤和子「下肢関節に障害のある高齢患者の手術後の生活状況」日本看護研究学会九州地方会（福岡），2006 年 11 月.

・赤木京子，藤田君支，佐藤和子「人工股関節全置換術を受けた患者の術後の生活状況と活動量」，日本看護研究学会（岩手），2007 年 8 月.

・藤田君支，古賀明美，白浜雅司，田渕康子，赤木京子「山村地域で生活する高齢者の定量的活動と健康関連 QOL」，日本老年看護学会（神戸），2007 年 11 月.

・山本武志，田渕康子，三根有紀子，赤木京子「患者・家族（Lay Person）が医療事故を認知するプロセスの検討－医療事故体験の聞き取り調査から－」，第 80 回日本社会学会，2007 年 11 月.

・赤木京子，藤田君支，佐藤和子「人工股関節全置換術を受けた患者の生活状況と活動量に関する研究」，日本看護研究学会（神戸），2008 年 8 月.

・安酸史子，中野榮子，松枝美智子，渡邉智子，赤木京子，福田和美，　安永薫梨，安田妙子「経験型実習教育の事前学内演習における教授方法」，日本看護学教育学会（つくば），2008 年 8 月.

＜報告書＞

・福田和美，安酸史子，山幡信子，渡邉智子，楪　直美，赤木京子「住民参加型看護ゼミ

ヘルシーエイジング参加における地域住民の健康意識の変容とプログラムの検討」，福岡県立大学付属研究所　2007 年度事業報告書，68−69，2008 年.

＜刊行物への掲載＞
・赤木京子「人工股関節全置換術を受けた方の手術後の生活状況と活動に関する調査について」，股関節だより，佐賀大学医学部整形外科医局　股関節だより編集局発行，2007年9月.

３．外部研究資金
・文部科学省，科学研究費補助金（基盤研究Ｃ）「経験型実習教育の研修プログラム開発研究」，180万円，平成19年度～20年度，共同研究（研究代表者：安酸史子）.

５．所属学会
・日本看護研究学会
・日本看護学教育学会
・日本看護学会

６．担当授業科目（補助）
地域看護実習Ⅰ・1単位・1年後期，基礎看護実習Ⅱ・2単位・2年・前期，老年看護論Ⅰ・2単位・2年・前期，老年看護論Ⅱ・2単位・2年・後期，老年看護実習・2単位・3年・通年，専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期，総合実習・3単位・4年・前期，卒業研究・2単位・4年・後期

７．社会貢献活動
・筑豊市民大学におけるヘルシーエイジングの企画・運営.
・日本看護科学学会実行委員.

８．学外講義・講演
・三野原病院，老年看護実習指導者研修会，2008 年 5 月 26 日～27 日.

９．附属研究所の活動等
・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部　老年看護学講座	職名	助教	氏名	福田　和美

１．教員紹介・主な研究分野

2005年佐賀大学大学院医学系研究科看護学専攻修士課程終了（看護学修士）。同年4月助手として本学着任。

現在、高齢期患者におけるせん妄に関する研究を行っている。特に患者に対する看護ケアとともに家族に対する看護ケア、ケアを行う看護師のせん妄に対する意識の志向性について興味があり、研究を進めている。

また、看護師と介護士が協働連携して、高齢者の生活を支援する場の一つである介護老人保健施設における救急ケアの実態に関する調査を行った。今後は、結果をふまえて、救急ケア研修会のプログラムを構築していきたい。

２．研究業績

①最近の著書・論文

＜論文＞

福田和美，上村美智留（2006）「援助者の観点からみた健康障害のある高齢者擬似体験の意義」,『第 37 日本看護学会論文集　看護教育』357－359.

松枝美智子，上村美智留，安田妙子，福田和美（2006）．看護臨地実習における精神障害者の個人情報自己コントロールプロセスの支援」,『第 37 日本看護学会論文集　看護教育』. 108－110.

上村美智留，松枝美智子，福田和美，安田妙子（2006）「個人情報自己制御支援―実習時のガイドラインモデルの作成―」，『医療の広場』，46（10），19－23.

福田和美（2007）「高齢者擬似体験の教育プログラム開発における課題前後の安静時間の検証」,『福岡県立大学看護学部紀要』, 4（１）, 35－39.

福田和美，松尾ひとみ，小森直美，田中美樹，渡邉智子（2007）「看護系大学の学生、教員における抗体価検査・予防接種に関する文献検討と今後の課題」，『福岡県立大学看護学部紀要』, 4（2）, 88－97.

福田和美，上村美智留（2008）「高齢期呼吸器疾患患者のせん妄発症要因および回復期のトリガー要因と看護ケアの実態」，『福岡県立大学看護学研究紀要』，6（1），25－33.

赤木京子，福田和美，渡邉智子（2009）「老年看護実習で達成感を抱いた学生のプロセス」,『看護展望』，34（3），87－93.

福田和美，赤木京子，渡邉智子（2009）「老年看護実習における実習指導者研修会の意義と効果」，『福岡県立大学看護学研究紀要』，6（2），掲載予定.

②その他最近の業績

＜学会報告＞

福田和美，上村美智留（2006）「健康障害のある高齢者擬似体験の意義－ロールプレイの質的帰納的分析－」，第37回日本看護学会　看護教育　愛媛.

福田和美，井上範江，分島るり子（2006）「看護師－患者間の共感に関する研究－乳がん患者が感じた看護師の共感的関わりとその影響－」，第32回　日本看護研究学会　大分.

福田和美，上村美智留（2006）．「高齢者擬似体験における教育プログラムの基礎的研究－心拍変動を指標とした動作間の安静時間の検討－」，第10回　日中看護学会　中国蘇州.

Kazumi Fukuda, Michiru Uemura.（2007）「 Delirium in eldrly patients with respiratory diseases and nursing-care」， International Council of Nurse 10th, Yokohama.

福田和美，井上範江，分島るり子．（2007）「乳がん患者が共感的関わりであると認知した看護師の看護観」，第 33 回看護研究学会学術集会．岩手.

福田和美，上村美知留．（2007）「高齢期呼吸器疾患患者のせん妄発症要因とせん妄に対する看護ケア」，第27回看護科学学会．東京．
上村美知留，福田和美．（2007）「高齢期呼吸器疾患患者のせん妄の発症パターンと回復時のトリガー要因」第27回看護科学学会．東京．
福田和美．（2008）「高齢期呼吸器疾患患者のせん妄発症時期に関する要因分析」，第34回日本看護研究学会学術集会．神戸．

＜報告書＞
福田和美，安酸史子，山幡信子，渡邉智子，楪　直美，赤木京子（2008）「住民参加型看護ゼミヘルシーエイジング参加における地域住民の健康意識の変容とプログラムの検討」，福岡県立大学付属研究所　2007年度事業報告書，68－69.

③過去の主要業績

３．外部研究資金

４．受賞

５．所属学会
・日本看護科学学会
・日本看護研究学会
・日本老年看護学会
・日本看護教育学学会
・日本がん看護学会

６．担当授業科目（補助）
地域看護実習Ⅰ・1単位・1年・後期、老年看護論Ⅰ・2単位・2年・前期，基礎看護実習Ⅱ・2単位・2年・前期、老年看護論Ⅱ・1単位・2年・後期、老年看護実習・2単位・3年・通年、総合実習・3単位・4年・前期、卒業研究・2単位・4年・後期

７．社会貢献活動
・福岡県立大学生涯福祉研究センター、筑豊市民大学、ヘルシーエイジング企画・運営に参画．（2005，４～現在に至る）
・老年看護実習指導者研修会，三野原病院．（2008，5）
・老年看護実習指導者研修会，宮田病院．（2008，10）
・日本看護研究学会　九州沖縄地方学術集会　実行委員（2008、11）
・日本看護科学学会　学術集会　実行委員（2008．12）

８．学外講義・講演
・看護学概論：美萩野衛生学院　非常勤講師．（2008，9～　現在に至る）

９．附属研究所の活動等
・福岡県立ヘルスプロモーション実践センター兼任研究員

所属	看護学部　女性看護学講座	職名	教授	氏名	佐藤　香代

１．教員紹介・主な研究分野

2005年北里大学大学院看護学研究科修了（博士：看護学）九州大学医療技術短期大学部勤務後、英国テームズバリー大学大学院留学、帰国後九州看護福祉大学に勤務。2005年、本学に着任。

女性の一生の健康をサポートする研究を一貫して行っており，特に身体感覚に焦点を当てた女性の健康ケアモデルの開発と展開に関するものが中心である。身体経験を基盤にした身体感覚活性化の健康ケアモデルは，女性が本来持っている産み育てる力や自己治癒力を最大限に引き出していく健康ケアへの新たな試みである。主な研究は以下の通りである。

（１）「身体感覚活性化マザークラス」の実践とその評価
　・妊婦の身体感覚と内面的変容過程
　・女性に寄り添う女性（ドゥーラ）研究
　・看護職・学生への教育とその評価・プログラム作成

（２）身体感覚に基づく女性の健康－身体とのコミュニケーションのとり方

（３）性教育

２．研究業績

①著書・論文

＜著書＞

・佐藤香代，三根有紀子．快適な母乳育児とその支援．15－18，こどもケア，日総研出版，2007 年.

・佐藤香代，梶井祥子,原清治,溝上慎一,渡部隆夫,細見吉郎,樋口和彦,浜本京子．絆－きずなー．母と子の絆は、地球を救う．京都：大学コンソーシアム京都，2008 年.

＜論文＞

・安河内静子，佐藤香代．(2006)．妊娠期から産後の女性の喫煙行動に影響を及ぼす要因に関する研究－産後 4 ヶ月の調査から－．*母性衛生*，47(2)，372-379.

・三根有紀子，佐藤香代，浅野美智留，石村美由紀，吉田静，鳥越郁代，野中多恵子，宮野由加利，藤本清美．(2006)．「身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス」実践のための医療者セミナーの評価と今後の課題．*福岡県立大学看護学部紀要*，3(2)，89－99.

・佐藤香代，三根有紀子．(2006)．「身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス」医療者セミナー in 福岡　根底にある助産哲学と技としての実践．*助産雑誌*，60(6)，550-551.

・佐藤香代，石村美由紀．（2007）．フォーラム・子どもがいても，いなくても，大切なわたし・大切なあなた～不妊の視点から女性と社会を考える～．*助産雑誌*，61(1)，78-79.

・田中美樹，佐藤香代．(2007)．NICU 退院児と母親に対する育児支援に関する研究～NICU 看護師のインタビューを通じて(第 1 報)．*福岡県立大学看護学研究紀要*，4(1)，28-34.

・古田祐子，石村美由紀，佐藤香代．(2007)．学士課程における助産実習の技術到達度目標基準－分娩介助技術・健康教育の実習到達評価記録からの分析－．*福岡県立大学看護学研究紀要*，4(2)，54-63.

・佐藤香代，津田智子，山下清香，松枝美智子，小路ますみ，渡邊智子，石川フカエ，宮城由美子，安河内静子，田渕康子，森崎直子．（2008）．看護学生の実習到達度の評価と今後の課題－第1回合同実習調整会議における調査から－．*福岡県立大学看護学研究紀要*，6(1)，39-46.

・安河内静子，佐藤香代．(2008)．田川市における妊娠期から産後の女性の喫煙行動の実

態．*福岡県立大学看護学研究紀要*，6(1)，55-63.
・石村美由紀，佐藤香代，安河内静子，吉田静，森純子．（2009）．「身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス医療者セミナー」の企画・開催に関する一考察．*福岡県立大学看護学研究紀要*，6(2)，－ ．
・石村美由紀，浅野美智留，佐藤香代．（2009）．不妊女性における苦悩とその克服―女性の語りから考察する―．*母性衛生*，49(4)，592－601.

②その他の業績

＜学会講演＞
・佐藤香代．(2008.12)．ケアリングリレー講演「身体感覚活性化マザークラス」とケアリング―実践智としてのわざ―．第 28 回日本看護科学学会学術会議，福岡.

＜学会報告＞
・石村美由紀，佐藤香代，吉田静，田中美樹，加藤希和子，立花聖子．「『身体感覚活性化マザークラス』に参加した妊婦の変化－フォーカス・グループ・インタビューを通して－」，第 47 回日本母性衛生学会学術集会，名古屋，2006 年 11 月.
・吉田静，佐藤香代，石村美由紀，田中美樹，野田ゆかり，戸田久美子．「『身体感覚活性化マザークラス』に参加した妊婦の身体からの気づき」，第 47 回日本母性衛生学会学術集会，名古屋，2006 年 11 月.
・佐藤香代．「『身体感覚活性化マザークラス』に参加した妊婦の変化に影響を及ぼした要因の分析」，第 47 回日本母性衛生学会学術集会，名古屋，2006 年 11 月.
・石村美由紀，佐藤香代．「不妊専門相談センターの現状に関する調査－センター従事者の声より－」，第 47 回日本母性衛生学会学術集会，名古屋，2006 年 11 月.
・三根有紀子，寺田恵子，佐藤香代，浅野美智留，石橋美幸，安河内静子．「児の母乳吸啜メカニズムに基づく乳房ケア（BS ケア）のリラクセーション効果に関する研究」，第 47 回日本母性衛生学会学術集会，名古屋，2006 年 11 月.
・樋口義之，松浦賢長，古田祐子，鳥越郁代，浅野美智留，石村美由紀，三根有紀子，安河内静子，佐藤香代．「学校教育における性教育の工夫に関する研究」，第 47 回日本母性衛生学会学術集会，名古屋，2006 年 11 月.
・田中美樹，吉田静，佐藤香代，石村美由紀．「NICU 退院児を育児する母親への支援のあり方に関する研究」，第 47 回日本母性衛生学会学術集会，名古屋，2006 年 11 月.
・佐藤香代．「『身体感覚活性化マザークラス』に参加した妊婦の内面的変容に関する研究」．日本助産学会学術集会，大分，2007 年 3 月.
・三根有紀子，山本武志，佐藤香代．「産科，NICU 看護職員の「母乳育児を成功させるための 10 カ条」に対する認識とケアの実際」．第 48 回日本母性衛生学会，茨城，2007 年 10 月.
・古田祐子，石村美由紀，佐藤香代．「学士課程での助産実習における健康教育実践力の到達度調査」．第 48 回日本母性衛生学会，茨城．2007 年 10 月.
・浅野美智留，寺田恵子，三根有紀子，佐藤香代，石橋美幸．「母親の語りに基づく BS ケアの効果と施設導入の意義の考察」．第 48 回日本母性衛生学会，茨城．2007 年 10 月.
・浅野美智留，寺田恵子，佐藤香代，三根有紀子，石橋美幸．「BS ケア（児の母乳吸啜メカニズムに基づく乳房ケア）個人研修の効果と課題」．第 22 回日本助産学会，神戸．2008 年 3 月.
・佐藤香代，井上真紀，垣内千明，押川真由，吉田静，安河内静子，石村美由紀，森純子．「身体感覚活性化マザークラス」に参加した妊婦の変容過程－家族関係の変化－．第 49 回日本母性衛生学会，千葉．2008 年 11 月.
・吉田静，佐藤香代，森純子，石村美由紀．「身体感覚活性化マザークラス」に参加した妊婦の変化－胎児との対話と子守唄の関係性－．第 49 回日本母性衛生学会，千葉．2008 年 11 月.

・森純子，佐藤香代，吉田静，石村美由紀．妊婦の力を引き出すわざ～身体感覚活性化マザークラスにおけるドゥーラが妊婦に与える影響～．第 49 回日本母性衛生学会，千葉．2008 年 11 月．
・石村美由紀，佐藤香代，吉田静，森純子．「第 3 回身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー」の満足度と開催ニーズ．第 49 回日本母性衛生学会，千葉．2008 年 11 月．
・古田祐子，石村美由紀，佐藤香代．助産学生の健康教育実践力向上のための教育的試みと評価．第 49 回日本母性衛生学会，千葉．2008 年 11 月．
・石村美由紀，古田祐子，佐藤香代．助産学生が習得困難な分娩介助技術の考察．第 49 回日本母性衛生学会，千葉．2008 年 11 月．
・安河内静子，佐藤香代． T 市の妊娠期から産後の女性の喫煙行動と関連要因に関する研究．第 49 回日本母性衛生学会，千葉．2008 年 11 月．
・鳥越郁代，吉田静，佐藤香代．帝王切開分娩を経験した女性の出産選択の支援に対する意識調査―シンポジウム参加者を対象とした自記式調査から－．第 23 回日本助産学会学術集会，東京．2009 年 3 月．

＜座談会・シンポジウム＞
・佐藤香代．福岡県立大学看護学部ヘルスプロモーション事業「子どもがいても，いなくても，大切な私・大切なあなた－不妊の視点から女性と社会を考える－」，シンポジウムコーディネーター，福岡，2006 年 9 月．
・佐藤香代．より美しく・より健康に～女性のライフサイクルと低容量ピル～，座長，第 21 回日本助産学会学術集会，大分，2007 年 3 月．
・佐藤香代，廣瀬健，信友浩一，大牟田智子，町谷リエ．食卓の向こう側シンポジウム in 福岡，脱・お産難民　みんなで幸せなお産をしよう，シンポジスト．西日本新聞社主催，福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター/ 九州大学大学院医療システム学教室共催，福岡，2007 年 5 月．
・佐藤香代，信友浩一，大牟田智子，町谷リエ．食卓の向こう側お産セミナーワークショップ－ほっこりお産トーク－．西日本新聞社，福岡，2007 年 7 月．
・佐藤香代，信友浩一，大牟田智子，町谷リエ．食卓の向こう側お産セミナーワークショップ－お産トーク－．西日本新聞社，福岡，2007 年 8 月．
・佐藤香代．第33回全国助産師教育協議会研修会，総合司会，福岡，2008年2月．
・佐藤香代．第28回日本看護科学学会学術集会　ラウンドテーブル，看護教育，座長，2008年12月

＜出版物＞
・佐藤香代．(2006)．本来持つ「産む力」「生まれる力」－「身体内部の声」を聴く．*ハッピー・エンジェル*，14，12．
・佐藤香代．(2006)．性教育は，からだの智恵を伝えること．*クリム*，58－59．
・佐藤香代．(2007)．からだにおこることにはすべて意味がある．*アバンティ*，8，21．
・佐藤香代．(2008)．附属研究所 ヘルスプロモーション実践研究センター長挨拶　地域の健康づくりの一翼を担います！，福岡県立大学同窓会会報，第18号，2．
・佐藤香代．(2008)．附属研究所ヘルスプロモーション実践研究センター長挨拶　地域の皆さまと共に歩みます．福岡県立大学附属研究所通信．
・佐藤香代．(2009)．女性のからだは賢い　自分の身体とコミュニケーションをとろう！アヴァンティ福岡，16(2)，43．
・佐藤香代．(2009)．ヘルスプロモーション実践研究センター長挨拶　夢を形に・・・飛翔する

ヘルスプロモーションの活動，福岡県立大学附属研究所通信 2.

＜新聞記事＞
・カレッジ最前線－福岡県立大学看護学部　佐藤香代研究室，西日本新聞，2006年8月
・“産む力”生むマザークラス，西日本新聞，2006年10月
・助産師さんがいない，朝日新聞，2006年11月
・「産む力」引き出そう，朝日新聞，2006年12月
・「自分のお産」見つけませんか ヨガや食などの体験でサポート，西日本新聞，2007年1月
・世にも珍しいマザークラス，朝日新聞，2007年1月
・世にも珍しいマザークラス，西日本新聞，2007年1月
・「世にも珍しいマザークラス in 福岡」，ふれあい，エフコープ生活協同組合機関誌，29，2008年8月
・世にも珍しいマザークラス，讀賣新聞，2008年9月
・産む力を育もう，西日本新聞，2009年1月
・世にも珍しいマザークラス，朝日新聞，2009年2月
・産むこと、生まれること、育てることを感じる。「世にも珍しいマザークラス」，アヴァンティ福岡，44，2009年2月

＜教材開発＞
・佐藤香代，浅野美智留，三根有紀子，寺田恵子，石橋美幸.教育用ビデオ　「児の母乳吸啜メカニズムに基づく乳房ケア，ブリッジ，2006 年 3 月.
・寺田恵子，佐藤香代，浅野美智留，三根有紀子，石橋美幸.教育用ビデオ　「BS ケアの型を極める－あらゆる現象に対応－赤ちゃんが教えてくれたこれからの乳房ケア Vol.2　アドバンス編」，ブリッジ，2006 年 6 月.

③過去の主要業績
・佐藤香代．性ってなーに，西日本新聞社，福岡，1992年.
・佐藤香代．日本助産婦史研究，東銀座出版社，東京，1997年.
・佐藤香代，浅野美智留，松本昌子．大学生の性の実態とこれからの性教育－助産の視点から－．*母性衛生*，43(1)28-35，2002年
・佐藤香代，高橋真理．マザークラスにおける妊婦の身体感覚活性化の効果測定－これからのよりよい家族支援に向けて－，*家族看護学研究*，10(2)，2－9，2004年
・佐藤香代．新しいKnow-Howを学ぶこれからの出産準備教室　妊婦に寄り添う「参加型」クラスのすすめかた，世にも珍しいマザークラス．*ペリネイタルケア増刊号*，219 - 230，2005年.

3. 外部研究資金
文部科学省、科学研究費補助金（基盤研究C），「身体感覚活性化マザークラス」に参加した女性の「産み育てる力」形成過程の分析，500万円，平成19年度～平成22年度，共同研究，（研究代表者：佐藤香代）

５．所属学会
日本助産学会　評議員，日本母性衛生学会，日本看護研究学会，日本看護科学学会　第28回日本看護科学学会学術集会企画委員，日本家族看護学会，日本母乳哺育学会，日本公衆衛生学会，日本母乳の会，日本ラクテーション・コンサルタント協会

６．担当授業科目
＜学　部＞

女性看護論Ⅰ・2単位・2年・後期，女性看護論Ⅱ・1単位・3年・通年，女性看護実習・2単位・3年・通年，基礎助産学・2単位・4年・前期，助産診断・技術学・4単位・4年・前期，助産実習・3単位・4年・前期，総合実習・3単位・4年・前期，専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期，卒業研究・2単位・4年・後期

＜大学院＞
看護研究法・2単位・修士1年・前期，助産学特論・2単位・修士1年・前期，助産学演習・2単位・修士1年・後期，臨床看護学特別研究・8単位・修士2年・通年

７．社会貢献活動

・田川地域推進協議会委員
・福智町地域再生計画推進本部会議委員
・身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス：福岡市，田川市
・フムフム（Fukuoka Midwives Female & Male＝FM^2）ネットワーク代表

８．学外講義・講演

・佐藤香代，安河内静子，森純子，吉田静．(2008,10)．世にも珍しいマザークラス - クラス 6　同窓会　産んだわたしのからだと生まれた赤ちゃんー[何でもトーク]語り合おう、私のお産・私の育児．福岡県立大学　女性看護学/ 助産学講座，田川．
・安河内静子，佐藤香代，吉田静，古江淳子．(2008.10)．お弁当の日．
・佐藤香代，安河内静子，吉田静，古江淳子．(2008.10)．世にも珍しいマザークラス - クラ
ス１　息を感じる　触って感じる［呼吸・出会いゲーム]知り合う、触れ合う、語り合う～自己紹介・ブリージング・ハグを通して～ - ．福岡県立大学　女性看護学/ 助産学講座，田川．
・佐藤香代，安河内静子，吉田静．古江淳子．(2008，10)．世にも珍しいマザークラス in た
がわ - クラス２　食で感じるわたしのからだ［クイズ・食の話]おむすびころりん、腑に落ちる～からだがほしがる食事って…～．福岡県立大学 女性看護学/ 助産学講座，田川．
・佐藤香代．(2008.10)．女性看護学　妊娠・出産・性　母と子の絆．門司高校模擬授業，福岡．
・佐藤香代．(2008.11)．ヘルスプロモーション実践研究センターにおける事業と今後の展望．佐賀県杵藤地区高等学校保健会，福岡．
・佐藤香代．(2008.11)．地域の大学が有する技術シーズの展開：世にも珍しい（身体感覚活性化）マザークラス．E-ZUKA トライバレー産学官技術交流会，飯塚．
・佐藤香代，安河内静子，吉田静，森純子，石村美由紀，古江淳子．(2008，11)．世にも珍しいマザークラス in たがわ - クラス３　わたしの赤ちゃんの声を感じる［イメジェリー]おなかの赤ちゃんとコミュニケーション．福岡県立大学 女性看護学/ 助産学講座，田川．
・佐藤香代，鳥越郁代，安河内静子，吉田静，石村美由紀，古江淳子．(2008，12)．世にも珍しいマザークラス in　たがわ - クラス 4　出産に準備するからだを感じる［お産体験・アロママッサージ]気持ちいい…アロママッサージの中でお産の疑似体験．福岡県立大学　女性看護学/ 助産学講座，田川．
・佐藤香代，石村美由紀，吉田静，安河内静子，古江淳子．(2008,12)．世にも珍しいマザークラス in たがわ - クラス 5　音に響くからだでわたしを知る［スライドショー]からだの内(なか)で感じるわたし自身のバースプラン～湧き上がる感覚、わたしの中から～．福岡県立大学　女性看護学/ 助産学講座，田川．
・佐藤香代，安河内静子，石村美由紀，吉田静，森純子．(2008,12)．世にも珍しいマザー

クラス - クラス 6　同窓会　産んだわたしのからだと生まれた赤ちゃんー[何でもトーク]語り合おう、私のお産・私の育児ー．ヘルスプロモーション実践研究センター事業，福岡．

・佐藤香代，安河内静子，吉田静，石村美由紀，森純子，古江淳子．(2009.2)．世にも珍しいマザークラス - クラス 1　息を感じる　触って感じる［呼吸・出会いゲーム]知り合う、触れ合う、語り合う～自己紹介・ブリージング・ハグを通して～ - ．ヘルスプロモーション実践研究センター事業，福岡．

・佐藤香代．(2009.2) 女性のからだは賢い　自分の身体とコミュニケーションをとろう！．第 182 回アヴァンティゼミ．

・佐藤香代，安河内静子，吉田静．石村美由紀，森純子，鳥越郁代，古江淳子．(2009,2)．世にも珍しいマザークラス in　福岡 - クラス 2　食で感じるわたしのからだ［クイズ・食の話]赤ちゃんも喜ぶ～からだがほしがる食事って～．野菜のエネルギーを引き出す簡単レシピ．ヘルスプロモーション実践研究センター事業，福岡．

・佐藤香代，鳥越郁代，吉田静，安河内静子，森純子，石村美由紀．古江淳子．(2009.2) 世にも珍しいマザークラス - クラス 3　アロマで感じるわたしのからだ - ．においと触れるで快を感じる．ヘルスプロモーション実践研究センター事業，福岡．

・佐藤香代，安河内静子，森純子，吉田静，石村美由紀．古江淳子．(2009.3) 世にも珍しいマザークラス - クラス 4　出産に準備するからだを感じる - ．もっと知ろうよ！わたしのお産．感じてみようよ！わたしの赤ちゃん．ヘルスプロモーション実践研究センター事業，福岡．

・佐藤香代，石村美由紀，安河内静子，吉田静，森純子，古江淳子．(2009.3) 世にも珍しいマザークラス - クラス 5　音に響くからだでわたしを知る - ．ヘルスプロモーション実践研究センター事業，福岡．

・佐藤香代．(2009.3)．「身体感覚活性化マザークラス」の考え方とその実践～，実践から学ぶわざの技法．第４回身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス医療者向けセミナー．福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター事業，福岡．

・佐藤香代．(2009.3)．いのちの授業．那珂川町中学校．

９．附属研究所の活動等

・ヘルスプロモーション実践研究センター長

・ヘルスプロモーション実践研究センター事業

①「身体感覚に焦点を当てた女性の健康ケアモデルの開発と展開に関する研究」プロジェクト研究(研究代表者)

②　看護における西洋医療と東洋医療の融合に関する日韓比較研究　プロジェクト研究(研究分担者)

③　思春期問題行動に対する地域における行動連携システム構築に関する研究　プロジェクト研究(研究分担者)

所属	看護学部　女性看護学講座	職名	准教授	氏名	鳥越　郁代

教員紹介・主な研究分野

鹿児島大学病院で看護師、助産師として勤務後、鹿児島大学医療技術短期大学部看護学科で、助産師教育に携わる。1992年玉川大学大学院文学研究科修士課程修了。1999年に英国のテームズバリー大学大学院に留学、助産実践修士課程修了（2002年）。2003年本学看護学部に着任。

現在、帝王切開分娩後の女性が、次の出産を迎えたときの出産様式選択における意思決定支援を主な研究テーマとしている。平成19年度は、患者との意思決定の共有（shared decision-making）モデルを根底におくオタワ決定サポート枠組みをもとに帝王切開分娩後の女性の出産選択のための決定援助プログラムを開発し、平成20年度より、そのプログラムを用いた介入研究を開始している。

今後このプログラム介入効果の分析をもとに、帝王切開分娩を経験した女性の次子の出産選択における意思決定支援システムの構築するための戦略について検討を重ねていきたい。

２．研究業績

①最近の著書・論文

鳥越郁代「混合栄養」「人工栄養」「調乳」「母乳栄養」、谷田貝公昭監修・林邦雄編『保育用語辞典』、 150、223、269、353、一藝社、2006年

古田祐子、鳥越郁代、大町福美「開業助産師に求められている健康相談」、『助産雑誌』、第60巻第11号、999-1004、2006年

鳥越郁代「正常な産褥の看護ケア」、村本淳子・高橋真理編『周産期ナーシング』2刷、174-188、198-204、ヌーヴェルヒロカワ、2007年

②その他の最近の業績

〈報告〉

鳥越郁代「リエゾン助産師の役割とは？- Elizabeth Garett Anderson and Obstetrics Hospital(London)での研修を通して-」、『助産雑誌』、第60巻第2号、176-181、 2006年

鳥越郁代　シンポジウム「帝王切開分娩を経験した女性のための出産選択の支援」を開催して、『助産雑誌』、第63巻第1号、54-58、2009年

〈学会発表〉

鳥越郁代「海外文献におけるトラウマ性出産体験」、第46回日本母性衛生学会、宮崎市、2005年10月

鳥越郁代「明治・大正時代の地方新聞から見た福岡県の産婆活動-妊娠・分娩・堕胎に関連した記事から-」、第47回日本母性衛生学会、名古屋市、2006年11月

古田祐子、鳥越郁代 「明治・大正時代の地方新聞から見た福岡県の産婆組織と教育」、第47回日本母性衛生学会、名古屋市、2006年11月

鳥越郁代 「帝王切開術後の分娩様式における女性の意思決定に影響を及ぼす要因-文献レビューからの検討-」、第48回日本母性衛生学会、筑波市、2007年10月

〈公開講座テキスト〉

鳥越郁代「少産時代における出産事情-少産時代だからこそ、お産のこともっと考えてみませんか-」、 福岡県立大学公開講座テキスト、10-13、2006年10月

〈ニューズレター〉

鳥越郁代「目から鱗のお話　－　Anderson の提唱する助産介入（midwifery intervention）　という新しい見方-」、 助産師教育ニューズレター、全国助産師教育協議会、No.44、2005年8月

〈小冊子作成〉
鳥越郁代「出産の選択：帝王切開分娩を経験したあなたの出産の選択は？（日本版）」、2008年9月

②過去の主要業績
鳥越郁代「第10章子どもを産む」、成山文夫、石川道夫編著『家族・育み・ケアリング』、163-178、北樹出版、2000年
鳥越郁代「第6章一対一の助産実践を提供して満足感を得る（Providing one-to-one practice and enjoying it）」翻訳、Lesley Ann Page原著『The New Midwifery: science and sensivity in practice』、鈴井江三子監修『新助産学』、129-149、メディカ出版、2002年
鳥越郁代、嶋田紀膺子「分娩期助産診断の実践化へ向けての一考察」、『助産雑誌』、第51巻第8号、40-48、1997年
Ikuyo Torigoe “How should midwife support women in labour – An analisis based on literature and my experience with women in panic”、『鹿児島大学医学部保健学科紀要』、第12巻第1号、2001年
鳥越郁代「助産師の専門性へ向けての一考察-Boston’s Beth Israel Hospitalにおける研修を通して」、『看護教育』、第38巻第12号、2001年

３．外部研究資金
文部科学省、科学研究費補助金（基盤研究C）、「帝王切開術後の日本人女性の出産様式選択：自己決定支援のためのプログラム開発」、300万円、平成19年度～20年度、研究代表者

４．受賞
特記事項なし

５．所属学会
日本母性衛生学会、日本助産学会、日本看護科学学会

６．担当授業科目
（学部）女性看護学Ⅰ・2単位・2年・後期、女性看護学Ⅱ・2単位・2年・前期、通年、女性看護学実習・2単位・3年・通年、助産診断・技術学・4単位・4年・前期、助産実習・3単位・4年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期、国際看護論・2単位・4年・前期、（大学院）助産学特論・2単位・１年・前期、助産学演習・2単位・1年・通年、臨床看護学特別研究・8単位・2年・通年

７．社会貢献活動
・　28 回日本看護科学学会学術集会（2008 年 12 月 13～14 日）企画委員
28回日本看護科学学会学術集会 一般示説（国際看護）座長　2008年12月13日
・　幸せなお産を考えるシンポジウム「帝王切開分娩を経験した女性のための出産選択の支援」　コーディネーター・司会担当鳥越郁代、講演者, Allison Shorten、上田たかこ、横手直美、福岡県立大学看護学部ヘルスプロモーション実践研究センター主催,チサンホテル博多, 2008 年 6 月

８．学外講義・講演

特記事項なし

９．附属研究所の活動等

・ 看護学部ヘルスプロモーション実践研究センター研究員

・ 佐藤香代、鳥越郁代、安河内静子、石村美由紀、吉田静「世にも珍しいマザークラスin たが

わ-クラス4 出産に準備するからだを感じる-」企画、福岡県立大学　女性看護学/助産学講座.

田川、2008年12月

所属	看護学部　女性看護学講座	職名	准教授	氏名	古田　祐子

１．主な研究分野

現在、助産技術、助産教育、助産史を主な研究分野としている。助産技術に関連した研究としては、乳児の皮膚と洗浄法に関する調査を行っている。また、助産師教育に関する分野では、大学における助産師選択学生の教育評価や到達度に関することをテーマに調査を行っている。さらに、明治、大正、昭和における助産師教育や組織活動など、助産師の史実に関する研究を行っている。

２．研究業績

①著書・論文

＜著書＞

村田千代子、古田祐子　『Baby エステ』、櫂歌書房、2008 年.

＜論文＞

古田祐子、石村美由紀、佐藤香代「学士課程における助産実習の技術到達度目標基準―分娩介助技術・健康教育の実習到達度評価記録からの分析―」、『福岡県立大学看護学部紀要』第4巻2号、福岡県立大学、2007年.

古田祐子、鳥越郁代「開業助産師に求められている健康相談- 福岡県助産師会の無料電話相談報告書の分析からー」、『助産雑誌』 60(11)、2006年.

②その他最近の業績

＜調査報告書＞

古田祐子、鳥越郁代『明治・大正　地方紙からみた産婆史―福岡県編―』、報告書、2006年.

＜学会報告＞

・ 古田祐子、安河内静子「S 助産師による皮膚洗浄前後の乳児の皮膚水分量、pH、皮膚温の変化」第 49 回日本母性衛生学会、千葉、2008 年 11 月.

・ 近藤美幸、　古田祐子「皮膚圧迫振動洗浄法による乳児の脱落皮膚に関する調査」、第 49 回日本母性衛生学会、千葉、2008 年 11 月.

古田祐子、　石村美由紀、　佐藤香代「助産学生の健康教育実践力向上のための教育的試みと評価」、第49回日本母性衛生学会、千葉、2008年11月.

・石村美由紀、　古田祐子、 佐藤香代「助産学生が習得困難な分娩介助技術の考察」、第 49 回日本母性衛生学会、千葉、2008 年 11 月.

・ 金子あゆみ、古田祐子「開業助産師による着帯指導の今日的意義」第 49 回日本母性衛生学会、千葉、2008 年 11 月.

古田祐子、安河内静子「皮膚圧迫振動を取り入れた沐浴法の皮膚トラブルに対する効果」、第63回日本助産師学会、東京、2007年5月.

古田祐子、安河内静子「S助産所における乳児の皮膚トラブルに対するケアの実態」、第48回日本母性衛生学会、茨城、2007年10月.

古田祐子、石村美由紀、佐藤香代「学士課程での助産実習における健康教育実践力の到達度」、第48回日本母性衛生学会、茨城、2007年11月.

古田祐子、鳥越郁代「明治・大正の地方新聞から見た福岡県の産婆組織と教育」、第47回日本母性衛生学会、名古屋、2006年11月.

鳥越郁代、　古田祐子「明治・大正時代の地方新聞から見た福岡県の産婆活動―妊娠· 出産、堕胎に関連した記事からー」、第47回日本母性衛生学、名古屋、2006年11月.

樋口善之、 松浦賢長、 古田祐子、 鳥越郁代、 浅野美智留、 石村美由紀、 三根有紀子、安河内静子、 佐藤香代「学校教育における性教育の工夫に関する研究」第47回日本母性

衛生学会、名古屋、2006年11月.
＜その他＞
・古田祐子「みずきの風を…」、『福岡県立大学同窓会会報』、第 14 号、2006 年 2 月.

③過去の主要業績
・古田祐子「正常な産褥」、村本潤子、高橋真理（編著）『ウイメンズヘルスナーシング　周産期ナーシング』ヌーヴェルヒロカワ、2005 年.
古田祐子監修『社団法人福岡県助産師会50周年記念誌　いのちの鼓動』、社団法人福岡県助産師会発行、2005年.
・古田祐子「分娩介助技術指導において助産師学生に「わかった」と認識させる指導者の言語的教育技法」、『母性衛生』、45（2）、2004 年.

３．外部研究資金
文部科学省、科学研究費補助金（基盤研究C）、「皮膚トラブルを有する乳児の皮膚バリア機能と皮膚洗浄法に関する研究」、374万円、平成20年度～平成22年度、研究代表者　古田祐子

４．受賞
なし

５．所属学会
日本母性衛生学会 、日本助産学会 、日本思春期学会 、福岡県母性衛生学会（評議員）、日本看護科学学会　各会員

６．担当授業科目
＜学部＞女性看護論Ⅰ・２単位・2年・後期、女性看護論Ⅱ・1単位・3年・通年、女性看護実習・２単位・3年・通年、助産診断・技術学・4単位・4年・前期、地域母子保健学・1単位・4年・前期、助産管理・1単位・4年・後期、助産実習・3単位・4年・通年、総合実習・3単位・4年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期、卒業研究・2単位・4年・後期

＜大学院＞助産学特論・２単位・１年・前期、助産学演習・２単位・１年・後期、臨床看護学特別研究・8単位・１、２年・通年.

７．社会貢献活動
・　福岡県母性衛生学会評議員
・　社団法人福岡県助産師会監事
・　社団法人日本助産師会渉外
・　田川市男女共同参画社会審議会委員

８．学外講義・講演
古田祐子（2009、1）．母性看護国家試験対策講座．京都看護専門学校．行橋市
古田祐子（2008、7）．助産師養成課程、 福岡県看護実習指導者講習会、 福岡市

９．附属研究所の活動等
なし

所属	看護学部　女性看護学講座	職名	助教	氏名	石村　美由紀

１．教員紹介・主な研究分野

現在、不妊支援、妊婦教育、助産教育に関する研究に取り組んでいる。不妊支援に関する分野では、不妊専門相談センターのあり方に関する研究や不妊当事者のエンパワーメントに関する研究を行っている。また不妊女性が悩みや不安を抱え込まず自らの力で解決していくようサポートすることを目的にフォーラムやセミナーを開催し、積極的に社会貢献したいと考える。妊婦教育に関する分野では身体感覚活性化マザークラスの開催やリカレント教育を行っている。助産教育に関する分野では、大学における助産師選択学生の教育評価や到達度に関することをテーマに調査を行っている。

２．研究業績

①最近の著書・論文

三根有紀子、佐藤香代、浅野美智留、石村美由紀、吉田静、鳥越郁代、野中多恵子、宮野由加利、藤本清美．(2006)．「身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス」実践のための医療者セミナーの評価と今後の課題－参加者へのアンケート調査から－，福岡県立大学看護学部紀要 3(2)，89 - 99.

古田祐子，石村美由紀，佐藤香代．(2007)．学士課程における助産実習の技術到達度目標基準―分娩介助技術・健康教育の実習到達評価記録からの分析―．福岡県立大学看護学部紀要，3（2）.

石村美由紀、浅野美智留、佐藤香代．(2009)．不妊女性における苦悩とその克服－女性の語りから考察する－．母性衛生 49(4)，592 - 601.

石村美由紀、佐藤香代、安河内静子、吉田静、森純子．(2009)．第 3 回「身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス」医療者向けセミナーの企画・開催に関する一考察．福岡県立大学看護学部紀要 6(2)、80－88.

②その他最近の業績

石村美由紀．(2006)．不妊専門相談センターの実態調査．日本不妊看護学会，山梨.

石村美由紀．佐藤香代．(2006)．不妊専門相談センターの現状に関する調査―センター従事者の声より―．第 47 回日本母性衛生学会学術集会，名古屋.

石村美由紀．佐藤香代．吉田静．田中美樹．(2006)．「身体活性化マザークラス」に参加した妊婦の変化―フォーカス・グループ・インタビューをとおして―．第 47 回日本母性衛生学会学術集会，名古屋.

吉田静．佐藤香代．石村美由紀．田中美樹（2006)．「身体活性化マザークラス」に参加した妊婦の身体からの気づき．第 47 回日本母性衛生学会学術集会，名古屋.

樋口善之．松浦賢長．古田祐子．鳥越郁代．浅野美智留．石村美由紀ほか．(2006)．学校教育における性教育の工夫に関する研究．第 47 回日本母性衛生学会学術集会，名古屋.

田中美樹．吉田静．佐藤香代．石村美由紀．(2006)．ＮＩＣＵ退院児を育児する母親への支援のあり方に関する研究．第 47 回日本母性衛生学会学術集会，名古屋.

石村美由紀．(2006)．不妊の苦悩を乗り越える過程．第 30 回ＫＪ法学会大会，東京

石村美由紀．(2006)．読売新聞記事，ドキュメント―不妊治療④.

石村美由紀．(2007)．求められる不妊フォーラムの検討―「子どもがいても、いなくても、大切なわたし＊大切なあなた―不妊の視点から女性と社会を考える―」を開催して、日本不妊カウンセリング学会誌、6（1)、87.

佐藤香代．石村美由紀．(2007)．トピックス「フォーラム・子どもがいても、いなくても、大切なわたし＊大切なあなた～不妊の視点から女性と社会を考える～」. 助産雑誌, 61 (1) 78-79.

石村美由紀．(2008)．第 5 回日本生殖看護学会学術集会－シンポジウム「広い視野にもと

づく生殖看護の展開に向けて」を終えて．日本生殖看護学会誌，5(1) 32.
石村美由紀．(2008)．不妊女性に対する支援的アプローチの一考察－不妊フォーラム「子どもがいても、いなくても、大切なわたし＊大切なあなた」の参加者の自由記載から－．第 6 回日本生殖看護学会学術集会,兵庫.
石村美由紀、佐藤香代、吉田静、森純子．(2008)．「第 3 回身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー」の満足度と開催ニーズ．第 49 回日本母性衛生学会学術集会、千葉.
佐藤香代、井上真紀、垣内千明、押川真由、吉田静、安河内静子、石村美由紀、森純子．(2008)．身体感覚活性化マザークラスに参加した妊婦の変容過程－家族関係の変化－．第 49 回日本母性衛生学会学術集会、千葉.
森純子、佐藤香代、吉田静、石村美由紀．(2008)．妊婦の力を引き出すわざ－身体感覚活性化マザークラスにおけるドゥーラが妊婦に与える影響－．第 49 回日本母性衛生学会学術集会、千葉.
吉田静、佐藤香代、森純子、石村美由紀.「身体感覚活性化マザークラス」に参加した妊婦の変化－胎児との対話と子守歌の関係性－．第 49 回日本母性衛生学会学術集会、千葉.
古田祐子、石村美由紀、佐藤香代．助産学生の健康教育実践力向上のための教育的試みと評価．第 49 回日本母性衛生学会学術集会、千葉.
石村美由紀、古田祐子、佐藤香代．助産学生が習得困難な分娩介助技術の考察．第 49 回日本母性衛生学会学術集会、千葉.

③過去の主要業績
安河内静子，樋口善之，石村美由紀，三根有紀子，浅野美智留，鳥越郁代，古田祐子，松浦賢長．(2005)．田川市郡の学校における性教育の実態調査－小・中・高校へのアンケート調査から－．福岡県立大学看護学部紀要，2(2)，68－78.
三根有紀子，樋口善之，石村美由紀，安河内静子，浅野美智留，鳥越郁代，古田祐子，松浦賢長．(2005)．学校における性教育の目的と連携に関する実態調査．厚生労働科学研究（子ども家庭総合研究事業）望まない妊娠，人工妊娠中絶を防止するための効果的な避妊教育プログラムの開発に関する研究．平成 16 年度　総括研究報告書，649-666.

５．所属学会
日本母性衛生学会、日本看護科学学会、日本助産学会、日本不妊カウンセリング学会、日本生殖看護学会、ＫＪ法学会、日本精神衛生学会

６．担当授業科目
女性看護論Ⅰ・2 単位・2 年・後期、女性看護論Ⅱ・1 単位・3 年・通年、女性看護実習・2 単位・3 年・通年、基礎助産学・2 単位・4 年・前期、助産診断・技術学・4 単位・4 年・前期、助産実習・3 単位・4 年・前期、専門看護ゼミ（補助）・2 単位・4 年・前期、

７．社会貢献活動
身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス：福岡市，田川市
フムフム（Fukuoka Midwives Female & Male＝FM^2）ネットワーク会員（機関紙編集委員）

８．学外講義・講演
石村美由紀，安河内静子，吉田静，森純子，佐藤香代「身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラス」を体感しよう，福岡県立大学公開講座，(2008.6．7)
佐藤香代，石村美由紀，安河内静子，吉田静，森純子，三根由紀子．第 4 回「身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス」医療者向けセミナー(2009.3.8)

９．附属研究所の活動等
ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部　女性看護学講座	職名	助教	氏名	安河内　静子

1. 主な研究分野

①妊産婦の禁煙支援・子育て中の母親の禁煙支援に関する研究

福岡県内の乳幼児を持つ母親、妊娠中の母親を対象に妊娠・出産・育児期の母親の喫煙の実態調査及び喫煙の関連要因に関する研究、受動喫煙の調査をおこなってきた。禁煙支援には喫煙に関する情報提供のあり方、母性意識や妊産婦のおかれている環境、また育児環境などが関係していることがこれまでに明らかになった。またこれらのデータを基に妊産婦の禁煙プログラムの開発に取り組んでいる。また将来の喫煙者をつくらないように、小学生を対象とした防煙教室の開催や将来禁煙支援に携わる可能性のある看護学生への禁煙支援教育などに取り組みたいと考えている。

②身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス

妊婦の五感や内部感覚に働きかけ、本来備わっている産む力を感じてもらい、女性がエンパワーメントしていく過程を支援するマザークラスを企画・実施・研究をしている。

また、保健医療従事者を対象に医療者向けセミナーを開催し身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラスの全国展開を行っている。

2. 研究業績

①学術論文

1)安河内静子，佐藤香代．(2009)．田川市における妊娠期から産後の女性の喫煙行動の実態．福岡県立大学看護学部紀要，6(１)，55-63.

2)安河内静子，佐藤香代．(2006)．妊娠期から産後の女性の喫煙行動に影響を及ぼす要因に関する研究-産後 4 ヶ月の調査から-母性衛生，47(2)372-379.

3)石村美由紀，佐藤香代，安河内静子，吉田静，森純子．(2009)．「身体感覚活性化（世にも珍しいマザークラス）医療者セミナー」の企画・開催に関する一考察．福岡県立大学看護学部紀要，6(2).

4)佐藤香代，津田智子，山下清香，松枝美智子，小路ますみ，渡邊智子，石川フカエ，宮城由美子，安河内静子，田淵康子，森崎直子．(2009)．看護学生の実習到達度の評価と今後の課題－第 1 回合同調整会議における調査から－，福岡県立大学看護学部紀要，6(１).

②学会発表

1)三根有紀子，寺田恵子，　佐藤香代，浅野美智留，石橋美幸，　安河内静子．(2006). 児の母乳吸啜メカニズムに基づく乳房ケア(BS ケア)のリラクセーション効果に関する研究．第 47 回日本母性衛生学会総会，名古屋.

2)樋口善之，松浦賢長，古田祐子，鳥越郁代，浅野美智留，石村美由紀，三根有紀子，安河内静子，佐藤香代．(2006)．学校教育における性教育の工夫に関する研究．第 47 回日本母性衛生学会総会，名古屋.

3)古田祐子，安河内静子．(2007)．　皮膚圧迫振動を取り入れた沐浴法の皮膚トラブルに対する効果，　第 63 回日本助産師学会．　東京.

4)古田祐子，安河内静子．(2007) ．S 助産所における乳児の皮膚トラブルに対するケアの実態，　第 48 回日本母性衛生学会．　茨城.

5)安河内静子. (2007). 喫煙歴のある妊婦の妊娠期から産後の喫煙行動の実態に関する研究. 第 48 回日本母性衛生学会，茨城.

6)安河内静子，佐藤香代．(2008)．T 市の妊娠期から産後の女性の喫煙行動と関連要因に関する研究－母性意識と育児ストレスからの考察第 49 回日本母性衛生学会，千葉.

7)古田祐子，安河内静子．(2008)．S 助産所による皮膚洗浄法前後の乳児の皮膚水分量・ＰＨ・皮膚温の変化，日本母性衛生学会，千葉.

8)佐藤香代，井上真紀，押川真由，吉田静，安河内静子，石村美由紀，森純子．(2008)．身体感覚活性化マザークラスに参加した妊婦の変容過程―家族関係の変化―日本母性衛生学

会，千葉.
9)安河内静子.（2008）．T 市における妊娠期から産後の母親の喫煙行動－近隣 5 市町村との比較からみた地域特性－第 3 回日本禁煙科学会，東京.

3. 外部研究資金

文部科学省研究費若手研究（B），「妊産婦の禁煙プログラムに関する研究」－母親となる過程を支援する禁煙教室の効果－交付金額1,500,000円（H18-19）.

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本母性衛生学会／日本助産学会／日本助産師学会／日本看護科学学会／日本禁煙科学会／日本家族看護学会

6. 担当授業科目

女性看護論Ⅰ・２単位・２年・後期，女性看護論Ⅱ・１単位・３年・通年，女性看護実習・２単位・３年・通年，助産診断・技術学・４単位・４年・前期，地域母子保健学・１単位・４年・前期，助産実習・３単位・４年・前期，地域母子保健学・２単位・４年・前期，専門看護学ゼミ・２単位・４年・前期

7. 社会貢献活動

・世にも珍しいマザークラス in たがわ，クラス 6　同窓会(2008.10)
・世にも珍しいマザークラス in たがわ，クラス 1～5(2008.10～12)
・世にも珍しいマザークラス in 福岡，クラス 6　同窓会(2008.12)
・世にも珍しいマザークラス in 福岡，クラス 1～5（2009.2～3）
・助産師を中心とした自主グループ「フムフムネットワーク」の機関紙(年 4 回)の編集委員を行なっている。
・福岡県立大学　助産学生と共につくる　第 2 回「お弁当の日」開催(2009.10)

８．学外講義・講演

・佐藤香代，安河内静子，石村美由紀，吉田静，森純子，三根由紀子．第 4 回医療者向けセミナー(2009.3.8)
・安河内静子，佐藤香代，石村美由紀，吉田静，森純子「身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラス」を体感しよう，福岡県立大学公開講座，(2008.6．7)
・安河内静子，佐藤香代．健康・福祉・育児・生活支援　シーズ発表会，新生活産業くらぶ FUKUOKA 主催，福岡（2008.8．29）

９．附属研究所の活動等
・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部　女性看護学講座	職名	助手	氏名	森　純子

１．教員紹介・主な研究分野

1994 年九州大学医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻修了。1994 年九州中央病院、1996 年佐賀県立病院好生館へ助産師として就職。2003 年厚生労働省看護研修研究センターにて研修。2004 年佐賀県立総合看護学院専任教員として就任。2007 年より本大学看護学部女性看護学講座助手として就任し、現在に至る。

看護学部女性看護学講座助手として就任し 2 年目である。大学では女性看護学や助産学を学ぶ学生たちの教育に携わり、講義、演習、実習などで学生と共に看護や助産を学んでいる。また田川市と福岡市で年 2 回開催される身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス や「身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス」医療者向けセミナーの企画・運営を担当している。

現在、開業助産師の助産のわざの伝承と助産ケアの質の向上を図るために、開業助産師の会陰裂傷を予防するための助産ケアについて研究している。

２．研究業績

①著書・論文

＜論文＞

・石村美由紀、佐藤香代、安河内静子、吉田静、森純子：第 3 回「身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス」医療者向けセミナーの企画・開催に関する一考察、福岡県立大学看護学研究紀要，6（2）

②その他の業績

＜学会報告＞

・森純子、佐藤香代、吉田静、石村美由紀．妊婦の力を引き出すわざ～身体感覚活性化マザークラスにおけるドゥーラが妊婦に与える影響～．第 49 回日本母性衛生学会，千葉．2008 年 11 月．

・佐藤香代、井上真紀、垣内千明、押川真由、吉田静、安河内静子、石村美由紀、森純子.「身体感覚活性化マザークラス」に参加した妊婦の変容過程－家族関係の変化―　第 49 回日本母性衛生学会，千葉．2008 年 11 月．

・吉田静、佐藤香代、森純子、石村美由紀.「身体感覚活性化マザークラス」に参加した妊婦の変化－胎児との対話と子守歌の関係性―. 第 49 回日本母性衛生学会, 千葉. 2008 年 11 月．

・石村美由紀、佐藤香代、吉田静、森純子.「第 3 回身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー」の満足度と開催ニーズ．第 49 回日本母性衛生学会，千葉．2008 年 11 月．

３．外部研究資金

文部科学省，科学研究費補助金（基盤研究Ｃ），「身体感覚活性化マザークラス」に参加した女性の「産み育てる力」形成過程の分析，500 万円，平成 19 年度～平成 22 年度，共同研究（研究分担者），研究代表者：佐藤香代

５．所属学会

日本母性衛生学会、佐賀県母性衛生学会

６．担当授業科目

女性看護論Ⅱ・１単位・3 年通年，女性看護実習・2 単位・3 年通年，助産実習・3 単位・4 年・前期

７．社会貢献活動

・第 3 回身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラスｉｎ田川　同窓会ドゥーラ担当
（2008 年 10 月～12 月）
・第 12 回身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラスｉｎ福岡　同窓会企画・運営担当
（2008 年 12 月）
・第 13 回身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラスｉｎ福岡　ドゥーラ担当
（2009 年 2～3 月）
・「第 4 回身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー」企画・運営（食体験）担当
（2008 年 3 月）
・女性・助産師を中心とした自主グループ「フムフムネットワーク」（代表　佐藤香代）の季刊誌（年 4 回発刊）の編集委員

８．学外講義・講演

なし

９．附属研究所の活動等

・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部　女性看護学講座	職名	助手	氏名	吉田　静

１．教員紹介・主な研究分野

1998年から7年間，助産師として九州労災病院に勤務．2005年から1年間本学に臨時職員として勤務後，2007年，本学に助手として着任．2009年3月，福岡県立大学大学院修士課程修了予定．

現在、子供の喪失経験を持つ者の悲嘆過程と医療者の支援を主な研究分野としている。特に、子供の喪失経験を持つ人々へのケアやサポートの中心は「母親」にあり、「父親」は母親を支える役割を期待され、支援も等閑されやすい。そのためニーズを把握した上で子どもの喪失経験を持つ父親へ提供できるケアモデルを開発し、医療者の役割、課題等を明らかにしていきたい。

２．研究業績

①著書・論文

＜論文＞

石村美由紀，佐藤香代，安河内静子，吉田静，森純子．(2008)．「身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス」医療者向けセミナーの企画・開催に関する一考察．

三根有紀子，佐藤香代，浅野美智留，石村美由紀，吉田静，鳥越郁代，宮野由加利，藤本清美．(2006)．「身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス」実践のための医療者セミナーの評価と今後の課題．福岡県立大学看護学部紀要，3（2)，80―90．

②その他の業績

＜学会報告＞

金子あやみ，古田祐子，吉田静．(2008)．開業助産師による着帯指導の今日的意義．第49回母性衛生学会学術集会，千葉．

佐藤香代, 井上真紀, 垣内千明, 押川真由, 吉田静, 安河内静子, 石村美由紀, 森純子．(2008)．「身体感覚活性化マザークラス」に参加した妊婦の変容過程 - 家族関係の変化－．第49回母性衛生学会学術集会，千葉．

吉田静，佐藤香代，森純子，石村美由紀．(2008)．「身体感覚活性化マザークラス」に参加した妊婦の変化 - 胎児との対話と子守歌の関係性 - ．第49回母性衛生学会学術集会，千葉．

森純子，佐藤香代，吉田静，石村美由紀．(2008)．妊婦の力を引き出すわざ - 身体感覚活性化マザークラスにおけるドゥーラが妊婦に与える影響 - ．第49回母性衛生学会学術集会，千葉．

石村美由紀，佐藤香代，吉田静，森純子．(2008)．「第3回身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー」の満足度と開催ニーズ．第49回母性衛生学会学術集会，千葉．

吉田静，佐藤香代，石村美由紀，田中美樹，野田ゆかり，戸田久美子．(2006)．「身体感覚活性化マザークラス」に参加した妊婦の身体からの気づき．第 47 回母性衛生学会学術集会，名古屋．

石村美由紀，佐藤香代，吉田静，田中美樹，加藤希和子，立花聖子．(2006)．「身体感覚活性化マザークラス」に参加した妊婦の変化－フォーカス・グループ・インタビューをとおして－．第 47 回母性衛生学会学術集会，名古屋．

田中美樹，吉田静，佐藤香代，石村美由紀．(2006)．NICU 退院児を育児する母親への支援のあり方に関する研究．第 47 回母性衛生学会学術集会，名古屋．

３．外部研究資金

文部科学省，科学研究費補助金（若手研究B)，「子どもを喪失した父親の悲嘆過程の様相に関する研究」，210万円，平成20年度～平成23年度．

５．所属学会
日本助産学会／日本母性衛生学会／日本SIDS学会

６．担当授業科目
＜学部＞
女性看護論Ⅱ・１単位・３年・通年、女性看護実習・２単位・３年・通年、助産実習・３単位・４年・前期

７．社会貢献活動
世にも珍しいマザークラス in たがわ（2008.10～12）
世にも珍しいマザークラス in 福岡（2009.2～3）
第2回東アジアグリーフケアセミナー（2008. 12）
身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー（2009.3.8）

９．附属研究所の活動等
ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部　小児看護学講座	職名	教授	氏名	石橋　朝紀子

１．教員紹介・主な研究分野

1988年ロレット・ハイツ大学看護学部終了、1992年ワシントン州立大学大学院看護学修士課程修了。小児看護学の助教授として大分県立科学看護大学、沖縄県立看護大学に勤務後、2007年、本学に着任。

小児看護学を、人間を生涯にわたり発達する存在として、小児期から青年期にある子どもを、生涯発達とグローバルな社会の一員としての視点からとらえている。小児看護学は、一人の子どもこの健康な成長発達の支援と、健康障害をもつ子どもとその家族の尊厳を守りＱＯＬを高めるケアを重要視している。さらに、実践をとおして、子どもとその家族がＱＯＬを高めるために必要な問題を見極めとその解決策を提供できる能力を育成する。

平成12ー14年度、14ー17年度、18ー21年度に日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究Ｃ）を受け、小児がんの子どものセルフエスティーム（弾力性）について研究をおこなっている。診断時から退院後の間に、どのようにしてセルフエスティームが高められるか、その要因を明らかにすることで有効的な看護介入に役立てることを目的としている。

２．研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

山崎喜比古、戸ヶ里泰典、坂野純子編著、（その他の順位不明）小林美智子、蝦名玲子、石橋朝紀子、河合薫、津野陽子、本江朝美、横山由香里、『ストレス対処能力ＳＯＣ』、有信堂、東京、2008年.

〈論文〉

A. Ishibashi, R. Ueda, Y. Kawano, H. Nakayama, A. Matsuzaki, T. Matsumura. 『How to improve resilience in adolescents with cancer in Japan』. Journal of Pediatric Oncology Nursing, 2008年 (in print).

②その他最近の業績

〈調査研究報告書〉

石橋朝紀子・上田礼子、平成 18 年科学研究補助金研究成果報告書『Resilience in adolescents with cancer: Relationships with support』、学会報告、2006年.

内田雅代、竹内幸江、平出礼子、梶山祥子、丸光恵、三澤ふみ、石川福江、石橋朝紀子、小川純子、大原美江、松岡真理、野中淳子、森美智子、佐藤美佳、富岡彰子、『Nursing perceptions of caring for children with cancer, and their families in Japan』.」Pediatric Blood & Cancer、47(4):503 (2006)

〈学会発表〉

M.Uchida, Y.Kajiyama, Y.Owaki, Y.Ohara, S.Takeuchi, F.Shirai, J.Ogawa, M.Maru, M.Mori, J.Nonaka , M.Matsuoka, A.Ishibashi , A.Tomioka, F.Ishikawa, Y.Komai, M.Adachi, M.Sato.『DEVELOPMENT OF NURSING CARE GUIDELINES FOR CHILDREN WITH CANCER AND THEIR FAMILIES』. SIOP 2008 40th Congress of the International Society of Paediatric Oncology, Berlin Germany,2008年.

石橋朝紀子・上田礼子『Self-esteem and social support in adolescents with cancer』38th The International Society of Pediatric Oncology,Geneva,Switzerlan,2006 年.

〈学会講演〉

石橋朝紀子『基調講演：小児がんの子どもと弾力性』.　第 14 回九州山口日本小児血液・

腫瘍研究会,福岡. 2008 年

③過去の主要業績
A. Ishibashi. 『Four concepts that distinguish Pediatric oncology care in Japan、from that in the United States: Telling the diagnosis, length of hospitalization, home care, and support systems』. Journal of Pediatric Oncology Nursing,13(4): 226-231、1996 年.
A. Ishibashi. 『The needs of children and adolescents with cancer for information and social support』. Cancer Nursing、24(1): 61-67,2001 年.
A. Ishibashi, R. Ueda. 『Resilience in adolescents with cancer』.The Japanese Society of Health and Human Ecology、69(6):220-232,2003 年.
A. Ishibashi. 『Resilience in newly diagnosed and relapsed adolescents with cancer』, 37th The International Society of Pediatric Oncology、(Vancouver,Canada)2005 年.

３．外部研究資金
日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究Ｃ）、『小児がんの子どもの将来にむけての弾力性とその支援：小児がん長期生存者を中心に』、2338千円、平成19年度ー平成21年度、共同研究（研究代表者：石橋朝紀子）

４．受賞
特になし

５．所属学会
Association of Pediatric Oncology Nursing学会、日本小児保健学会、民族衛生学会、International Society of Pediatric Oncology学会、日本看護科学学会、学校保健研究学会、各会員、日本小児がん看護研究会（役員）.

６．担当授業科目
＜学部＞
小児看護実習・２単位・３年・通年、小児看護論I・2単位・２年・前期、小児看護論II・1単位・３年・前期、総合実習・３単位・４年・前期、専門看護学ゼミ・２単位・４年・前期、教養演習・１単位・１年・前期、卒業研究・２単位・４年・後期

７．社会貢献活動
・財団法人がんの子供を守る会会員
・リンクス（聖路加国際病院　がんの子どもをもつ親の会）会員
・東京大学健康社会学客員研究員
・Journal of Advance Nursing 査読委員
・日本小児がん看護　幹事

８．学外講義・講演
〈講演〉
石橋朝紀子、『新カリキュラムに伴う今後の看護教育と臨地実習のあり方』,福岡市立こども病院・感染症センター,福岡、2008 年.

９．附属研究所の活動等
特になし

所属	看護学部　小児看護学講座	職名	講師	氏名	宮城　由美子

１．教員紹介・主な研究分野

看護師として小児病棟での臨床経験を経て、看護教育、保育士養成に携わり、2006年より本学に着任。現在行っている研究は、子どもの日常的な疾患（common disease）の看護である。現在小児医療において、特に小児救急問題などは保護者の家庭看護力の低下が指摘されている。そのため日常的な疾患における家庭療養や、アレルギー疾患を有している子どもの日常生活管理を有効に行うことができる育児支援活動を行っている。また私の行っている研究活動は、子どもの健康支援であり、医療職だけでなく、保育の現場、そして家庭、地域との協働で行うことに重点をおいている。年齢に応じた健康教育と、保育者を対象の学習会を展開している。

２．研究業績

①著書・論文

＜論文＞

・宮城由美子、大倉真美：「アトピー性皮膚炎児をもつ母親の不安－乳幼児期に初期診断されて－」、第35回日本看護学会論文集－小児看護2004－　2005(平成17)年2月

・岡部貴裕、宮城由美子：「除去食の実際　アトピー性皮膚炎児を持つ“母親”の教室　育児支援の試み」、日本小児アレルギー学会誌19（5)、2005（平成17）年12月

・宮城由美子：「少子化時代の小児看護に求められるもの」child science vol3、2006（平成18）年11月

・宮城由美子；「アトピー性皮膚炎児をもつ家族の生活実態および不安の特徴」日本看護学会誌第１６巻１号、2006(平成18)年12月

・山本八千代、宮城由美子、岡部貴裕、岩崎七々枝「アトピー性皮膚炎患児の学校生活に関する調査」．小児保健研究.66(4)、2007（平成19）年

・宮城由美子、稲富紀代、山本八千代：「身体の洗浄方法を変え皮膚改善がみられた子どものスキンケア現状－皮膚トラブルを心配してアレルギー外来受診した子ども－」、第38回日本看護学会論文集－小児看護2007－　2008（平成19）年2月

・宮城由美子、岡部貴裕、岩崎七々枝：「外来における経口食物負荷試験の看護」、小児保健研究67（2）2008（平成19）

・泉澤真紀、山本八千代、宮城由美子、岸本信子：「思春期性との月経痛と月経に関する知識の実態と教育的課題」母性衛生Vol49（2）2008（平成20）年

・横尾美千代・中込　治・宮城由美子：「ロタウイルス下痢症の疾病負担；3 歳までの入院リスクの推定」平成 17～19 年度科学研究費補助金　基盤（C）　研究成果報告書、2008（平成 20）年

・細井勇、古橋啓介、秦和彦、宮城由美子、吉川未桜、林ムツミ：「福岡市における子育て意識調査－子育て意識と子育て支援に関する実態とニーズ-」福岡県立大学付属研究所生涯福祉センター研究報告叢書 vol34　2008（平成 20）年

・宮城由美子、太田恵子、中山慶子、吉川未桜：「健康保育に対する保護者のニーズ」保育と保健Vol15(1)　2009（平成21）年

②その他の業績

＜シンポジウム＞

・ 細井勇、古橋啓介、宮城由美子：日韓子育て支援シンポジウム　「子どもの健康と子育て支援」2009(平成21)年3月7日

＜学会発表＞

・ 田辺香奈子、岩崎七々枝、宮城由美子：「外来における食物経口負荷試験の看護の実際」第 25 回西日本アレルギー看護研究会、2006(平成 18)年８月（福岡市、国立病院機構福岡病院）

・　宮城由美子、大田恵子、横尾美智代：「保育園における定例保健指導の効果」第 12 回保育園保健学会、2006(平成 18)年 9 月（大阪市、大阪国際会議場）
.・　横尾美智代、宮城由美子：「ロタウイルス胃腸炎による入院は何歳児が多いのか？―北九州市内 7 保育所（園）児を対象とした年齢階層別入院割合―」第 12 回保育園保健学会、2006(平成 18)年 9 月（大阪市、大阪国際会議場）
・　山本八千代、宮城由美子、山本真優美、泉澤真紀：「高校生の受けた性に関する教育の実態」第47回母性衛生学会、2006．11
・　山本八千代、宮城由美子、岸本信子、泉澤真紀：「月経に関する保健教育の実態と課題」第47回母性衛生学会、2006．11
・　太田恵子、宮城由美子：子どもたちの「なぜ？どうして？」に答えるにはー保育園における健康増進を支援する教材の試作ー．日本保育学会第 60 回大会．　2007 年 5 月．埼玉県.
・　稲富紀代、宮城由美子：身体の洗浄方法を変え皮膚改善がみられた子どものスキンケア現状．第 38 回日本看護学会(小児看護)．　2007 年 9 月　茨城県
・　宮城由美子、太田恵子、横尾美智代：保育園における健康教育への保護者の期待．第 12 回日本保育園保健学会．　2007 年 11 月　北九州市
・　秋鹿都子、山本八千代、宮城由美子、竹谷健：食物アレルギー患児の母親の病の受容プロセス、中国地区小児保健学会、2008(平成 20)年、　島根

３．外部研究資金

・　平成 19-21 年度科学研究費補助金（基盤研究 C）　日本学術振興会
「感染性胃腸炎における外来ケアモデルに関する研究」(1320千円)、研究代表者
・　平成 19-21 年度科学研究費補助金（萌芽研究）　日本学術振興会
「小規模医療機関における看護者の虐待被害者ケア能力の向上に向けた教育に関する研究」(1500千円)、研究分担者

５．所属学会

日本看護協会、日本小児看護学会、小児保健研究会、日本保育園保健協議会、全国保育園保健師看護師連絡会、日本保育学会、日本医療保育学会、日本子ども学会　会員

６．担当授業科目

「教養ゼミ」2単位・1年・前期、「小児看護論Ⅰ」2単位・2年・前期、「小児看護論Ⅱ」1単位・3年・前期、「小児看護実習」2単位・3年・通年、「総合実習」3単位・4年・前期、「専門看護学ゼミ」2単位・4年・前期、「卒業研究」2単位・4年・後期

７．社会貢献活動

・北九州市児童福祉施設等第三者評価委員

８．学外講義・講演

・保育士リカレント教育講師　2ヶ月に1回実施
・保育園児対象健康教室「健康保育」平成19年4月～平成20年3月　月に1回実施（三萩野保育所）
・身体障害児及び慢性疾患児に対するトータルケア事業育児支援教室「なかよしクラブ」「乳幼児のアレルギー疾患児への関わり」講師　2008(平成 20)年 9 月 30 日
・井堀保育園保護者会　育児講座「冬場のかぜ対策　これで良いのでしょうか？」講師　2009(平成 21)年 1 月 24 日

９．附属研究所の活動等

・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部　小児看護学講座	職名	助手	氏名	橘　則子

１．教員紹介・主な研究分野

小児領域の看護師の倫理と、それを実践するための援助方法を探究することを主な研究分野としている。現在、「子どもの権利条約」が批准され、子どもの権利を考慮することが奨励されている。しかし、実際には人権に関する認識が看護師には根付いておらず、子どもの権利を尊重したケアとはなっていない。このことから、小児看護に携わる看護師の子どもの権利に対する認識と、臨床での経験を生かして、実践に役立つ子どもの権利を尊重したケアを明らかにしていきたい。

２．研究業績

①最近の著書・論文

＜論文＞

・山本武志、井川梨恵、仮屋﨑真由美、黒澤奈都子、橘則子、初村暢子、原田香菜、松尾由記、赤木京子．(2007)．大学生のグループワークの負担感に関する調査研究：看護学科と他学科の比較から．看護教育．48（3)，250－256.

５．所属学会

日本小児看護学会、日本看護倫理学会

６．担当授業科目（補助）

小児看護論Ⅰ・２単位・２年・前期、小児看護論Ⅱ・１単位・３年・前期、
小児看護実習・２単位・３年・通年、基礎看護実習Ⅱ・２単位・２年・前期、
精神看護実習・２単位・２年・後期

９．付属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部　小児看護学講座	職名	助手	氏名	吉川　未桜

１．教員紹介・主な研究分野

主に看護職による子育て支援に関する研究を行っている。
近年、子育て支援は、様々な分野からアプローチされている。看護職は、子育て支援の中でも、子どもと家族の健康・保健分野について中心的な役割を担う必要がある。しかし現在、子育て支援における看護職の役割は、よりよい支援に向けての模索状態にある。
よって、まず子育てを取り巻く環境や家族の現象を明らかにし、子育ての現状や養育者の方々のニーズから、今後、地域子育て支援の現場における看護職の役割や専門性、望ましい役割モデルを探究していきたい。それによって、子どもと家族がいつの時も心身共に健康に過ごし、健やかな成長発達へと結びつくよう実践に活かせる研究をしたいと考えている。

２．研究業績

①最近の著書・論文

・宮城由美子・太田恵子・中山慶子・吉川未桜.（2009）「保育園における健康保育に対する保護者のニーズ」，保育と保健15巻1号、pp43-49.

②その他最近の業績

＜調査研究報告書＞

・細井勇・古橋啓介・秦和彦・宮城由美子・吉川未桜・林ムツミ.（2008）福岡市における子育て意識調査 - 子育て意識と子育て支援に関する実態とニーズ -（担当箇所「Ⅲ-２　乳幼児と家族の心身の健康を支える地域子育て支援」），福岡県立大学付属研究所生涯福祉研究センター研究報告叢書 34、pp37-46.

・細井勇・古橋啓介・秦和彦・宮城由美子・吉川未桜・林ムツミ.（2008）福岡市における子育て意識調査 - 子育て意識と子育て支援に関する実態とニーズ -（担当箇所「Ⅲ-４　自由記述の内容」）、福岡県立大学付属研究所生涯福祉研究センター研究報告叢書 34，pp53-69.

＜学会報告＞

・　吉川未桜・藤原浩美 :「地域子育て支援センターにおける看護職活動の必要性とその課題　－職員へのアンケート調査から－」，第 13 回保育園保健学会、2006 年 10 月.

・　田中美樹・中村恵美・吉川未桜・松尾ひとみ :「学生による『こどもの権利条約』に基づく小児医療現場の検証」，第 7 回九州小児看護教育研究会、2006 年 8 月.

＜シンポジウム＞

・　細井勇・古橋啓介・秦和彦・宮城由美子・吉川未桜・林ムツミ・友枝三栄子・黄星賀・徐慧全・南美慶・宋映沃.（2009．3 開催予定）．日韓子育て支援シンポジウム「福岡と大邱（韓国）の子育ての実態調査から見えてくる新たな子育て支援」

＜ワークショップ＞

・　澁谷貴子・吉川未桜.（2008．7）．岡垣っ子育成支援事業　母乳子育てを支える大切な食事．プラーナマンマ，福岡.

③過去の主要業績

３．外部研究資金

文部科学省、科学研究費補助金（若手研究Ｂ）、「地域子育て支援センターにおける看護ケア提供モデルに関する研究」、170万円、平成20年度～平成22年度、研究代表者

４．受賞

５．所属学会

日本看護科学学会　日本小児看護学会　日本看護研究学会　発達心理学会
日本小児保健学会　九州小児看護教育研究会　保育園保健学会　日本公衆衛生学会

６．担当授業科目

・ 精神看護実習・２単位・２年（実習指導）
・ 小児看護論Ⅰ・２単位・２年（補助）、小児看護論Ⅱ・１単位・３年（補助）、小児看護実習・２単位・３年（実習指導）、総合実習（小児）・３単位・４年（補助）

７．社会貢献活動

・ 第28回日本看護科学会学術集会実行委員、2008.12.

８．学外講義・講演

９．附属研究所の活動等

・ ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究委員
・ 研究奨励交付金プロジェクト研究「子育て意識と子育て支援についてのニーズ調査－日韓比較研究」共同研究者

所属	看護学部　地域看護学講座	職名	教授	氏名	松浦　賢長

１．教員紹介・主な研究分野

性教育学者。

東京大学を卒業後，進学し，東京大学医学系研究科博士課程を修了（保健学博士）。日本総合愛育研究所母子保健研究部に研究員として勤務後，カリフォルニア大学バークレー校公衆衛生学部母子保健学教室に研究助手として勤務。帰国後，京都教育大学教育学部にて衛生学（学部）および学校保健学（大学院）を担当する助教授として，教員養成に10年間携わる。再度，カリフォルニア大学バークレー校公衆衛生学部人口・家族計画学教室に助手として勤務し，平成15年度から本学看護学部開設と同時に地域看護学講座教授として着任した。

研究分野は，母子保健学，思春期学，そして性教育学である。

母子保健学については，学会レベルでは，日本小児保健学会が10年に一度行う幼児健康度調査の委員を務めている。国レベルでは，わが国の母子保健（健やか親子21）の中間評価委員を務める。また，厚生労働科学研究（山縣班）のメンバーとして政策研究を遂行してきている。わが国の産後うつ病の頻度の把握をはじめとして，研究成果が厚生労働行政政策に反映されている。わが国の乳幼児健診の場から得られる情報の利活用システムの新規開発についても，グランドデザインから関わっている。県レベルにおいても，福岡県の乳幼児健診マニュアルの開発委員，福岡市の次世代育成支援対策推進協議会委員も拝命している。

思春期学については，学会レベルでは，日本思春期学会の理事および性の健康医学財団の幹事を務める傍ら，九州思春期研究会の設立代表理事として，山積する思春期の課題に取り組んでいる。国レベルでは，健やか親子21の指標の見直しを担当し，厚生労働省と文部科学省の協力のもと，慎重な性行動を予測する指標の開発を行い，国の政策に反映させた。また，思春期やせ症予防のためのマニュアル（全国版）を開発した。さらに，平成20年度からは文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」に不登校の子どもたちへの援助力を養成するためのプログラムが採択され，推進責任者としてプログラムを実行している。県レベルでは，福岡県エイズ・性感染症対策委員を拝命し，また，北九州市の性感染症対策のための大規模調査を担当した。

性教育学については，学会レベルでは，いまだ学問として発展途上にあることから，性教育学を確立するべく，全国の若手研究者とともに性教育学構築フォーラムを主催している。国レベルでは，カプラン・マイヤー法を初めて用いた日本人の性行動の分析をおこない，厚生労働省人口問題研究所等から評価を受けた。また，新しい学校性教育のスタイルである「カフェテリア方式」を開発し，全国に導入されている。現在は全国の若手研究者とともに「思いやり」と「共感」の違いに着目しつつ，脳科学・進化心理学の成果を利用し，性教育学モデルを組み立てている。県レベルでは，福岡県の性教育関連事業の委員等を務め，小集団学習福岡方式を開発に寄与した。

２．研究業績

＜著書＞

松浦賢長，望月吉勝，千葉百子，苅田香苗，篠原厚子，鷹箸右子，渡部幹夫，山内泰子，川上憲人，柏木聖代，田宮菜奈子，川名はつ子，児玉聡，小林康毅．（2008.10）．（千葉百子，松浦賢長，小林康毅編）コンパクト公衆衛生学（第4版）．東京：朝倉書店．第１章「人口問題と出生・死亡」，第8章「母子保健」，第10章「学校保健」執筆．

松浦賢長，小澤道子，福島富士子，鳥居央子，雨宮美帆，宮沢純子，小野美代子，野地有子，別所遊子，津島ひろ江，錦戸典子．（2008.12）．（金川克子編）地域看護活動論①（第2版）．東京：メジカルフレンド社．第１章「母子保健活動論（pp.2-28）」

執筆.
松浦賢長（共著）.（2007）. 医師・看護職のための乳幼児保健活動マニュアル.［担当箇所：第Ⅲ章7-3. 養護教諭（165-169頁）］文光堂（東京），2007.9.

＜論文＞
松浦賢長，小松原かおり，安田梓.（2006）. 幼稚園における性教育の実践. 心とからだの健康，10(3)，33-39.
松浦賢長.（2006）. これからの性教育のあり方. 心とからだの健康，10(11)，36-40.
松浦賢長.（2006）. 性感染症と性教育. 小児内科，38(3)，669-670.
松浦賢長.（2006）. 新しい時代の学校性教育～小集団指導の効果～. 産婦人科の世界，58(1)，43-52.
松浦賢長.（2006）. 若年出産のうらにあるもの～背景と取り組み～. 産婦人科の世界，58(1)，53-56.
松浦賢長.（2006）. 性感染症対策と性教育概論. 産婦人科の世界，58(1)，105-109.
松浦賢長.（2006）. HIV感染爆発前夜. 産婦人科の世界，58(1)，111-112.
松浦賢長. （2007）. 北九州都市圏における青少年を対象とした性感染症に対する認識・行動調査（１）. 性と健康，No.6，26-32，2007.8.
松浦賢長. （2007）. 養護教諭の専門性・将来像を再考してみましょう～ゆとり教育の緩和，教育３法成立・・・揺れ動く教育界を見つめながら～. 健，36(8)：31-34，2007.11.
松浦賢長. （2007）. １人ひとりの価値観を大切にする性教育. 健康な子ども，37(1)：21-22，2008.1.
松浦甘奈，山下真理子，村田佐登美，樋口善之，松浦賢長. （2007）. 継続受け持ち制と助産師指名制度に関する研究，大阪母性衛生学会雑誌，43(1)，96-99. 【学会賞受賞論文】

３．外部研究資金
※文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP)」，不登校・ひきこもりへの援助力養成教育：1,271万円，（推進責任者：松浦賢長）.
※厚生労働省「厚生労働科学研究費補助金」，平成20年度こども家庭総合研究事業「健やか親子21を促進するための母子保健情報の利活用および思春期やせ症防止のための学校保健との連携によるシステム構築に関する研究」班：150万円，（主任研究者：山梨大学教授 山縣然太朗）.

５．所属学会
日本思春期学会（理事），日本公衆衛生学会，日本小児保健学会，日本母性衛生学会，日本健康教育学会，日本保健福祉学会，日本学校保健学会，大阪母性衛生学会，九州思春期研究会（設立代表理事）

６．担当授業科目
＜学部＞
情報処理演習（2単位）1年前期
性を考える（2単位）4年前期
疫学・保健統計学（2単位）2年前期
ヘルスプロモーション論（2単位）2年後期
専門ゼミ（2単位）4年前期
学校保健（1単位）4年前期
卒業研究（2単位）4年後期
＜大学院＞
ヘルスプロモーション科学
思春期ヘルスプロモーション特論／同演習
ヘルスプロモーション看護学特別研究

所属	看護学部　地域看護学講座	職名	准教授	氏名	尾形　由起子

１．教員紹介・主な研究分野

本大学に来た平成16年から、地域で暮らす虚弱状態となった高齢者が、「ねたきりにならずにがんばり続けられる」力を見出すためには、どのような看護活動が必要か研究を続けている。周辺の市町村で行われている介護予防事業に参加高齢者に対する保健師の支援方法を保健師の方々とともに検討している。また、さらに、終末期のがん患者を含めた在宅療養者を取り巻く状況を行政関係者だけでなく、福祉分野の方々とも議論し、病気になっても「自分が選択した場所で療養が続けられる」環境づくりの課題と今後の方向性についてについて検討していきたいと考えています。

２．研究業績

①最近の著書・論文

尾形由起子「第３部第２章３　慢性期にある患者や疾患予防のアセスメントと看護援助：生活習慣により糖尿病を発症した患者の事例」、安酸史子・奥祥子編著『患者がみえる成人看護の実践』、メディカ出版、2007年3月.

尾形由起子，山下清香，山野利恵，井上恵理子（2006）K 町における子育て支援システムの構築．保健師ジャーナル，第 62（11）,976-981.

尾形由起子，山下清香，松浦堅長（2008）児童生徒と保護者の薬物認識状況と薬物防止教育のあり方　福岡県立大学看護学部紀要　5(1)

尾形由起子，山下清香，福岡県地域看護実習連絡協議会（2008）地域実習に関する意見交換会―大学と現場が実習のあり方をともに考える保健師ジャーナル．64(5)

②その他最近の業績

学会

・尾形由起子，山下清香，小西美智子（2006）．子育て支援システムの構築－A町の3地区エンパワメントプロセス－　第65回日本公衆衛生学会総会

・山下清香・尾形由起子・名原寿子・兼武加恵子・松尾和枝・長弘千恵・今村桃子・九州ブロック他（2007），Thoughts on the Integrated Four-Year Curriculum at Nursing Universities in Japan, The 1st Korea-Japan Joint Conference on Community Health Nursing

・尾形由起子，岡田麻里（2007）地域虚弱高齢者に対する 介護予防における 保健師の支援技術の検討第27 回日本看護科学学会総会，東京

・尾形由起子，野口久美子，荒木小百合，戎井まりこ，内田圭，野中多恵子，野口藍子，野見山美和，山下　清香．地域完結型特定健診・特定保健指導の構築にむけての保健指導方法の検討．第 67 回日本公衆衛生学会

・篠原由紀子，荒巻初子，尾形由起子，野口藍子，鎌田久美子．訪問看護の機能拡充による在宅医療推進の可能性～24 時間体制維持に必要な因子の考察～. 第 67 回日本公衆衛生学会

・野口藍子，荒巻　初子，鎌田　久美子，篠原　由紀子，尾形由起子．福岡県における訪問看護推進支援モデル事業の事例分析から見えた今後の課題．第 67 回日本公衆衛生学会

報告書

・尾形由起子（2006）福津市健康日本２１策定計画報告書．福津市

・尾形由起子（2005－2007）苅田町手作りの町づくり事業報告書．苅田町

・尾形由起子，山下清香，野口藍子，野見山美和．福岡県国保連合協議会報告書．福岡県保険者協議会の生活習慣病予防モデル事業を実施して－地域完結型特定健診・特定保健指導の構築を目指して－

・尾形由起子．介護予防における市町村支援モデルの開発．ユニベール財団研究助成金報

告書．2008

③過去の主要業績
・慢性期にある患者や疾患予防のアセスメントと看護援助：生活習慣により糖尿病を発症した患者の事例」メディカ出版、安酸史子・奥祥子編著『患者がみえる成人看護の実践』2007年
・「介護を必要とする人々への理解」および「介護課題解決のための方法論」、ミネルウァ書房、井上千津子・澤田信子・白澤政和・本間昭編著『介護課程』2009年３月刊行予定
・尾形由起子，山下清香，松浦堅長，児童生徒と保護者の薬物認識状況と薬物防止教育のあり方福岡県立看護学部紀要第5巻第２号，2008
・尾形由起子，山下清香，福岡県地域看護実習連絡協議会「地域看護実習に関する意見交換会」大学と現場が実習のあり方をともに考える保健師ジャーナル第64巻５号
・尾形由起子，介護予防事業参加高齢者の自己効力感評価指標との関連性について福岡県立大学看護学部紀要第6巻第1号，2009年

３．外部研究資金
・文部科学省、科学研究費補助金（基盤研究 C）生活習慣病予防における　市町村支援モデルの開発に関する研究，４００万円、平成成１８～１９年度、共同研究（研究代表　山下清香）
・文部科学省、科学研究費補助金（基盤研究C）地域虚弱高齢者の介護予防的コミュニティ構築に関する研究，２９９万円，平成19～２０年度，（研究代表者　尾形由起子）

４．所属学会
日本看護科学学会，日本地域看護学会，日本公衆衛生学会，日本糖尿病教育・看護学会，日本学校保健学会，日本看護倫理学会

６．担当授業科目
＜学部＞
地域看護論Ⅰ・２単位・２年・後期、地域看護論Ⅱ・３年および４年編入生・1単位・通年、健康教育論・２単位・３年および３年編入生・前期、地域看護論実習Ⅰ・1単位・１年生・前期、地域看護実習Ⅱ・２単位・３年生通年、地域看護実習Ⅲ・４年生・後期
＜大学院＞
地域看護学特別研究・２単位・修士１年・前期，地域看護学特別演習・２単位・修士１年・後期，

７．社会貢献活動
・田川市高齢者保健福祉計画策定委員会．田川市．
・田川市福祉部所管計画評価委員会．田川市．
・人権と福祉のまちづくり策定委員会アドバイザー．福智町
・障害程度区分認定審査委員．田川市
・福岡県在宅推進協議会委員．福岡県

８．学外講義・講演
・福岡県介護保険従事者研修会「介護予防と地域づくり」．福岡県（2008 年 10 月）
・フォーラム　保健師教育－現場と教育とで保健師教育について一緒に考えようー　座長：第 67 回日本公衆衛生学会学術集会（2008 年 11 月）
・ラウンドテーブル．災害時のオーラルヘルス（口腔）ケアガイドラインの検討座長：第 28 回日本看護科学学会学術集会（2008 年 12 月）

所属	看護学部　地域看護学講座	職名	講師	氏名	山下　清香

１．主な研究分野

行政の保健師の活動を主な研究のテーマとし、現在は、保健師の生活習慣病予防活動を中心的に研究している。また、住民の参加やエンパワーメント、保健師の教育についても関心を持っている。行政で働く保健師との関わりを大切にしながら、地域における住民の生活と、行政で働く保健師の視点や判断、援助内容などの実態を明らかにしたい。そこから実践に役立つ保健師の活動方法や活動技術について考え、保健師の専門性を探求していきたいと考えている。

２．研究業績

①著書・論文

・山下清香．第3部第1章セルフマネジメントを促すためのアセスメントと看護支援方法．安酸史子・奥祥子編著．患者が見える成人看護の実践．メディカ出版，134-142，2007年

・尾形由起子,山下清香,山野理恵子,井上恵理子．K町における子育て支援システムの構築．保健師ジャーナル（2006）,Vol.62（11）

・尾形由起子，山下清香，松浦賢長．児童生徒と保護者の薬物認識状況と薬物乱用防止教育のあり方．福岡県立大学看護学部紀要（2008）第5巻第1号

・尾形由起子，鎌田久美子，野口久美子，山下清香．地域看護実習に関する意見交換会―大学と現場が実習のあり方をともに考える―．保健師ジャーナル（2008），Vol.64（5）

・佐藤香代，津田智子，山下清香，松枝美智子，小路ますみ，渡邉智子，石川フカエ，宮城由美子，安河内静子，田渕康子，森崎直子．看護学生の実習到達度の評価と今後の課題－第1回合同実習調整会議における調査から－．福岡県立大学看護学部紀要（2008）第6巻第1号

・山下清香，全国保健師教育機関協議会九州ブロック（2007）．平成 18 年度保健師教育検討委員会報告書「保健師教育の現状と課題」

・山下清香，尾形由起子，野見山美和，野口藍子（2008）．（平成 18～19 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））研究報告書「生活習慣病対策における市町村支援活動モデルの開発－保健師エンパワーメントモデル－」

・尾形由起子、山下清香、野見山美和、野口藍子、水巻町保健師（2008）．「平成 19 年度地域の老健ヘルス等との連携のためのモデル事業報告書」．福岡県保険者協議会

・尾島俊之、東美鈴、齋藤明子、坂上久子，佐々木峰子，中板育美，西内千代子，三好ゆかり，山下清香，日本看護協会（2008）．平成 19 年度先駆的保健活動交流推進事業「生活習慣病予防活動支援モデル事業報告書」．日本看護協会事業開発部

②その他最近の業績

・山下清香，尾形由起子（2006）．経過観察児の母親の支援に関する考察－エンパワーメントの観点から－．日本公衆衛生学会，富山市

・山下清香．ローレンスW.グリーン、マーシャルW.クロイター著「実践ヘルスプロモーション」（書評）．看護研究（2006），Vol.39（2）,55，医学書院

・Yamashita K，Imamura T，Kanetake K，Kusaka M，Matsuo K，Nagahiro C，Nahara H，Ogata Y，Oki T，Takaki M，Takekuma C，Tanaka M，Toyoshima Y，Uezono S.（2007）．Nursing Teachers' Thoughts on the Integrated Four-Year Curriculum at Nursing Universities in Japan . The 1st Korea-Japan Joint Conference on Community Health Nursing. Korea

・西谷美鈴，大久保幸子，山下清香，尾形由起子（2007）．「軽度発達遅延が発見された母子が継続支援につながるまでの関り」．2007 年度福岡県公衆衛生学会．福岡市

・尾形由起子，山下清香，野口藍子，野見山美和，野中多恵子，戎井まりこ，荒木小百合，

内田圭，野口久美子（2007）．地域完結型特定健診・特定保健指導の構築にむけての保健指導方法の検討．日本公衆衛生学会．福岡市
・戎井まりこ，荒木小百合，内田圭，野口久美子，尾形由起子，山下清香，野口藍子，野見山美和，野中多恵子（2007）．福岡県保険者協議会の生活習慣病予防モデル事業を実施して．日本公衆衛生学会．福岡市
・内田圭，荒木小百合，戎井まりこ，野口久美子，尾形由起子，山下清香，野口藍子，野見山美和，野中多恵子（2007）．特定健診・特定保健指導の受診率および保健指導受診率アップの取り組み．日本公衆衛生学会．福岡市
・野中多恵子，野口久美子，荒木小百合，戎井まりこ，内田圭，野口藍子，山下清香，尾形由起子（2008）．生活習慣病予防ケアシステム構築における行政統括保健師の活動視点．日本公衆衛生学会．福岡市

③過去の主要業績

３．外部研究資金
・文部科学省、科学研究費補助金（基盤研究C）、「地域虚弱高齢者の介護予防的コミュニティ構築に関する研究」，平成19年度～平成20年度，共同研究

４．受賞

５．所属学会
日本地域看護学会，日本公衆衛生学会，日本看護科学学会，日本看護研究学会，日本糖尿病教育・看護科学学会

６．担当授業科目
地域看護実習Ⅰ（1単位，１年後期），地域看護論Ⅰ（2単位，2年後期），地域看護論Ⅱ（1単位，3年通年），地域看護実習Ⅱ（2単位，3年通年），健康教育論（2単位，3年前期），総合実習（3単位，4年前期）専門看護ゼミ（2単位：４年前期），地域看護実習Ⅲ（3単位，4年後期）卒業研究（2単位：4年後期）
地域看護特論（2単位，修士1年，前期），地域看護特論演習（2単位，修士1年，後期）

７．社会貢献活動
・日本看護協会「効果のある保健指導プログラム評価検討会委員会」委員
・田川市「田川市民健康づくり推進協議会」委員
・福岡県田川保健所「管内保健師等定例会」・「地域・職域連携推進会議」アドバイザー

８．学外講義・講演
・教員免許更新予備講習講師「ヘルスプロモーションと地域看護」2008年8月
・福岡県立門司大翔高等学校出前講義「メタボリックシンドロームと看護」2008年10月．
・福岡県鞍手・嘉穂・田川保健師協議会分科会講演「保健師教育の現状と課題」2009年1月．
・福岡県看護協会保健師職能委員会研修会「生活習慣病予防の保健指導を考える－行動変容と習慣化の支援とは－」2008年12月

９．附属研究所の活動等
・生活習慣病予防研修会「医療と保健活動との連携を考える―カルナプロジェクト－：ディジーズマネジメントによる糖尿病地域連携」2009年3月10日（福岡県立大学），講師：九州大学医学部付属病院中島直樹先生
・生活習慣病予防研修会「保健師の生活習慣病予防活動と医療との連携」2009年3月24日（福岡県立大学），講師：水巻町健康課野口久美子先生

所属	看護学部　地域看護学講座	職名	助手	氏名	野口　藍子

１．教員紹介・主な研究分野

現在「在宅ケアシステム構築に向けた保健師のケアコーディネーションの果たす役割」について研究している。

近年、わが国では高齢化社会の対策として、平均在院日数の短縮等を通じた医療費の適正化、療養病床の再編成をすすめていることから、より一層の在宅医療・介護提供体制の量的・質的充実が求められる。特に在宅医療を推進していく中で、がん患者は医療依存度が高く病状の急変・長期化が考えられるため、24 時間ケアシステムを構築していくことが必要である。また、在宅で最期を希望する対象が自宅で安心して過ごせるよう、在宅医療を整備することは患者・家族の QOL 向上のためにも重要であるため、「在宅ケアシステム構築」に向けた医療者の役割、課題を明らかにしていきたい。

２．研究業績

＜学会報告＞

野口藍子、荒巻初子、鎌田久美子、篠原由紀子、尾形由起子：福岡県における訪問看護推進支援モデル事業の事例分析から見えた今後の課題, 第 67 回公衆衛生学会発表(福岡市), 平成 20 年 10 月，抄録（日本公衆衛生雑誌，55(10)，p377）.

戎井まりこ、荒木小百合、内田圭、野口久美子、尾形由起子、山下清香、野口藍子、野見山美和、野中多恵子：福岡県保険者協議会の生活習慣病予防モデル事業を実施して，第 67 回公衆衛生学会発表（福岡市），平成 20 年 10 月，抄録（日本公衆衛生雑誌，55(10)，p344）.

尾形由起子、野口久美子、荒木小百合、戎井まりこ、内田圭、野中多恵子、野口藍子、野見山美和、山下清香：地域完結型特定健診・特定保健指導の構築にむけての保健指導方法の検討，第 67 回公衆衛生学会発表（福岡市），平成 20 年 10 月，抄録（日本公衆衛生雑誌，55(10)，p344）.

内田圭、荒木小百合、戎井まりこ、野口久美子、尾形由起子、山下清香、野口藍子、野見山美和、野中多恵子：特定健診・特定保健指導の受診率及び保険指導受診率アップの取り組み，第 67 回公衆衛生学会発表（福岡市），平成 20 年 10 月，抄録（日本公衆衛生雑誌，55(10)，p344）.

野中多恵子、野口久美子、荒木小百合、戎井まりこ、内田圭、野口藍子、山下清香、尾形由起子：生活習慣病予防ケアシステム構築における行動統括保健師の活動視点について，第 67 回公衆衛生学会発表（福岡市），平成 20 年 10 月，抄録（日本公衆衛生雑誌，55(10)，p344）.

篠原由紀子、荒巻初子、尾形由起子、野口藍子、鎌田久美子：訪問看護の機能拡充による在宅医療推進の可能性～24 時間体制維持に必要な因子の考察～, 第 67 回公衆衛生学会発表（福岡市），平成 20 年 10 月，抄録（日本公衆衛生雑誌，55(10)，p377）.

５．所属学会

日本公衆衛生学会　日本地域看護学会　日本看護協会会員

６．担当授業科目（補助）

＜学部＞

地域看護実習Ⅰ・1単位・1年後期，基礎看護実習Ⅱ・2単位・2年・前期，地域看護論Ⅰ・2単位・2年・後期，健康教育論2単位・3年・前期，地域看護論・1単位・3年通年，地域看護実習Ⅱ・2単位・3年通年，地域看護実習Ⅲ・3単位・編入4年・後期，

８．学外講義・講演

苅田小学校・出前講義「「薬物教育」、2009年1月23日

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

- 生活習慣病予防活動に関する研修会「ディジーズマネジメントによる糖尿病地域連携ーカルナ・プロジェクトー医療サイドから考える医療と地域保健活動との連携」2008年 3 月 10 日（福岡県立大学)、講師：九州大学病院医療情報部　准教授　中島　直樹先生
- 生活習慣病予防活動に関する研修会第「保健師の生活習慣病予防活動と医療との連携」2008 年 3 月 24（福岡県立大学)、講師：水巻町健康課長　野口久美子　先生.

所属	看護学部　地域看護学講座	職名	助手	氏名	野見山　美和

１．主な研究分野

地域看護における自治体の保健師活動を主な研究分野としている。

平成２０年度から始まる医療制度改革の特定保健指導において、効果的な保健指導アプローチ方法について、またその効果について研究し、現場保健師の保健活動に役立てていけるようにする。

２．研究業績

①著書・論文

＜報告書＞

・戎井まりこ，荒木小百合，内田圭，野口久美子，尾形由起子，山下清香，野口藍子，野見山美和，野中多恵子．(2008)．福岡県保険者協議会の生活習慣病予防モデル事業を実施して．第 67 回日本公衆衛生学会（福岡市）．平成 20 年 11 月 6 日

・戎井まりこ，荒木小百合，内田圭，野口久美子，尾形由起子，山下清香，野口藍子，野見山美和，野中多恵子．(2008)．地域完結型特定健診・特定保健指導の構築に向けての保健指導方法の検討．第 67 回日本公衆衛生学会（福岡市）．平成 20 年 11 月 6 日

・戎井まりこ，荒木小百合，内田圭，野口久美子，尾形由起子，山下清香，野口藍子，野見山美和，野中多恵子．(2008)．特定健診・特定保健指導の受診率及び保健指導受診率アップの取り組み．第 67 回日本公衆衛生学会（福岡市）．平成 20 年 11 月 6 日

・戎井まりこ，荒木小百合，内田圭，野口久美子，尾形由起子，山下清香，野口藍子，野見山美和，野中多恵子．(2008)．生活習慣病予防ケアシステム構築における行政統括保健師の活動視点について．第67回日本公衆衛生学会（福岡市）．平成20年11月6

②その他の業績

３．外部研究資金

４．受賞

５．所属学会

日本公衆衛生学会

６．担当授業科目（補助）

地域看護実習Ⅰ・1単位・1年・後期，基礎看護実習Ⅱ・2単位・2年・前期，地域看護論Ⅰ・2単位・2年・後期，総合演習・2単位・2年・後期，健康教育論・2単位・3年・前期，地域看護論Ⅱ・1単位・3年と編入4年・通年，地域看護実習Ⅱ・2単位・3年・通年，国際看護論・2単位・4年・前期，地域看護実習Ⅲ・3単位・編入4年・後期，

７．社会貢献活動

平成20年度教員免許状更新予備講習（準備・講習補助）

８．学外講義・講演（補助）

・苅田町率苅田小学校　　薬物防止健康教育　　2009.1.23

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

＜研修会＞（補助）

・第1回生活習慣病予防活動に関する研修会（2009.3.10）

テーマ「ディジーズマネジメントによる糖尿病地域連携－カルナ・プロジェクト－
医療サイドから考える医療と地域保健活動との連携」

・第2回生活習慣病予防活動に関する研修会（2009.3．24）

テーマ「保健師の生活習慣病予防活動と医療との連携」

所属	看護学部　地域看護学講座	職名	助手	氏名	樋口　善之

１．教員紹介・主な研究分野

2003年、本学看護学部地域看護学講座助手に着任。

現在，健やか親子21の推進に関する研究をしている．具体的には，「健やか親子21」中間評価において，指標の見直しが必要であると指摘された＜思春期の保健対策の強化と健康教育の推進＞における指標の見直しに関する研究に取り組んでいる．また職場（主に製造業）における非特異的腰痛の問題に関する研究をおこなっている．具体的には，腰痛症の重症度評価と職場における腰痛リスク評価を組み合わせた腰痛症防止のためのエキスパートシステムに関する研究に取り組んでいる．また萌芽的な研究としてe-ラーニングシステムの活用方法に関する研究に取り組んでいる．具体的には，ドリル形式のe-ラーニング教材を使用した場合の成績変動に着目し，問題提示システムへフィードバックするためのアルゴリズムに関する研究に取り組んでいる．

２．研究業績

①最近の著書・論文

＜論文＞

Mazloum A, Kumashiro M, Izumi H, Higuchi Y.「Quantitative overload: a source of stress in data-entry VDT work induced by time pressure and work difficulty」『Industrial Health』46(3), 2008年

Konishi K, Kumashiro M, Izumi H, Higuchi Y.「Effects of the menstrual cycle on working memory: comparison of postmenstrual and premenstrual phases.」『Industrial Health』46(3), 2008年

②その他最近の業績

＜調査報告書＞

樋口善之，仁木雪子，笠井直美，丸岡里香，加藤千恵子，小林八重子，佛圓和子，光本朱實，濱龍彦，米光真由美，内田美智子，渡辺多恵子，鈴木茜，山田七重，松浦賢長，山縣然太朗「「健やか親子21」＜思春期の保健対策の強化と健康教育の推進＞における指標の見直しに関する研究」『厚生労働科学研究（子ども家庭総合研究事業）健やか親子21を推進するための母子保健事業の里活用および思春期やせ消防士のための学校保健との連携によるシステム構築に関する研究』平成19年度　総括・分担研究報告書，2008年

樋口善之，松浦賢長，山縣然太朗「「健やか親子21」＜思春期の保健対策の強化と健康教育の推進＞における新たな指標のベースライン値に関する研究」『厚生労働科学研究(子ども家庭総合研究事業）健やか親子21を推進するための母子保健事業の里活用および思春期やせ消防士のための学校保健との連携によるシステム構築に関する研究』平成19年度　総括・分担研究報告書，2008年

樋口善之，荒木田美香子，村田光範，尾島俊之，原田正平，山崎嘉久，山中龍宏，薬袋淳子，仲宗根正，外山健二，松浦賢長，山縣然太朗「高校3年生における基本的生活習慣，食生活習慣，健康に関する知識，およびダイエット行動に関する研究」『厚生労働科学研究（子ども家庭総合研究事業）健やか親子21を推進するための母子保健事業の里活用および思春期やせ消防士のための学校保健との連携によるシステム構築に関する研究』平成19年度　総括・分担研究報告書，2008年

樋口善之，津川美樹，安藤英美，木下真美，木戸奈穂巳，朴明美，小川知，野間裕子，増本綾子，倉本孝子，内田美智子，内田克彦，岩田美紀，黒木透，平野剛，市川香織，松浦賢長，山縣然太朗「妊娠・出産における全体的満足度と助産婦の指導・対応との関連に関する研究」『厚生労働科学研究（子ども家庭総合研究事業）健やか親子21を推進す

るための母子保健事業の里活用および思春期やせ消防士のための学校保健との連携によるシステム構築に関する研究』平成19年度　総括・分担研究報告書，2008年

＜学会報告＞

Yoshiyuki Higuchi, Hiroyuki Izumi, Hidenori Togami, Masahiro Hashimoto, Akinori Sato, Hiroyuki Komad, Masaharu Kumashiro「Method of Quantitative analysis of Occupational low back pain in manufacturing」, The Eighth Pan-Pacific Conference on Occupational Ergonomics(Bangkok, Thailand), 2007年10月.

樋口善之，松浦賢長，山縣然太朗「健やか親子21　思春期の保健対策の強化と健康教育の推進における指標についての予備検討」，第66回日本公衆衛生学会(松山)，2007年10月.

樋口善之，松浦賢長，加藤千恵子，丸岡里香，仁木雪子，渡辺多恵子，鈴木 茜，内田美智子「「健やか親子21」-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-における新たな指標のベースライン値の把握」，第49回日本母性衛生学会学術集会(千葉)，2008年11月.

③過去の主要業績

樋口善之，松浦賢長「自己肯定感の構成概念および自己肯定感尺度の作成に関する研究」『母性衛生』43(4)，500-504，2002年

樋口善之，松浦賢長「新たに作成した自己肯定感尺度の妥当性と信頼性に関する研究」『母性衛生』43(4)，505-512，2002年

樋口善之，松浦賢長「大学生における自己肯定感と生活習慣との関連に関する研究」『福岡県立大学看護学部紀要』1(1)，65-70，2003 年

３．外部研究資金

特記事項なし

４．受賞

特記事項なし

５．所属学会

日本公衆衛生学会(国内)，日本母性衛生学会(国内)

６．担当授業科目(補助)

情報処理演習・2単位・1年・前期，疫学保健統計学・2単位・2年・前期，ヘルスプロモーション論・2単位・2年・後期

７．社会貢献活動

特記事項なし

８．学外講義・講演

特記事項なし

９．附属研究所の活動等

・ヘルスプロモーション実践センター事業
「医療保険従事者のためのパソコン教室（8月：Word，12月：Excel）」講師

所属	看護学部　国際看護学講座	職名	准教授	氏名	石川　フカヱ

１．教員紹介・主な研究分野

2000年九州大学大学院人間環境学府発達・社会システム専攻教育学コース修士課程修了
1974年～福岡市立の小学校、養護学校（現特別支援教育学校）にて養護教諭・保健主事で勤務し子どもの健康課題をメインテーマに研究・実践活動を行ってきた。修士論文のテーマ「養護教諭の子どもに対する支援的関係の研究」を行い、養護教諭職の歴史から観た＜子ども観＞に迫った。2004年4月本学に養護教諭一種課程の専任准教授として着任。養護教諭の教育においては、①養護教諭としての子ども観の確立②看護学を基盤とした子どもの健康課題に向き合える力量形成③コミュニケーションスキルの育成等に力点を置いている。

主な研究分野は、①学校の保健室は子どもにとって「サンクチュアリ」で居心地の良い場所となっていなければならないと同時に命の大切さを中心にした健康教育の推進も急務である。このような課題を受けて教育過程や養成機関に大きな違いがある「養護教諭」へのリカレント教育を行い、福岡県の学校に勤務する養護教諭の力量形成を図る。
子ども自身へ向けても「いじめとどう向き合うか」あるいは「いじめ問題を模索する」研究を進めていき、養護教諭の役割、子どもを取り巻く大人の役割などを提言していく。
②日本初の学校看護婦「広瀬マス」の研究を続け、養護教諭職の歴史的変遷と子どもへの側面的支援の在り方を修士論文の継続としていく。

２．研究業績

①最近の著書・論文

＜著作＞
『初心者のためのフィジカルアセスメントー救急保健管理と保健指導ー』．荒木田美香子・池添志乃・石原昌江・津島ひろ江・石川フカヱ：東山書房．2008年
＜論文＞
石川フカエ．（2008）．ベスト・オブ　日韓交流に関する考察．日本健康教育学会誌，186- 187．第１５巻第３号

②その他最近の業績

＜学会発表＞
石川フカヱ：「喘息・肥満・不登校を併せ持つ子どもへの支援」　１３大都市学校保健協議会　札幌市　2006年6月
石川フカヱ：「学級崩壊を通過した子ども」の考察　日本健康相談学会　2007年2月　日本栄養大学
石川フカヱ：「学級以外の居場所として保健室を選んだ子ども」の考察　2008年2月　日本健康相談学会　千葉大学
石川フカヱ：「子どもにとって保健室はどのような場所であり養護教諭はどのように映っていたか」ー大学生への調査から今回はネガティブな部分に焦点をあてー：日本養護教諭教育学会　2008年11月　札幌北洋大学
石川フカヱ：「大学生の振り返りから観た保健室観・養護教諭観」：日本養護教諭教育学会：2009年11月　岡山大学

③過去の主要業績

・ 1985年3月　福岡市教育センター公募　教育論文　奨励賞　テーマ「人の魂に揺さぶ

りをかけ得る性教育具体的方策」
- 1997年3月　福岡市教育センター公募　教育論文　奨励賞　テーマ「豊かにたくましく生き抜く子どもの育成－地域に開かれた保健室経営を通して－」
- 2002年3月　福岡市教育センター公募　教育論文　奨励賞　テーマ「学級崩壊を通過した子どもの考察」
- 2004年　福岡市教育センター公募　教育論文　奨励賞テーマ「病弱養護学校における日々の健康教育と子どもへの支援の在り方－喘息・肥満と不登校を併せ持つ子どもへの支援を通して－」

３．外部研究資金

委託者：文部科学省
研究種別：研究開発
研究課題：「教員免許状更新講習プログラムモデルの開発」
交付金：3，000，000円
研究期間：2008年4月～2009年3月

４．受賞

なし

５．所属学会

日本健康相談活動学会・日本地域看護学会・九州学校保健学会
日本公衆衛生学会・日本養護教諭教育学会・日本健康教育学会
日本学校保健学会

６．担当授業科目

教養演習・1単位・1年・前期、養護概説・2単位・2年・後期、総合演習・2単位・2年・後期、養護実習事前事後指導・1単位・4年前期、養護実習・1単位・4年・前期、総合実習・3単位・4年前期、専門看護ゼミ・2単位・4年前期、卒業研究・2単位・4年後期

７．社会貢献活動

- 「教員免許更新講習＜予備講習＞」の開設→北海道から奄美までの受講者があり好評を得られた。また福岡県内では福岡教育大と本学の2大学のみの開設であった。
- 平成20年度　福岡市思春期関連協議会　8月・3月開催　福岡市こども総合センター
- 福岡県養護教諭研究会顧問
- 田川市鉄砲町在住のＨさん（高齢の一人暮らし）宅を学生と共に季節の変わり目や、大学行事（秋興祭・卒業式）等に訪問し交流を3年目継続中である。

８．学外講義・講演

１）福岡市こども未来局主催　留守家庭子ども会　指導員研修会講師　7月　福岡市役所
２）私学協会筑豊地区生徒指導研修会「いじめ対策」　講師　8月　福智高等学校
３）福岡市こども未来局主催　留守家庭子ども会指導員研修会　講師　9月　福岡市役所
４）福岡市こども未来局主催　留守家庭子ども会指導員研修会　講師11月福岡市役所

９．附属研究所の活動等

公開シンポジウム「いじめ問題、今、私にできること」2008年12月

所属	看護学部　国際看護学講座	職名	准教授	氏名	夏原　和美

１．教員紹介・主な研究分野

高校卒業時の進路は美術大学でその後デザイン会社で勤務していたが、インドへ行ったことがきっかけとなり、再び大学で学ぶことにした。2002 年東京大学大学院医学系研究科国際保健学専攻博士課程修了。同専攻の人類生態学教室の助手として勤務後、2005 年に本学に着任した。

専門は人類生態学である。人類生態学は、人間が環境へ適応する際の多様性・変動性を観察によって明らかにし、多様性の各側面の相互関係性を解明することをめざしている。さまざまなテーマを扱う人類生態学の中で、私は特に、近代化によって変化していく食にまつわる環境と、その変化が人間の健康にどのような影響を与えるかに焦点をあてて研究している。主な調査地域はアジア・オセアニアであり、現在はパプアニューギニアとラオスを中心に研究を行っている。

２．研究業績

①最近の著書・論文

夏原和美、佐々木敏．第２章 食と栄養転換 論集 モンスーンアジアの生態史―地域と地球をつなぐ―第3巻 くらしと身体の生態史．弘文堂．2008年

夏原和美、村山伸子、佐々木敏、小坂康之．第２部食と健康-2　食と栄養・健康　栄養・健康．図録メコンの世界―歴史と生態―．秋道智彌 編.弘文堂．2007年

村山伸子、夏原和美、佐々木敏、小坂康之．第２部食と健康-１食文化　食環境．図録メコンの世界―歴史と生態―．秋道智彌 編.弘文堂．2007年

Ohashi J, Naka I, Kimura R, Natsuhara K, Yamauchi T, Furusawa T, Nakazawa M, Ataka Y, Patarapotikul J, Nuchnoi P, Tokunaga K, Ishida T, Inaoka T, Matsumura Y, Ohtsuka R. FTO polymorphisms in Oceanic populations. Journal of Human Genetics. Volume 52, Number 12. pp1031-1035. 2007年

The Lao food book for dietary assessment. Edited by The Lao food book project. Eco-History project Research Institute for Humanity and Nature (RIHN), Japan Niigata University of Health and Welfare, Japan. 2007年

夏原和美、村山伸子、小坂康之．ラオスの食生活．天理大学附属天理参考館第56回企画展図録「モチゴメの国ラオス―メコン河流域の暮らし―」p6.2007年

夏原和美．栄養・食生活＜食事記録調査＞．東アジア地域の都市化が子どもの健康に及ぼす効果に関する生理人類学的研究　平成15年度～平成18年度科学研究費補助金（基盤研究(A)）研究成果報告書．pp115-137．2007年

夏原和美．生活習慣と形態測定値からみた都市の子どもの健康　Child health in an urbanized city from the perspective of lifestyle and anthropometry.東アジア地域の都市化が子どもの健康に及ぼす効果に関する生理人類学的研究　平成15年度～平成18年度科学研究費補助金（基盤研究(A)）研究成果報告書．pp252-255．2007年

夏原和美．パプアニューギニア調査地の紹介 4.アサロ地域．ENVRERA パプアニューギニア調査グループ．　環境省 地球環境研究総合推進費プロジェクト「アジア地域における経済発展による環境負荷評価及びその低減を実現する政策研究」ワーキングペーパー ＮＯ．４，P16～P23 2007年

夏原和美．パプアニューギニア東高地州3集落の社会経済状態と時間利用.生態人類学会ニュースレター No.12, P.20～21 2006年

Natsuhara K., Murayama N., Sasaki S., Kounnavong S., Phonglusa K., Sithideth D., Health and nutrition ecology in Lowland of Laos. Part 1. Health status of reproductive-age females in rural Laos from the perspective of anthropometry and hemoglobin level., A Transdisciplinary Study on the Regional Eco-History in Tropical

Monsoon Asia: 1945-2005, P.157～P.165 2006年

②その他最近の業績

Natsuhara K、Murayama N、Sasaki S、Kosaka Y、Nonaka K、Ono E、Phonglusa K、Sithideth D、Luangpraxay C、Thongmalay B、Chanthakoumme K、Vongpraseuth N、Kounnavong S. Study of Nutritional Ecology in Lao P.D.R.. RIHN Kyoto Special Meeting on "Lao-Japan Leadership on Study on Global Environmental Change and Health in Toropical Asia". 京都. 2008年11月

Murayama N., Natsuhara K., Sasaki S., Kosaka Y., , Phonglusa K., Sithideth D., Luangpraxay C. , Kounnavong S.Nutrition Ecological Study to Improve Maternal and Child Health in Lao PDR. The National Health Research Forum to support the Health Research System Strengthening in Lao PDR. Vientiane, LAO PDR. 2007年9月

③過去の主要業績

Natsuhara K., Inaoka T., Umezaki M.,Yamauchi T., Hongo T., Nagano M. and Ohtsuka R. Cardiovascular Risk Factors of Migrants in Port Moresby from the Highlands and Island Villages, Papua New Guinea. American Journal of HumanBiology.12, P.655～P.664 2000年

３．外部研究資金

研究種目名：トヨタ財団2007年研究助成金、期間：2007年～2008年、450万円、研究課題名：ラオスから発信する自然資源食料利用とその未来可能性　－昆虫に注目した栄養摂取と環境多元性の持続的利用－、研究代表者：立教大学 野中健一

４．受賞 特になし

５．所属学会

オセアニア学会、生態人類学会、民族衛生学会、日本衛生学会、日本栄養・食糧学会

６．担当授業科目

地域看護実習Ⅰ・１単位・１年・後期、人類生態学・２単位・２年・前期、看護研究・２単位・３年・後期、環境問題と健康問題・２単位・３，４年・前期、国際看護論・２単位･４年・前期、専門看護学ゼミ・２単位･４年・前期、卒業研究・２単位･４年・後期、日本事情 B・2 単位・留学生・前期、食育学特論・２単位・大学院１年・前期、食育学演習・２単位・大学院１年・後期

７．社会貢献活動

福岡県国際交流センター主催「教室から世界をのぞこう」プログラム日本人講師

８．学外講義・講演

「環境問題をもう一度考えてみよう」博多女子高校大学教養講座. 博多女子高校. 2008 年 7 月. 2008 年 12 月

９．附属研究所の活動等

福岡県立大学付属研究所、「ヘルスプロモーション実践研究センター体験ツアー」2008年6月.

所属	看護学部　臨床機能看護学講座	職名	教授	氏名	安酸　史子

１．主な研究分野

1978年自衛隊中央病院附属看護学院卒業。看護師経験の後、1981年千葉大学看護学部入学。1987年千葉大学大学院看護学研究科修了。順天堂大学病院浦安分院で看護師として勤務後、東京女子医科大学看護短期大学助手、岡山県立大学保健福祉学部看護学科助教授・教授、岡山大学医学部保健学科看護学専攻教授を経て、2003年本学に初代学部長として着任。

現在、看護における教育的機能の在り方について研究している。教育の対象は看護学生、看護師、看護教員、そして患者、地域住民である。看護の実習教育の方法論としては『経験型実習教育』という方法論を提唱し、本学の実習教育の基本理念としている。この方法論は、従来の指導型の教育モデルではなく、ケアリングを中心理念に置いた学習支援型の教育モデルである。患者への教育では、慢性病者、特に糖尿病患者に対して自己効力理論とエンパワメントモデルを活用した「セルフマネジメント」支援の教育方法論について研究している。対象が誰であっても学習者一人ひとりの可能性が社会で実を結ぶように支援する教育方法や教育技法の提供、研究・開発に取り組んでいる。

現在取り組んでいる研究は、①経験型実習教育のシステム化に関する研究、②患者教育方法に関する研究、中でも糖尿病患者教育の領域で看護専門職として醸し出す雰囲気（Professional learning climate）についての研究、③ヘルスプロモーションに関する研究である。

２．研究業績

①著書・論文

＜著書＞

・安酸史子「糖尿病患者さんのフットケア　はじめの一歩」、安酸史子監修、メディカ出版、2006.

・安酸史子「患者がみえる成人看護学概論」、安酸史子監修．メディカ出版、2006.

・安酸史子「目からウロコの新人ナース・プレセプティ指導術」、メディカ出版、2007.

・安酸史子「患者がみえる成人看護の実践」、安酸史子編．大阪、メディカ出版、2007.

＜論文＞

・安酸史子、大池美也子、東めぐみ、他「糖尿病患者教育におけるProfessional　Learning Climate」．プラクティス、23(5)、545-551．2006.

・安酸史子『「看護職者の教育的関わりモデル」の今後の展望～看護職者の教育実践力を高めるために～』、看護学雑誌、70(12)、1157-1163、2006

②　その他の業績

＜調査研究報告書＞

・安酸史子、他「経験型実習教育のシステム化に関する研究」、平成 16 年度～平成 17 年度科学研究費補助金〔基盤研究（B）〕（研究代表者）研究成果報告書、全 239 頁、2006.

＜学会報告＞

・安永薫梨、松枝美智子、安田妙子、中津川順子、村島さい子、中野榮子、安酸史子. (2006). 経験型精神看護実習におけるチームティーチング体制の強化－実習施設と大学が一体となったワークショップの企画・運営を通して－．第 16 回日本看護学教育学会、名古屋.

・安永薫梨、松枝美智子、安田妙子、中津川順子、村島さい子、中野榮子、安酸史子. (2006). 経験型精神看護実習におけるチームティーチング体制の強化－実習前後の事例検討会の成果と今後の課題－．第 37 回日本看護学会－看護教育－、愛媛.

・Fumiko Yasukata, Michiyo Oka, Miyako Oike, Fusae Kondo, Megumi Higashi, Chieko Yamamoto, Narumi Takiguchi, Emi Yamada, Hiromi Sanaki, Teruko Kawaguchi,

Hiroko Shimomura, Yuko Hayashi, Momoe Konagaya, Takako Kobayashi, Kyoko Kodaira, Etsuko Yokoyama, Sanae Iha, Tomoe Inoue, Kazumi Oda, Sachiko Tange. (2007). Nursing Model on education3: Professional Learning Climate as a Patient Education Expert" and "Stepwise Searching and Problem-Solving Educational Method. Sigma Theta Tau International 18th Nursing Research Congress. Viena.
・松枝美智子，安永薫梨，安田妙子，北川明，安酸史子，中野榮子．(2008)．精神科超長期入院患者の社会復帰援助レディネス尺度の開発．第 28 回日本看護科学学会．福岡．
・松枝美智子，安永薫梨，安田妙子，中野榮子，安酸史子．(2008)．精神障害者の社会復帰促進を目的とした継続教育の現状と課題．第 18 回日本看護学教育学会．つくば．
・安永薫梨，安田妙子，松枝美智子，中野榮子，安酸史子．(2008)．経験型精神看護実習において、学生が臨床指導者や教員の患者への対応をロールモデルとした場面とその学び．第 39 回日本看護学会【精神看護】．神戸．
・小野美穂・添田百合子・清水夏子・政時和美・安酸史子．(2008.9)．ピア・エデュケーション機能を取り入れた福岡糖尿病患者教育研究会の取り組み．第１３回日本糖尿病教育看護学会．金沢。

③過去の主要業績
・安酸史子「糖尿病患者の食事自己管理に対する自己効力感尺度の開発に関する研究」(博士論文)、東京大学，1997.
・藤岡完治、安酸史子、他「学生とともに創る臨床実習指導ワークブック第２版」、医学書院、2001.
・安酸史子「成人看護学－慢性期－」、安酸史子編著、建帛社、1999.
・安酸史子「糖尿病患者のセルフマネジメント教育　エンパワメントと自己効力」、メディカ出版、2004.
・安酸史子「成人看護学　セルフマネジメント」、安酸史子編著、メディカ出版、2005.
・安酸史子「糖尿病合併症ナーシング」、安酸史子編著、医歯薬出版、2005.

３．外部研究資金
文部科学省、科学研究費補助金(基盤研究 C)、「経験型実習教育の研修プログラムの開発研究」、２３４万円、平成 19 年度～平成 20 年度、共同研究(研究代表者：安酸史子)

４．受賞
なし

５．所属学会
日本看護学教育学会理事、日本看護科学学会評議員、日本健康教育学会評議員、
日本糖尿病教育看護学会、日本看護研究学会、日本教師学学会

６．担当授業科目
＜学部＞
看護への招待・１単位・１年前期、看護教育学Ⅰ・2 単位・4 年前期、看護教育学Ⅱ・2 単位・４年後期、看護管理論Ⅰ・2 単位・４年前期、看護管理論Ⅱ・2 単位・４年後期、継続看護教育論・２単位・編入３年・前期、看護実践論・１単位・3 年前期、健康教育学・２単位・３年前期、教師論・２単位・３年前期、専門看護学ゼミ・２単位・４年前期、卒業研究・２単位・４年後期

＜大学院＞
看護教育学特論・２単位・1 年前期、看護教育学演習・2 単位・1 年後期、看護心理学特論・２単位・１年前期、看護心理学演習・２単位・１年前期、看護教育学・２単位・１年後期、

ヘルスプロモーション科学・２単位・１年後期

７．社会貢献活動

・福岡県実習指導者講習会審議委員
・日本看護学教育学会編集委員長
・メディカ出版発行月刊誌『糖尿病ケア』編集長
・　川崎町立病院経営形態検討委員会委員
・　第28回日本看護科学学会学術集会長
・筑豊市民大学ゼミ「ヘルシー・エイジング」担当

８．学外講義・講演

メディカ出版、大阪.
安酸史子.（2006、2）. 糖尿病予備軍へのセルフマネジメント支援、山梨県看護協会、山梨.
安酸史子.（2006、2）. 経験型実習教育の理論と実際、愛媛大学医学部看護学科臨地実習連絡協議会、愛媛.
安酸史子.（2006、3）. 重井医学研究所付属病院院内研究会講評、岡山.
安酸史子.（2006、3）. プリセプティ指導術～プリセプターナース必修の理論とテクニック～、看護教育に関する学術講演会、大宮.
安酸史子.（2006、3）. 看護学実習教育における看護教師に求められる能力について、宮崎大学医学部、宮崎.
安酸史子.（2006、3）. 経験型実習教育の考え方と実際、福井医療短期大学開設に伴う研修会、福井.
安酸史子.（2006、3）. 看護学実習教育における学生の学びを深める教育的関わり、宮城県立大学平成 17 年度実習指導者教員研修会、仙台.
安酸史子.（2006、4）. 糖尿病患者のセルフマネジメントについて、石川県糖尿病療養指導し研究会、金沢.
安酸史子.（2006、6）. 糖尿病患者のセルフマネジメント教育－エンパワメントと自己効力－、第９回阪神糖尿病セミナー、大阪.
安酸史子.（2006、6）. 人が育つ組織を作る～エンパワメントの視点から～、新日鐵八幡記念病院講演会、八幡.
安酸史子.（2006、6）. 看護学生の自己効力感を高める臨地実習指導のあり方、厚生労働省看護研修研究センター同窓会主催講演会、大分.
安酸史子.（2006、7）. 経験型実習教育－母性看護学実習をふまえて－、鹿児島県看護教育協議会、鹿児島.
安酸史子.（2006､8）. 糖尿病患者の心理とカウンセリング、第 10 回福男佐賀糖尿病療養指導士研修会、久留米.
安酸史子.（2006、8）. 授業としての実習教育－経験型実習教育の展開－、全国自治体病院協議会「臨床実習指導者研修会」、東京.
安酸史子.（2006､8）. 患者教育に必要な教育技法、看護協会認定看護師養成講習、東京.
安酸史子.（2006､8）. セルフマネジメント支援の理論と実際、久恒病院研修会、福岡.
安酸史子.（2006、9）. 看護教育論、平成 18 年度福岡県看護教員養成講習会、福岡.
安酸史子.（2006、9）. 生活モデルに基づいた成人看護学の教授ポイント～慢性期看護への応用～、メディカ看護教育力ＵＰセミナー、東京.
安酸史子.（2006、9）. 生活モデルに基づいた成人看護学の教授ポイント～慢性期看護への応用～、メディカ看護教育力ＵＰセミナー、博多.
安酸史子.（2006、9）. 経験型実習教育の基本的な考え方、経験型精神看護実習ワークショップ、太宰府.
安酸史子.（2006､10）. 糖尿病患者のセルフマネジメント、青森糖尿病療養指導研修会、青森.

安酸史子.（2006、10）．附属研究所開設記念シンポジウム「住民参加の健康づくりをめざして　健康大使養成事業について」、福岡県立大学、田川.
安酸史子.（2006、11）．やる気を高める糖尿病患者・家族教育、山形糖尿病療養指導研修会、山形.
安酸史子.（2006、11）．糖尿病患者の心理と効果的な療養指導．柳川糖尿病療養指導研修会、柳川.
安酸史子.（2006、11）．糖尿病と予備軍を減らそう、筑豊・京築ブロック研修会、田川.
安酸史子.（2006、12）．日本糖尿病教育・看護学会の活動と日本糖尿病療養指導士、島根糖尿病療養指導研修会、松江.
安酸史子.（2006、12）．糖尿病療養指導に活かす健康教育の基礎となる理論を学ぶ、日本糖尿病教育・看護学会主催研修会、京都.
安酸史子.（2006、2）．後輩育成の実際、宝塚市立病院、宝塚.
安酸史子.（2006、6）．３日間ワークショップ：患者教育研修、労働者健康福祉機構、東京.
安酸史子、大池美也子、東めぐみ、山本千恵子.（2006、7）．患者教育における Professional Learning Climate．患者教育研究会主催公開講座、福岡.
安酸史子.（2006、7）．ワークショップ：プリセプターとしての指導のあり方、山口赤十字病院看護部研修、山口.
安酸史子.（2006、7）．看護とマネジメント～プリセプター研修～、大分県看護協会、大分.
安酸史子.（2006、8）．実習指導概論、岡山県実習指導者講習会、岡山.
安酸史子.（2006、8）．実習指導概論、広島県看護教員養成講習会、広島.
安酸史子.（2006、9）．エンパワメントー利用者の持てる力を引き出すためにー、長崎県看護協会、長崎.
安酸史子.（2006、11）．実習指導概論、岡山県地域実習指導者研修会、岡山.
安酸史子、東めぐみ、大池美也子、山本千恵子、太田美帆.（2007、3）．患者教育専門家として醸し出す雰囲気―Professional Learning Climateー、患者教育研究会第４回公開講座、日本糖尿病教育・看護学会共催、京都.
安酸史子.（2007、1）．糖尿病患者の心理、長崎大学病院、長崎.
安酸史子.（2007、2）．患者指導の理論と実践、腎不全学会トピックス研修、横浜.
安酸史子.（2007、3）．プリセプティ教育について、久恒病院、福岡.
安酸史子.（2007、3）．ケアリングと看護教育、宮城大学看護学部、仙台.
安酸史子.（2007、3）．今、看護教育に求められるもの、平成１８年度看護師等学校養成所研修会、福岡.
安酸史子.（2007、5）．糖尿病患者に寄り添うアプローチ、糖尿病「おおさか」セミナー、大阪.
安酸史子.（2007、6）．糖尿病患者の心理とカウンセリング、第 11 回福岡佐賀糖尿病療養指導士研修会、久留米.
安酸史子.（2007、8）．教育課程・看護過程・実習指導・評価・他、九州厚生年金病院臨床指導者研修会、黒埼.
安酸史子.（2007、8）．セルフマネジメント　～実践！効果的な健康教育～、長崎県看護協会、長崎.
安酸史子.（2007、9）．セルフマネジメント　～実践！効果的な健康教育～、久恒病院、福岡.
安酸史子.（2007、9）．経験型実習教育とは、経験型精神看護実習ワークショップ、田川.
安酸史子.（2007、9）．経験型実習教育とは、経験型精神看護実習ワークショップ、大宰府.
安酸史子.（2007、9）．やる気を高める看護研究、平成１９年度自衛隊札幌病院院内研修会、札幌.
安酸史子.（2007、9）．看護学実習の教材化、平成１９年度北海道看護教育研究会ゼミナールにおける基調講演、札幌.
安酸史子.（2007、10）．糖尿病患者を支える心理的アプローチ、平成１９年度日本栄養士会生涯学習研修会、高知.

安酸史子．(2007、10)．「疾病管理・慢性疾患ケア看護学特論３」、広島大学大学院、広島．
安酸史子．(2007、11)．看護教育課程とケアリングカリキュラム、九州大学医学部看護学科、博多．
安酸史子．(2007、11)．ケアリングと看護教育、東京女子医科大学大学院、東京．
安酸史子．(2007、11)．臨床実習と教育評価、2007 年度看護教育力アップセミナー（メディカ出版）、大阪．
安酸史子．(2007、11)．臨床実習と教育評価、2007 年度看護教育力アップセミナー（メディカ出版）、東京．
安酸史子．(200７、11)．疾患受容や行動変容への支援及び心理的アプローチ、田川．
安酸史子．(200７、12)．糖尿病患者の心理、糖尿病に強い看護師養成研修、長崎．
安酸史子．(2007、3)．経験型実習教育の基礎となる理論と具体的展開について、宮崎大学医学部看護学科研修、宮崎．
安酸史子．(2007、6)．プリセプターとしての指導のあり方、山口赤十字病院研修、山口．
安酸史子．(2007、7)．看護教育方法（実習指導）．平成１９年度福岡県看護教員養成講習会、博多．
安酸史子．(2007、7)．実習指導概論、平成１９年度岡山県実習指導者講習会、岡山．
安酸史子．(2007、7)．患者教育に必要な教育技法、看護協会認定看護師養成講習、東京．
安酸史子．(2007、7)．看護教育方法、平成１９年度福岡県看護教員養成講習会、福岡．
安酸史子．(2008.1)．パネルディスカッション：看護系大学の将来を担う教員に対する FD のあり方について　大学院生・新人教員に向けての準備教育．看護系大学協議会 FD 委員会．東京．
安酸史子．(2008.1)．ヘルスプロモーションの理念を活かした保健教育の展開．自治医科大学医学部看護学科．栃木．
安酸史子．(2008.1)．行動科学の応用．九州女子大学栄養学科．北九州．
安酸史子・東めぐみ・道面千恵子．(2008.2)．糖尿病療養指導氏のための up to date：看護の教育的関わりモデル ver.6　患者教育専門家として醸し出す雰囲気、第４２回糖尿病学の進歩、香川．
安酸史子．(2008.2)．大分県看護研究学会特別講演：看護の実践知と臨床看護研究、大分県看護協会、大分．
安酸史子．(2008.2)．臨床における看護の実践と研究．久恒病院．福岡．
安酸史子．(2008.2)．経験型実習教育について．福岡県立大学実習調整会議．田川．
安酸史子．(2008.3)．セルフエフィカシーについて．自衛隊熊本病院．熊本．
安酸史子．(2008.3)．経験型実習教育について．旭川医師会看護専門学校．旭川．
安酸史子．(2008.3)．効果的な実習教育をめざして．滋賀県実習指導者講習会．滋賀．
安酸史子．(2008.6)．糖尿病患者が無理なく行動変容するアプローチをめざして．宮崎糖尿病研修会．宮崎．
安酸史子．(2008.7)．糖尿病患者の心理とカウンセリング．筑後佐賀糖尿病療養指導士研修会．久留米．
安酸史子．(2008.7)．ヘルス・プロモーションとヘルシー・エイジング．筑豊市民大学ゼミ．田川．
安酸史子．(2008.8)．糖尿病患者が無理なく行動変容するアプローチをめざして、看護協会筑豊ブロック研修会．田川．
安酸史子．(2008.8)．看護教育方法（実習指導）．福岡県看護教員養成講習会．福岡．
安酸史子.(2008.8).経験型精神看護実習教育の基本的な考え方.福岡県立精神医療センター太宰府病院院内研修.太宰府.
安酸史子．(2008.8)．糖尿病患者のセルフマネジメント教育　エンパワメントと自己効力．岐阜糖尿病コメディカルセミナー．岐阜．
安酸史子．(2008.10)．学生のやる気を高める看護実習のあり方．愛媛県看護連盟研修会．愛媛．

安酸史子．(2008.10)．患者教育・実習教育・新人教育につながるケアリング・サイクルの形成に向けて．久恒病院．福岡．
安酸史子．(2008.10)．慢性疾患患者のセルフマネジメント．北海道看護協会研修．札幌．
安酸史子．(2008.10)．一無、二少、三多のライフスタイルでメタボを予防、第５回福岡県医師会セミナー、田川．
安酸史子．(2008.10)．セルフマネジメント　実践！効果的な健康教育．長崎県看護協会研修会．長崎．
安酸史子．(2008.11)．看護の教育的関わりと自己効力理論．宮崎大学医学部保健学科．宮崎．
安酸史子．(2008.12)．経験型実習教育の考え方について．福岡県看護科・看護専攻科高等学校協会冬期研修会講演会，福岡．
安酸史子．(2008.12)．ケアリング・サイクル形成に向けて．第２８回日本看護科学学会会長講演．福岡．
安酸史子．(2008.3)．自己効力理論に基づく患者指導．糖尿病療養指導研修会．松江．
安酸史子．(2008.6)．「看護の教育的関わりモデル」モデルの開発と実践への応用．第２回慢性看護学会交流集会．東京．
安酸史子．(2008.7)．プリセプターとしての指導のあり方．山口赤十字病院．山口．
安酸史子．(2008.8)．プロセプターとしての指導のあり方．庄原赤十字病院．広島。
安酸史子．(2008.9)．実習指導概論．岡山県実習指導者講習会．岡山．
安酸史子．(2008.9)．プリセプターシップ．島根県看護協会研修．松江．
安酸史子．(2008.10)．糖尿病患者の心理とアプローチ法．糖尿病における質の高い看護師育成事業．長崎．
安酸史子．(2008.10)．臨床実習と教育評価．メディカ看護教育力ＵＰセミナー．博多安永薫梨，松枝美智子，坂田志保路，梶原由紀子，津田智子，小野美穂，北川明，藤野靖博，於久比呂美，藤岡あゆみ，橋本茂子，清水夏子，近藤美幸，吉川未央，橘則子，石飛マリコ，永嶋由理子，中野榮子，渡邊智子，脇崎裕子，安酸史子．(2008．9)．第５回平成20年度経験型精神看護実習教育ワークショップＩ，田川．
安酸史子・小野美穂．(2008.10)．糖尿病患者のセルフマネジメントケア概論．「糖尿病ケア」５周年記念メディカセミナー．東京．

９．附属研究所の活動等

・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部　臨床機能看護学講座	職名	准教授	氏名	森　礼子

１．主な研究分野

現在、3つの研究テーマを持っている。第1に「英語教師がどのような信念をもって間違いを直すか」。これについては、平成20、21年度に福岡県立大学研究奨励交付金をもらいデータ収集を実施し、現在、論文を執筆中である。第2の研究テーマは「小学校における英語学習は話す訓練にどのように寄与しているか」であるが、1小学校での研究を終え、次の小学校を捜している段階である。第3のテーマは「メール交換をとおしての異文化意識の芽生に関する考察」である。今学期はパイロット調査を実施し、本格的なデータ収集は平成21、22年度に行なう予定である。

２．研究業績

①著書・論文

＜論文＞

- Mori, R. (2006). Mini lectures by members of a nursing school. In M. Swanson (Ed.), *JALT applied materials: Classroom resources.* (pp. 40-41). Tokyo: JALT.
- 森礼子「小学校英語教育は話す教育にどうのように寄与しているか：事例研究」『福岡県立大学看護学研究紀要』第４巻１号、 2007 年
- 森礼子「引用の仕方と引用・参考文献表の書き方」、田中哲也編『福岡県立大学教養演習テキスト』。、福岡県立大学出版会、 2007 年
- Mori, R. (2007). Asia TEFL, TESOL, multiculturalism, and teacher development. *Annual Review of English Learning and Teaching, 12*, 31-37.
- Mori, R. (2007). Does English language instruction at the Primary level contribute to speaking training? A case study. In K. Bradford-Watt (Ed.), *JALT 2006 Conference Proceedings* (pp. 480-489). Tokyo: JALT.
- 森礼子「国語科教科書における話す練習とその大学英会話教室にとっての意味」、『福岡県立大学看護学研究紀要』第5巻、2号、福岡県立大学、2007年
- Mori, R. (2008). Encouraging communication through individual, pair, and group work. *The Language Teacher, 32,* 17-18.
- 森礼子. 「ある英会話講師が間違い直しに関して持っている知識」、『福岡県立大学看護学研究紀要』第6巻、2号、福岡県立大学、印刷中.

②その他の業績

＜学会報告＞

- 森礼子「小学校英語教育は話す教育にどのように寄与しているか：事例研究」、全国英語教育学会第 32 回大会（高知大学）、2006 年 8 月
- Mori, R. Contributions that English language instruction at the primary level makes to speaking training: Case study, 全国語学教育学会（JALT）第３２回全国大会（北九州国際会議場）2006 年 11 月
- Mori, R. Appropriating English: A case of a fifth grade classroom in Japan, TESOL 学会第 41 回大会（シアトル州立コンベンションセンター）2007 年 3 月
- Mori, R. Asia TEFL, TESOL, and teacher development, Asia TEFL 学会第 6 回大会（クアラルンプール）2007 年 6 月
- 森礼子「英語を自分の目的に利用する：小学校の事例」、大学英語教育学会第 46 回大

会（安田女子大学）2007 年 9 月

- Mori, R.　Validating local knowledge in language teaching, 全国語学教育学会(JALT) 第 33　回大会（国立オリンピック記念青少年総合センター）2007 年 11 月
- 森礼子「英語教育における日本特有の教育目的を考える」、大学英語教育学会・東アジア英語教育研究会（西南学院大学）2008 年 4 月
- Mori, R.　Crossing borders: A complementary experience、全国語学教育学会第 34 回大会（国立オリンピック記念青少年総合センター）2008 年 11 月.
- 森礼子「語学教師と間違い直し」九州英語教育学会第 37 回大会（九州産業大学）2008 年 11 月.

３．外部研究資金

無し。

４．受賞

無し。

５．所属学会

TESOL、Asia TEFL, JACET, JALT, JASELE, LET

６．担当授業科目

＜学部＞英語I・１単位・１年・前期、英語II・１単位・１年・後期、英語III・１単位・２年・前期、英語IV・１単位・２年・後期、英語V・１単位・４年・前期、専門看護学ゼミ・２単位・４年・前期、卒業研究・２単位・４年・後期

＜大学院＞
英語文献講読特論・２単位・１年・前期

７．社会貢献活動

System査読員、*外国語メディア学会機関誌編集委員*、*外国語メディア学会九州・沖縄支部紀要編集委員*、大学英語教育学会・九州沖縄支部紀要編集委員、看護科学学会第28回大会実行委員、大学英語教育学会第50回実行委員

８．学外講義・講演

無し。

９．附属研究所の活動等

無し。

所属	看護学部　臨床機能看護学講座	職名	講師	氏名	北川　明

１．主な研究分野

現在，看護学・保健学と情報科学との融合を目指した看護情報学を主な研究分野としている．情報科学との融合とは，単に医療にコンピュータを導入するというものではなく，数学理論や統計学を応用し，情報の収集，分析，管理を行い，サービスの向上を図るものである．

具体的には，①健康保健指導におけるe-ラーニングの教育効果と活用可能性の研究，②地域保健活動支援システムのあり方と構築に関する研究，③テキストマイニング手法を用いた定性データ分析方法に関する研究を行っている．

今後，少子高齢化やコンピュータ技術の発展に伴い，保健医療のあり方も変化していくものと考えられる．本研究領域は，こうした変化の中で，時代に即した看護や保健医療を考えていくために必要不可欠であると考える．

２．研究業績

①著書・論文

【論文】

1)．北川明，梯正之，烏帽子田彰：全国悉皆調査からみた市町村保健センターのICT(Information and Communication Technology)活用状況の現状と評価（第一報）．医学と生物学，151(9)：312-318，2007

2)．Akira Eboshida，Shinya Kuno，Takeshi Kawaguchi，Masayuki Kakehashi，Toshio Kobayashi，Tomoaki Kimura，Sumiko Kuroiwa，Mutuko Moriwaki，Kenshi Hayashida，Hiroyuki Nakamura，Shigeru Yasutake，Yoshimitsu Araki，Noboru Yamaguchi，Yoshitaka Nobukuni，Akira Kitagawa and Tomofumi Sone：Examination and Speculation Regarding Policy and Strategies for Health Promotion in the Local Community in Japan. International Journal of Sport and Health Science，Vol.4 Special Issue 2：394-401，2006.

3)．米澤健二，滝川清子，谷岡佳男，北川明：抑制にいたるスタッフの心理要因の分析．日本精神科看護学会誌，49(1)：252-253，2006.

4)．他　2点

【報告書】

1)．梯正之，北川明，恒松美和子：健康情報ステーション（仮称）の構築を目的とした基礎的研究（プロトタイプもしくは実証モデルの提示）．厚生労働科学研究費補助金「市町村合併に伴う地域保健事業および自治体事務の影響評価と今後の効率的推進策に関する研究～市町村保健事業（保健師業務）評価指標の開発および同指針の作成～」（主任研究者　烏帽子田彰）平成19年度　総括・分担研究報告書：平成17年度～19年度　総合研究報告書，97-131.

2)．烏帽子田彰，内藤佳津雄，河原智江，石田光広，研究協力員　柴崎祐美，久野譜也，高木敏，木村友昭，北川明：介護保険制度の適正な実施及びサービスの質の向上に寄与する調査研究事業－介護予防にかかる市町村事業計画の在り方に関する研究－．平成18年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）介護保険制度の適正な運営・周知に寄与する調査研究事業（主任研究者　烏帽子田彰）報告書：A4版全67頁，2007

3)．他　2点

②その他の業績

【学会発表】

1). 北川明，恒松美輪子，梯正之，烏帽子田彰．（2008）．テレビ会議システムを用いた遠隔健康教室の利点と課題－住民アンケートの結果から－．第9回日本医療情報学会看護学術大会，東京．
2). 松枝美智子，安永薫梨，安田妙子，北川明，安酸史子，中野榮子．(2008)．精神科超長期入院患者の社会復帰援助レディネス尺度の開発．第28回日本看護科学学会学術集会，福岡．
3). 清水夏子，小野美穂，北川明，安酸史子．（2008）．各論実習直前の学生の不安および講義による不安軽減の試み．第28回日本看護科学学会学術集会，福岡．
4). 他　8点

【新聞取材】
1). 「テレビ電話でメタボ健康教室」中国新聞，2007年12月15日朝刊　URL：http://www.chugoku-np.co.jp/News/Tn200712150022.html

３．外部研究資金
1). 「うつ病患者-家族支援：ｅラーニングの教育効果と活用の可能性についての研究」平成19年度科学研究費補助金（若手B）課題番号：19790374，交付金額：3,300,000円（平成19年～20年）

４．受賞
なし

５．所属学会
日本医療情報学会，日本看護科学学会，日本精神保健看護学会，広島保健学学会，日本公衆衛生学会，医学生物学速報会，日本健康教育学会

６．担当授業科目
情報処理演習・2単位・1年・前期、統計学・2単位・1年・後期、疫学保健統計学・2単位・2年・前期、医療保健福祉政策論・2単位・4年・前期、総合実習・2単位・4年・前期、看護管理論Ⅰ・2単位・4年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期、看護管理論Ⅱ・2単位・4年・後期、卒業研究・2単位・4年、後期

７．社会貢献活動
1). 日本看護科学学会社会貢献委員
2). 第28回日本看護科学学会学術集会　事務局・企画委員
3). 福岡eラーニング研究会　幹事
4). 平成１９年度東広島地域精神障害者退院促進支援支援協議会　協力員

８．学外講義・講演
なし

９．附属研究所の活動等
1). 北川明，杉野浩幸，樋口善之．（2008，8）．医療保健従事者のためのパソコン教室－初心者のためのやさしいワードの使い方－，田川．
2). 北川明（2008，11）．遠隔健康教室に対する一般住民のニーズと今後の展望，e-ＺＵＫＡトライバレー産学官技術交流会2008，飯塚
3). 北川明，樋口善之．（2008，12）．医療保健従事者のためのパソコン教室－初心者のためのやさしいExcelの使い方・超入門コース－，田川．
4). 北川明，杉野浩幸．（2008，12）．医療保健従事者のためのパソコン教室－初心者のためのやさしいExcelの使い方・脱初心者コース－，田川．

所属	看護学部　臨床機能看護学講座	職名	講師	氏名	小出　昭太郎

１．教員紹介・主な研究分野

教育については、学生が、社会学的な研究方法や「ものの見方」を臨床や政策などの実践に生かすことができるようになることを目標にしています。

主な研究分野は、第1に、保健医療・社会保障の制度・政策に関して、制度・政策策定者サイドの視点よりも市民・患者サイドの視点に基づいた歴史研究・理論的研究・調査研究を行ってきました。現在は、イギリスの医療保障財源の設計根拠に関する歴史研究を行っており、この研究においても主に市民・患者サイドの視点に着目しています。第2に、健康の社会的不平等に関する研究を行ってきました。特に、性・年齢層別の検討を行っています。

２．研究業績

①最近の著書・論文

＜論文＞

・戸ヶ里泰典・山崎喜比古・小出昭太郎・宮田あや子、「修正版Perceived Health Competence Scale（PHCS）日本語版と社会経済的地位との関連性の検討」、『日本健康教育学会誌』、第14巻第2号、2006年.

・神山吉輝・小出昭太郎・川口毅・青木啓子、「保健師の支援による高齢者の食生活の変化及び医療費推移との関連」、『厚生の指標』、第54巻第7号、2007年.

・Morimoto, A., Nishimura, R., Sano, H., Matsudaira, T., Miyashita, Y., Shirasawa, T., Koide, S., Takahashi, E., and Tajima, N., “Gender differences in the relationship between percent body fat (%BF) and body mass index (BMI) in Japanese children”, *Diabetes Research and Clinical Practice*, 78, 2007.

②その他最近の業績

＜学会報告＞

・白澤貴子・仲村智子・沼田美惠子・渡邊裕司・星野祐美・小出昭太郎・高橋英孝・川口毅、「住民主体によるボランティアリーダーの養成から活動支援への取り組みについて」、第15回日本健康教育学会、東京、2006年6月.

・大津一義・山田浩平・小出昭太郎・白澤貴子・川口毅、「専門健康教育士の養成について」、第15回日本健康教育学会、東京、2006年6月.

・小出昭太郎・宮田あや子・崎田マユミ・戸ヶ里泰典・山崎喜比古・白澤貴子・高橋英孝、「主観的健康と収入との関連の性・年齢による差異」、第65回日本公衆衛生学会総会、富山、2006年10月.

・小出昭太郎・白澤貴子・高橋英孝、「人間ドック受診者におけるAging Males’ Symptoms scaleの因子構造」、第6回日本Men's Health医学会、東京、2006年11月.

③過去の主要業績

・小出昭太郎・田村誠、「1991年英国NHS改革後の政府規制とその背景――「病院サービスの購入者」の設定に関する問題」、『病院管理』、第36巻第1号、1999年.

・小出昭太郎・田村誠、「イギリスNHS成立時における財源調達方式の設計の根拠に関する考察」、『医療政策に関わる一般市民・医療従事者の価値判断とその論拠（平成10年度～平成12年度科学研究費補助金（基盤研究（B）（2））研究成果報告書）（研究代表者：田村誠）』、2001年.

・小出昭太郎・山崎喜比古、「収入とgeneral health perceptionsとの関連の性・年齢によ

る差異」、『要介護状態及び健康の形成過程における社会経済的要因の役割に関する実証的研究（平成14年度～平成17年度科学研究費補助金（基盤研究（A））研究成果報告書）（研究代表者：武川正吾）』、2006年.

３．外部研究資金

４．受賞

５．所属学会

日本保健医療社会学会、日本社会福祉学会、日本医療・病院管理学会、日本公衆衛生学会、日本健康教育学会、東北哲学会

６．担当授業科目

＜学部＞

情報処理演習・2単位・1年・前期、保健社会学・2単位・1年・後期、保健社会調査論・2単位・2年・後期、看護研究・2単位・3年・後期、保健医療福祉政策論・2単位・4年・前期、看護管理論Ⅰ・2単位・4年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期、日本事情B・2単位・留学生・前期

＜大学院＞

データ解析特論・2単位・修士1年・後期

７．社会貢献活動

８．学外講義・講演

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部　臨床機能看護学講座	職名	講師	氏名	小野　美穂

１．教員紹介・主な研究分野

岡山大学大学院保健学研究科修士課程を卒業後、岡山大学での勤務を経て、2000年、本学に講師として着任。主な研究分野は、患者教育や看護教育等に関することである。

現在、特に力を入れているのは、患者力、つまり患者自身の体験から得た知識や知恵・工夫、また患者同士のピア・サポートに関する研究であり、将来的には、医療現場において、その患者力、およびピア・サポート力を活かせるような協働体制、医療サービスシステムの構築を目指している。また、スタンフォードで開発された患者教育プログラムである慢性疾患セルフマネジメントプログラムのマスタートレーナーとして、各地で慢性疾患を抱える人を対象にワークショップを実施し、患者がいかに病気と上手く付き合うか、患者自身がそのスキルを学び実践できる活動を継続的に行っている。

２．研究業績

①最近の著書・論文

＜著書＞

- 小野美穂，斉藤早苗，三井明美，山口曜子，利木佐起子．（2007）．看護師国家試験対策ブック必修問題まんてん GET08（第 5 版）．大阪：メディカ出版.
- 小野美穂，斉藤早苗，三井明美，山口曜子，利木佐起子．（2008）．看護師国家試験対策ブック必修問題まんてん GET09（第 6 版）．大阪：メディカ出版.

＜論文・報告書＞

- 小野美穂、高山智子、草野恵美子、川田智恵子．（2007,12），病者のピア・サポートと精神的健康との関連，日本看護科学会誌，pp.23-32
- 岡本玲子，鳩野洋子，千葉由美，岩本里織，塩見美抄，中山貴美子，井上清美，尾島俊之，小寺さやか，田中祐子，別所遊子，山崎友紀，尾ノ井美由紀，小野美穂，合田加代子, 小林美亜, 近藤麻理, 草野恵美子, 篠原馨, 田中美延里, 俵志江, 松原三智子．（2008）．保健所保健師の専門的・総合的調整機能を強化する教育プログラムと教材の開発．*平成* 16 年度～平成 19 年度科学研究費補助金（基盤研究 B）研究結果報告書，300－302.

②その他最近の業績

＜学会発表＞

- 露無祐子、安藤弥生、小野美穂.（2007,10）　乳がん患者における患者会の役割と活動評価，第 4 回日本乳がん看護研究会.
- Miho Ono ，Emiko Kusano.（2007,11）, Characteristics of ostomate peer supporters who collaborate with health professionals，Korea and Japan Joint Conference on Community Health Nursing，Korea.
- Emiko Kusano ， Miho Ono、.（2007,11），Characteristics of Mothers Who Participate in Parenting Support Activities Provided by Elderly People in Community，Korea and Japan Joint Conference on Community Health Nursing，Korea.
- 小野美穂，添田百合子，政時和美，清水夏子，安酸史子．(2008，9)．ピア・エデュケーション機能を取り入れた福岡糖尿病患者教育研究会の取り組み．第 13 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会．金沢
- 草野恵美子，小野美穂，早川和生．(2008，11)．子育てサロンに参加する母親におけるサロンおよび他の子育て支援活動への参加状況と参加理由．日本地域看護学会第 11 回学術集会．沖縄
- 清水夏子，小野美穂，北川明，安酸史子．(2008，12)．各論実習直前の学生の不安および講義による不安軽減の試み，第 28 回日本看護科学学会．福岡.

３．外部研究資金
なし

４．受賞
なし

５．所属学会
日本看護科学学会，日本糖尿病教育・看護学会，公衆衛生学会，地域看護学会，乳がん看護学会

６．担当授業科目
教養演習・１単位・１年・前期、精神看護実習・２単位・２年・後期、継続看護教育論・２単位・３年・前期、健康教育論・２単位・３年・前期、看護実践論・２単位・３年・前期、専門看護学ゼミ・２単位・４年・前期、総合実習・３単位・４年・前期、看護教育学Ⅰ・２単位・４年・前期、看護教育学Ⅱ・２単位・４年・後期、卒業研究・２単位・４年・後期

７．社会貢献活動
第 28 回日本看護科学学会学術集会企画委員，福岡糖尿病患者教育研究会メンバー，
飯塚病院生活習慣病療養支援研究会メンバー

８．学外講義・講演
・ 小野美穂．(2008．6)，「看護」とは，出前講義，県立西田川高等学校．
・ 小野美穂，Fusae Abbot，武田飛呂城．（2008．8）慢性疾患セルフマネジメントプログラムリーダー研修．熊本．
・ 安永薫梨，松枝美智子，坂田志保路，梶原由紀子，津田智子，小野美穂，北川明，藤野靖博，於久比呂美，藤岡あゆみ，橋本茂子，清水夏子，近藤美幸，吉川未央，橘則子，石飛マリコ，永嶋由理子，中野榮子，渡邊智子，脇崎裕子，安酸史子．(2008．9)．第 5 回平成 20 年度経験型精神看護実習教育ワークショップⅠ，田川．
・ 安永薫梨，松枝美智子，坂田志保路，梶原由紀子，津田智子，小野美穂，北川明，藤野靖博，於久比呂美，藤岡あゆみ，橋本茂子，清水夏子，近藤美幸，永嶋由理子，中野榮子，渡邊智子，脇崎裕子，安酸史子．(2008．10)．第 5 回平成 20 年度経験型精神看護実習教育ワークショップⅡ，田川．
・ 小野美穂．（2008.10），糖尿病ケア創刊 5 周年記念セミナー：セルフマネジメント教育の実際，東京．
・ 小野美穂．（2008.10），ピア･サポーターとは　～患者力を活かした医療サービス～，岡山大学病院，岡山
・ 小野美穂．（2009.2），ピア･サポーターの役割，岡山大学病院，岡山．

９．附属研究所の活動等
・福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
・小野美穂．（2008．11）慢性疾患セルフマネジメントプログラムワークショップ，ヘルスプロモーション実践研究センター．

所属	看護学部　臨床機能看護学講座	職名	講師	氏名	四戸　智昭

１．教員紹介・主な研究分野

アルコール依存症などの依存症問題、児童虐待、ひきこもりなど主に家族機能に関する行動病理学を主な研究対象としています。具体的には、①生活保護受給世帯におけるアルコール依存症の問題、②幼児期に児童虐待を受けた人の複雑性PTSDに関する問題、③ひきこもりの子を抱えた親の問題　などに関して調査研究をしています。

家族のあり方が多様化している一方で、その家族が地域から孤立してしまっているような悲しいニュースを聞かない日はありません。特に、地域保健活動などでこういった分野に関わっていらっしゃる方、学校関係者の方からご要望があればいつでもお話しを伺いに参ります。お気軽にご連絡ください。（E-MAIL：shinohe@fukuoka-pu.ac.jp）

２．研究業績

①最近の著書・論文

＜著書＞

- 四戸智昭著．李ヨンブン&崔ヨンシン訳．(2006)．*浪費中毒から抜け出すこと（韓国語版）（『浪費を止める小さな習慣』改訂版）．*ソウル、Cobook Publishing.
- 田中哲也編著、四戸智昭著．*”第1章レポートのためのテーマ設定”*.『レポートの書き方入門2007年版』.(2007)．福岡、福岡県立大学教養演習テキスト出版会.
- 田中哲也編著、四戸智昭著．*”第1章レポートのためのテーマ設定”*.『レポートの書き方入門2008年版』.(2008)．福岡、福岡県立大学教養演習テキスト出版会.
- 丸山久美子編著．柏木哲夫、佐藤禮子、吉井光信、楯林義孝、石谷邦彦、平山正実、日野原重明、萬代隆、宮崎貴久子、小林美智子、丸山久美子、加藤淳、竹村和久、須田誠、南隆男、木島恒一、四戸智昭、大塚健樹、鈴木則子、小泉晋一、松井洋、西村洋一、作田明、小谷みどり．*”第14章家族の孤立という危機ーディスコミュニケーションが生む家族の苦悩ー”*．『２１世紀の心の処方学―医学・看護学・心理学からの提言と実践―』．(2008)．東京、アートアンドブレーン出版.

＜論文・報告書＞

- 四戸智昭．(2007､5)．現代人と携帯依存．月刊保団連、№936、21-25.
- 清田勝彦、高間満、鬼崎信好、城島泰伸、谷村紀彰、泉賢祐、本郷秀和、松岡佐智、西原尚之、中藤広美、中村幸、久富芳孝、三隅譲二、林ムツミ、四戸智昭、中村晋介．(2007,3)．田川郡における生活保護自立阻害要因に関する研究．福岡県立大学付属研究所．A4版全33頁.
- 清田勝彦、高間満、鬼崎信好、城島泰伸、谷村紀彰、泉賢祐、本郷秀和、松岡佐智、西原尚之、中藤広美、中村幸、久富芳孝、三隅譲二、林ムツミ、四戸智昭、中村晋介．(2007,7)．田川郡における貧困の世代的再生産に関わる要因分析．福岡県立大学付属研究所．A4版全88頁.
- 清田勝彦、高間満、鬼崎信好、城島泰伸、谷村紀彰、泉賢祐、本郷秀和、松岡佐智、西原尚之、中藤広美、中村幸、久富芳孝、三隅譲二、林ムツミ、四戸智昭、中村晋介．(2008,3)．生活保護自立阻害要因の研究．福岡県立大学付属研究所．A4版全315頁.
- 田中哲也、久永明、神谷英二、四戸智昭、内田若希．(2008,3)．福岡県立大学新入学生の学力実態をふまえた導入教育に関する調査研究中間報告書．福岡県立大学研究奨励交付金研究．A4版全130頁.

②その他の業績

＜学会発表等＞

- Shinohe, T.　(2007,9).　Livelihood Protection in Japan: Case Study of Tagawa, Fukuoka. 19th Asia Pacific Social Work Conference. Penang, Malaysia.
- 四戸智昭．（2008,11）．生活保護受給世帯における依存症問題―旧産炭地域における

生活保護と依存症問題の関連について―．日本嗜癖行動学会第19回学術集会．東京．
＜エッセイ＞
・ 四戸智昭．(2006)．風通しをよくするということ．糖尿病ケア、3(1)、49-52
・ 四戸智昭．(2006)．食事とのディスタンス．糖尿病ケア、3(2)、88-91
・ 四戸智昭．(2006)．安定した食事療法に必要なこと．糖尿病ケア、3(3)、81-84
・ 四戸智昭．(2006)．特集　コントロールできる？患者さんのタバコ・アルコール・おやつ　吸うこと・飲むこと・食べることをやめられない患者さんの気持ち．糖尿病ケア、3(12)、58-61、67
③過去の主要業績
・ 四戸智昭著．（単著）．『浪費を止める小さな習慣』．(2001)．光文社．

３．外部研究資金
・ 田川郡における被保護者の自立阻害要因に関する研究、(代表清田勝彦)、受託研究、研究メンバー
・ 平成２０年度質の高い大学教育推進プログラム「不登校・ひきこもりへの援助力養成教育」、（代表松浦賢長）、受託研究、研究メンバー

４．受賞
特になし

５．所属学会
日本嗜癖行動学会（学会誌編集委員）、日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、日本心理臨床学会、日本アルコール関連問題学会

６．担当授業科目
情報処理演習・２単位・１年・前期、教養演習・１単位・１年・前期、現代社会と嗜癖・２単位・１年・後期、看護学研究法・２単位・３年・後期、保健医療福祉政策論・２単位・４年・前期、専門看護学ゼミ・２単位・４年・前期、卒業研究・２単位・４年・後期、行動病理学・２単位・３年・前期、大学院看護学研究法・２単位・１年・前期

７．社会貢献活動
特になし

８．学外講義・講演
・ 四戸智昭．(2008,5)．楽しい恋と苦しい恋①．博多女子高等学校大学養成講座．博多女子高等学校．福岡市．
・ 四戸智昭．(2008，8)．高度福祉社会、福岡県自治体職員研修．福岡県自治体職員研修所．筑紫野市．
・ 四戸智昭．(2008，10)．家族の問題が子どもに現れるということ．平成 20 年度精神保健福祉研修会．筑紫保健環境事務所．筑紫野市．
・ 四戸智昭．(2008，10)．楽しい恋と苦しい恋②．博多女子高等学校大学養成講座．博多女子高等学校．福岡市．
・ 四戸智昭．(2008，11)．酒とタバコと男と女．秋のオープンキャンパス公開模擬授業．福岡県立大学．田川市．
・ 四戸智昭．(2008,11)．家族交流会の意義―自助グループの活用法―．福岡市精神保健福祉センターひきこもり家族支援事業．福岡市精神保健福祉センター．福岡市．
・ 四戸智昭．(2008，12)．家族交流会とは．福岡県立大学不登校・ひきこもりサポートセンター家族支援事業．福岡県立大学不登校・ひきこもりサポートセンター．田川市．

９．附属研究所の活動等
・ 福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
・ 福岡県立大学不登校・ひきこもりサポートセンター教員スタッフ

所属	看護学部　臨床機能看護学講座	職名	助教	氏名	大見　由紀子

１．教員紹介・主な研究分野

平成15年6月にヒーリングナースのライセンスを取得し、本学看護学部で開講された、日本の大学で初めてのヒーリングナース教育に携わる。また、本学附属研究所であるヘルスプロモーション実践研究センターにおける地域住民を対象にしたヒーリング教育にも携わり、主担当教員である慈観と共にこれまでに30名程のコミュニティセラピストを養成した。

（研究テーマ）

・アクション・リサーチ方法論を用いた授業研究：アクション・リサーチ方法論を用いながら、学生が自分で発見し、考え、学ぶことのできる教授法及び教材を開発・改善していくことを目的としたヒーリングカリキュラムに関する授業研究。

・ヒーリング経験に関するコミュニティセラピスト及び癒しの空間利用者によるナラティヴストーリー：本学附属研究所であるヘルスプロモーション実践研究センターの癒しの空間において、本学でトレーニングを受けた地域住民のセラピストが地域住民を対象にヒーリング（気功）やオイルマッサージを提供している。その実践の中で起きている経験や思いについて、セラピストおよび患者からナラティヴストーリーを収集し、そのフィールドの中で起きている現象を分析。

・タイ仏教寺院系ホスピスでのエンドオブライフケアにおける瞑想に対する生理学及び心理学の影響の探究：タイで補完医療のみでがん患者を治療しているホスピスにおいて、瞑想前後の唾液中のストレスホルモンの変化及び精神健康に対する影響についての調査。

２．研究業績

①著書・論文

ADLER-COLLINS, J. & OHMI, Y.（2006）. The Process of critical enquiry and of becoming critical as a practitioner. The dawning of a new paradigm of global co-operation and educative understanding or old colonial values repackaged and represented?. *Education-line, British academic Database University of Leeds.*（英国学術データベースにて発行）.United Kingdum.

Adler-Collins JK., Ohmi,Y.（2007）. Making sense of knowing through the gaze of different cultures. *Education-line, British academic Database University of Leeds.U.K..*

Adler-Collins JK., Ohmi,Y.（2008）.Healing narratives: stories from the real world in Community Health Care education as a means of social change: Establishing a system of volunteer terminal care in a rural community in Japan. *Education-line, British academic Database University of Leeds.* A4.36 pages In Press（Accepted for publication）, U.K..

松枝美智子，安永薫梨，安田妙子，大見由紀子.（2008）．精神看護実習で学生の患者ケアへの内発的動機づけが高まる要因．*福岡県立大学看護学研究紀要*，5（2），66-79.

②その他の業績

・共同（2006年9月）：*The process of critical enquiry and of becoming critical as a practitioner：the dawning of a new paradigm of global co-operation and educative understanding or old colonial values repackage and represented?.* British Educational Research Association Annual Conference 2006（英国教育研究学会2006年研究大会），University of Warwick，midland，Coventry，United Kingdom.

・共同（2007年9月）：*Making sense of knowing through the gaze of different cultures.* British Educational Research Association Annual conference 2007,London,U.K..

・共同（2008年9月）：*Community Health Care education as a means of social change: Establishing a system of volunteer terminal care in a rural community in Japan.*

British Educational Research Association Annual Conference. Institute of Education, University of Edinburgh, U.K.

５．所属学会

British Educational Research Association及び日本看護科学学会の会員.

６．担当授業科目（補助）

＜学部＞

ヒーリング論・2単位・1年・後期、ヒーリングセラピー・1単位・2年・前期、看護実践論・1単位・3年・前期、成人老年看護実習・6単位・3年・通年、

＜大学院＞

精神看護学特論・２単位・修士１年・前期、精神看護学演習・２単位・修士１年・前期、がん看護学演習Ⅱ・２単位・修士１年・後期

７．社会貢献活動

・福岡県立大学学生および地域住民参加によるEnglish Clubのファシリテーター（毎週月曜日）.

８．学外講義・講演

アドラーコリンズ慈観，大見由紀子.（2008，7）公開講座：ヘルスプロモーション実践研究センター体験ツアー（ワークショップ・パネルディスカッション）．福岡県立大学.

アドラーコリンズ慈観，大見由紀子.（2008，8)プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション：ヒーリングとタッチ．訪問ケアステーション～ease～，東京.

アドラーコリンズ慈観，大見由紀子.（2008，8)福岡県・新生活産業くらぶ FUKUOKA．エンドオブライフケアにおける機会．福岡市.

アドラーコリンズ慈観，大見由紀子(2008,9)ホリスティックマッサージ　プラクティカルワークショップ、タイ　コーンケーン大学看護学部.

アドラーコリンズ慈観，大見由紀子.（2008，12)ヒーリング体験コーナー，第 28 回日本看護科学学会学術集会，福岡.

アドラーコリンズ慈観，大見由紀子(2009,1）看護における補完医療．佐賀大学医学部看護学科大学院.

アドラーコリンズ慈観，大見由紀子(2009,1)ケアと癒し．第 1 回日本統合医療阪奈支部大会，大阪.

アドラーコリンズ慈観，大見由紀子(2009,2)ミュージックワークショップ．特定非営利活動法人音楽療法 NOP ムジカトゥッティ設立 5 周年記念事業、高松.

アドラーコリンズ慈観，大見由紀子.（2008，8)ホリスティックタッチ．訪問ケアステーション～ease～，東京.

９．附属研究所の活動等

・ 癒しの空間（毎週木曜日 10 時～20 時）：本学でトレーニングを受けた地域住民セラピストによる地域住民対象にヒーリング（気功）/オイルマッサージを提供するヒーリングスペース
・ ヒーリング講習会（毎週水曜日 18 時～20 時)：基礎的な気功クラス、基礎的なマッサージクラス、フラワーエッセンスの３コースで、各１年コース
・ アドラーコリンズ慈観，大見由紀子：地域住民対象のワークショップ（2008，1）クリスタルヒーリング/（2008，2）クリスタルエッセンス /(2008，3)プラクティカルアロマテラピーワークショップ /（2008，8）プラクティカルアロマテラピーワークショップ，/(2008，11)サウンド＆ムーブメント/(2008，12)プラクティカルアロマテラピー＆キャンドル

所属	看護学部　臨床機能看護学講座	職名	助手	氏名	清水　夏子

１．教員紹介・主な研究分野

2002年西南女学院大学保健福祉学部看護学科卒業。災害医療に関心を持ち、看護師として神戸大学医学部附属病院に入職。高次治療部（HCU）を経て脳外科に配属。2005年、西南女学院大学保健福祉学部看護学科非常勤助手に着任。2007年、本学看護学部看護学科臨床機能看護学講座助手に着任。

研究分野は、看護教育学。平成生まれの学生が入学する昨今において、学生のコミュニケーションの不十分さを感じる。他者への伝達・相談・問題解決の実践は看護において重要で、臨地実習という授業では大きな学習課題となる。経験型実習教育における看護学生（看護初学者）と教員との対話による効果的な教育、相互作用による学びに関することを主な研究テーマとしている。

２．研究業績

＜学会報告＞

＊　小野美穂．添田百合子．政時和美．清水夏子（H20 年度）．ピア・エデュケーション機能を取り入れた福岡糖尿病患者教育研究会の取り組み．第 13 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会．金沢歌劇座、金沢 21 世紀美術館

＊　清水夏子．小野美穂．北川明．安酸史子（H20 年度）．各論実習直前の学生の不安および講義による不安軽減の試み．第 28 回日本看護科学学会学術集会．福岡国際会議場，福岡サンパレスホテル＆ホール

５．所属学会

日本看護協会会員、日本看護科学学会、日本看護倫理学会

６．担当授業科目（補助）

＜学部＞

看護実践論・１単位・３年・前期、生態機能Ⅱ・２単位・１年・前期、看護管理論Ⅰ・２単位・４年・前期、看護管理論Ⅱ・１単位・４年・後期、看護への招待・１単位・１年・前期、健康教育論・２単位・３年・前期、専門看護ゼミ・２単位・４年・前期、看護教育学Ⅰ・２単位・４年・前期、看護教育Ⅱ・１単位・４年・後期、継続看護教育論・

２単位・３年・前期、教師論・２単位・４年・前期、ケアリングと教育・２単位・人間社会学部３年，看護学部４年・前期、英語Ⅳ・１単位・２年・後期、現代社会と嗜癖・２単位・１年・後期、統計学・２単位・１年・後期

＜臨地実習＞　基礎看護実習Ⅱ・２年・２単位・前期、総合実習・３単位・４年・前期、精神看護学実習・２単位・2年・後期

７．社会貢献活動

＊　安酸史子，添田百合子，小野美穂，政時和美，清水夏子，松永京子，矢野百合子，砂山裕子，大塚佳代，山田明子，山田靖子，小江奈美子，横山純子．福岡糖尿病患者教育研究会・研究会メンバー

＊　添田百合子，布井清秀，小江奈美子，原田和子，森加苗愛，式田由美子，赤峰洋子，松永京子，砂山裕子，大塚佳代，山田明子，山田靖子，針生郁子，渡辺鈴子，岡田秀子，三好栄子，加藤愛子，矢野百合子，政時和美，清水夏子，小野美穂，安酸史子．（2008．8／23－8／24）．糖尿病重症化予防（フットケア）研修プログラム　，福岡県立大学

＊　９期北九州ポートアテンダント・(2005．10－2008．9)．社団法人北九州港振興協会

＊　石村美由紀，大見由起子，於久比呂美，清水夏子，福田和美，藤岡あゆみ，藤野靖博，政時和美，安河内静子，山名栄子，山幡信子，吉川美桜，他．第 28 回日本看護科学学会学術集会（2008．12／13－12／１４）．福岡国際会議場，福岡サンパレスホテル＆ホール　実行委員

９．附属研究所の活動等

＊　ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

＊　安永薫梨，松枝美智子，坂田志保路，梶原由紀子，津田智子，小野美穂，北川明，藤野靖博，於久比呂美，藤岡あゆみ，橋本茂子，清水夏子，近藤美幸，吉川未央，橘則子，石飛マリコ，永嶋由理子，中野榮子，渡邊智子，脇崎裕子，安酸史子．(2008．9)．第 5 回平成 20 年度経験型精神看護実習教育ワークショップⅠ，田川．

＊　安永薫梨，松枝美智子，坂田志保路，梶原由紀子，津田智子，小野美穂，北川明，藤野靖博，於久比呂美，藤岡あゆみ，橋本茂子，清水夏子，近藤美幸，永嶋由理子，中野榮子，渡邊智子，脇崎裕子，安酸史子．(2008．10)．第5回平成20年度経験型精神看護実習教育ワークショップⅡ，田川．

所属	ヘルスプロモーション実践研究センター	職名	准教授	氏名	Je-Kan Adler-Collins

１．教員紹介・主な研究分野

英国看護師、英国救急救命士、教育学博士、真言宗僧侶。日本で初めて大学での看護教育にヒーリングカリキュラムを本学看護学部に導入した。また、ヘルスプロモーション実践研究センターにおいて地域住民を対象にしたヒーリング教育を行い、トレーニングを受けたコミュニティセラピストによる地域住民対象にエンドオブライフケアを行う癒しの空間を運営している。研究分野は、教育学。研究テーマは、教育、カリキュラムデザイン、ファカルティディベロップメント、補完・代替療法。

２．研究業績

①著書・論文

＜論文＞

ADLER-COLLINS, J. (2006a) Different cultures, different paradigms: how lasting is our educational influence for good as our educational ideas spread their influence outside the context of our own culture? *Education-line, British academic Database University of Leeds（英国学術データベースにて発行）*. Document number: 159261: A4:33 pages.

ADLER-COLLINS, J. & OHMI, Y. (2006b) The process of critical enquiry and of becoming critical as a practitioner: the dawning of a new paradigm of global co-operation and educative understanding or old colonial values repackaged and represented? *Education-line, British academic Database University of Leeds*. Document number: 159256 :A4:42 pages

ADLER-COLLINS, J. (2007a) How do I know what I know? And do I have the courage to put my knowing into practice? A discourse with the mirror of self. *Education-line, British academic Database University of Leeds.* Document number: 167603:A4:28 pages.

ADLER-COLLINS, J. & OHMI, Y.(2007b) Making sense of knowing through the gaze of different cultures. *Education-line, British academic Database University of Leeds.* Document number: 167604:42 pages.

Adler-Collins JK. (2008a) ."Open Dialogue". Journal of Research Intelligence, British Educational Research association, London.**104**:p17-18.

Adler-Collins JK. Ohmi,Y.（2008b）.Healing narratives: stories from the real world in Community Health Care education as a means of social change: Establishing a system of volunteer terminal care in a rural community in Japan. British Educational Research Association Annual Conference. Institute of Education, University of Edinburgh, 3-6 September 2008. Education-line, British academic Database University of Leeds （英国学術データベースにて出版された論文）. A4.**36** pages In Press.

Adler-Collins JK. (2008c) What is research evidence and what does it look like in today's university classroom? British Educational Research Association Annual Conference. Institute of Education, University of Edinburgh, 3-6 September 2008. Education-line, British academic Database University of Leeds（英国学術データベースにて出版された論文）. A4 In press.

Adler-Collins JK. (2008d) New forms of data representation: E-journals a way forward in presenting qualitative accounts. Poster presentation . BERA Special Interest Group, Practitioner Research Symposium. British Educational Research Association Annual Conference. Institute of Education, University of Edinburgh 6th September 2008. Education-line, British academic Database University of Leeds（英国学術データベースにて出版された論文）. A4.In press.

Adler-Collins JK. (2008e) .A narrative of my ontological transformation as I develop, pilot. and evaluated a curriculum for the healing and reflective nurse in a Japanese

faculty of nursing. Educational Journal of Living Therries,A4,53 pages.In press.

②その他の業績

＜学会報告＞

(2006,共同) (with Y. Ohmi) Different cultures, different paradigms: How lasting is our educational influence for good as our educational ideas spread their influence outside the context of our own culture? British_Educational Research Association Annual Conference. University of Warwick,U.K..

(2006,単独) The Process of critical enquiry and of becoming critical as a practitioner: The dawning of a new paradigm of global co-operation and educative understanding or old colonial values repackaged and represented. British Educational Research Association. Warwick University,U.K..

(2007,単独) Different cultures, different paradigms: Revisiting the question of how lasting is our educational influence for good as our educational ideas spread their influence outside the context of our own culture? 13th Annual Qualitative Health Research Conference. Seoul, Korea, College of Nursing Science, Ewha Womens University,Koria.

(2007,単独) How do I know what I know? And do I have the courage to put my knowing into practice? A discourse with the mirror of self. British Educational Research Association Annual Conference. Institute of Education, University of London, 5-8 September,U.K..

(2007,単独) What is the process of critical enquiry and that of becoming critical as a practitioner? ICN International Conference: Nurses at the Forefront: Dealing with the Unexpected. Yokohama, Japan.

(2007,共同) (with Y. Ohmi) Making sense of knowing through the gaze of different cultures. British Educational Research Association Annual Conference. Institute of Education, University of London, 5-8 September,U.K..

(2007,単独) Panel respondent to key note address for Health Care: Mother courage and her Children, a Buddhist perspective. Special Interest Group British Educational Research Association Annual Conference. Institute of Education, University of London,U.K..

(2008,共同) (with Y. Ohmi) Community Health Care education as a means of social change: Establishing a system of volunteer terminal care in a rural community in Japan. British Educational Research Association Annual Conference（英国教育研究学会 2008 年研究大会）. Institute of Education, University of Edinburgh, U.K..

Adler-Coliins JK.,Ohmi,Y. (2008) Community Health Care education as a means of social change: Establishing a system of volunteer terminal care in a rural community in Japan. British Educational Research Association Annual Conference（英国教育研究学会 2008 年研究大会）. Institute of Education, University of Edinburgh, United.Kingdum.

Adler-Collins JK. (2008) What is research evidence and what does it look like in today's university classroom? British Educational Research Association Annual Conference（英国教育研究学会 2008 年研究大会）. Institute of Education, University of Edinburgh, U.K.

Adler-Collins JK .(2008) A Buddhist approach to mental health and well being. Master class, Bournemouth University, presented under Great Britain Sasakawa Foundation, Dorchester, U.K.

＜招聘講演＞

(2007,12) *Acting White in nurse education, policy and practices: choices facing Asia in the cultural harmonizing of care.* The First Asian International Conference on Humanized Health Care. Thailand.

(2008, 3).*Stories as evidence.* in the Second International Symposium of Narrative studies,Okayama, Japan.

(2008, 9).*New forms of data representation: E-journals a way forward in presenting qualitative accounts.* Poster presentation . BERA Special Interest Group, Practitioner Research Symposium. British Educational Research Association Annual Conference. Institute of Education, University of Edinburgh,U.K.

(2008, 9) .*Ouch! That hurt : A narrative of becoming mindful in cross-cultural nurse education.* 7th Qualitative Research Conference, Bournemouth University, Bournemouth, U.K.

(2008, 9) *Mediations in metal health. Holistic inventions in a therapeutic setting.* Master class, Bournemouth University, presented under Great Britain Sasakawa Foundation, Dorchester, U.K.

(2008, 9) *Holistic health practices & Health Promotion in the community: empower community workers in healing therapies.* Master class, Bournemouth University, presented under Great Britain Sasakawa Foundation, Dorchester, U.K.

(2008, 9). *Health promotion across cultural boundaries.* International Nursing Student forum conference. Faculty of Nursing, Khon Kaen University,Thailand.

(2008,12) *Healing and empowerment in education, nursing and community practice.* 第28回日本看護科学学会学術集会、福岡市.

(2009.1) ケアと癒し．第１回日本統合医療学会阪奈支部大会、大阪市.

３．外部研究資金

The Great Britain Sasakawa Foundation.

５．所属学会

British Educational Research Association及び日本看護科学学会

６．担当授業科目

＜学部＞ヒーリング論・2単位・1年・後期、ヒーリングセラピー・1単位・2年・前期、教養演習・1単位・前期

＜大学院＞精神看護学特論・２単位・修士１年・前期、精神看護学演習・２単位・修士１年・前期、がん看護学演習Ⅱ・２単位・修士１年・後期

７．社会貢献活動

・タイのコーンケーン大学看護学部における客員教授：教員・院生対象の研究・論文指導及びワークショップの開催（2008 年 9～10 月）

・International Journal of Nursing & Science 等、51 論文のピアレビュー/Williams, Mark (et al).The mindful way through depression: Freeing yourself from chronic unhappiness. Journal of Psychiatric and Mental Health Nursing 等の 6 書籍の編集

８．学外講義・講演

アドラーコリンズ慈観，大見由紀子．(2008, 7)．公開講座：ヘルスプロモーション実践研究センター体験ツアー（ワークショップ及びパネルディスカッション）．福岡県立大学.

アドラーコリンズ慈観，大見由紀子．(2008, 8/2009,2)．プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション：ホリスティックタッチ．訪問ケアステーション～ease～，東京.

アドラーコリンズ慈観，大見由紀子．(2008, 8)．福岡県・新生活産業くらぶ FUKUOKA．エンドオブライフケアにおける機会．福岡市.

アドラーコリンズ慈観，大見由紀子(2008,9)ホリスティックマッサージ　プラクティカルワークショップ.タイ　コーンケーン大学看護学部.
アドラーコリンズ慈観，大見由紀子(2009,1) 看護における補完医療.佐賀大学医学部看護学科大学院.
アドラーコリンズ慈観，大見由紀子(2009,2)ミュージックセラピー.特定非営利活動法人音楽療法NOPムジカトゥッティ設立5周年記念事業、高松.

９．附属研究所の活動等

附属研究所ヘルスプロモーション実践研究センター専任教員。

・癒しの空間（毎週木曜日）：コミュニティセラピストと共に地域住民対象にヒーリングマッサージを行うスペースの開催
・ヒーリング講習会（毎週水曜日）：基礎的な気功・オイルマッサージの初心者コース、経絡を用いたオイルマッサージのレベル 1 コース、及びフラワーエッセンスの３コース）の開催
・各種ヒーリングワークショップ：(2008,1) クリスタルヒーリング/ (2008, 2) クリスタルエッセンス /(2008, 3)プラクティカルアロマテラピー / (2008, 8) プラクティカルアロマテラピー, /(2008, 11)サウンド＆ムーブメント/(2008, 12)プラクティカルアロマテラピー＆キャンドル/(2009,2)クリスタルエッセンス
・タイのコーンケーン大学看護学部及びホスピス訪問：コミュニティセラピストと共に訪問・滞在し、コーンケーン大学看護学部におけるヒーリング教育の実践及びホスピスにおけるヒーリング・エンドオブライフケアの実践